

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の設置							
フリガナ	ガッコウホウジン オオサカデンキツウシンダイガク 学校法人 大阪電気通信大学							
フリガナ 大学の名称	オオサカデンキツウシンダイガク 大阪電気通信大学							
大学本部の位置	大阪府寝屋川市初町18番8号							
大学の目的	<p>本学は、教育基本法および学校教育法に基づき専門の学術を教授研究し、知的ならびに道徳的な完成を期し、更に応用能力を展開させ得る人材の育成を目的とする。</p>							
新設学部等の目的	<p>人間を取り巻くあらゆる空間の設計・造形と構築に関する知識と技術の実学教育を通じて、学生の学習成果の向上及び学習目標の達成並びに技能の向上を支援し、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を養成するため、広く社会及び産業界で活躍でき、持続可能な社会の発展に貢献することができる建築・デザインの専門的人材となるために必要な、次のような能力を習得させることを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての人々が安全で快適に生活できる社会を支える都市と建築、インテリアにいたる幅広いスケールの実空間を対象とした空間の構築に関する知識と技術 ・人間を取り巻く空間の設計・造形と構築のためのデジタル技術の活用、安全な構造と施工に至る最先端の工学、法規制・倫理・手続を含む実践的な知識 ・インターネット上に広がる仮想的な自由な表現を可能とするデジタル空間も対象として、実空間と情報空間の双方について幅広い視野で学問を探求する能力 							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	建築・デザイン学部	年	人	年次人	人		年月第年次	
	建築・デザイン学科	4	150	-	600	学士（工学）	令和6年4月第1年次	大阪府寝屋川市初町18番8号
	計		150		600			
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	<p><u>工学部</u> 環境科学科（廃止）（△ 90） 建築学科（廃止）（△ 80） ※令和6年4月学生募集停止</p> <p>工学部 基礎理工学科〔定員増〕（ 26）（令和6年4月） 医療健康科学部 医療科学科 （3年次編入学定員）〔定員減〕（△ 4）（令和6年4月） 健康スポーツ科学科 （3年次編入学定員）〔定員減〕（△ 4）（令和6年4月） 総合情報学部 デジタルゲーム学科 （3年次編入学定員）〔定員減〕（△ 4）（令和6年4月）</p>							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
	建築・デザイン学部 建築・デザイン学科	92科目	13科目	37科目	142科目	124単位		

教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼 任 教 員 等		
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	人	
新設分	建築・デザイン学部		9	6	1	0	16	0	70	
	建築・デザイン学科		(10)	(5)	(1)	(0)	(16)	0	(34)	
既 設	計		9	6	1	0	16	0	-	
			(10)	(5)	(1)	(0)	(16)	(0)	(-)	
既 設	工学部		6	2	0	0	8	0	85	
	電気電子工学科		(6)	(2)	(0)	(0)	(8)	(0)	(85)	
	工学部		6	2	0	0	8	0	87	
	電子機械工学科		(6)	(2)	(0)	(0)	(8)	(0)	(87)	
	工学部		5	3	1	0	9	0	80	
	機械工学科		(5)	(3)	(1)	(0)	(9)	(0)	(80)	
	工学部		5	3	1	0	9	0	81	
	基礎理工学科		(7)	(3)	(1)	(0)	(11)	(0)	(81)	
	情報通信工学部		7	6	1	0	14	0	72	
	情報工学科		(7)	(6)	(1)	(0)	(14)	(0)	(72)	
	情報通信工学部		4	5	0	0	9	0	89	
	通信工学科		(4)	(5)	(0)	(0)	(9)	(0)	(89)	
	医療健康科学部		6	2	1	0	9	0	52	
	医療科学科		(6)	(2)	(1)	(0)	(9)	(0)	(52)	
	医療健康科学部		4	2	3	0	9	0	38	
	理学療法学科		(4)	(2)	(3)	(0)	(9)	(0)	(38)	
	医療健康科学部		4	2	2	0	8	0	50	
	健康スポーツ科学科		(4)	(2)	(2)	(0)	(8)	(0)	(50)	
	既 設	総合情報学部		8	5	1	0	14	0	63
		デジタルゲーム学科		(8)	(5)	(1)	(0)	(14)	(0)	(63)
総合情報学部		6	4	1	0	11	0	66		
ゲーム&メディア学科		(6)	(4)	(1)	(0)	(11)	(0)	(66)		
総合情報学部		7	1	1	0	9	0	58		
情報学科		(7)	(1)	(1)	(0)	(9)	(0)	(58)		
人間科学研究センター		4	7	3	0	14	0	30		
(一般総合科目担当教員)		(4)	(7)	(3)	(0)	(14)	(0)	(30)		
英語教育センター		2	4	1	0	7	0	18		
(英語担当教員)		(2)	(4)	(1)	(0)	(7)	(0)	(18)		
既 設	数理学研究センター		4	4	1	0	9	0	26	
	(共通教育科目担当教員)		(4)	(4)	(1)	(0)	(9)	(0)	(26)	
	メディアコミュニケーションセンター		1	0	2	0	3	0	1	
	(情報教育担当教員)		(1)	(0)	(2)	(0)	(3)	(0)	(0)	
	計		79	52	19	0	150	0	-	
		(81)	(52)	(19)	(0)	(152)	(0)	(-)		
合 計		88	58	20	0	166	0	-		
		(91)	(57)	(20)	(0)	(168)	(0)	(-)		
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計			
	事 務 職 員		81		44		125			
			(81)		(44)		(125)			
	技 術 職 員		0		20		20			
			(0)		(20)		(20)			
図 書 館 専 門 職 員		1		0		1				
		(1)		(0)		(1)				
そ の 他 の 職 員		0		0		0				
		(0)		(0)		(0)				
計		82		64		146				
		(82)		(64)		(146)				
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の学校等の専用			
	校 舎 敷 地		121,022.77㎡		0㎡		0㎡			
	運 動 場 用 地		170,309.72㎡		0㎡		0㎡			
	小 計		291,332.49㎡		0㎡		0㎡			
	そ の 他		0㎡		0㎡		0㎡			
合 計		291,332.49㎡		0㎡		0㎡				
校 舎		専 用		共 用		共用する他の学校等の専用				
		81,767.71㎡		0㎡		0㎡				
		(81,767.71㎡)		(0㎡)		(0㎡)				
講義室		演習室		実験実習室		情報処理学習施設				
57室		8室		153室		11室				
				(補助職員 0人)		(補助職員 0人)				

専任教員研究室		新設学部等の名称			室数				
		建築・デザイン学部			16			室	
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	図書合計 281,998	
		81,701 [20,088] (74,274 [18,262])	982 [902] (893 [820])	537 [532] (488 [484])	2,335 (2,123)	20 (20)	0 (0)	雑誌合計 3,774	
	計	81,701 [20,088] (74,274 [18,262])	982 [902] (893 [820])	537 [532] (488 [484])	2,335 (2,123)	20 (20)	0 (0)	視聴覚合計 7,656	
図書館		面積		閲覧座席数	収納可能冊数			大学全体	
		2,957.06㎡		257	331,000				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		3,343.10㎡		テニスコート5面 トレーニングルーム					
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
		教員1人当り研究費等		729千円	729千円	729千円	729千円	—千円	—千円
		共同研究費等		0千円	0千円	0千円	0千円	—千円	—千円
		図書購入費	1,147千円	2,151千円	2,151千円	2,151千円	2,151千円	—千円	—千円
	設備購入費	16,023千円	3,378千円	3,378千円	3,378千円	3,378千円	—千円	—千円	
	学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,582千円	1,482千円	1,482千円	1,482千円	—千円	—千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			補助金, 付随事業・収益事業収入, 雑収入						
大学の名称									
既設大学の状況	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	工学部						1.15		大阪府寝屋川市初町18番8号
	電気電子工学科	4	80	—	320	学士(工学)	1.14	昭和36年度	大阪府寝屋川市初町18番8号
	電子機械工学科	4	80	—	320	学士(工学)	1.20	昭和40年度	
	機械工学科	4	90	—	360	学士(工学)	1.09	昭和50年度	
	基礎理工学科	4	60	—	240	学士(工学)	1.15	平成19年度	
	環境科学科	4	90	—	360	学士(工学)	1.16	平成23年度	
	建築学科	4	80	—	320	学士(工学)	1.18	平成30年度	
	情報通信工学部						1.13		
	情報工学科	4	160	—	640	学士(情報工学)	1.12	平成17年度	大阪府四條畷市清滝1130-70
	通信工学科	4	80	—	320	学士(工学)	1.17	平成17年度	
	医療健康科学部						1.07		
	医療科学科	4	80	第3年次5	330	学士(工学)	1.11	平成16年度	
理学療法学科	4	40	—	160	学士(理学療法)	1.12	平成18年度		
健康スポーツ科学科	4	70	第3年次5	290	学士(健康科学)	0.99	平成20年度		

既設大学等の状況	総合情報学部						1.15		大阪府四條畷市清滝1130-70
	デジタルゲーム学科	4	140	第3年次5	570	学 士 (情報学)	1.09	平成30年度	
	ゲーム&メディア学科	4	110	—	440	学 士 (情報学)	1.18	平成30年度	
	情報学科	4	90	—	360	学 士 (情報学)	1.19	平成17年度	
	工学研究科 博士後期課程 工学専攻	3	12	—	36	博 士 (工 学)	0.06	令和2年度	大阪府寝屋川市初町18番8号
	工学研究科 博士前期課程 工学専攻	2	70	—	140	修 士 (工 学)	0.89	令和2年度	大阪府寝屋川市初町18番8号
	医療福祉工学研究科 博士後期課程 医療福祉工学専攻	3	5	—	15	博 士 (工 学)	0.33	平成19年度	大阪府四條畷市清滝1130-70
	医療福祉工学研究科 博士前期課程 医療福祉工学専攻	2	10	—	20	修 士 (工 学)	0.80	平成17年度	大阪府四條畷市清滝1130-70
	総合情報学研究科 博士後期課程 総合情報学専攻	3	5	—	15	博 士 (情報学)	0.20	令和2年度	大阪府四條畷市清滝1130-70
	総合情報学研究科 博士前期課程 総合情報学専攻	2	30	—	60	修 士 (情報学)	0.55	令和2年度	大阪府四條畷市清滝1130-70
附属施設の概要	該当なし								

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人大阪電気通信大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
大阪電気通信大学				大阪電気通信大学				
工学部				工学部				
電気電子工学科	80	-	320	電気電子工学科	80	-	320	
電子機械工学科	80	-	320	電子機械工学科	80	-	320	
機械工学科	90	-	360	機械工学科	90	-	360	
基礎理工学科	60	-	240	基礎理工学科	<u>86</u>	-	<u>344</u>	定員変更 (26)
環境科学科	90	-	360		<u>0</u>	-	<u>0</u>	令和6年4月学生募集停止
建築学科	80	-	320		<u>0</u>	-	<u>0</u>	令和6年4月学生募集停止
				建築・デザイン学部 学部の設置 (届出)				
				建築・デザイン学科				
				150	-	600		
情報通信工学部				情報通信工学部				
情報工学科	160	-	640	情報工学科	160	-	640	
通信工学科	80	-	320	通信工学科	80	-	320	
医療健康科学部				医療健康科学部				
				3年次				
医療科学科	80	5	330	医療科学科	80	<u>1</u>	<u>322</u>	定員変更 (3年次編入学△4)
理学療法学科	40	-	160	理学療法学科	40	-	160	
				3年次				
健康スポーツ科学科	70	5	290	健康スポーツ科学科	70	<u>1</u>	<u>282</u>	定員変更 (3年次編入学△4)
総合情報学部				総合情報学部				
				3年次				
デジタルゲーム学科	140	5	570	デジタルゲーム学科	140	<u>1</u>	<u>562</u>	定員変更 (3年次編入学△4)
ゲーム&メディア学科	110	-	440	ゲーム&メディア学科	110	-	440	
情報学科	90	-	360	情報学科	90	-	360	
計				1250	3年次 15	5030		
大阪電気通信大学大学院				大阪電気通信大学大学院				
工学研究科				工学研究科				
工学専攻 (M)	70	-	140	工学専攻 (M)	70	-	140	
工学専攻 (D)	12	-	36	工学専攻 (D)	12	-	36	
医療福祉工学研究科				医療福祉工学研究科				
医療福祉工学専攻 (M)	10	-	20	医療福祉工学専攻 (M)	10	-	20	
医療福祉工学専攻 (D)	5	-	15	医療福祉工学専攻 (D)	5	-	15	
総合情報学研究科				総合情報学研究科				
総合情報学専攻 (M)	30	-	60	総合情報学専攻 (M)	30	-	60	
総合情報学専攻 (D)	5	-	15	総合情報学専攻 (D)	5	-	15	
計				132	-	286		
				1256	3年次 3	5030		

設置の前後における学位等及び専任教員の所属の状況

届出時における状況					新設学部等の学年進行終了時における状況																
学部等の名称	授与する学位等		異動先	専任教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	専任教員											
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授										
					工学部電気電子工学科		5	3	工学部電気電子工学科		5	5									
					退職		3	3	工学部電気電子工学科		1	1	工学部環境科学科		2	1					
					計		8	6	新規採用		2	2	総合情報学部デジタルゲーム学科		2	2					
									計		8	6			7	4					
									計		16	9									
					工学部電子機械工学科		8	6	工学部電子機械工学科		8	6									
					計		8	6	計		8	6									
										工学部機械工学科		8	4	工学部機械工学科		8	4				
										退職		2	2	新規採用		1	1				
										計		10	6	計		9	5				
					工学部基礎理工学科		5	3	工学部基礎理工学科		5	3									
					その他		2	2	工学部環境科学科		4	2									
					退職		2	2	計		9	5									
					計		9	7													
					工学部環境科学科		4	2	工学部環境科学科		4	2									
					工学部電気電子工学科		1	1	工学部環境科学科		4	2									
					建築・デザイン学部建築・デザイン学科		2	1	計		9	6									
					退職		2	2													
					計		9	6													
					工学部建築学科		5	2	工学部建築学科		5	2									
					退職		3	3	工学部建築学科		5	2									
					計		8	5													
					情報通信工学部情報工学科		12	6	情報通信工学部情報工学科		12	6									
					退職		3	1	新規採用		2	1									
					計		15	7	計		14	7									
					情報通信工学部通信工学科		8	3	情報通信工学部通信工学科		8	3									
					退職		1	1	新規採用		1	1									
					計		9	4	計		9	4									

医療健康科学部 医療科学科	学士 (工学)	工学関係 社会学・社会福祉学関係 保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。) 体育関係	医療健康科学部医療科学科	6	4	医療健康科学部 医療科学科	学士 (工学)	工学関係 社会学・社会福祉学関係 保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。) 体育関係	医療健康科学部医療科学科	6	4	
			退職		4				3	新規採用	3	2
			計		10				7	計		9
医療健康科学部 理学療法学科	学士 (理学療法学)	保健衛生学関係 (リハビリテーション関係) 工学関係 社会学・社会福祉学関係	医療健康科学部理学療法学科	7	4	医療健康科学部 理学療法学科	学士 (理学療法学)	保健衛生学関係 (リハビリテーション関係) 工学関係 社会学・社会福祉学関係	医療福祉工学部理学療法学科	7	4	
			退職		2					新規採用	2	
			計		9				4	計		9
医療健康科学部 健康スポーツ科学科	学士 (健康科学)	体育関係 工学関係 保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	医療健康科学部健康スポーツ科学科	5	3	医療健康科学部 健康スポーツ科学科	学士 (健康科学)	体育関係 工学関係 保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	医療福祉工学部健康スポーツ科学科	5	3	
			退職		3				1	新規採用	3	1
			計		8				4	計		8
総合情報学部 デジタルゲーム学科	学士 (情報学)	工学関係	総合情報学部デジタルゲーム学科	8	4	総合情報学部 デジタルゲーム学科	学士 (情報学)	工学関係	総合情報学部デジタルゲーム学科	8	4	
			建築・デザイン学部建築・デザイン学科	2	2				新規採用	6	4	
			退職		4				2			
			計		14				8	計		14
総合情報学部 ゲーム&メディア学科	学士 (情報学)	工学関係	総合情報学部ゲーム&メディア学科	10	5	総合情報学部 ゲーム&メディア学科	学士 (情報学)	工学関係	総合情報学部ゲーム&メディア学科	10	5	
			退職		1				1	新規採用	1	1
			計		11				6	計		11
総合情報学部 情報学科	学士 (情報学)	工学関係	総合情報学部情報学科	7	5	総合情報学部 情報学科	学士 (情報学)	工学関係	総合情報学部情報学科	7	5	
			退職		2				2	新規採用	2	2
			計		9				7	計		9

基礎となる学部等の改編状況

開設又は 改編時期	改編内容等	学位又は 学科の分野	手続きの区分
昭和36年4月	工学部電子工学科 設置	工学	設置認可(大学)
昭和37年4月	工学部通信工学科 設置	工学	設置認可(学科)
昭和40年4月	工学部電子物性工学科 設置	工学	設置認可(学科)
	工学部電子機械工学科 設置	工学	
	工学部経営工学科 設置	工学	
昭和49年4月	工学部電子工学科のカリキュラム変更	工学	学則変更
	工学部通信工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部電子物性工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部電子機械工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部経営工学科のカリキュラム変更	工学	
昭和50年4月	工学部精密工学科 設置	工学	設置認可(学科)
	工学部応用電子工学科 設置	工学	
昭和55年4月	工学部電子工学科のカリキュラム変更	工学	学則変更
	工学部通信工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部電子物性工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部電子機械工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部経営工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部精密工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部応用電子工学科のカリキュラム変更	工学	
昭和60年4月	工学部電子工学科のカリキュラム変更	工学	学則変更
	工学部通信工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部電子物性工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部電子機械工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部経営工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部精密工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部応用電子工学科のカリキュラム変更	工学	
昭和62年4月	工学部電子工学科のカリキュラム変更	工学	学則変更
	工学部通信工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部電子物性工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部電子機械工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部経営工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部精密工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部応用電子工学科のカリキュラム変更	工学	
平成2年4月	工学部電子工学科のカリキュラム変更	工学	学則変更
	工学部通信工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部電子物性工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部電子機械工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部経営工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部精密工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部応用電子工学科のカリキュラム変更	工学	
平成3年4月	工学部電子工学科のカリキュラム変更	工学	学則変更
	工学部通信工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部電子物性工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部電子機械工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部経営工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部精密工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部応用電子工学科のカリキュラム変更	工学	

平成4年4月	工学部応用電子工学科のカリキュラム変更	工学	学則変更
平成6年4月	工学部電子工学科のカリキュラム変更	工学	学則変更
	工学部通信工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部電子物性工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部電子機械工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部経営工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部精密工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部応用電子工学科のカリキュラム変更	工学	
平成7年4月	工学部経営工学科 学生募集停止	工学	学生募集停止 (学科)
	情報工学部情報工学科 設置	工学	設置認可 (学部)
平成8年4月	工学部精密工学科 → 知能機械工学科	工学	名称変更 (学科)
平成9年4月	工学部電子物性工学科 → 電子材料工学科	工学	名称変更 (学科)
	工学部応用電子工学科 → 光システム工学科	工学	名称変更 (学科)
平成11年4月	工学部電子工学科のカリキュラム変更	工学	学則変更
	情報工学部情報工学科のカリキュラム変更	工学	
平成12年4月	情報工学部情報工学科 → 総合情報学部情報工学科	工学	名称変更 (学部)
	総合情報学部メディア情報文化学科 設置	工学, 美術	設置認可 (学科)
	工学部電子工学科のカリキュラム変更	工学	学則変更
	工学部通信工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部電子材料工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部電子機械工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部知能機械工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部光システム工学科のカリキュラム変更	工学	
平成13年4月	工学部医療福祉工学科 設置	工学, 社会学・社会福祉学, 保健衛生学 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。), 体育	設置認可 (学科)
平成14年4月	工学部知能機械工学科 → 機械工学科	工学	名称変更 (学科)
平成15年4月	総合情報学部デジタルゲーム学科 設置	工学	設置認可 (学科)
平成16年4月	工学部医療福祉工学科 廃止	工学, 社会学・社会福祉学, 保健衛生学 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。), 体育	廃止 (学科)
	医療福祉工学部医療福祉工学科 設置	工学, 社会学・社会福祉学, 保健衛生学 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。), 体育	設置届出 (学部)
平成17年4月	工学部通信工学科 学生募集停止	工学	学生募集停止 (学科)
	工学部光システム工学科 学生募集停止	工学	学生募集停止 (学科)
	総合情報学部情報工学科 学生募集停止	工学	学生募集停止 (学科)
	情報通信工学部通信工学科 設置	工学	設置届出 (学部)
	情報通信工学部光システム工学科 設置	工学	設置届出 (学部)
	情報通信工学部情報工学科 設置	工学	設置届出 (学部)
	総合情報学部メディアコンピュータシステム学科 設置	工学	設置届出 (学科)

平成18年4月	工学部電子材料工学科 → 応用化学科	工学	名称変更 (学科)	
	工学部環境技術学科 設置	工学	設置届出 (学科)	
	情報通信工学部光システム工学科 → 光・エレクトロニクス学科	工学	名称変更 (学科)	
	医療福祉工学部理学療法学科 設置	保健衛生学 (リハビリテーション関係), 工学, 社会学・社会福祉学	設置届出 (学科)	
	総合情報学部メディア情報文化学科 → デジタルアート・アニメーション学科	工学, 美術	名称変更 (学科)	
	工学部電子工学科のカリキュラム変更	工学	学則変更	
	工学部電子機械工学科のカリキュラム変更	工学		
	工学部機械工学科のカリキュラム変更	工学		
	情報通信工学部情報工学科のカリキュラム変更	工学		
	情報通信工学部通信工学科のカリキュラム変更	工学		
	医療福祉工学部医療福祉工学科のカリキュラム変更	工学, 社会学・社会福祉学, 保健衛生学 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。), 体育		
	総合情報学部デジタルアート・アニメーション学科のカリキュラム変更	工学		
	総合情報学部メディアコンピュータシステム学科のカリキュラム変更	工学		
	平成19年4月	工学部基礎理工学科 設置		工学
平成20年4月	情報通信工学部光・エレクトロニクス学科 学生募集停止	工学		学生募集停止 (学科)
	医療福祉工学部健康スポーツ科学科 設置	体育, 工学, 保健衛生学 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	設置届出 (学科)	
	医療福祉工学部医療福祉工学科のカリキュラム変更	工学, 社会学・社会福祉学, 保健衛生学 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。), 体育	学則変更	
	総合情報学部デジタルアート・アニメーション学科のカリキュラム変更	工学		
	総合情報学部デジタルゲーム学科のカリキュラム変更	工学		
平成21年4月	工学部電子工学科 → 電気電子工学科	工学	名称変更 (学科)	
	工学部応用化学科のカリキュラム変更	工学	学則変更	
	工学部電子機械工学科のカリキュラム変更	工学		
	工学部機械工学科のカリキュラム変更	工学		
	工学部環境技術学科のカリキュラム変更	工学		
	工学部基礎理工学科のカリキュラム変更	工学		
	総合情報学部メディアコンピュータシステム学科のカリキュラム変更	工学		
平成22年4月	医療福祉工学部理学療法学科のカリキュラム変更	保健衛生学 (リハビリテーション関係), 工学, 社会学・社会福祉学	学則変更	
平成23年4月	工学部環境技術学科 学生募集停止	工学	学生募集停止 (学科)	
	工学部応用化学科 学生募集停止	工学	学生募集停止 (学科)	
	工学部環境科学科 設置	工学	設置届出 (学科)	
	工学部電気電子工学科のカリキュラム変更	工学	学則変更	
	工学部電子機械工学科のカリキュラム変更	工学		
	工学部機械工学科のカリキュラム変更	工学		
	工学部基礎理工学科のカリキュラム変更	工学		
	情報通信工学部情報工学科のカリキュラム変更	工学		
	情報通信工学部通信工学科のカリキュラム変更	工学		
	総合情報学部デジタルアート・アニメーション学科のカリキュラム変更	工学		
	総合情報学部メディアコンピュータシステム学科のカリキュラム変更	工学		

平成24年4月	医療福祉工学部医療福祉工学科のカリキュラム変更	工学, 社会学・社会福祉学, 保健衛生学 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。), 体育	学則変更
	医療福祉工学部理学療法学科のカリキュラム変更	保健衛生学 (リハビリテーション関係), 工学, 社会学・社会福祉学	
	医療福祉工学部健康スポーツ科学科のカリキュラム変更	体育, 工学, 保健衛生学 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	
	総合情報学部デジタルアート・アニメーション学科のカリキュラム変更	工学	
	総合情報学部デジタルゲーム学科のカリキュラム変更	工学	
平成25年4月	総合情報学部メディアコンピュータシステム学科 → 情報学科	工学	名称変更 (学科)
平成27年4月	総合情報学部デジタルアート・アニメーション学科 学生募集停止	工学, 美術	学生募集停止 (学科)
	工学部電気電子工学科のカリキュラム変更	工学	学則変更
	工学部電子機械工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部機械工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部基礎理工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部環境科学科のカリキュラム変更	工学	
	情報通信工学部情報工学科のカリキュラム変更	工学	
	情報通信工学部通信工学科のカリキュラム変更	工学	
平成28年4月	医療福祉工学部医療福祉工学科のカリキュラム変更	工学, 社会学・社会福祉学, 保健衛生学 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。), 体育	
	医療福祉工学部理学療法学科のカリキュラム変更	保健衛生学 (リハビリテーション関係), 工学, 社会学・社会福祉学	
	医療福祉工学部健康スポーツ科学科のカリキュラム変更	体育, 工学, 保健衛生学 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	
平成29年4月	総合情報学部情報学科のカリキュラム変更	工学	学則変更
平成30年4月	総合情報学部デジタルゲーム学科 学生募集停止	工学	学生募集停止 (学科)
	総合情報学部デジタルゲーム学科 設置	工学	設置届出 (学科)
	総合情報学部ゲーム&メディア学科 設置	工学	設置届出 (学科)
	工学部建築学科 設置	工学	設置届出 (学科)
令和2年4月	医療福祉工学部 → 医療健康科学部 医療福祉工学科 → 医療科学科	工学, 社会学・社会福祉学, 保健衛生学 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。), 体育	名称変更 (学部・学科)
	工学部電気電子工学科のカリキュラム変更	工学	学則変更
	工学部電子機械工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部機械工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部基礎理工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部環境科学科のカリキュラム変更	工学	
	情報通信工学部情報工学科のカリキュラム変更	工学	
	情報通信工学部通信工学科のカリキュラム変更	工学	
	総合情報学部情報学科のカリキュラム変更	工学	
令和6年4月	工学部建築学科 学生募集停止	工学	学生募集停止 (学科)
	工学部環境科学科 学生募集停止	工学	学生募集停止 (学科)
	建築・デザイン学部建築・デザイン学科 設置	工学	届出

教 育 課 程 等 の 概 要																
(建築・デザイン学部 建築・デザイン学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
人文・ 社会・ 自然群	大学の学び リテラシー	総合教養	1前	2		○				1				兼1	オムニバス	
		総合ゼミナール	1前	2			○							兼1		
		社会生活と法	1前	2			○							兼1		
		現代社会と青年の心理	1前	2			○							兼1		
		OECU概論Ⅰ	1前	1			○			1						
	視野を広げる	異文化の理解	1後	2			○							兼1		
		政治学	1後	2			○							兼1		
		発達心理学	1後	2			○							兼1		
		アジアの言語と文化	1後	2			○							兼1		
		ヨーロッパの言語と文化	1後	2			○							兼1		
	社会とつながる	現代社会を考えるⅠ	1前	2			○							兼5		オムニバス
		現代社会を考えるⅡ	1後	2			○							兼5		
		歴史学の世界	1前	2			○							兼1		
		経済学の世界	1前	2			○							兼1		
		哲学の世界	1前	2			○							兼1		
		教育制度論	1前	2			○							兼1		
		文学の世界	1後	2			○							兼1		
		日本国憲法	1後	2			○							兼1		
	世界を知る	国際コミュニケーション	1前	2			○							兼1		
		平和学	1前	2			○							兼3		オムニバス
	日本を知る	企業社会と労働	1前	2			○							兼1		
		日本の近代史	1後	2			○							兼1		
		技術と倫理	1後	2			○							兼1		
	小計（24科目）			-	0	47	0	-	-	1	1	0	0	0		兼23
共通科目	英語	Core English 1	1前	1				○						兼4		
		Core English 2	1後	1				○						兼4		
		Core English 3	1前	1				○						兼2		
		Core English 4	1後	1				○						兼4		
		Intermediate Discourse 1	2前	1				○						兼2		
		Intermediate Discourse 2	2後	1				○						兼2		
		Intermediate Communication 1	2前	1				○						兼2		
		Intermediate Communication 2	2後	1				○						兼2		
		資格対策英語 1	2前	1				○						兼1		
		資格対策英語 2	2後	1				○						兼1		
		Advanced Discourse 1	3前	1				○						兼1		
		Advanced Discourse 2	3後	1				○						兼1		
		Advanced Communication 1	3前	1				○						兼1		
		Advanced Communication 2	3後	1				○						兼1		
		中国語	中国語 1	1前	1				○						兼1	
			中国語 2	1後	1				○						兼1	
			中国語 3	2前	1				○						兼1	
			中国語 4	2後	1				○						兼1	
	小計（18科目）			-	0	18	0	-	-	0	0	0	0	0	兼9	-
	健康・ スポーツ群	健康とスポーツ	スポーツ実習 1	1前	1				○						兼3	
			スポーツ実習 2	1後	1				○						兼2	
			スポーツ実習 3	3後	1				○						兼2	
			健康・スポーツ科学論	2前	2			○							兼1	
			スポーツ文化論	2後	2			○							兼1	
小計（5科目）			-	0	7	0	-	-	0	0	0	0	0	兼7	-	

共通科目	プロジェクトスキル形成群	プロジェクト活動	プロジェクト活動スキル入門 プロジェクト活動演習1 プロジェクト活動演習2 キャリア設計プロジェクト実践	1前 2前 2後 3前	1 1 1 1				○ ○ ○ ○	1 2 3	1 2						兼1	共同(一部)			
		日本語活用	日本語上達法1 日本語上達法2 日本語活用法	1前 1後 2前	2 2 2		○ ○ ○											兼1 兼1 兼1			
			地域プロジェクト活動	地域プロジェクト活動1 地域プロジェクト活動2	1通 2通	2 2		○ ○			1 1										
				スキルアップ	グローバル研修 グローバル研修(英語)	3前 3前	2 2		○ ○			1								兼1	
		社会を知る	インターンシップ	3通	2				○	1											
		小計(12科目)			-	0	20	0		-	6	3	0	0	0	0	0	0	兼4	-	
	情報基礎群	情報	AI・データサイエンス入門 コンピュータリテラシー1 コンピュータリテラシー2 プログラミング基礎演習	1前 1前 1後 1後	2 2 2 2		○ ○ ○ ○			1 1								兼5 兼3 兼3 兼3	オムニバス 共同		
小計(4科目)				-	2	6	0		-	1	0	0	0	0	0	0	0	兼10	-		
基礎専門科目	数学		基礎数学	1前	2		○											兼1			
	物理		力学 物理学	1前 1後	2 2		○ ○											兼1 兼1			
		建築・デザイン入門	建築学入門 空間デザイン学入門 建築構造入門 OECU概論2	1前 1前 1前 1前	2 2 2 1		○ ○ ○ ○			4 5 1	4 2 1								オムニバス・共同(一部) オムニバス・共同(一部)		
	小計(7科目)			-	0	13	0		-	9	6	1	0	0	0	0	0	兼3	-		
専門科目	建築設計実習		建築・デザイン設計基礎実習 建築設計実習1 建築設計実習2 建築設計実習3 建築・デザイン総合演習	1後 2前 2後 3前 3後	2 4 4 4 4			○ ○ ○ ○ ○		6 1 3 1 9	5 3 1 2 6	1 1 1 1 1						兼4 兼4 兼3			
		建築計画	建築史・都市史1 建築史・都市史2 建築史・都市史3 建築史実習 建築計画1 建築計画2 住環境計画 都市・街並み計画 環境デザイン論	2前 2後 3前 4前 2前 2後 3後 3前 3後	2 2 2 2 2 2 2 2 2		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○			1 1 1 1 1 1 1									兼1 兼1	オムニバス	
			建築環境	建築環境工学1 建築環境工学2 建築環境工学実習	1後 2前 3後	2 2 2		○ ○ ○			1 1 1										
				建築設備	建築設備1 建築設備2	2後 3前	2 2		○ ○			1 1								兼1	オムニバス
					建築構造	建築構造力学1 建築構造力学2 建築構造力学3 建築構造力学4	1後 2前 2後 3前	2 2 2 2		○ ○ ○ ○			1 1 1 1								
	建築一般構造		建築構造1 建築構造2 建築構造3	2後 3前 3後		2 2 2		○ ○ ○			2 1 1	1 1								オムニバス・共同(一部) オムニバス	
			建築材料	建築材料・構成概論 建築材料・構造実験		1前 3前	2 2		○ ○		1 2	3 1									オムニバス オムニバス
				建築生産		建築生産1 建築生産2 建築経済	3前 3後 3後	2 2 2		○ ○ ○		1 1									兼1 兼1
	建築法規		建築法規		3前	2		○											兼1		
	建築実務	建築技術者倫理	3後		2		○		1									兼2	オムニバス		

専 門 科 目	空間デザイン	空間デザイン概論 建築都市デザイン インテリアデザイン概論 インテリアデザイン実践 ランドスケープデザイン 建築プロジェクトデザイン	1前 2後 2前 2後 3前 3後	2 2 2 2 2 2	○ ○ ○ ○ ○ ○			1 1 1 1 1 1						兼1 兼1 兼1	共同（一部）	
	アート&デザイン	基礎造形 空間芸術表現論 デッサン実習 デザイン概論 デザイン基礎演習	1前 2後 1前 1前 1後	2 2 2 2 2	○ ○ ○ ○ ○		○	1 1 1 1 1						兼1		
	機能デザイン	自然災害概論 都市環境の設備1 都市環境の設備2 住環境設備実験 空間環境デザイン1 空間環境デザイン2 構造デザイン総論	1後 2後 3前 3後 1後 2前 2前	2 2 2 2 2 2 2	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○			1 1 1 1 1 1 1							オムニバス	
	デジタルデザイン	デジタル空間の表現 コンピュータ製図実習 コンピューショナルデザイン サイバー空間創成 行動シミュレーション Building Information Modeling	2前 2前 2前 2後 3後 3前	2 1 2 2 2 2	○ ○ ○ ○ ○ ○		○	1 1 1 1 1 1						兼1	オムニバス	
	データ指向デザイン	空間表現の情報技術 社会データ分析 空間シミュレーション 建築空間DX 都市空間DX 構造シミュレーション 空間情報数値	1後 2前 3後 3前 3前 4前 4前	2 2 2 2 2 2 2	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○			1 1 1 1 1 1 1							オムニバス	
	データサイエンス	データサイエンス基礎 人工知能	2前 3後	2 2	○ ○										兼1 兼1	
	その他	特別ゼミナール1 特別ゼミナール2 建築・デザインプレゼミナール1 建築・デザインプレゼミナール2 建築・デザインプレゼミナール3 卒業研究	2前 2後 2後 3前 3後 4通	2 2 2 2 2 8	○ ○ ○ ○ ○ ○		○	1 1 6 3 9 9			2 4 6 6 6					
	小計（72科目）		—	20	137	0	—	9	6	1	0	0	0	兼26		
	合計（142科目）		—	22	248	0	—	9	6	1	0	0	0	兼70	—	

学 位 又 は 称 号	学 士 (工 学)	学 位 又 は 学 科 の 分 野	工 学 関 係
-------------	-------------	-------------------	---------

・ 共通科目 人文・社会・自然群より、8単位以上 外国語群の英語より4単位以上 健康・スポーツ群より、1単位以上 プロジェクトスキル形成群より3単位以上 情報基礎群より2単位以上（必修科目2単位を含む。） 各群をあわせて24単位から36単位まで ・ 基礎専門科目 4単位から11単位まで ・ 専門科目 77単位から96単位まで（必修科目20単位を含む。） 建築専攻の必修科目は、次のとおりとする。 建築設計実習2、建築計画1、建築計画2、 建築環境工学1、建築設備1、建築構造力学1、建築構造力学2、建築構造1、 建築構造2、建築構造3、建築材料・構成概論、建築生産1、建築法規、 建築技術者倫理 空間デザイン専攻の必修科目は、次のとおりとする。 空間デザイン概論、基礎造形、デッサン実習 ・ 卒業要件単位 124単位以上 （履修科目の登録の上限：44単位（年間））	卒業要件及び履修方法	授業期間等	
		1学年の学期区分	2学期
		1学期の授業期間	13週
	1時限の授業時間	105分	

(注)
 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

授業科目の概要				
(建築・デザイン学部建築・デザイン学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
人文・社会・自然群 共通科目	大学 の学 びリ テラ シ	総合教養	この授業では、①さまざまな社会問題や研究分野を知り、それらを多角的、総合的に理解することで、専門分野の枠を超えて共通に求められる教養を身につけること、②社会や歴史について広く知ることによって、これから自身が学ぼうとしている専門分野の社会的・歴史的な意義や課題を理解することを目的としている。 (オムニバス方式/全13回) (32 安達未来/2回) セルフコントロールの心理学 (45 大村基将/1回) 学校と情報セキュリティ (41 松本知子/1回) 科学英語って何だろう？ (25 杉村寛子/1回) 『ちびくろさんぼ』(1898)をめぐり問題 (28 原田 融/1回) ハドロンの物理学 (37 濱田俊之/1回) 電気エネルギーの仕組みと技術者倫理 (19 入部正継/1回) ロボットの歴史と文化 (31 柳田達雄/1回) 現象と数理学 (48 田中孝徳/1回) SDGsと環境問題 (10① 矢ヶ崎善太郎、10② 岡田治子/1回) 人を幸せにする建築とは (24 柴垣佳明/1回) 5GとIoT(モノとインターネット)技術 (23 古崎晃司/1回) 人工知能技術の基礎	オムニバス方式
		総合ゼミナール	この授業は、受講生が「憲法改正問題」について学び、現在議論されていることの問題点を理解し、自分の考えを持つことができるようになることを目的とします。 この授業では、いま議論されている憲法改正の提案内容について学ぶだけでなく、憲法改正論議の起源までさかのぼって、その歴史を理解するとともに、現在の議論の仕方の問題点や、自分なりの憲法改正についての考えができるようになることを目指します。	
		社会生活と法	現代社会ではありとあらゆるところに紛争・トラブルのタネが潜んでおり、仕事上のトラブルのほか、労働条件が切り下げ・解雇、親子、夫婦の間で離婚、遺産相続、詐欺や悪徳商法、地域社会での騒音や悪臭や日照、またマンション管理をめぐるトラブルに巻き込まれるかもしれません。現代社会ではそうした紛争を中立的に解決するうえで法や裁判が果たす役割がきわめて大きくなっているのです。講義では断片的知識を詰め込むのではなく、新たに直面した問題に対処できる力、法的な考え方を身につけられるようにすることを目標とします。	
		現代社会と青年の心理	本講義は、次のことを目的としている。 (1) 現代社会の特徴や課題を考察できる。 (2) 青年期の発達やその特徴について心理学の理論・知識と概念を習得し理解できる。 (3) 習得した理論・知識や概念をもとに、現代社会に生きる青年の心理を考察し、諸問題の解決に向けた方法を理解できる。 この授業は、現代社会のニーズを把握し問題点を抽出しながら、これからの社会を生き抜くうえで青年の抱える課題を、心理学的に把握するために必要といえる。	
		OECU概論Ⅰ	本学の基本理念である『「人間力」と「技術力」を育み、自らの力で人生を切り拓いていける実践的な実学教育』について理解を深めるとともに、本学が有する5つの学部について、その教育研究内容を概観することを通して、自身が本学で学ぶ意義や目的を明確にします。	
		異文化の理解	人・物・情報の移動が国を越えて日常的になされている時代において、文化の違いから様々な摩擦も起こっている。異文化接触に伴って生じる問題点を想定して、それに具体的な検討を加えることにより、単に異文化に関する知見を得るだけでなく、国際的な視野と国際人としての視点を養う。	
		政治学	この講義では政治に関する基礎的な知識を身につけるとともに、学問的観点から政治と向き合うことができるようになることを目的としています。私たちが欲しい時に欲しいものをすべて手に入れることができたならば、政治は存在しないでしょう。政治とは、人間が集団で生きるなかで生じる力の関係をめぐり問題でもあり、利害関係の妥協点を見つける、あるいは何らかの理想を追求していく作業でもあります。なぜ民主主義がふさわしい政治体制だとされているのか、民主主義は実際にどのように運用されているのか、政策はどのように作られるのか、といった点に加えて、これまでの政治学そのものに疑問を投げかける視点や国際政治について学ぶなかで、自分自身の政治志向についても客観視できるようになることを目指します。	
		発達心理学	本科目では、胎生期、乳幼児期、児童期、思春期に至る子どもの心身の発達と学習の過程、自己認識、仲間関係等について、心理学な観点から理解することである。	
		アジアの言語と文化	アジアには多種多様な語族や語系に属する言語が分布しているが、本講義は漢字・漢字語を中心に日本語・中国語・韓国語を比較しながら、言語や文化の同質性と異質性を様々な角度から見ることによって、考える力と複合的な視点を養うことを目的としている。更に日本語・中国語・韓国語の三言語で東アジアの古典を読むことをチャレンジし、古典を通して人間のあり方、生きる知恵と学習の意義を学ぶ。	
		ヨーロッパの言語と文化	この授業は、ヨーロッパの言語と文化について受講生が一定の理解を得ること、異文化、別の生活、暮らし方の理解を通して人間と社会に関して考える力を身につけることを目的とする。そのため、現代ヨーロッパ文化の源流となった古代ギリシアとキリスト教を考察する。	

人文・社会・自然群 社会とつながる 共通科目	現代社会を考える 1	<p>文明が高度に発展するなかで、交通・情報によるグローバル化が進出し、様々な問題が多様化・複雑化する現代社会において、より高度な専門性と共に、より広い視野に立った多角的・総合的なものの見方、考え方が求められている。本科目では、総合科目を担当する専任教員がオムニバス形式で授業を行い、各教員が、それぞれの教員の専門領域あるいは関心を持つ事柄、学生諸君にぜひ伝えたい事柄を取り上げ、この科目を通じて現代社会についての多角的、総合的な理解を促す。</p> <p>(オムニバス方式/全13回)</p> <p>(29 平沼博将/3回) 保育施設での事故・安全を考える (33 王 少鋒/3回) 差別を考える (43 村木有也/3回) 運動を科学する (39 真下苑子/2回) 日本における競技スポーツの発展 (27 中里見博/2回) 現代社会と原発</p>	オムニバス方式
	現代社会を考える 2	<p>文明が高度に発展するなかで、交通・情報によるグローバル化が進出し、様々な問題が多様化・複雑化する現代社会において、より高度な専門性と共に、より広い視野に立った多角的・総合的なものの見方、考え方が求められている。本科目では、総合科目を担当する専任教員がオムニバス形式で授業を行い、各教員が、それぞれの教員の専門領域あるいは関心を持つ事柄、学生諸君にぜひ伝えたい事柄を取り上げ、この科目を通じて現代社会についての多角的、総合的な理解を促す。</p> <p>(オムニバス方式/全13回)</p> <p>(27 中里見博/3回) 家族内暴力と現代 (22 金田啓稔/3回) 日本社会とスポーツ (38 堀井大輔/3回) 学びを考える (32 安達未来/2回) 人間の「心」から現代社会を見つめ直す (45 大村基将/2回) メディア・リテラシーについて理解を深める</p>	オムニバス方式
	歴史学の世界	<p>歴史学とは、どのような学問かを知ることが目的である。</p> <p>高校までの日本史や世界史といった基礎的知識を学ぶカリキュラムと違って、学問としての歴史学は、史料の発見・発掘などをもとに、あらゆる事物を対象に日々新たな知見が付け加えられていくものである。現行の技術や制度といった一見すると歴史と関係がないような事物であっても、全ては歴史の経緯の中で形作られたものであって、そこには人間的な営為との相互作用があった。歴史学はそうした相互作用を明らかにするのである。講義を通して歴史学研究の一端を知ること、受講者は物事の歴史性を批判的に捉える観点を会得することができる。</p>	
	経済学の世界	<p>この講義は、現在おこっている経済問題に触れながら、経済学の基本知識と近年の日本経済の動きについて学生諸君に理解を深めるためおこなう。就職活動や就職し会社で働くためには経済学の基本的理解と、近年の日本経済の動きについての理解は不可欠である。毎回作成したプリントを基本に新聞の切抜きなどを使って具体的に身近な問題と関連づけてわかりやすく解説する。</p>	
	哲学の世界	<p>目的は(1)哲学することを学ぶこと、(2)哲学の面白さを感じること、(3)明晰に思考することを学ぶこと、です。</p> <p>本講義では、最初の哲学者たちを取り上げ、古代ギリシアの初期思想家たちの哲学を考察することで、哲学の問題のあり方・成り立ちを知り、哲学の二つの柱であるヴィジョン(ものの見方・考え方)とアーギュメント(議論)について学び、世界と自分について少しでも理解を深めることができるようになることを目的としています。</p>	
	教育制度論	<p>現代学校教育に関する社会的及び制度的事項についての基礎的知識を習得し、内外の教育課題とその解決のための諸政策・制度の有効性を理解するとともに、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識を習得する。</p>	
	文学の世界	<p>本講義では、主として中世から現代までの日本文学作品の中から数点を選び(内1~2回は外国作品(翻訳)も併用する予定)、その読解を通して、文学が読者に語るメッセージを読み解いていく。その中で、①文学とはどのような芸術か、②文学の本質、③人間と社会に対する文学の価値とはたらしき、④自分にとつての文学の価値を考えたい。そして、講義を終えた後は、これらのことを「自分の言葉」で説明できるようにする。</p>	
	日本国憲法	<p>この授業は、「日本国憲法」の基礎的な知識を学ぶことを目的とします。</p> <p>「憲法」は一般の「法律」と違い、国民を縛るためのものではなく、政府を縛るものです。政府は憲法の範囲内でしか法律を作ることができず、その意味で、憲法は社会的法的なOSであると同時に、市民生活を支え、政府による戦争や人権侵害などから市民を守っています。</p> <p>しかし、どんなに素晴らしい内容の憲法を持っていても、その実現を政府に押しつけるのは、いつでも市民の力にかかっています。ですから、憲法について学ぶことは、この国の「主権者」たる市民として生きる上での基礎的な知識を得ることであります。</p> <p>この授業では、最初に日本国憲法制定の歴史から学び、次に国民の基本的人権、この憲法の特徴である「平和主義」について学ぶ。最後に司法の独立や、民主主義の現状と問題点について学ぶ。</p>	
	ジェンダー論	<p>ジェンダーやセクシュアリティという言葉を見たり聞いたりしたことがある人は多いでしょう。生物学的な性別(オスとメス)であるセックスと、ジェンダー、セクシュアリティといった「性」に関連する概念は、私たち一人ひとりの「生」と深く関わりを持っています。なぜなら、それらは私たちを取り囲む「ルール」として、日常生活に深く組み込まれているからです。講義では、「当たり前」「常識」とみなされがちなこの「ルール」が、私たちにどのような影響を与えているのかを考えるために、「性」をめぐる社会通念・制度・規範を取り上げます。そして、現代の暮らしや社会問題をジェンダーの視点で学ぶことによって、社会を多角的に見る視点を身につけることを目的とします。</p>	

共通科目	世界を知る	国際コミュニケーション	諸言語圏における言語行動の比較を通して、異言語文化間で発生するコミュニケーションギャップの実際を考察するとともに、そのギャップを越えてコミュニケーションが成り立っていく過程ならびに要因を追究し、異なる文化の間におけるコミュニケーションのあり方を探ります。それにより世界や日本の社会・文化の多様性に対する理解を深め、グローバル化した現代の日本と世界の関係がどうあるべきかを考え、真の「国際人」への足がかりを築くことを目指します。		
		平和学	この授業は、学生が「平和学(Peace Studies)」の基本的な事柄について理解でき、差別や暴力、戦争のない、より自由で平等な社会を希求し、自ら行動できるようにすることを目的としています。 平和学は新しい学問であり、すそ野は広く、ますます発展しています。この講義では、3人の担当教員の専門に応じて、法学、哲学、心理学からのアプローチを中心に、平和学に関わる様々なトピックや、概念、思想について学びます。 (オムニバス方式全13回) (27 中里見博/1回) 平和学とは何か (27 中里見博/4回) 戦後憲法と日本の平和 (22 金田啓稔/4回) ホップズ、ロック、ルソーについて (29 平沼博将/4回) 平和を創る心理学	オムニバス方式	
		企業社会と労働	産業社会においては、産業社会に特徴的な技術システムの高度化や、制度の大規模化・複雑化などから、特有の人間関係が発達し、労働疎外等も問題になることが多い。こうした産業における人間関係、労働疎外の問題、これらと関係して重要な意味をもつ組織の動態など、産業社会の諸制度について考察する。		
	日本を知る	日本の近代史	明治維新以降の近代日本のあゆみのなかで出現してきた諸問題と日本人がそれにどう対応してきたか、またその過程で人々が形成してきた意識のありようを知り、それを通して近代日本の特徴を理解する。あわせて解決してきた事項といまも抱えている課題についても知る。また、近代日本の歴史を動かしてきた多くの人々と彼らを支えてきた社会的・歴史的基盤についても知る。具体的な事例としては、明治以降、世界の中でもっとも激しい体験を重ねた公害問題、そして国民生活に密接な関わりをもった制度改革(身分制度・暦・貨幣経済制度・徴兵制度)についてである。公害・環境問題や社会制度の歴史的な経緯を知ること、さらにそれを通して見えてくる日本の科学技術や社会構造・社会意識の歴史的ありようを理解することを目指す。		
		技術と倫理	新しい技術は新しい倫理的問題を生む。新たなテクノロジーの社会的実装における諸問題(新技術導入の基準は何かなど)の考察に役立つと考えられる、倫理学の基本、情報倫理、リスク論、工学倫理、職業倫理、企業倫理、環境倫理の考え方を本授業では紹介し、一人一人の学生が技術と倫理について自分で考えることができるようになることを目指す。		
	外国語群	英語	Core English 1	比較的平易な英文教材を用いて、基本的な語彙を増強し、英文の構造や文法事項を確認する実習を通して、読解に必要な基礎を固める。多読学習を導入し、英語を英語のまま理解する力を併せて涵養する。	
			Core English 2	Core English 1 で習得したことを基に、比較的平易な英文教材を用いて、基本的な語彙をさらに増強し、英文の構造や文法事項を確認する実習を通して、読解に必要な基礎を固める。多読学習を継続し、速読力の涵養につなげる。	
			Core English 3	主にリスニングの演習を通して、英語による平易な会話などを理解できる力を涵養する。英語らしいリズムを構成するイントネーションや強勢などを意識した発音ができるようになる。	
			Core English 4	Core English 3 で習得したことを基に、主にリスニングの実習を通して、比較的平易な会話などを理解できる力をさらに伸ばす。英語らしいリズムを意識しながら、自分の考えを平易な英語で表現できる力を涵養する。	
			Intermediate Discourse 1	さまざまなテーマを取り上げた英文教材を用いて、語彙を増強し、正しく英文の構造を分析する力や速く正確に内容を理解する力を高める。また内容について自分の意見を構築する機会も持つ。	
			Intermediate Discourse 2	Intermediate Discourse 1 で習得したことを基に、さまざまなテーマを取り上げた英文教材を用いて、語彙を増強し、正しく英文の構造を分析する力や速く正確に内容を理解する力を高める。また内容について自分の意見を構築する機会も持つ。	
			Intermediate Communication 1	語彙を増強し、英語による比較的平易な会話などを理解できる力を涵養する。さらにさまざまなトピックについて英語で自分の意見や考えを述べるができるようにコミュニケーションの技能を高める。	
Intermediate Communication 2			Intermediate Communication 1 で習得したことを基に、さらに語彙を増強し、英語による比較的平易な会話などを理解できる力を涵養する。さらにさまざまなトピックについて英語で自分の意見や考えを述べるができるようにコミュニケーションの技能を高める。		
資格対策英語1			リーディング力及びリスニング力を伸ばし、TOEICを主とする英語の資格試験に対応できる英語力を身につける。		
資格対策英語2			資格対策英語1で習得したことを基に、さらにリーディング力及びリスニング力を伸ばし、TOEICを主とする英語の資格試験に対応できる実践的な英語力を身につける。		
Advanced Discourse 1			Core English 1, 2及びIntermediate Discourse 1, 2で習得したことを基に、リーディング力を発展させ、専門につながる形でより高度な読解力を涵養する。		
Advanced Discourse 2			Advanced Discourse 1で習得したことを基に、さらにリーディング力を発展させ、専門につながる形でより高度な読解力を涵養する。		
Advanced Communication 1	Intermediate Communication 1, 2で習得したことを基に、さらに語彙を増強し、ネイティブ・スピーカー並みの速さで話される会話を理解できる力を涵養する。英語によるプレゼンテーションを通して、自分の意見や考えを述べるができるようにコミュニケーションの技能を高める。				

外国語群	英語	Advanced Communication 2	Advanced Communication 1 で習得したことを基に、さらに語彙を増強し、ネイティブ・スピーカー並みの速さで話される会話を理解できる力を涵養する。英語によるプレゼンテーションを通して、自分の意見や考えを述べることができるようにコミュニケーションの技能を高める。	
	中国語	中国語 1	初修学生を対象とし、発音から基礎的な表現、文法、作文を習得することにより、平易な中国語を聞き、話すことができること。また、中国語を学ぶ楽しさを知り、言葉の文化的背景（歴史・地理・社会・生活等）などにも触れて理解する。	
		中国語 2	中国語の基本単語500語、ピンイン（表音ローマ字）の読み方と綴り方、単文の基本文型、文法を理解し、日常挨拶語約50～80を理解その基本的な運用を行うことができる。また、中国語圏の文化に関する初歩的な事象について概略を説明することができる。	
		中国語 3	中国語の常用語800～1,000の発音（ピンイン表記）及び単語の意味を習得し、中国語の簡単な文章を読み、書くことができる。簡単な日常会話ができる。また、中国語圏の文化に関する初歩的な事象について概略を説明することができる。	
		中国語 4	中国語の常用語1,000～1,500の発音（ピンイン表記）及び単語の意味を習得し、中国語の簡単な文章を読み、書くことができる。簡単な日常会話ができる。そして、中国語を学ぶ楽しさを知り、言葉の文化的背景（歴史・地理・社会・生活等）などにも触れて理解する。	
共通科目	健康・スポーツ群	健康とスポーツ	スポーツ実習 1	「スポーツは、「体力を向上させる」だけでなく、「他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を養う」、「実践的な思考力や判断力を育む」といった人格の形成に影響をおよぼす。また、スポーツは、「人と人との交流の促進」、「心身の健康の保持増進」といった役割も果たす。スポーツ実習では、スポーツに内在するこれらの効果に着目し、自身のスポーツとの関わり方について考究し、生涯にわたって幸福で豊かな生活を送るための素養を身につけていくことを大きな目的とする。スポーツ実習 1 では、特に他者との関わり方について考察を深めていくことが目的となる。
		スポーツ実習 2	「スポーツは、「体力を向上させる」だけでなく、「他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を養う」、「実践的な思考力や判断力を育む」といった人格の形成に影響をおよぼす。また、スポーツは、「人と人との交流の促進」、「心身の健康の保持増進」といった役割も果たす。スポーツ実習では、スポーツに内在するこれらの効果に着目し、自身のスポーツとの関わり方について考究し、生涯にわたって幸福で豊かな生活を送るための素養を身につけていくことを大きな目的とする。スポーツ実習 2 では、生涯スポーツを視野に入れた自身のスポーツへの最適な関わり方を発見することが目的となる。	
		スポーツ実習 3	「スポーツは、「体力を向上させる」だけでなく、「他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を養う」、「実践的な思考力や判断力を育む」といった人格の形成に影響をおよぼす。また、スポーツは、「人と人との交流の促進」、「心身の健康の保持増進」といった役割も果たす。スポーツ実習では、スポーツに内在するこれらの効果に着目し、自身のスポーツとの関わり方について考究し、生涯にわたって幸福で豊かな生活を送るための素養を身につけていくことを大きな目的とする。スポーツ実習 3 では、各種目の競技特性について理解を深めていくこと、練習やゲームの運営方法についても考察していくことが目的となる。	
		健康・スポーツ科学論	現代社会の情報化にともない、この世の中を生き抜いていく力として、自己の心と体の状態を常に正しく認識し、それをうまくコントロールする力が求められる。また、社会生活の中で時々刻々と変化する事態への対応力や危機回避能力が重要な課題となっている。これら現代人に不可欠な能力を育成する場として、スポーツ授業があり、実体験を通してそれらの能力を開発し、熟達させていくのである。さらにスポーツや身体活動における科学的な基礎知識を学習することにより、将来において人生をより豊かなものにしてくれる糧となる。この講義では、スポーツや身体運動の基礎となる健康論、身体論、スポーツ論、スポーツ史、救急法、体カトレーニング法について科学的な基礎知識を教授することにより、スポーツ実習との有機的な関連を目指している。	
		スポーツ文化論	現在、我が国ではスポーツ基本法という法律が施行されています。その前文で、スポーツは「世界共通の人類の文化である」と述べられています。実際、人とスポーツ的なものとの関係は、古代文明、あるいはそれ以前にまでさかのぼってみることができるようです。また、スポーツは、心身の健康のため、豊かで充実した生活のため、教育のために必要不可欠なものであり、地域コミュニティ醸成、経済発展、国際友好・親善にも貢献するものと認識されています。 本授業では、様々な事項とスポーツとの関係から、文化としてのスポーツについて（特に自身とスポーツとの関わりについて）考えを深めていくことを目的とします。	

共通科目	プロジェクト活動	プロジェクト活動スキル入門	本講義では、教員の学生時代の経験や企業での経験などを学生たちに伝えたり、また、建設業の企業への見学などを通して、これから4年間をかけて建築学を学ぶにあたり、良い動機付けを与え、目的意識を明確にし、学生の有意義なキャリア形成をサポートする。	共同（一部）	
		プロジェクト活動演習 1	本講義では、学生が様々なキャリア（体験・経験）を通して、人間形成していくことにより、自分らしい自分を作り上げていくことの重要性和、そのキャリアをこれからの人生に生かしていくことの大切さについて教える。		
		プロジェクト活動演習 2	本講義では、本学の理念である①「手が動かせる＝（主体的に課題に向かう）」、②「絵が描ける＝（文章や絵、図を使い、頭の中にあることを表現する）」、③「コミュニケーションができる＝（協働して学ぶ態度を身につける）」の三原則の基礎を身につけるため、グループワークを通して学び、さらには、問題解決能力も養う。		
		キャリア設計プロジェクト実践	就職活動に向けた準備として、実際にどのような流れで就職活動を行うのか、そのためには「いつまでに」「何を」「どうやって」準備しておくべきなのかを学びます。その上で、社会に出るための基本スキルを養います。		
	日本語活用	日本語上達法 1	大学での学びに必要な文章力の基礎を身につけることを主目的とします。そのために、長文の読解、小論文や自己PR文、レポートの書き方を扱っていきます。		
		日本語上達法 2	この授業は、受講生が大学に必要な（アカデミックな）レポートや卒業研究を、よりよく書けるようになることを目的とする。そのために必要な、アカデミックな日本語の「読む・書く」能力を向上する課題に取り組む。		
		日本語活用法	大学に必要なレポートを書く力を身につけることを主目的とします。そのために、要約する読解力、文法的に整えて書く方法、主題の立て方、引用の仕方、文章構成の仕方、体裁の整え方を理解し実践できるようになることを目指します。		
	地域プロジェクト活動	地域プロジェクト活動 1	寝屋川市、四条畷市などの近隣に所在する地域の商・工業などの事業者、公共団体、NPO法人、その他の公共の各種団体と連携し、新しいビジネスモデルや地域活動の提案などを通じて地域の活性化に貢献することにより、社会人としての高い社会意識とマナーの向上を目指すとともに、プレゼンテーション、コミュニケーションなどの基本的な対人能力、組織的な協働により成果を生み出すためのノウハウを現場で体験的に身につけることを目的とする。将来のキャリア設計を具体化するためのアクティブ・ラーニング型の科目である。		
		地域プロジェクト活動 2	学内及び学外の近隣地域で実施されているプロジェクトやボランティア活動への参加、またはそのようなプロジェクトやボランティア活動を自らが主導的に企画・実施することによって、社会人としての高い社会意識とマナーの向上を目指すとともに、プレゼンテーション、コミュニケーションなどの基本的な対人能力、組織的な協働により成果を生み出すためのノウハウを現場で体験的に身につけることを目的とする。将来のキャリア設計を具体化するためのアクティブ・ラーニング型の科目である。		
	スキルアップ	グローバル研修	近年のグローバルな人材の育成のニーズに対応し、国際交流センターが認める留学プログラムに参加することで世界の多様性を認識する。交換留学やプログラムにおける各種活動を通して、視野を広げ、教養・見識を高めることを目的とする。		
		グローバル研修（英語）	英語圏を主として一定期間滞在し、単に英語の技能を磨くのみならず、その国に暮らす人びとに接し、歴史や文化、社会への理解を深め、多様な視点を内面化していくことによって、グローバルな視座を獲得する。		
	社会を知る	インターンシップ	3年次前期までに学んできた建築学や基礎科目の知識を生かして、企業における建築計画、設計、施工、監理など、様々な部門での実習を行う。その体験を通じて、社会における建築学分野の位置づけや現状をより深く理解することにより、建築学への探求心を養うとともに、将来の一般企業への就職の足掛かりとする。		
	情報基礎群	情報	AI・データサイエンス入門	<p>情報通信技術（ICT）の急速な進歩に伴い、目まぐるしく変化する現代社会において高度な情報のデジタル化が進展している。その中で数理・データサイエンス・AIを含めたICTを適切かつ効果的に活用して、主体的な問題の発見とスピーディな解決能力が求められている。本授業では、社会における様々な分野における実問題を概観し、それらの問題解決の考え方と方法論について、数理・データサイエンス・AI、情報及びコンピュータを含めたICTの果たす役割やその影響などを理解し、これらを活用した問題発見、解決能力を身につけるために、実践事例を中心とした講義及び演習を行う。また、本授業を履修することで数理・データサイエンス・AIのリテラシーレベルを習得する。</p> <p>（オムニバス方式／全13回）</p> <p>（20 江原康生／8回）問題解決のための情報、データ活用とコンピュータ</p> <p>（35 中村英夫／1回）データ・AI 利活用の事例（1）生体信号処理の応用事例</p> <p>（42 水野裕志／1回）データ・AI 利活用の事例（2）医療安全における応用事例</p> <p>（1 上善恒雄／1回）データ・AI 利活用の事例（3）社会を支えるデータ</p> <p>（21 大西克彦／1回）データ・AI 利活用の事例（4）医療・福祉・VRにおける応用事例</p> <p>（36 沼田哲史／1回）データ・AI 利活用の事例（5）ゲーム開発におけるAI技術</p>	オムニバス方式

共通科目	情報基礎群	情報	コンピュータリテラシー 1	初心者にコンピュータの使用法を習得させ、現代社会における情報の役割を述べ、情報セキュリティ・情報倫理の重要性、コンピュータリテラシー、メディアリテラシーに関して学ぶ。インターネットの基礎技能、英文、和文のワープロの利用技能を習得させる。Windowsシステム上で利用する種々のユーティリティを組み合わせることで表現力のある統合化文書を作成する技法を身に付けさせる。使用するインターネットブラウザはMozilla Firefox、応用ソフトウェアは主にMicrosoft Wordである。	共同
			コンピュータリテラシー 2	「コンピュータリテラシー 1」に続いて表計算の利用に関する技能を習得する。特にワープロと連携したレポートの作成や、データベースを扱い実践的な情報演習を実施する。次いでプレゼンテーションに関する基礎と作成ツールの利用を習得後、発表会を行わせる。使用する応用ソフトウェアは主に、Microsoft WordとExcel及びPower Pointである。	
			プログラミング基礎演習	StudyCというC言語学習用教育ソフトを用いて各コンピュータ言語に共通する初級レベルの逐次型プログラミングを学ぶ。まず、定数、変数、書式などを学び、1ビットで表される「スイッチ」の有限集合体からどのようにしてデータを表現し、モニタに表示するかについて学ぶ。次に流れ制御文としてif文、while文、for文を学ぶ。逐次型プログラムが前から順番に処理されることを体得するために、演習を多用し毎回小テストにより達成度を確認する。さらに、関数による高次機能化について学ぶ。	
基礎専門科目	数学	物理	基礎数学	専門科目において使用する最も基本的な数学上の概念や手法について学ぶ。専門科目の学習を円滑にすることを目的とする。数学や物理でよく使用される記号・文字、数、関数（指数・対数関数、三角関数、多項式）、微分・積分の基礎概念や使用例を講義と演習を通して学ぶ。	
			力学	物体の運動や力の概念を理解することを目指す。初めに位置・速度・加速度といった基本的な物理量とその単位を学ぶ。そのうえで、ニュートンの運動の法則から、力や質量の概念を理解し、摩擦力や自由落下などの身近な現象を解き明かす手法を学び、例題を通して身に付ける。また、力学的エネルギーや運動量の保存則、力の釣り合いと力のモーメントなどを学び、これを様々な力学的な問題に適用しながら、力学の応用力を養う。	
			物理学	自然界に存在する様々な振動の現象を理解することを目指す。ニュートンの運動の法則から力学的な波動現象の考察から波動方程式を導き、これに基づいて重ね合わせの原理や波の速さ、反射、透過、干渉、回折などの波動の基本的な性質を学ぶ。さらに波動である音波や光波の特徴などについて学び、具体的な例題を通じて理解を深める。さらに、熱と温度、熱力学の法則についても学び、物理学に対する広い知見を養う。	
基礎専門科目	建築・デザイン入門	建築学入門	建築学を修得するうえで必要なさまざまな講義・実習・実験などの全体の流れを把握するとともに、建築技術を身につけるに必要な基本的なルールや心構え、道具の役割や使い方などを学び、寸法や造形に対する感覚を涵養する。また、一部の授業においては、共同作業を通じてコミュニケーション力の必要性を理解する。 (オムニバス方式/全13回) (2 飯島憲一、5① 佐々木厚司、5② 坂口武司、6① 高畑顯信、6② 守谷幸治、7 辻 聖晃、10①矢ヶ崎善太郎、10②岡田治子、12 北尾聡子、13 北澤誠男、14 添田晴生/3回) (共同) 採寸感覚を身に付ける (6① 高畑顯信、6② 守谷幸治、13 北澤誠男/1回) (共同) 描写法について演習を交えて説明する (10①矢ヶ崎善太郎、10②岡田治子/1回) 造形感覚を身に付ける (5① 佐々木厚司、5② 坂口武司、10①矢ヶ崎善太郎、10②岡田治子/1回) (共同) 造形表現について演習を交えて説明する (2 飯島憲一、5① 佐々木厚司、5② 坂口武司、6① 高畑顯信、6② 守谷幸治、7 辻 聖晃、10①矢ヶ崎善太郎、10②岡田治子、12 北尾聡子、13 北澤誠男、14 添田晴生/1回) (共同) グループに分かれこれまで学んだことをまとめて発表する (12 北尾聡子、14 添田晴生/2回) (共同) 道具と図面について紹介、説明する (2 飯島憲一、5① 佐々木厚司、5② 坂口武司、6① 高畑顯信、6② 守谷幸治、7 辻 聖晃、10①矢ヶ崎善太郎、10②岡田治子、12 北尾聡子、13 北澤誠男、14 添田晴生/1回) (共同) 立体表現と製図について演習を交えて説明する (6① 高畑顯信、6② 守谷武、7 辻 聖晃/1回) (共同) 構成について学び、模型を作ってみる (2 飯島憲一、14 添田晴生/2回) (共同) CADを使った製図について演習を交えて説明する	オムニバス方式・共同(一部)	

基礎専門科目	建築・デザイン入門	空間デザイン学入門	<p>大学で段階的に学んでいく空間デザイン学のみならず、講義・実習・実験・等の全体的な流れを把握し、空間デザイン学の姿を理解できるようにするとともに、各専門分野のトピックスを紹介することによって、意欲的に勉学に励むためのモチベーションが得られるように空間デザイン専攻の専門分野のトピックスを学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全13回)</p> <p>(1 上善恒雄、4 金村仁/1回) (共同) ネットワーク及びLMS環境を紹介 (16 實珍宏元/1回) データ分析を根拠にした地域と建築の計画の研究を紹介 (11 太田琢也/1回) コンピュータグラフィックスを使った設計とプレゼンテーションを紹介 (3 梅原 悟/2回) 建築デザイン、インテリアデザイン、プロダクトデザインまでデザイン全般についての哲学や方法論を紹介 (9 深川礼子/2回) 交通や含めた都市をデザインする視点から建築を考える (8 中田亮生/1回) 建築と環境の関係から見た建築設備について紹介 (15 光石暁彦/1回) 環境のセンシングや計算・予測の科学と工学の概要を紹介 (4 金村 仁/1回) 芸術全般を俯瞰した上での芸術としての建築デザインを紹介 (1 上善恒雄/1回) 空間デザインのためのグラフィックスやセンサー技術などの情報工学を紹介 (11 太田琢也、16 實珍宏元/1回) (共同) 空間デザインDXの可能性の紹介 (8 中田亮生、15 光石暁彦/1回) (共同) これまでの振り返りを行い、自身の課題を発見し今後の取り組みについて検討する</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
		建築構造入門	<p>本科目は、物理学における力学と構造力学、建築材料等の力学系科目とをつなぐ、基礎的な科目である。本講では第1に、物理学の力学現象を、構造力学における力学問題としてとらえる基本的な考え方を理解し、第2に、力学問題の解析能力の向上を目的とする。そのために必要な数学の知識として、指数・対数・三角関数と、微分・積分の基本の復習を並行して進め、主に、力とその合成と分解、力のモーメント、力のつり合いについて、演習問題を豊富に解きながら学ぶ。</p>	
		OECU概論2	<p>建築分野や空間デザイン分野に特有の基本的な概念を学ぶことによって、分野への理解を深めるとともに様々な経験を通して、本学建築・デザイン学部で学ぶことの重要性や楽しさを認識します。</p>	
専門科目	建築設計実習	建築・デザイン設計基礎実習	<p>建築設計製図の基本を学び、実習を通して、建築設計に必要な基本技術を習得する。ここでは、線、文字、寸法線などの書き方や、記号の読み方・書き方、立体や第三角法、透視図法についても理解する。また、木造住宅等の設計図面の模写、有名住宅建築の模型製作などもおこなう。さらに、次の設計実習に繋げるための初歩的な空間設計課題もおこなう。</p>	
		建築設計実習1	<p>建築設計の実習を通して、建築の企画・設計に関する基礎知識や技術を習得する。さらには、建築設計に必要な分析力、創造力や表現力を養う。実習課題としては、①学生にとって身近な集合住宅のインフィルデザイン、②戸建て住宅、をそれぞれ設計する。②の構造は木造もしくは鉄筋コンクリート造とする。</p>	
		建築設計実習2	<p>建築設計の実習を通して、建築の企画・設計に関する基礎知識や技術を習得する。さらには、建築設計に必要な分析力、創造力や表現力を養い、新たな課題に取り組むための学習力を養成する。実習課題としては、①都心につくアーティストのためのギャラリー兼アトリエ、②寝屋川市内につくこれからの時代の集合住宅、をそれぞれ設計する。①②とも構造は鉄骨造もしくは鉄筋コンクリート造とする。</p>	
		建築設計実習3	<p>建築設計の実習を通して、これまでに身につけた様々な能力を発揮して課題解決への提案力、プレゼンテーション力を養成する。実習課題としては、①大学キャンパス内に建つラーニングセンター、②ストック時代に求められる廃校リノベーション、をそれぞれ設計する。①②とも構造は鉄筋コンクリート造を基本とする。</p>	
		建築・デザイン総合演習	<p>研究室配属後に建築・デザインプレミナールと並行して、各専攻ごとに専攻の全教員の指導のもと課題の発見・設定と解決を行う。企画・設計・情報・環境・設備・構造など建築と空間デザインに関連するあらゆる分野の技術を総合的に応用して、建築士・デザイナーとしての実務能力を高めることを目的とする。</p> <p>少子高齢化の時代に対応し、SDGsに資するテーマとして、物理的な都市空間だけでなく、サイバー空間を想定した自由な課題を設定する。</p> <p>成果物となる表現メディアとしては、設計図面、パース、模型、VR空間、実空間でのインスタレーションなどあらゆる形式を対象とする。</p>	
	建築計画	建築史・都市史1	<p>日本建築や町の変遷や特徴を学び、木造建築の特質を理解する。具体的には、神社建築、仏教建築、中世の和洋建築、民家、近代の洋風建築などについて学び、理解する。また、京都や門前町、宿場町などの歴史的街並みの形成過程やその保存活性化などについても学ぶ。</p>	
		建築史・都市史2	<p>西洋建築史をテーマとして、ヨーロッパの歴史にしたがって、各時代の建築や都市の特徴と変遷と代表的建築を学ぶ。具体的には、古代ギリシア建築、古代ローマ建築、キリスト教建築、ルネサンス建築などを学び、理解する。また、歴史的建造物の保存再生についてのヨーロッパでの取組についても学ぶ。</p>	
建築史・都市史3		<p>近代建築や都市について学ぶ。十九世紀から二十世紀にかけて、建築は大きく変化した。近代建築に関わる必要な近現代の建築と建築家に関する知識と教養を修得する。近代の都市計画に関する様々な事例・提案についても学ぶ。</p>		

建築計画	建築史実習	神社仏閣などの建築物や歴史的保存地区を見学し、その周辺環境や歴史についても調べることで、建築物と周辺環境との関わり、また建築物や都市の計画、環境デザインなどを学ぶ。各自が調べた内容についてプレゼンテーションを行い、互いに学び合う。基本的に、京阪神地区を見学対象とする。	
	建築計画 1	建築計画の基礎的な理論について学ぶ。建築物の企画・計画・設計における建築計画の位置づけを行い、建築の構造形態、健康、心理、機能、用途、構造、設備、材料、コスト、生産、歴史、風土など多様な側面を考慮して、計画するための理論について学ぶ。	
	建築計画 2	各建築物の建築計画法について学ぶ。具体的には、住宅、ホテル、旅館、病院・診療所、介護福祉施設、学校、子ども園・幼稚園・保育所、オフィス、劇場、商業施設、図書館、博物館などの各種建物の建築計画に関して、基本的な計画論について学ぶ。 (オムニバス方式/全13回) (5② 坂口武司/6回) 住宅、病院・診療所、介護福祉施設、学校、子ども園・幼稚園・保育所 (13 北澤誠男/7回) ホテル、旅館、オフィス、劇場、商業施設、図書館、美術館・博物館	オムニバス方式
	住環境計画	建築において、人が住まう環境は重要な要素の一つである。ここでは、住戸集合の構成原理と住要求に対応した住環境計画の考え方について学ぶ。また、循環型社会に向けて、ストックとしての持続可能な住環境形成を実現するための住宅団地再生と環境マネジメントの手法について考える。	
	都市・街並み計画	建築の集合体として都市や街並みは形成される、あるいは為政者の下で都市計画に基づき形成される場合もある。既に形成されている都市環境、街並みにおいて、建築を行う場合、その建築によって周辺環境に少なからず影響を与えることになる。こうした影響をより良い方向に導く、あるいは現状を改善するための施策について、いくつかの具体的な都市・街並み計画の事例を通じて学習する。	
	環境デザイン論	都市・建築環境に関する幅広いデザインについて学ぶ。歴史的な価値や意味、また、周辺環境に配慮したデザイン、あるいは、地球環境や循環型社会に配慮したデザインなどを学び、都市と建築についての総合的な理解を深める。	
建築環境	建築環境工学 1	建築における屋外環境や室内環境、さらには人間の感覚との関係について学ぶ。具体的には、日照・日射、光環境、色彩環境、音環境に関する基本的な現象を理解し、日影曲線が使えるようになり、基本的な照度計算、照明計算、音圧レベルの計算などができるようになること。以上のように、この授業では、健康で快適な環境を提供するための建築計画や設計に必要な基本事項を理解することを目的とする。	
	建築環境工学 2	建築における室内の空気・熱・湿気環境、さらには人体の温熱環境について学ぶ。具体的には、自然換気、機械換気、熱の伝わり、湿気、結露、人体の熱収支に関する基本的な現象を理解し、基本的な換気の計算、伝熱の計算や熱負荷計算などができるようになること。以上のように、この授業では、健康で快適な室内環境を実現し、かつ建物が省エネルギーとなるように、建築計画や設計に必要な基本事項を理解することを目的とする。	
	建築環境工学実習	本授業では、PBL(プロジェクト学習)形式とし、グループでパッシブハウスのコンセプトを考え、木やアクリル板、断熱材、その他の材料を用いて模型を製作し、屋上で1週間程度の温度計測実験を行う。実験後のデータ解析を元に、改良を考え、実験を再度行う。最後に、各グループで、プレゼンテーションを行う。 これらのグループワークを通して、建築環境工学についての理解を深めながら、チームワークの大切さを学び、人間力を伸ばすことを目的とする。	
建築設備	建築設備 1	建築において、人間に快適な環境を提供することは重要な要素の一つであるが、そのために必要な建築設備について学ぶ。ここでは、給排水・衛生設備、空調設備を学ぶ。給排水・衛生設備として、給水や排水の仕組み、流量線図の読み方、管径計算、給湯設備、衛生器具について学び、空調設備として、空気線図の読み方、書き方、熱負荷計算を学び、さらには熱源システムや空調機についてについて学ぶ。 この授業を通して、設備設計に必要な知識と技術を身につけることを目的とする。	
	建築設備 2	建築において、人間に快適な環境を提供することは重要な要素の一つであるが、そのために必要な建築設備について学ぶ。ここでは、電気設備を中心に電気の基礎、情報通信設備、防災設備、搬送設備を学び、さらには、空調設備の実務について学ぶ。電気の基礎では、オームの法則をはじめ、直列回路や並列回路、交流回路、力率や有効電力について学び、情報通信設備では、LANやIoTについて、また、搬送設備ではエレベーターについて学ぶ。最後に、空調設備の実務として、企業で行われる設計、施工について学ぶ。 この授業を通して、設備設計に必要な知識と技術を身につけることを目的とする。 (オムニバス方式/全13回) (14 添田晴生/9回) 電気設備、情報通信設備、搬送設備について述べる。 (59 工藤征志/4回) 空調設備の実務について述べる。	オムニバス方式
建築構造	建築構造力学 1	建築内の人と空間を自然災害から守り、安全な建築物を設計するために、構造力学の基礎を学ぶ。「かたち」が形として保持される理り(ことわり)を、梁や柱などの部材及び骨組構造をとりあげて述べ、建築に必要な建築構造力学の基本概念の獲得を目指す。力の基本として、力のモーメント、力のモデル化、力の合成と分解、力のつり合いを学んだ後、外力を受けたときの、部材の内部に生じているひずみ、内力・応力の求め方などを学ぶ。	

専門科目	建築構造	建築構造力学 2	建築内の人と空間を自然災害から守り、安全な建築物を設計するために、構造力学の基礎を学ぶ。ここでは、静定骨組構造の部材に生じる力（断面力）の求め方を学ぶ。静定梁としての片持梁、単純梁、ゲルバー梁また、静定ラーメン、静定トラスの解き方について学ぶ。また、梁の変形量の求め方、柱などの圧縮材における弾性座屈荷重の求め方を学ぶ。	
		建築構造力学 3	建築内の人と空間を自然災害から守り、安全な建築物を設計するために、構造力学の基礎を学ぶ。ここでは、変形情報を用いて求める不静定構造物の解法についての基礎概念を学び、モールの定理や仮想荷重法などの変位の計算法や、たわみ角法・固定モーメント法その他、コンピュータ解析に適した行列を用いた弾性骨組解法について学ぶ。ここまでの建築構造力学 1～3 の修得によって、建築士学科試験の構造力学問題の 8 割に対応できるようになる。	
		建築構造力学 4	建築内の人と空間を自然災害から守り、安全な建築物を設計するために、構造力学の基礎を学ぶ。ここでは、部材の塑性変形を考慮した極限解析と弾塑性解析法について学ぶ。また、構造物の固有周期や固有モードなどの振動に関する基礎理論を学び、地震時挙動の予測法、建築物の耐震設計法について理解する。	
	建築一般構造	建築構造 1	建築物の構造として、鉄筋コンクリート系構造、鋼材系構造、木材系構造などの各種構造、構造形式、地震時被害状況について学ぶとともに、建築物にかかる荷重や外力の種類、それらの構造設計時の想定方法などについて学ぶ。 (オムニバス方式/全13回) (6② 守谷幸治/6回) 構造設計に用いる荷重・外力の種類、地盤と基礎、鉄筋コンクリート系構造について述べる。 (7 辻 聖晃/3回) 鋼材系構造と免震・制振構造について述べる。 (12 北尾聡子/3回) 木材系構造について述べる。 (6② 守谷幸治、7 辻 聖晃、12 北尾聡子/1回) (共同) 構造実務に関する講演と討論を催す。	オムニバス方式・共同(一部)
		建築構造 2	鉄筋コンクリート構造物を構造設計するための基礎知識を修得することを目的として、材料の力学的性質、許容応力度について学び、鉄筋コンクリート断面の許容断面力の考え方・求め方、各種部位の構造設計、配筋などについて学ぶ。また、プレストレスト・コンクリートについても学ぶ。	
		建築構造 3	鋼構造物、木質構造物を構造設計するための基礎知識を修得することを目的として、構造計画法の基礎、構造設計の考え方、構造設計式について解説する。鋼構造については、部材の断面設計、接合部の設計、柱脚の設計を学び、木構造については、仕様規定に加えて、壁量計算・4分割法・接合部金物についての計算法などについて学ぶ。超高層建物、鉄骨鉄筋コンクリート構造の構造設計についても簡単に学ぶ。 (オムニバス方式/全13回) (7 辻 聖晃/8回) 鋼構造、鉄骨鉄筋コンクリート構造、超高層建物 (12 北尾聡子/5回) 木質構造、構造設計演習	オムニバス方式
	建築材料	建築材料・構成概論	建築主体構造として主に用いられるコンクリート、鋼材、木材などの材料としての力学的性質や基本的特性について学ぶとともに、内装・外装材として用いられる各種材料について学ぶ。さらにそれらの構成について学ぶ。 (オムニバス方式/全13回) (6① 高畑顯信、6② 守谷幸治/3回) 建築構造材料としてのコンクリートについて、セメントや骨材に関する基礎知識、調合設計法、フレッシュコンクリート及び硬化コンクリートの性質について述べる。また、鋼材の製造過程、鋼製品について述べる煉瓦や土壁などについても触れる。また、構造体の納まりと部品構成についても述べる。 (13 北澤誠男/5回) 仕上げ材料の種類や役割、断熱・防水・音響などの機能材料の種類や役割について述べる。また、仕上げ材料の構成について述べる。 (14 添田晴生/2回) 電気・給排水・空調の材料や役割及び配線・配管について述べる。 (10① 矢ヶ崎善太郎、10② 岡田治子/3回) 構造用木材や屋根・瓦・土壁・左官工事・和風建具の材料の基本特性のほか収まりについて述べる。	オムニバス方式
		建築材料・構造実験	建築物を構成する構造材料であるコンクリートや鋼材の物理的特性を実験により把握することを目的とする。コンクリート試験（コンクリートの調合、スランプ試験、コンクリートの強度試験）、鋼材試験（鋼材の引張試験など）、鋼管圧縮試験、木材試験（圧縮試験、曲げ試験）などを行う。また、紙等を用いて構造模型を計画、作成し、載荷実験を行い、構造形式の役割を実感する。	
	建築生産	建築生産 1	建築生産における施工の部分に重点をおき、建築する、つまり、建物を建てることについての実際の作業の流れと、各工事段階における施工管理の基礎を理解し、実務の基礎能力を養う。ここでは、公共建築や事務所ビルなどの一般的な建築物を対象として、建築生産を学ぶ。	
建築生産 2		建築生産における施工の部分に重点をおき、建築する、つまり、建物を建てることについての実際の作業の流れと、各工事段階における施工管理の基礎を理解し、実務の基礎能力を養う。ここでは、住宅や集合住宅を対象として、建築生産を学ぶ。		
建築経済		日本の建設産業の現状や建設産業の経営、工事発注や契約について学ぶ。また建築の設計・施工・維持管理・修繕・解体・廃棄などの費用及び建築のライフサイクルの総費用であるLCC(ライフサイクルコスト)に焦点を当て、建築コストの積算方法・積算過程について学ぶ。 (オムニバス方式/全13回) (6② 守谷幸治/3回) 建設投資や労働人口など建設産業の現状や契約と工事体制、工事費用の内訳、建築関連企業の経営について述べる。 (63 高橋肇宏/10回) 設計事務所やコンサルタント企業の経営を述べ、プロジェクトの企画から設計・建設・ランニングまでのコストプランニングとトータルコストについて述べる。また躯体・仕上の積算を実習する。	オムニバス方式	

専門科目	建築法規	建築設計をする際に、必要となる建築関係の法規制について概説する。建築関係法令の種類や概要を理解する。具体的には、建築物の安全性、採光、換気、構造強度、防火、非常用照明、都市計画、地区計画などの法令について学ぶ。	
	建築技術者倫理	建築技術者として、正しい倫理観を養い、安全かつ安心できる建築物を提供しなければならない。ここでは、建築設計倫理、建築構造倫理、建築生産倫理の3つについて概説し、建築物に関する過去の事故や不正事件を取り上げ講義する。また社会や時代など環境にアンテナを張る重要さと前向きな倫理活動や問題が発生する背景とリスク管理について学ぶ。 (オムニバス方式/全13回) (6② 守谷幸治/5回)建築生産における管理の重要性とコンプライアンスについて、いくつかの問題事例を通じて述べる。またCSRや社会貢献について述べる。 (81 松井宣明/4回)建築設計者の立場で、建築設計上の問題事例、建築監理上の問題事例を通じて、それらの倫理について述べる。 (66 武平俊秀/4回)耐震偽装問題や建築確認から完了検査で、過程毎の判断に伴う倫理について述べる。	オムニバス方式
	空間デザイン概論	空間デザインの分野全体について、その基礎となる理論、具体例、法的・倫理的、数学・物理的な基礎など、本専攻の学位を取得するために必要な知識と技術について概観する。	
	建築都市デザイン	農林漁業との健全な調和のもと、健康で文化的な都市生活と機能的な都市活動を実現・維持し、合理的な利用を可能とするための仕組みや法、国・地方公共団体の意思決定の流れにおける、建築に関わる基礎的な知識を学び、実際の建築にあたっての住民の合意形成、景観設計も併せて、建築・都市・地域の空間デザインに関わる知識についてさまざまな視点から、具体的な事例を通じて学習する。 高齢化が進む社会の中で、地域の人と人を結び、安全で健やかな暮らしを支える、まちづくり、交通、互いの連帯を深めるための手法や組織づくり、様々な地域での事例を踏まえて、持続可能な日本の建築における将来を建築都市空間のデザインから展望するための学習を行う。	
	インテリアデザイン概論	インテリアコーディネーターやインテリアプランナーの資格取得を意識しながら、実践的なデザインを行うための準備を行う。インテリアのビジネス、歴史、インテリア計画、色彩と造形、家具、ウィンドウトリートメントなどの各種エレメント、構造・構法、材料、環境工学、住宅設備、照明、表現技法、関連法規などインテリアデザインに関する知識全般について学習する。	
	インテリアデザイン実践	インテリア計画は人がより快適に過ごすために必要な要素である。ここでは、インテリアデザインにおける基本的な考え方や知識を身につける。家具や床、天井の構造や仕上げについて、建具や照明などの室内空間の在り方、さらには、ユニバーサルデザイン、シックハウス問題についても学ぶ。インテリアコーディネーターの2次試験対策も視野に入れて、独自の作品制作を行い、自らの作品をアピールするプレゼンテーションの実習も併せて行う。	共同(一部)
	ランドスケープデザイン	都市空間の中でも自然の維持が重要で、緑地・農地の安定的確保も都市計画の中でも重視されている。都市の中での自然要素として、公園や広場など、豊かな生活環境に欠くことができない要素をランドスケープとして、その計画について、法的知識や各種手法について学び、思考実験として、具体的な題材を用いた設計実習も交えて学習する。	
	建築プロジェクトデザイン	建築及び都市空間のコンセプト創造、企画・計画、予算計画、具体的なデザイン・設計、地域連携、ステークホルダとの調整、施工、メンテナンス、改修、解体に至る建築における実践的な側面からプロジェクトに必要な建築生産の要素を概観し、プロジェクトマネジメントの方法論など、建築及び都市空間の創造に係るプロジェクト全体のデザインについても学習する。	
	基礎造形	デザインを学ぶ上で必要な色や形の組み合わせの基礎を学び、その後様々な要素を組み合わせた立体造形、模型、3DCGグラフィクスなど、VRに至る3次元空間と物体の造形におけるデザインの基本となる方法や道具立てについて総合的に学ぶ。	
	空間芸術表現論	近現代建築と関わる空間芸術の表現について、その歴史的な移り変わり、地域性、環境やなど他者との関係性とあわせて多様な空間芸術表現を学習する。	
	デッサン実習	デッサンはデザインを学ぶ上で重要な基礎トレーニングである。人物・風景・静物などの鉛筆デッサンを通じて、対象の捉え方、表現方法の基礎を学ぶ。	
	デザイン概論	建築デザイン、プロダクトデザインなどの商業デザインと、インスタレーション、絵画、立体造形などのファインアートに及ぶ幅広い分野でのデザイン表現について俯瞰的に表現手法や特徴について学習する。	
デザイン基礎演習	コンピュータによるデザイン手法の基礎となる、ペイント系、ドロー系、映像系ソフトウェアの基礎的な使い方や、デザイン・表現の手法や、定石となる色使いやレイアウトなど、基本的なデザインガイドラインについて演習を交えて学ぶ。		
機能デザイン	自然災害概論	災害対策のための構造設計を行う前提知識としての、自然の脅威と我が国の地盤、気象などについて学ぶ。気象庁が提供する地上天気図・アメダスなどの気象基本情報と、それらを活用した土砂・浸水・洪水などの各種気象防災情報、さらに、地震・津波などの防災情報を使い、それらの情報を適切に読み取り、応用するための基本的な知識・技術について、演習を含めて習得する。また、防災に対する技術的・政治的対策(防災設備を含む)や建築技術者としての心構えについて学修する。	

機能 デザイン	都市環境の設備 1	本科目は、建築設備の一部について学ぶ授業科目である。主に住宅の水回り、エネルギー、通信の都市インフラなどについて、住宅内設備とあわせてその仕組みと管理・保全、SDGsを見据えた新規技術と合わせて学ぶ。低年次における建築環境工学系の科目（空間デザインの自然科目、空間デザインの物理と化学）を基礎とし、建築基準法、建築物衛生法などに基づいた設備設計の手法について、豊富な演習問題を解きながら実務に必要な知識を修得することを目的とする。	
	都市環境の設備 2	本科目は、建築設備の一部について学ぶ授業科目である。主に住宅やビルの空調設備、商業施設や工場の冷蔵・冷凍設備などについて、それらの仕組みと管理・保全に必要な知識と技術を学ぶ。低年次における建築環境工学系の科目（空間デザインの自然科目、空間デザインの物理と化学）を基礎とし、建築基準法、建築物衛生法などに基づいた設備設計の手法について、豊富な演習問題を解きながら実務に必要な知識を修得することを目的とする。	
	住環境設備実験	本科目は、建築設備の一部について学ぶ授業科目である。主に住宅やビルの空調設備、商業施設や工場の冷蔵・冷凍設備などについて、それらの仕組みと管理・保全に必要な知識と技術を学ぶ。低年次における建築環境工学系の科目（空間デザインの自然科目、空間デザインの物理と化学）を基礎とし、建築基準法、建築物衛生法などに基づいた設備設計の手法について、豊富な演習問題を解きながら実務に必要な知識を修得することを目的とする。 (オムニバス方式全13回) (8 中田亮生/7回) ボイラーやエンジンなどの動力源や、太陽光や燃料電池などの新エネルギー設備の基本構造、温熱環境計測 (15 光石暁彦/6回) 上下水道配管や各種ダクト内の流れの特性や損失などの流体・熱力学の基本と安全設備などの構造、空調設備の要となるヒートポンプや熱交換の設備	オムニバス方式
	空間環境デザイン 1	本科目は、建築環境工学の一部について学ぶ授業科目である。建築における屋外環境や室内環境、さらには人間の感覚との関係について学ぶ。ここでは、日照・日射、採光・照明、音響に関する基本的な現象を理解し、健康で快適な環境を提供するための建築計画や設計に必要な基本事項を理解する。これらの内容は、空間デザインの構築に不可欠な建築設備系の科目を理解する上でも基礎となる重要な自然科学の科目である。	
	空間環境デザイン 2	本科目は、建築環境工学の一部について学ぶ授業科目である。建築における屋外環境や室内環境、さらには人間の感覚との関係について学ぶ。ここでは、換気・通風、伝熱、湿気・結露に関する基本的な現象を理解し、健康で快適な環境を提供するための建築計画や設計に必要な基本事項を理解する。これらの内容は、空間デザインの構築に不可欠な建築設備系の科目を理解する上でも基礎となる重要な物理と化学の科目である。	
	構造デザイン総論	建築計画の対象と設計・施工の方法論を前提に、建築構造に関して必要な知識を、材料と力学的な基礎から総合的な知識を得ることを目的とする。建築構造の計算力学、建築弾性学、建築耐震構造など、建築・都市の設計に必要な基礎的な力学について学び、建築計画との関連を考える。	
専門 科目	デジタル空間の表現	クライアントなどのプレゼンテーション対象者と自らの考えを共有することがプロジェクトの成功の基礎となる。建築等計画案の設計資料をデジタルメディアにまとめて、説得力のあるプレゼンテーション資料を作成する手法を学ぶ。CGIによるパースやアニメーション、イラストレーション、写真や動画メディアなど、デジタルによる様々な表現手法とそれらを効果的に統合する手法を実習を通して学ぶ。メディアを効率良く効果的に利用するためにそれぞれのデジタルメディアの特性や技術的な原理も学ぶ。	
	コンピュータ製図実習	建築設計製図の基礎を学んだことを前提に、コンピュータを援用した設計製図の手法を汎用CADであるAutoCADを用いて学ぶ。前半7回の授業ではAutoCADの特徴や基本操作を習得し、後半6回の授業では平面図・立面図・断面図のトレースを行う。建築の設計から施工における広範囲な領域で作成されることを必須とされている図面をCADを用いて作成できるようになることを目標とする。 (オムニバス方式全13回) (2 飯島憲一/7回) AutoCADの基本操作実習 (11 太田琢也/6回) 図面のトレース実習（平面図・立面図・断面図）	オムニバス方式
	コンピューテーショナルデザイン	デザインを創出する際に積極的にコンピュータ利用するコンピューテーショナルデザインが目ざされている。ここでは、3次元CADの基礎的操作方法を習得し、アルゴリズムによりデザイン案がパラメトリックに出力される技法を習得する。	
	サイバー空間創成	メタバースやゲームの仮想空間を制作する実習でプログラミング要素を含む。主にゲームエンジンと言われる統合ソフトウェアを利用し、仮想空間内での行動を含めた動きのある表現を行うことで、空間内での人間の行動も意識したデザイン手法を探索する。	
	行動シミュレーション	人の行動パターンを考慮した空間デザインを考える。デザインした空間での人の行動をゲームエンジンも利用したシミュレーション実験により空間の利用を考慮した設計の基礎とする。人工知能、人工生命の考え方を応用した群行動に基づいた空間デザインの考え方を学ぶ。	
	Building Information Modeling	3次元CADの建物形状データに、建物構成要素の材料や物性、仕様などの属性情報を持たせたBIM (Building Information Modeling) で作成された建物データベースと連携することにより、数量やコストの算出、熱や気流、構造、音、光などのシミュレーションの解析が容易となる。実用的なBIMシステムを学ぶことでBIMシステムの基礎的操作方法を習得する。	

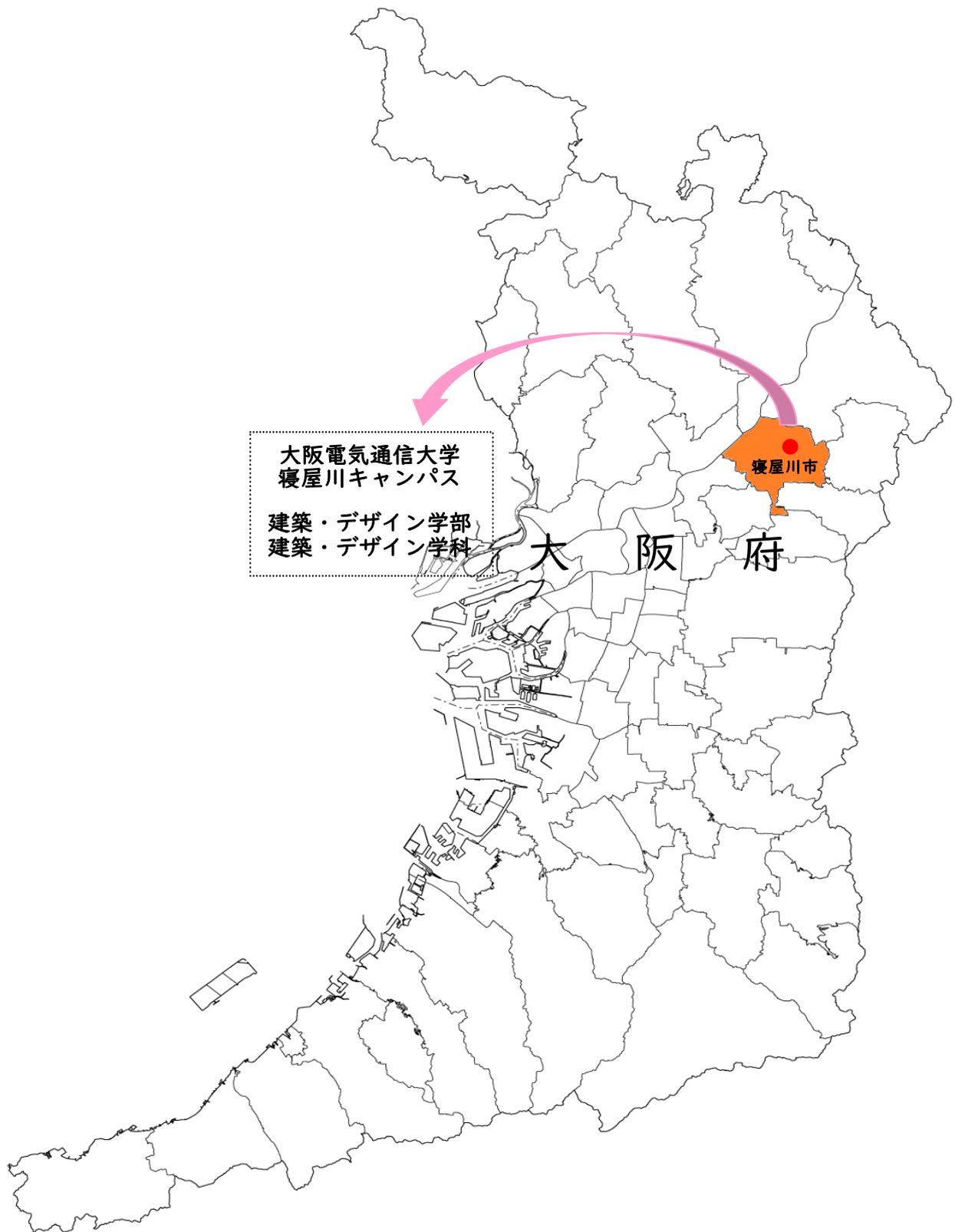
データ指向デザイン	空間表現の情報技術	空間や物体を3Dモデリングした建築・都市モデルの作成、公開、活用の技術要素を学び、情報工学的な基礎知識を養う。レーザーレンジスキャナによる点群データや写真画像からの3Dデータの取り扱いに関する技術的基礎を学び、拡張現実感や仮想空間の構成に応用する手段を実習によって経験する。 (オムニバス方式/全13回) (16 寶珍宏元/8回) 建築・都市計画への応用事例に基づいて情報技術利用の方法や効果について講義する。 (1 上善恒雄/5回) 空間データの計測・蓄積・共有について技術的な基礎について講義する。	オムニバス方式
	社会データ分析	建築・都市計画の根拠となる都市の人口、経済、流通などのデータを空間統計データとして分析する。情報ソースとしてSNSのテキストマイニングも対象とする。	
	空間シミュレーション	本科目は、建築環境工学と建築設備の応用に関する演習を主体とした授業科目である。建築物内外の空間や設備・配管内の空気・水の流れ及び熱の移動は、流体・熱力学の理論と経験則に基づいて求められ、それが建築基準法や建築物衛生法などに活用されて、安全で快適な住環境の形成に使われている。近年では、様々な空間デザインや省エネ住宅のアイデアに応じて、コンピュータの計算能力を利用した数値流体力学 (CFD) を使い、より複雑な室内の気流や熱移動も精密かつ比較的容易に計算できるようになっている。ここでは、低年次で学修した流体力学と熱力学の考え方を、ソフトウェアツールを使って直感的に学ぶとともに、流れと熱移動の数値計算手法に関する基本的な考え方についても理解する。	
	建築空間DX	データ技術とICTを活用したスマートホームを考える。各種センサとIoT通信技術による物理的実空間のデータと計算モデル内のサイバー空間を連携させ、BIMの拡張系として設計・計画の基礎データ、監視・管理への連続的展開を次世代のCPS(Cyber-Physical System)として考えるための基礎技術を学習する。	
	都市空間DX	世界のスマートシティの計画や社会実験の事例を紹介し、都市のセンシング、データベース化、学習、判断、制御により、交通渋滞解消や防災に役立てる地域情報システムの考え方、地理情報システム、電子地図、統計ソフトなどを使った空間統計の手法など、都市を対象としたデジタル技術について総合的に学習する。	
	構造シミュレーション	本科目は、構造力学の応用に関する演習を主体とした授業科目である。建築物の強度設計のための構造計算書では、構造力学の梁(はり)理論などを適用するため、計算できるのは比較的簡単な構造に限定される。そこで、有限要素法 (FEM) を適用してコンピュータを使う構造解析により、複雑な三次元の構造も計算可能になる。ここでは、有限要素法による構造解析のソフトウェアツールを使って、低年次で学修した構造力学の考え方を直感的に学ぶとともに、構造部材のより詳細な応力状態、変形状態などを知ること、実状に即した適切なモデル化を行うことによって、複雑な構造物の力学性状を把握できることを学ぶ。さらに、有限要素法の数値計算に関する基本的な考え方についても理解する。	
	空間情報数理	卒業研究や社会で仕事を進めていく上で基礎となる空間に関する数学を学ぶ。情報技術を利用した空間デザイン、特にプログラミングに関係した数理的知識をまとめる。線形代数、四元数、テンソルなど幾何に関する抽象的な代数的知識の基礎を固めた上で、授業の後半では研究室でのテーマに沿うように個別の卒業研究テーマに応じた課題設定を行って進める。 数理的デザインに関連するアルゴリズムを通して新しい空間デザインの要素としての応用可能性を考える。単純な反復パターンから、セルオートマトンや人工生命、敵対的生成ネットワークによる生成など、近年の情報工学での研究を取り入れた考え方もプログラミングを通して学ぶ。	
データサイエンス	データサイエンス基礎	ほとんどの社会活動において、データに基づく意思決定が行われている。その背景にはデータを蓄積し分析できうる情報化社会の進展に依るところが大きい。しかしながら、間違ったデータ収集、データ蓄積、データ加工、またはデータ分析は意思決定の誤りを招く。本講義では、データに基づいて意志決定や課題解決を行っていくデータサイエンスの入門編として、人文科学、社会科学、自然科学、いずれの分野においても必要とされる記述統計、推測統計学の基礎をベースとして重要な統計学の考え方と統計解析の手法を演習形式も含めて習得することを目的とする。 内閣府 AI 戦略2021における数理・データサイエンス・AI (応用基礎レベル) のデータサイエンス基礎及びデータエンジニアリング基礎に基づいて、基本的な概念と手法、応用例を学ぶ。	
	人工知能	人工知能 (AI: Artificial Intelligence) とは、人間が持つ学習・推論・理解・創造といった知能 (知的活動) を、コンピュータを用いて人工的に実現しようとする学問である。人工知能技術は、知識型AIとデータ駆動型AIの2つのアプローチに大別される。知識型AIは、計算機上に表現された知識に基づいて必要な解答や知識を導出する。一方、データ駆動型AIは、大量のデータから、数理モデルやアルゴリズム等に基づいて、法則性や関係性を導出する。AI技術を現実世界の諸問題に適用するためには、これら双方のアプローチから適切な技術を選択することが重要となる。 本講義では、このような課題に応じたAI技術を適切に選択・適用できる実践力を養成することを目指し、人工知能の基本的な技術要素について講義する。具体的には、探索、知識表現、論理・推論、知識処理といった知識型AIの技術を中心に講義を行う。一部の学修内容については、「知識をコンピュータでどのように扱うか？」という知識モデリングに関するエンジニアリングデザイン能力を習得することを目指し、演習をまじえた形式で行う。その後、データ駆動型AIの基本的な技術である機械学習、ニューラルネットワーク・深層学習について講義したのち、最後に総括として、今後の人工知能技術の展望について論じる。	

専門科目	その他	特別ゼミナール1	アクティブ・ラーニング、本学の他学科での科目履修や企業との連携講座等のカリキュラム外の学修によって、専門知識や技術の向上が期待できる。また、このことは就職活動にも有利なだけでなく、将来就く業務によっては必要となることもある。このような学修について、一定の要件の下で単位を付与する。	
		特別ゼミナール2	アクティブ・ラーニング、本学の他学科での科目履修や企業との連携講座等のカリキュラム外の学修によって、専門知識や技術の向上が期待できる。また、このことは就職活動にも有利なだけでなく、将来就く業務によっては必要となることもある。このような学修について、一定の要件の下で単位を付与する。	
		建築・デザインプレゼミナール1	総合技術である建築は、工学的側面から社会的側面・文化的側面まで幅広い分野で成り立っている。また、デザインの領域にも、対象の規模や用途に応じた多様な研究分野がある。この建築・デザインプレゼミナール1では、本学科教員の研究室を順次訪問し、各教員の研究分野についてゼミ形式で学ぶ。1研究室では4週間にわたり、研究室から出される課題について、自ら調べ発表するとともに、グループディスカッションを行い、レポートを作成する。	
		建築・デザインプレゼミナール2	総合技術である建築は、工学的側面から社会的側面・文化的側面まで幅広い分野で成り立っている。また、デザインの領域にも、対象の規模や用途に応じた多様な研究分野がある。この建築・デザインプレゼミナール2では、本学科教員の研究室を順次訪問し、各教員の研究分野についてゼミ形式で学ぶ。1研究室では4週間にわたり、研究室から出される課題について、自ら調べ発表するとともに、グループディスカッションを行い、レポートを作成する。	
		建築・デザインプレゼミナール3	建築・デザインプレゼミナール3では、各研究室に仮配属を行い、4年次から始まる卒業設計、卒業研究の準備を本格的に行う。ここでは、卒業設計、卒業研究のテーマを仮で決定し、各研究テーマに必要な基礎知識を復習し、関連する専門知識についても調べ、身につけておく。	
		卒業研究	卒業研究は、配属された各研究室で指導教員の指導のもと、特定のテーマを設定し、建築あるいは都市に関連する研究を行う。研究の内容は学術研究、設計、制作などテーマに応じた指導教員が認める方法であれば良い。 卒業研究を通して、専門知識や理論を深く学び、考察力を磨き、文章作成能力、さらには、プレゼンテーション力も身につける。 最終的には、卒業研究発表を行い、論文や作品、図面、データなどの研究成果物を提出する。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

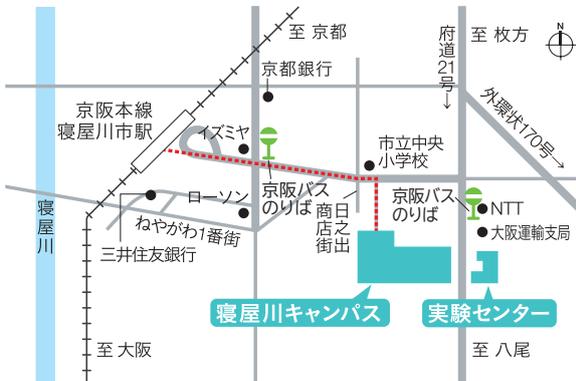
大阪府内における学舎の位置



アクセス

キャンパスの最寄り駅は、関西エリアの幅広い地域が通学圏内の好立地。
授業やクラブ活動が終わったあとのお出かけもスムーズです。

寝屋川キャンパス (工学部・情報通信工学部)



寝屋川キャンパス

〒572-8530 大阪府寝屋川市初町18-8
Tel.072-824-1131(代) Fax.072-824-0014



京阪本線「寝屋川市」駅までの所要時間(目安)

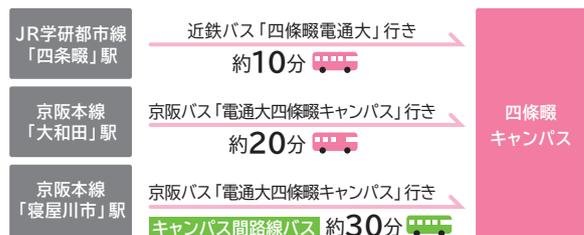
枚方市駅から	約 8分	祇園四条駅から	約41分
京橋駅から	約13分	千里中央駅から	約42分
大阪(梅田)駅から	約28分	堺東駅から	約53分
天王寺駅から	約32分	三ノ宮駅から	約65分

四條畷キャンパス (医療健康科学部・総合情報学部)



四條畷キャンパス

〒575-0063 大阪府四條畷市清滝1130-70
Tel.072-876-3317(代) Fax.072-876-3321



Topics!!

JRおおさか東線全線開業により、JRおおさか東線、阪急京都線沿線からJR四條畷駅へのアクセスがますます便利に!

キャンパスを結ぶ 路線バス

キャンパスをラクラク移動! キャンパス間をバスが運行しています。

Point.01 クラブ学生の味方!

クラブ活動でバスに乗る必要がある場合は、1日1往復まで乗車が無料に。活動の幅が広がります。

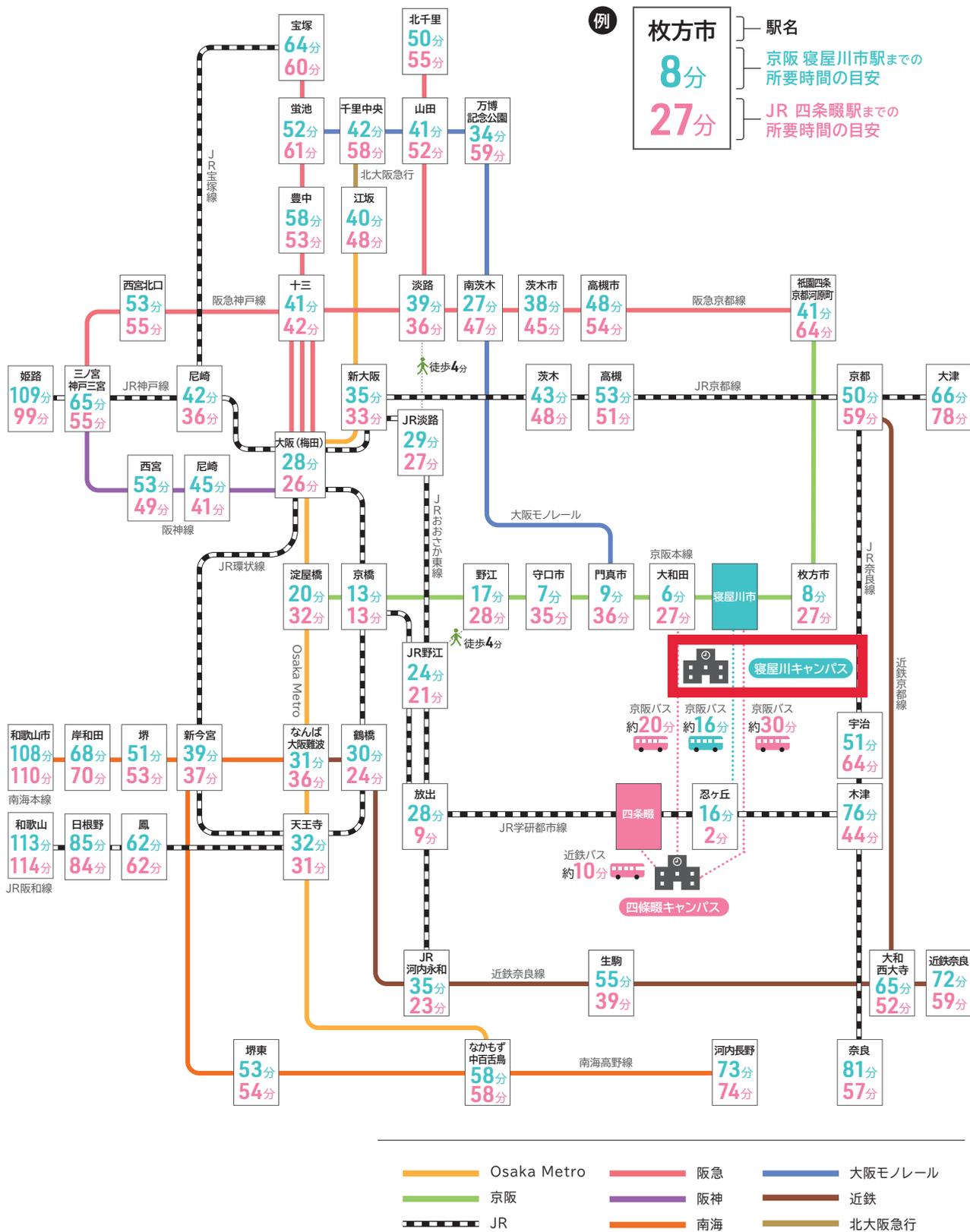
Point.02 キャンパスを直結!

寝屋川・四條畷のキャンパスを乗り換えなしで行き来可能。通学や授業での移動を手助けします。
(寝屋川から四條畷 所要時間約30分)

Point.03 30分間隔で運行!

30分間隔で運行しています。また、スムーズな運行を行うため、混雑する時間帯は直行便を配車しています。

「JRおおさか東線」全線開業により、アクセスがますます便利に！



○大阪電気通信大学学則

昭和36年4月1日

制定

第1章 総則

(名称)

第1条 本大学は、大阪電気通信大学(以下「本学」という。)と称する。

(目的)

第2条 本学は、教育基本法(昭和22年法律第25号)及び学校教育法(昭和22年法律第26号)に基づき専門の学術を教授研究し、知的並びに道徳的な完成を期し、更に応用能力を展開させ得る人材の育成を目的とする。

(自己点検評価等)

第2条の2 本学は、教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。

(学部及び学科)

第3条 本学に次の学部及び学科をおく。

学部	学科
工学部	電気電子工学科 電子機械工学科 機械工学科 基礎理工学科
医療健康科学部	医療科学科 理学療法学科 健康スポーツ科学科
情報通信工学部	情報工学科 通信工学科
総合情報学部	デジタルゲーム学科 ゲーム&メディア学科 情報学科
建築・デザイン学部	建築・デザイン学科

2 前項各学部及び学科の人材の養成に関する目的は、大阪電気通信大学学部規則(以下

「学部規則」という。)に定める。

(機構)

第3条の2 本学に各学部学科と連携し専門力及び社会人基礎力教育の検討及び実施のため
共通教育機構をおく。

(大学院)

第3条の3 本学に大学院をおく。

2 大学院の学則は、別に定める。

(附属施設及び機関)

第3条の4 本学に図書館、国際交流センター、メディアコミュニケーションセンター、エ
レクトロニクス基礎研究所、メカトロニクス基礎研究所、情報学研究所、先端マルチメ
ディア合同研究所、衛星通信研究施設、研究連携推進センター、地域連携推進センタ
ー、ICT社会教育センター、教育開発推進センター、総合学生支援センター、実験センタ
ー、スポーツ強化センター、医務室その他の附属施設及び機関を置く。

2 附属施設及び機関に関する事項は、各規則に定める。

(収容定員)

第4条 学部及び学科の収容定員は次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	3年次編入学 定員	収容定員
工学部	電気電子工学科	80名	—	320名
	電子機械工学科	80名	—	320名
	機械工学科	90名	—	360名
	基礎理工学科	86名	—	344名
	小計	336名	—	1,344名
医療健康科学部	医療科学科	80名	1名	322名
	理学療法学科	40名	—	160名
	健康スポーツ科学科	70名	1名	282名
	小計	190名	2名	764名
情報通信工学部	情報工学科	160名	—	640名
	通信工学科	80名	—	320名
	小計	240名	—	960名

総合情報学部	デジタルゲーム学科	140名	1名	562名
	ゲーム&メディア学科	110名	—	440名
	情報学科	90名	—	360名
	小計	340名	1名	1,362名
建築・デザイン学部	建築・デザイン学科	150名	—	600名
合計		1,256名	3名	5,030名

(修業年限及び在学年限)

第5条 学部の修業年限は4年とする。

- 2 学生は8年を超えて在学することはできない。
- 3 前2項の規定にかかわらず、職業を有している等の事情により、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する学生(以下「長期履修学生」という。)がその旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。
- 4 長期履修学生の申し出は、入学時に行うものとする。

第2章 学年、学期及び休業日

(学年)

第6条 学年は4月1日に始まり翌年の3月31日に終わる。

(学期)

第7条 学年を分けて次の2学期とする。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

- 2 学長は、前項に定める前期の終期及び後期の始期を変更することができる。

(休業日)

第8条 休業日は次のとおりとする。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
- (3) 本学の創立記念日 10月1日
- (4) 夏期休業日 8月1日から9月30日まで
- (5) 冬期休業日 12月24日から翌年1月7日まで

- 2 前項の規定にかかわらず、特に必要な場合には休業日に授業を行うことがある。
- 3 学長は必要な場合、学部教授会の議を経て、休業日を臨時に変更し、又は第1項に定め

るもののほか、臨時の休業日を定めることができる。

第3章 入学、退学、休学、転部及び転科

(入学の時期)

第9条 入学の時期は学年の始めとする。

(入学資格)

第10条 本学に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験又は大学入学資格検定規程(昭和26年文部省令第13号)により文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者
- (8) 本学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

(入学の出願)

第11条 本学に入学を志願する者は、本学所定の書類に入学検定料を添えて指定の期日までに提出しなければならない。

2 入学検定料については、別に定める。

(入学者の選考)

第12条 前条の入学志願者については、選考により入学を許可すべき者を決定する。

2 前項の選考の方法及び基準は、運営会議の議を経て学長が定める。

(入学手続及び入学許可)

第13条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、指定の期日までに、誓約書その他本学所定の書類を提出するとともに、所定の入学金及び学費を納付しなければな

らない。

- 2 学長は前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。
- 3 前項により入学を許可された者は、入学式に出席し、かつ入学の宣誓をしなければならない。

(編入学、再入学)

第14条 本学に編入学を志願する者があるときは、編入学定員の範囲において、又は、編入学定員のない学科においては欠員のある場合に限り、選考のうえ入学を許可する。

- 2 本学に再入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考のうえ入学を許可する。
- 3 編入学及び再入学について必要な事項は、別に定める。

(退学)

第15条 退学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(休学)

第16条 疾病その他やむを得ない事情により、3か月以上にわたって修学することのできない者は、学長が許可した場合休学することができる。

(休学の期間)

第17条 休学期間は学年末を超えることはできない。ただし、特別の理由がある場合は、学長が許可した場合、休学期間を延長することができる。

- 2 休学期間は通算して2年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、更に2年以内に限って延長することができる。
- 3 休学期間は在学年数に算入しない。

(復学)

第18条 休学の理由が消滅した場合は、学長が許可した場合、復学することができる。ただし、休学期間が3か月未満となる場合は、休学許可を取り消す。

(除籍)

第19条 学長は、次の各号のいずれかに該当する者を除籍する。

- (1) 第5条第2項に定める在学年限を超えた者
- (2) 学費の納入を怠り、督促してもなお納入しない者
- (3) 死亡した者
- (4) 第13条第3項に定める入学式に正当な理由なく欠席した者又は宣誓しない者

(転部)

第20条 転部を願い出た者については、志望する学部に欠員がある場合に限り、選考のうえ許可することがある。

(転科)

第20条の2 転科を願い出た者については、志望する学科に欠員がある場合に限り、選考のうえ許可することがある。

第4章 教育課程及び履修方法等

(授業科目)

第21条 教育課程は、授業科目を4年間に配当し、これを編成する。

- 2 授業科目を、共通科目及び専門教育科目に区分し、区分ごとに修得すべき単位数を定める。
- 3 専門教育科目については、学科ごとに必修科目を定める。
- 4 開設する授業科目の名称、単位数、配当年次等については、学部規則に定める。
- 5 授業科目の履修について必要な事項は、別に定める。
- 6 授業科目は、その授業の方法、内容及び年間の計画並びに成績評価の基準をあらかじめ学生に明示するものとする。

(授業の方法)

第21条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

- 2 文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
- 3 第1項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第21条の3 本学は、本学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

(教職課程)

第22条 第21条に定めるもののほか、教職に関する授業科目をおく。

- 2 前項の授業科目の名称、単位数、配当年次等は、学部規則に定める。

(単位の計算方法)

第23条 1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準

とし、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算する。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合の1単位の授業時間については、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準に基づき計算する。

- 2 前項の規定に関わらず、卒業研究、卒業制作及び卒業設計の授業科目については、学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合、これに必要な学修等を考慮して単位数を定める。

(授業期間)

第23条の2 各授業科目の授業は、13週にわたる期間を単位として行う。ただし、教育上の特別の必要があると認められる場合は、13週より短い特定の期間において授業を行うことができる。

(単位の授与等)

第24条 授業科目を履修し、その試験等に合格した者には、所定の単位を与える。

- 2 試験等の成績は、A(優)、B(良)、C(可)、D(不可)をもって表し、A(優)、B(良)、C(可)を合格とする。
- 3 前項の規定にかかわらず、特に定める授業科目の成績は、G(合格)、D(不合格)をもって表す。
- 4 授業科目の成績評価は、学部規則第23条に従って適切に行うものとする。
- 5 試験について必要な事項は、別に定める。

(他の大学等における授業科目の履修又は学修)

第24条の2 教育上有益と認めるときは、学生が本学の定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなす。

- 2 教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与える。
- 3 学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合には、第1項の規定を準用する。
- 4 前3項により修得したものとみなし、又は与える単位数は、合わせて60単位を超えない

ものとする。

- 5 教育上有益と認める基準及び手続きについては、別に定める。

(入学前の既修得単位等の認定)

第24条の3 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなす。

- 2 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第2項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与える。

- 3 学生が外国の大学又は短期大学において修得した単位については、第1項の規定を準用する。

- 4 前3項により修得したものとみなし、又は与える単位数は、編入学及び再入学の場合を除き、前条第1項から第3項までにより本学において修得したものとみなし、又は与える単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

- 5 教育上有益と認める基準及び手続きについては、別に定める。

(特別の課程)

第24条の4 本学は、教育研究の成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するため、文部科学大臣が別に定めるところにより、本学の学生以外の者を対象とした特別の課程を編成し、これを修了した者に対し、修了の事実を証する証明書を交付することができる。

- 2 特別の課程の編成等に関し必要な事項は、別に定める。

第5章 卒業及び学士の学位等

(卒業の要件)

第25条 本学を卒業するためには、4年(編入学又は再入学した者については、第14条第3項によって定める年数)以上在学し、学部規則に定めるところにより、124単位以上を修得しなければならない。

- 2 学長は、前項の規定にかかわらず、本学の学生として3年以上在学し、大学院への進学を希望している者で、学部の定める卒業要件を満たし、かつ、優秀な成績を修めたと認められた場合、学部長が推薦し教授会の意見を参酌し、卒業を認めることができる。

- 3 第1項の規定により卒業の要件として修得しなければならない124単位のうち、第21条の2第2項の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。

(卒業)

第26条 学長は、前条の規定による卒業の要件を備えた者には、教授会の意見を参酌し、卒業を認め、学士の学位を授与する。

2 学士の学位は、卒業した学部に応じて、次のとおり定める。

工学部 学士(工学)

医療健康科学部 医療科学科 学士(工学)

理学療法学科 学士(理学療法学)

健康スポーツ科学科 学士(健康科学)

情報通信工学部 情報工学科 学士(情報工学)

通信工学科 学士(工学)

総合情報学部 学士(情報学)

建築・デザイン学部 学士(工学)

(資格の取得)

第27条 本学において取得することができる教育職員免許状の種類は、次のとおりとする。

学部	学科	免許状の種類
工学部	電気電子工学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)(情報)
	電子機械工学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)
	機械工学科	中学校教諭一種免許状(数学)(技術) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)
	基礎理工学科	中学校教諭一種免許状(数学)(理科) 高等学校教諭一種免許状(数学)(理科)
医療健康科学部	医療科学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)
	健康スポーツ科学科	中学校教諭一種免許状(保健体育) 高等学校教諭一種免許状(保健体育)
情報通信工学部	情報工学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)(情報)
	通信工学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)(情報)

総合情報学部	情報学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(情報)
--------	------	---------------------------------------

2 前項の教育職員免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、第25条に定める卒業の要件を満たすほか、教育職員免許法(昭和24年法律第147号)及び同法施行規則(昭和29年文部省令第26号)に定める所要の単位を修得しなければならない。

3 前項に定める資格を得るための履修方法は、別に定める。

第6章 科目履修生、研究生及び外国人留学生等

(科目履修生)

第28条 本学において特定の授業科目を履修することを志願する者があるときは、本学の教育研究に支障のない限り、学部教授会で選考のうえ、科目履修生として入学を許可することがある。

2 科目履修生について必要な事項は、別に定める。

(聴講生)

第28条の2 本学において特定の授業科目を聴講することを志願する者があるときは、本学の教育研究に支障のない限り、学部教授会で選考のうえ、聴講生として入学を許可することがある。

2 聴講生について必要な事項は、別に定める。

(研究生)

第29条 本学において特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、本学の教育研究に支障のない限り、学部教授会で選考のうえ、研究生として入学を許可することがある。

2 研究生について必要な事項は、別に定める。

(外国人留学生)

第30条 外国人で本学に入学を志願する者があるときは、運営会議で選考のうえ、外国人留学生として入学を許可することがある。

2 外国人留学生について必要な事項は、別に定める。

第7章 学費及びその他の費用

(学費)

第31条 入学金及び学費の金額は別表第4のとおりとする。

(その他の費用)

第32条 学費の他学習等に必要の費用は、別にこれを徴収することがある。

(学費等の納入)

第33条 学費及びその他の費用の納入については、別に定める。

(休学の場合の学費)

第34条 休学期間中の者については学費を免除し、在籍料を徴収する。

2 在籍料については、別に定める。

(既納の学費等)

第35条 既納の学費等は原則としてこれを返付しない。

第8章 賞罰

(表彰)

第36条 次の各号のいずれかに該当する者に対し、学部長は学部教授会の議を経て、これを賞することがある。

(1) 成績特に優秀なる者

(2) 品行方正にして他学生の模範となる者

(懲戒)

第37条 本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、学部教授会の議を十分に考慮した上で、学長が懲戒する。

2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。

3 前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する者についてこれを行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

(3) 正当の理由なくして、出席常でない者

(4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

4 懲戒の手続きについては、別に定める学生の懲戒処分に関する規則による。

第9章 職員組織

(職員)

第38条 本学の職員の種類は次のとおりとする。

学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員

2 学長は、人格が高潔で、学識が優れ、かつ、大学運営に関し識見を有する者であって、校務をつかさどり所属職員を統督する。

3 教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認

められる者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

- 4 准教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
- 5 講師は、教授又は准教授に準ずる。
- 6 助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識及び能力を有し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
- 7 助手は、その所属する組織における教育の円滑な実施に必要な業務に従事する。
- 8 事務職員は学内の事務をつかさどるほか、学生の実験、実習等の技術上の指導及び設備又は機器等の管理並びに整理にあたる。

第38条の2 本学に必要なに応じて副学長を置くことができる。

- 2 副学長は、学長を補佐し、その命を受けて本学の管理運営に関する重要な事項についての企画及び各部門間の調整を行う。

第38条の3 学部に学部長をおき、教授をもって充てる。

- 2 学部長は、学長を補佐し、その命を受けて本学の教学運営業務を遂行し、各学部内の業務を処理するとともに、各学部に所属する職員を指揮監督する。

第38条の4 本学は、教育研究活動等の組織的かつ効果的な運営を図るため、教員と事務職員等との適切な役割分担の下で、これらの者の間の連携体制を確保し、これらの者の協働によりその職務を行うものとする。

(事務組織)

第39条 本学に、以下の事務をつかさどるために事務組織を置く。

- (1) 厚生補導に関する事務
- (2) 教務に関する事務
- (3) 入学試験及び入試広報に関する事務
- (4) 学生の就職に関する事務
- (5) 図書館に関する事務
- (6) 研究及び地域連携に関する事務
- (7) 会計及び施設に関する事務
- (8) その他、大学に必要な事務

第10章 運営組織

(運営会議)

第40条 本学に、運営会議をおく。

2 運営会議は、大学及び大学院の運営に関する全学的事項を審議し、学長の意思決定の円滑化を図る。

3 運営会議に関する事項は、別に定める。

(学部教授会)

第41条 本学の各学部及び共通教育機構に、学部教授会をおく。

2 学部教授会に関する事項は、別に定める。

第42条 削除

第42条の2 削除

第43条 削除

第11章 その他

(施行細則)

第44条 本学則の施行に必要な細則は、別に定める。

(学則の改正)

第45条 本学則の改正は、学部教授会での意見を参酌し、運営会議の審議を経て学長が理事長に上程し、常任理事会での審議を経て理事会で決定する。

附 則 Ⅰ

本学則は昭和36年4月1日からこれを施行する。

昭和40年3月20日改正

昭和40年4月1日施行

昭和49年3月4日改正

昭和49年4月1日施行

昭和50年4月1日改正・施行

昭和52年4月1日改正・施行

昭和53年4月1日改正・施行

昭和54年4月1日改正・施行

昭和55年4月1日改正・施行

昭和55年10月31日改正・施行

昭和56年4月1日改正・施行

昭和57年4月1日改正・施行

昭和58年4月1日改正・施行
昭和59年4月1日改正・施行
昭和60年4月1日改正・施行
昭和60年6月13日改正・施行
昭和61年4月1日改正・施行
昭和62年4月1日改正・施行
昭和63年4月1日改正・施行
平成元年4月1日改正・施行
平成2年4月1日改正・施行
平成3年4月1日改正・施行
平成4年4月1日改正・施行
平成5年4月1日改正・施行
平成6年4月1日改正・施行
平成7年4月1日改正・施行
平成8年4月1日改正・施行
平成9年4月1日改正・施行
平成10年4月1日改正・施行
平成10年11月1日改正・施行
平成11年4月1日改正・施行
平成12年4月1日改正・施行
平成13年4月1日改正・施行
平成14年4月1日改正・施行

附 則 2

- 1 第21条、第25条および第26条については、昭和54年度以前に入学した者、昭和55年度2年次以上に編入学または再入学した者、昭和56年度3年次以上に編入学または再入学した者ならびに昭和57年度4年次に再入学した者は従前の当該規定を適用する。
- 2 第21条、第25条および第26条については、昭和59年度以前に入学した者、昭和60年度2年次以上に編入学または再入学した者、昭和61年度3年次以上に編入学または再入学した者ならびに昭和62年度4年次に再入学した者は従前の当該規定を適用する。
- 3 第31条については、昭和60年度以前に入学、編入学または再入学した者は従前の当該規定を適用する。

4 第19条第2号については、昭和59年度以前に入学した者、昭和60年度以前に2年次以上に編入学または再入学した者、昭和61年度以前に3年次以上に編入学または再入学した者ならびに昭和62年度以前に4年次に再入学した者には適用しない。

5 第4条に規定する収容定員は、昭和62年度から平成元年度までの間は、次のとおりとする。

学部学科		昭和62年度		昭和63年度		平成元年度	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部	電子工学科	120名	360名	120名	400名	120名	440名
	通信工学科	120名	360名	120名	400名	120名	440名
	電子物性工学科	120名	360名	120名	400名	120名	440名
	電子機械工学科	120名	360名	120名	400名	120名	440名
	経営工学科	120名	360名	120名	400名	120名	440名
	精密工学科	120名	360名	120名	400名	120名	440名
	応用電子工学科	120名	360名	120名	400名	120名	440名

6 第21条、第25条および第26条については、昭和61年度以前に入学した者、昭和62年度2年次以上に編入学または再入学した者、昭和63年度3年次以上に編入学または再入学した者ならびに平成元年度4年次に再入学した者は従前の当該規定を適用する。

7 昭和63年度以前の入学者については、学費のうち維持・拡充費を次のとおりとする。

- (1) 昭和61～63年度入学者 288,400円
- (2) 昭和59、60年度入学者 257,500円
- (3) 昭和57、58年度入学者 216,300円

8 第21条、第22条、第25条、第26条および第27条については、平成元年度以前に入学した者、平成2年度2年次以上に編入学または再入学した者、平成3年度3年次以上に編入学または再入学した者ならびに平成4年度4年次に再入学した者は従前の当該規定を適用する。

9 第4条に規定する収容定員は、平成2年度から平成13年度までの間は、次のとおりとする。

学部学科	年度	平成2年度	平成3年度	平成4年度	平成5年度 ～平成10 年度	平成11年 度	平成12年 度	平成13年 度

学部	学科	入学	収容												
		定員													
工学部	電子工学科	130	490	130	500	130	510	130	520	120	510	120	500	120	490
	通信工学科	130	490	130	500	130	510	130	520	120	510	120	500	120	490
	電子物性工学科	130	490	130	500	130	510	130	520	120	510	120	500	120	490
	電子機械工学科	130	490	130	500	130	510	130	520	120	510	120	500	120	490
	経営工学科	130	490	130	500	130	510	130	520	120	510	120	500	120	490
	精密工学科	130	490	130	500	130	510	130	520	120	510	120	500	120	490
	応用電子工学科	130	490	130	500	130	510	130	520	120	510	120	500	120	490

10 第21条、第25条、第26条については、平成2年度以前に入学した者、平成3年度2年次以上に編入学または再入学した者、平成4年度3年次以上に編入学または再入学した者ならびに平成5年度4年次に再入学した者は従前の当該規定を適用する。

11 第21条、第25条、第26条については、平成3年度以前に入学した者、平成4年度2年次以上に編入学または再入学した者、平成5年度3年次以上に編入学または再入学した者ならびに平成6年度4年次に再入学した者は従前の当該規定を適用する。

12 第21条、第23条、第25条、第26条については、平成6年度2年次以上に在学する者、平成7年度3年次以上に在学する者ならびに平成8年度4年次に在学する者は従前の当該規定を適用する。

13 第4条に規定する収容定員は、平成7年度から平成13年度までの間は、次のとおりとする。

学部・学科		平成7年度		平成8年度		平成9年度		平成10年度		平成11年度		平成12年度		平成13年度	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部	電子工学科	120	510	120	500	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450
	通信工学科	120	510	120	500	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450

	電子物性工学科	120	510	120	500	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450
	電子機械工学科	120	510	120	500	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450
	精密工学科	120	510	120	500	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450
	応用電子工学科	120	510	120	500	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450
	小計	720	3450	720	3260	720	3070	720	2880	660	2820	660	2760	660	2700
情報工学部	情報工学科	190	190	190	380	190	570	190	760	180	750	180	740	180	730
合計		910	3640	910	3640	910	3640	910	3640	840	3570	840	3500	840	3430

14 経営工学科については、改正後の第3条にかかわらず、平成7年3月31日に当該学科に在学する者が、在学しなくなるまでの間、従前の学則を存続する。

15 第4条に規定する収容定員は、平成8年度から平成13年度までの間は、次のとおりとする。

学部・学科		年度平成8年度		年度平成9年度		年度平成10年度		年度平成11年度		年度平成12年度		年度平成13年度	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部	電子工学科	120	500	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450
	通信工学科	120	500	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450
	電子物性工学科	120	500	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450
	電子機械工学科	120	500	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450

	知能機械工学科	120	120	120	240	120	360	110	470	110	460	110	450
	応用電子工学科	120	500	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450
	小計	720	3260	720	3070	720	2880	660	2820	660	2760	660	2700
情報工学部	情報工学科	190	380	190	570	190	760	180	750	180	740	180	730
合計		910	3640	910	3640	910	3640	840	3570	840	3500	840	3430

16 精密工学科については、改正後の第3条にかかわらず、平成8年3月31日に当該学科に在学する者が、在学しなくなるまでの間、従前の学則を存続する。

17 第4条に規定する収容定員は、平成9年度から平成14年度までの間は、次のとおりとする。

学部・学科		年度平成9年度		平成10年度		平成11年度		平成12年度		平成13年度		平成14年度	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部	電子工学科	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450	110	440
	通信工学科	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450	110	440
	電子材料工学科	120	120	120	240	110	350	110	460	110	450	110	440
	電子機械工学科	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450	110	440
	知能機械工学科	120	240	120	360	110	470	110	460	110	450	110	440
	光システム工学科	120	120	120	240	110	350	110	460	110	450	110	440
	小計	720	3070	720	2880	660	2820	660	2760	660	2700	660	2640
情報工学部	情報工学科	190	570	190	760	180	750	180	740	180	730	180	720
合計		910	3640	910	3640	840	3570	840	3500	840	3430	840	3360

18 電子物性工学科および応用電子工学科については、改正後の第3条にかかわらず、平成9年3月31日に当該学科に在学する者が、在学しなくなるまでの間、従前の学則を存続する。

19 工学部については、改正後の第3条にかかわらず、平成10年3月31日に当該学部在学する者が在学しなくなるまでの間、従前の学則を存続する。

20 第4条に規定する収容定員は、平成11年度は次のとおりとする。

学部・学科		年度	
		平成11年度	
学部	学科	入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	120	480
	通信工学科	120	480
	電子材料工学科	120	480
	電子機械工学科	120	480
	知能機械工学科	120	480
	光システム工学科	120	480
	小計	720	2880
情報工学部	情報工学科	190	760
合計		910	3640

21 第4条に規定する収容定員は、平成12年度から平成18年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科		平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度	
		入学定員	収容定員												
工学部第1部	電子工学科	118	478	116	474	114	468	112	460	110	452	110	446	110	442
	通信工学科	110	470	110	460	110	450	110	440	110	440	110	440	110	440
	電子材料工学科	110	470	110	460	110	450	110	440	110	440	110	440	110	440
	電子機械工学科	110	470	110	460	110	450	110	440	110	440	110	440	110	440
	知能機械工学科	110	470	110	460	110	450	110	440	110	440	110	440	110	440

	科														
	光システム工 学科	110	470	110	460	110	450	110	440	110	440	110	440	110	440
	小計	668	2828	666	2774	664	2718	662	2660	660	2652	660	2646	660	2642
工学 部第2 部	電子工学科	60	180	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
	知能機械工学 科	60	180	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
	小計	120	360	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480
総合 情報 学部	情報工学科	188	758	186	754	184	748	182	740	180	732	180	726	180	722
	メディア情報 文化学科	130	130	130	260	130	420	130	580	130	580	130	580	130	580
	小計	318	888	316	1014	314	1168	312	1320	310	1312	310	1306	310	1302
合計		1106	4076	1102	4268	1098	4366	1094	4460	1090	4444	1090	4432	1090	4424

22 情報工学科については、改正後の第3条にかかわらず、平成12年3月31日に当該学科に在学する者が在学しなくなるまでの間、従前の学則を存続する。

23 第4条に規定する収容定員は、平成13年度から平成19年度までの間は、次のとおりとする。

学部・学科		年度平成13年		平成14年		平成15年		平成16年		平成17年		平成18年		平成19年	
		入学 定員	収容 定員	入学 定員	収容 定員	入学 定員	収容 定員	入 学 定 員	収 容 定 員	入 学 定 員	収 容 定 員	入 学 定 員	収 容 定 員	入 学 定 員	収 容 定 員
工学 部第1 部	電子工学科	116	474	114	468	112	460	110	452	110	446	110	442	110	440
	通信工学科	110	460	110	450	110	440	110	440	110	440	110	440	110	440
	電子材料工学 科	80	430	80	390	80	350	80	320	80	320	80	320	80	320

	電子機械工学 科	110	460	110	450	110	440	110	440	110	440	110	440	110	440
	知能機械工学 科	90	440	90	410	90	380	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工 学科	80	430	80	390	80	350	80	320	80	320	80	320	80	320
	小計	586	2694	584	2558	582	2420	580	2332	580	2326	580	2322	580	2320
工学 部第2 部	電子工学科	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
	知能機械工学 科	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
	小計	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480
総合 情報 学部	情報工学科	186	754	184	748	182	740	180	732	180	726	180	722	180	720
	メディア情報 文化学科	130	260	130	420	130	580	130	580	130	580	130	580	130	580
	小計	316	1014	314	1168	312	1320	310	1312	310	1306	310	1302	310	1300
合計		1022	4188	1018	4206	1014	4220	1010	4124	1010	4112	1010	4104	1010	4100

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度までの収容定員は期間付定員を含む。

24 第4条に規定する収容定員は、平成13年度から平成19年度までの間は、次のとおりとする。

学部・学科		平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度	
		入学定員	収容定員												
工学	電子工学科	116	474	114	468	112	460	110	452	110	446	110	442	110	440

部第1部	通信工学科	110	460	110	450	110	440	110	440	110	440	110	440	110	440
	電子材料工学科	80	430	80	390	80	350	80	320	80	320	80	320	80	320
	電子機械工学科	110	460	110	450	110	440	110	440	110	440	110	440	110	440
	知能機械工学科	90	440	90	410	90	380	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	80	430	80	390	80	350	80	320	80	320	80	320	80	320
	医療福祉工学科	80	80	80	160	80	250	80	340	80	340	80	340	80	340
	小計	666	2774	664	2718	662	2670	660	2672	660	2666	660	2662	660	2660
工学部第2部	電子工学科	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
	知能機械工学科	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
	小計	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480
総合情報学部	情報工学科	186	754	184	748	182	740	180	732	180	726	180	722	180	720
	メディア情報文化学科	130	260	130	420	130	580	130	580	130	580	130	580	130	580
	小計	316	1014	314	1168	312	1320	310	1312	310	1306	310	1302	310	1300
合計	1102	4268	1098	4366	1094	4470	1090	4464	1090	4452	1090	4444	1090	4440	

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度までの収容定員は期間付定員を含む。

25 第4条に規定する収容定員は、平成14年度から平成20年度までの間は、次のとおりとする。

学部・学科	年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度

学部	学科	入学 定員	収容 定員	入学 定員	収容 定員	入学 定員	収容 定員	入 学 定 員	収 容 定 員	入 学 定 員	収 容 定 員	入 学 定 員	収 容 定 員	入 学 定 員	収 容 定 員
工学 部第1 部	電子工学科	114	468	112	460	110	452	110	446	110	442	110	440	110	440
	通信工学科	110	450	110	440	110	440	110	440	110	440	110	440	110	440
	電子材料工学 科	80	390	80	350	80	320	80	320	80	320	80	320	80	320
	電子機械工学 科	110	450	110	440	110	440	110	440	110	440	110	440	110	440
	機械工学科	90	410	90	380	90	360	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工 学科	80	390	80	350	80	320	80	320	80	320	80	320	80	320
	医療福祉工学 科	80	160	80	250	80	340	80	340	80	340	80	340	80	340
	小計	664	2718	662	2670	660	2672	660	2666	660	2662	660	2660	660	2660
工学 部第2 部	電子工学科	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
	機械工学科	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
	小計	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480
総合 情報 学部	情報工学科	184	748	182	740	180	732	180	726	180	722	180	720	180	720
	メディア情報	130	420	130	580	130	580	130	580	130	580	130	580	130	580
	文化学科														
	小計	314	1168	312	1320	310	1312	310	1306	310	1302	310	1300	310	1300
合計		1098	4366	1094	4470	1090	4464	1090	4452	1090	4444	1090	4440	1090	4440

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度までの収容定員は期間付定員を含む。

26 工学部第1部および工学部第2部の知能機械工学科については、改正後の第3条にかかわ

らず、平成14年3月31日に当該学科に在学する者が在学しなくなるまでの間、従前の学則を存続する。

附 則

- 1 この学則は、平成15年4月1日から施行する。
- 2 第4条に規定する収容定員は、平成15年度から平成19年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科		年度 平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	102	450	100	432	100	416	100	402	100	400
	通信工学科	100	430	100	420	100	410	100	400	100	400
	電子材料工学科	80	350	80	320	80	320	80	320	80	320
	電子機械工学科	100	430	100	420	100	410	100	400	100	400
	機械工学科	90	380	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	80	350	80	320	80	320	80	320	80	320
	医療福祉工学科	80	250	80	340	80	340	80	340	80	340
	小計	632	2640	630	2612	630	2576	630	2542	630	2540
工学部第2部	電子工学科	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
	機械工学科	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
	小計	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480
総合情報学部	情報工学科	182	740	180	732	180	726	180	722	180	720
	メディア情報文化学科	130	580	130	580	130	580	130	580	130	580
	小計	312	1320	310	1312	310	1306	310	1302	310	1300
合計		1064	4440	1060	4404	1060	4362	1060	4324	1060	4320

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度までの収容定員は期間付定員を含む。

附 則

- 1 この学則は、平成15年4月1日から施行する。

2 第4条に規定する収容定員は、平成15年度から平成19年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科		年度 平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	102	450	100	432	100	416	100	402	100	400
	通信工学科	100	430	100	420	100	410	100	400	100	400
	電子材料工学科	80	350	80	320	80	320	80	320	80	320
	電子機械工学科	100	430	100	420	100	410	100	400	100	400
	機械工学科	90	380	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	80	350	80	320	80	320	80	320	80	320
	医療福祉工学科	80	250	80	340	80	340	80	340	80	340
	小計	632	2640	630	2612	630	2576	630	2542	630	2540
工学部第2部	電子工学科	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
	機械工学科	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
	小計	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480
総合情報学部	情報工学科	182	740	180	732	180	726	180	722	180	720
	メディア情報文化学科	130	580	130	580	130	580	130	580	130	580
	デジタルゲーム学科	110	110	110	220	110	360	110	500	110	500
	小計	422	1430	420	1532	420	1666	420	1802	420	1800
合計		1174	4550	1170	4624	1170	4722	1170	4824	1170	4820

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度までの収容定員は期間付定員を含む。

附 則

この学則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成15年9月16日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 平成15年度末に工学部第1部医療福祉工学科に在籍中の学生すべてを平成16年度から医療福祉工学部医療福祉工学科学生とする。
- 3 第4条に規定する収容定員は、平成16年度から平成19年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科		年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度	
		学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	100	432	100	416	100	402	100	400		
	通信工学科	100	420	100	410	100	400	100	400		
	電子材料工学科	80	320	80	320	80	320	80	320		
	電子機械工学科	100	420	100	410	100	400	100	400		
	機械工学科	90	360	90	360	90	360	90	360		
	光システム工学科	80	320	80	320	80	320	80	320		
	小計	550	2272	550	2236	550	2202	550	2200		
工学部第2部	電子工学科	60	240	60	240	60	240	60	240		
	機械工学科	60	240	60	240	60	240	60	240		
	小計	120	480	120	480	120	480	120	480		
医療福祉工学部	医療福祉工学科	80	340	80	340	80	340	80	340		
工学部	小計	80	340	80	340	80	340	80	340		
総合情報学部	情報工学科	180	732	180	726	180	722	180	720		
	メディア情報文化学科	130	580	130	580	130	580	130	580		
	デジタルゲーム学科	110	220	110	360	110	500	110	500		
	小計	420	1532	420	1666	420	1802	420	1800		
合計		1170	4624	1170	4722	1170	4824	1170	4820		

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度までの収容定員は、期間付定員を含む。

附 則

- 1 この学則は、平成16年4月1日から施行する。

- 2 改正後の別表第1—5については、平成15年度以前に入学した者、平成16年度に2年次以上に編入学または再入学した者、平成17年度に3年次以上に編入学または再入学した者および平成18年度に4年次に再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 第4条に規定する収容定員は、平成17年度から平成20年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科		年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員		
工学部第1部	電子工学科	100	416	100	402	100	400	100	400		
	通信工学科	100	410	100	400	100	400	100	400		
	電子材料工学科	80	320	80	320	80	320	80	320		
	電子機械工学科	100	410	100	400	100	400	100	400		
	機械工学科	90	360	90	360	90	360	90	360		
	光システム工学科	80	320	80	320	80	320	80	320		
	小計	550	2236	550	2202	550	2200	550	2200		
工学部第2部	電子工学科	60	240	60	240	60	240	60	240		
	機械工学科	60	240	60	240	60	240	60	240		
	小計	120	480	120	480	120	480	120	480		
医療福祉工学部	医療福祉工学科	120	380	120	420	120	460	120	500		
	小計	120	380	120	420	120	460	120	500		
総合情報学部	情報工学科	180	726	180	722	180	720	180	720		
	メディア情報文化 学科	130	580	130	580	130	580	130	580		
	デジタルゲーム学 科	110	360	110	500	110	500	110	500		
	小計	420	1666	420	1802	420	1800	420	1800		
合計		1210	4762	1210	4904	1210	4940	1210	4980		

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度までの収容定員は、期間付定員を含む。

附 則

- 1 この学則は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 第4条に規定する収容定員は、平成17年度から平成20年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科		年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度	
		学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	100	416	100	402	100	400	100	400		
	通信工学科	—	310	—	200	—	100	—	—		
	電子材料工学科	80	320	80	320	80	320	80	320		
	電子機械工学科	100	410	100	400	100	400	100	400		
	機械工学科	90	360	90	360	90	360	90	360		
	光システム工学科	—	240	—	160	—	80	—	—		
	小計	370	2,056	370	1,842	370	1,660	370	1,480		
工学部第2部	電子工学科	60	240	60	240	60	240	60	240		
	機械工学科	60	240	60	240	60	240	60	240		
	小計	120	480	120	480	120	480	120	480		
医療福祉工学部	医療福祉工学科	80	340	80	340	80	340	80	340		
情報通信工学部	情報工学科	180	180	180	360	180	540	180	720		
	通信工学科	100	100	100	200	100	300	100	400		
	光システム工学科	80	80	80	160	80	240	80	320		
	小計	360	360	360	720	360	1,080	360	1,440		
総合情報学部	情報工学科	—	546	—	362	—	180	—	—		
	メディア情報文化学科	130	580	130	580	130	580	130	580		
	デジタルゲーム学	110	360	110	500	110	500	110	500		

	科								
	小計	240	1,486	240	1,442	240	1,260	240	1,080
合計		1,170	4,722	1,170	4,824	1,170	4,820	1,170	4,820

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度までの収容定員は、期間付定員を含む。

- 3 工学部第1部通信工学科および光システム工学科ならびに総合情報学部情報工学科については、改正後の第3条にかかわらず、平成17年3月31日に当該学科に在学する者が、在学しなくなるまでの間、従前の学則を存続する。

附 則

- 1 この学則は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 第4条に規定する収容定員は、平成17年度から平成20年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科		平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	100	416	100	402	100	400	100	400
	通信工学科	—	310	—	200	—	100	—	—
	電子材料工学科	80	320	80	320	80	320	80	320
	電子機械工学科	100	410	100	400	100	400	100	400
	機械工学科	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	—	240	—	160	—	80	—	—
	小計	370	2,056	370	1,842	370	1,660	370	1,480
工学部第2部	電子工学科	40	220	40	200	40	180	40	160
	機械工学科	40	220	40	200	40	180	40	160
	小計	80	440	80	400	80	360	80	320
医療福祉工学部	医療福祉工学科	120	380	120	420	120	460	120	500
	小計	120	380	120	420	120	460	120	500
情報通信工学部	情報工学科	180	180	180	360	180	540	180	720
	通信工学科	100	100	100	200	100	300	100	400

	光システム工学科	80	80	80	160	80	240	80	320
	小計	360	360	360	720	360	1,080	360	1,440
総合情報 学部	情報工学科	—	546	—	362	—	180	—	—
	メディア情報文化 学科	100	550	100	520	100	490	100	460
	デジタルゲーム学 科	110	360	110	500	110	500	110	500
	メディアコンピュ ータシステム学科	70	70	70	140	70	210	70	280
	小計	280	1,526	280	1,522	280	1,380	280	1,240
合計		1,210	4,762	1,210	4,904	1,210	4,940	1,210	4,980

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度までの収容定員は、期間付定員を含む。

附 則

この学則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成17年5月1日から施行する。

附 則

1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。

2 第4条に規定する収容定員は、平成18年度から平成21年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部第 1部	電子工学科	100	402	100	400	100	400	100	400
	通信工学科	—	200	—	100	—	—	—	—
	電子材料工学科	80	320	80	320	80	320	80	320
	電子機械工学科	100	400	100	400	100	400	100	400
	機械工学科	90	360	90	360	90	360	90	360

	光システム工学科	—	160	—	80	—	—	—	—
	小計	370	1,842	370	1,660	370	1,480	370	1,480
工学部第 2部	電子工学科	40	200	40	180	40	160	40	160
	機械工学科	40	200	40	180	40	160	40	160
	小計	80	400	80	360	80	320	80	320
医療福祉 工学部	医療福祉工学科	120	420	120	460	120	500	120	500
	小計	120	420	120	460	120	500	120	500
情報通信 工学部	情報工学科	180	360	180	540	180	720	180	720
	通信工学科	100	200	100	300	100	400	100	400
	光システム工学科	80	160	80	240	80	320	80	320
	小計	360	720	360	1,080	360	1,440	360	1,440
総合情報 学部	情報工学科	—	362	—	180	—	—	—	—
	メディア情報文化 学科	—	420	—	290	—	130	—	—
	デジタルアート・ アニメーション学 科	100	100	100	200	100	330	100	460
	デジタルゲーム学 科	110	500	110	500	110	500	110	500
	メディアコンピュ ータシステム学科	70	140	70	210	70	280	70	280
	小計	280	1,522	280	1,380	280	1,240	280	1,240
	合計	1,210	4,904	1,210	4,940	1,210	4,980	1,210	4,980

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度の収容定員は、期間付定員を含む。

- 3 総合情報学部メディア情報文化学科については、改正後の第3条にかかわらず、平成18年3月31日に当該学科に在学する者が在学しなくなるまでの間、従前の学則を存続する。

附 則

- この学則は、平成18年4月1日から施行する。
- 第4条に規定する収容定員は、平成18年度から平成21年度までの間、次のとおりとする。

る。

学部・学科		年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度	
		学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	100	402	100	400	100	400	100	400		
	通信工学科	—	200	—	100	—	—	—	—		
	電子材料工学科	—	240	—	160	—	80	—	—		
	応用化学科	80	80	80	160	80	240	80	320		
	電子機械工学科	100	400	100	400	100	400	100	400		
	機械工学科	90	360	90	360	90	360	90	360		
	光システム工学科	—	160	—	80	—	—	—	—		
	小計	370	1,842	370	1,660	370	1,480	370	1,480		
工学部第2部	電子工学科	40	200	40	180	40	160	40	160		
	機械工学科	40	200	40	180	40	160	40	160		
	小計	80	400	80	360	80	320	80	320		
医療福祉工学部	医療福祉工学科	120	420	120	460	120	500	120	500		
情報通信工学部	情報工学科	180	360	180	540	180	720	180	720		
	通信工学科	100	200	100	300	100	400	100	400		
	光システム工学科	80	160	80	240	80	320	80	320		
	小計	360	720	360	1,080	360	1,440	360	1,440		
総合情報学部	情報工学科	—	362	—	180	—	—	—	—		
	メディア情報文化学科	100	520	100	490	100	460	100	460		
	デジタルゲーム学科	110	500	110	500	110	500	110	500		
	メディアコンピュータシステム学科	70	140	70	210	70	280	70	280		
	小計	280	1,522	280	1,380	280	1,240	280	1,240		

合計	1,210	4,904	1,210	4,940	1,210	4,980	1,210	4,980
----	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度の収容定員は、期間付定員を含む。

- 3 工学部第1部電子材料工学科については、改正後の第3条にかかわらず、平成18年3月31日に当該学科に在学する者が在学しなくなるまでの間、従前の学則を存続する。

附 則

- 1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。
2 第4条に規定する収容定員は、平成18年度から平成21年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科		年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度	
		学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	100	402	100	400	100	400	100	400		
	通信工学科	—	200	—	100	—	—	—	—		
	電子材料工学科	80	320	80	320	80	320	80	320		
	電子機械工学科	100	400	100	400	100	400	100	400		
	機械工学科	90	360	90	360	90	360	90	360		
	光システム工学科	—	160	—	80	—	—	—	—		
	小計	370	1,842	370	1,660	370	1,480	370	1,480		
工学部第2部	電子工学科	20	180	20	140	20	100	20	80		
	機械工学科	40	200	40	180	40	160	40	160		
	小計	60	380	60	320	60	260	60	240		
医療福祉工学部	医療福祉工学科	120	420	120	460	120	500	120	500		
	理学療法学科	40	40	40	80	40	120	40	160		
	小計	160	460	160	540	160	620	160	660		
情報通信工学部	情報工学科	180	360	180	540	180	720	180	720		
	通信工学科	80	180	80	260	80	340	80	320		
	光システム工学科	80	160	80	240	80	320	80	320		
	小計	340	700	340	1,040	340	1,380	340	1,360		

総合情報	情報工学科	—	362	—	180	—	—	—	—
学部	メディア情報文化	100	520	100	490	100	460	100	460
	学科								
	デジタルゲーム学	110	500	110	500	110	500	110	500
	科								
	メディアコンピュー	70	140	70	210	70	280	70	280
	ータシステム学科								
	小計	280	1,522	280	1,380	280	1,240	280	1,240
合計		1,210	4,904	1,210	4,940	1,210	4,980	1,210	4,980

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度の収容定員は、期間付定員を含む。

附 則

- この学則は、平成18年4月1日から施行する。
- 第4条に規定する収容定員は、平成18年度から平成21年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	100	402	100	400	100	400	100	400
	通信工学科	—	200	—	100	—	—	—	—
	電子材料工学科	—	240	—	160	—	80	—	—
	応用化学科	80	80	80	160	80	240	80	320
	電子機械工学科	100	400	100	400	100	400	100	400
	機械工学科	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	—	160	—	80	—	—	—	—
	小計	370	1,842	370	1,660	370	1,480	370	1,480
工学部第2部	電子工学科	20	180	20	140	20	100	20	80
	機械工学科	40	200	40	180	40	160	40	160
	小計	60	380	60	320	60	260	60	240

医療福祉 工学部	医療福祉工学科	120	420	120	460	120	500	120	500
	理学療法学科	40	40	40	80	40	120	40	160
	小計	160	460	160	540	160	620	160	660
情報通信 工学部	情報工学科	180	360	180	540	180	720	180	720
	通信工学科	80	180	80	260	80	340	80	320
	光システム工学科	—	80	—	80	—	80	—	—
	光・エレクトロニ クス学科	80	80	80	160	80	240	80	320
	小計	340	700	340	1,040	340	1,380	340	1,360
総合情報 学部	情報工学科	—	362	—	180	—	—	—	—
	メディア情報文化 学科	—	420	—	290	—	130	—	—
	デジタルアート・ アニメーション学 科	100	100	100	200	100	330	100	460
	デジタルゲーム学 科	110	500	110	500	110	500	110	500
	メディアコンピュ ータシステム学科	70	140	70	210	70	280	70	280
	小計	280	1,522	280	1,380	280	1,240	280	1,240
	合計	1,210	4,904	1,210	4,940	1,210	4,980	1,210	4,980

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度の収容定員は、期間付定員を含む。

- 3 情報通信工学部光システム工学科については、改正後の第3条にかかわらず、平成18年3月31日に当該学科に在学する者が在学しなくなるまでの間、従前の学則を存続する。

附 則

- 1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 第4条に規定する収容定員は、平成18年度から平成21年度までの間、次のとおりとする。

年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
----	--------	--------	--------	--------

学部・学科									
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	100	402	100	400	100	400	100	400
	通信工学科	—	200	—	100	—	—	—	—
	電子材料工学科	—	240	—	160	—	80	—	—
	応用化学科	80	80	80	160	80	240	80	320
	電子機械工学科	100	400	100	400	100	400	100	400
	機械工学科	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	—	160	—	80	—	—	—	—
	環境技術学科	60	60	60	120	60	180	60	240
	小計	430	1,902	430	1,780	430	1,660	430	1,720
工学部第2部	電子工学科	—	160	—	100	—	40	—	—
	機械工学科	—	160	—	100	—	40	—	—
	小計	—	320	—	200	—	80	—	—
医療福祉工学部	医療福祉工学科	120	420	120	460	120	500	120	500
	理学療法学科	40	40	40	80	40	120	40	160
	小計	160	460	160	540	160	620	160	660
情報通信工学部	情報工学科	180	360	180	540	180	720	180	720
	通信工学科	80	180	80	260	80	340	80	320
	光システム工学科	80	160	80	240	80	320	80	320
	小計	340	700	340	1,040	340	1,380	340	1,360
総合情報学部	情報工学科	—	362	—	180	—	—	—	—
	メディア情報文化学科	—	420	—	290	—	130	—	—
	デジタルアート・アニメーション学科	100	100	100	200	100	330	100	460
	デジタルゲーム学科	110	500	110	500	110	500	110	500
	小計	—	1,282	—	970	—	960	—	—

	メディアコンピュータシステム学科	70	140	70	210	70	280	70	280
	小計	280	1,522	280	1,380	280	1,240	280	1,240
合計		1,210	4,904	1,210	4,940	1,210	4,980	1,210	4,980

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度の収容定員は、期間付定員を含む。

- 3 工学部第2部電子工学科および機械工学科については、改正後の第3条にかかわらず、平成18年3月31日に当該学科に在学する者が、存在しなくなるまでの間、従前の学則を存続する。

附 則

- この学則は、平成18年4月1日から施行する。
- 改正後の規定にかかわらず、平成17年度以前に入学した者、平成18年度に2年次以上に編入学、再入学、転部または転科した者、平成19年度に3年次以上に編入学、再入学、転部または転科した者および平成20年度に4年次に編入学または再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- この学則は、平成19年4月1日から施行する。
- 第4条に規定する収容定員は、平成19年度から平成22年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	90	390	90	380	90	370	90	360
	通信工学科	—	100	—	—	—	—	—	—
	電子材料工学科	—	160	—	80	—	—	—	—
	応用化学科	80	160	80	240	80	320	80	320
	電子機械工学科	90	390	90	380	90	370	90	360
	機械工学科	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	—	80	—	—	—	—	—	—

	環境技術学科	60	120	60	180	60	240	60	240
	基礎理工学科	40	40	40	80	40	120	40	160
	小計	450	1,800	450	1,700	450	1,780	450	1,800
工学部第2部	電子工学科	—	100	—	40	—	—	—	—
	機械工学科	—	100	—	40	—	—	—	—
	小計	—	200	—	80	—	—	—	—
医療福祉工学部	医療福祉工学科	120	460	120	500	120	500	120	500
	理学療法学科	40	80	40	120	40	160	40	160
	小計	160	540	160	620	160	660	160	660
情報通信工学部	情報工学科	160	520	160	680	160	660	160	640
	通信工学科	80	260	80	340	80	320	80	320
	光システム工学科	—	80	—	80	—	—	—	—
	光・エレクトロニクス学科	80	160	80	240	80	320	80	320
	小計	320	1,020	320	1,340	320	1,300	320	1,280
総合情報学部	情報工学科	—	180	—	—	—	—	—	—
	メディア情報文化学科	—	290	—	130	—	—	—	—
	デジタルアート・アニメーション学科	100	200	100	330	100	460	100	460
	デジタルゲーム学科	110	500	110	500	110	500	110	500
	メディアコンピューターシステム学科	70	210	70	280	70	280	70	280
	小計	280	1,380	280	1,240	280	1,240	280	1,240
	合計	1,210	4,940	1,210	4,980	1,210	4,980	1,210	4,980

附 則

- この学則は、平成19年4月1日から施行する。
- 第4条に規定する収容定員は、平成19年度から平成22年度までの間、次のとおりとす

る。

学部・学科		年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度	
		学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部	電子工学科	90	90	90	180	90	270	90	360		
	応用化学科	80	80	80	160	80	240	80	320		
	電子機械工学科	90	90	90	180	90	270	90	360		
	機械工学科	90	90	90	180	90	270	90	360		
	環境技術学科	60	60	60	120	60	180	60	240		
	基礎理工学科	40	40	40	80	40	120	40	160		
	小計	450	450	450	900	450	1350	450	1800		
工学部第1部	電子工学科	—	300	—	200	—	100	—	—		
	通信工学科	—	100	—	—	—	—	—	—		
	電子材料工学科	—	160	—	80	—	—	—	—		
	応用化学科	—	80	—	80	—	80	—	—		
	電子機械工学科	—	300	—	200	—	100	—	—		
	機械工学科	—	270	—	180	—	90	—	—		
	光システム工学科	—	80	—	—	—	—	—	—		
	環境技術学科	—	60	—	60	—	60	—	—		
	小計	—	1350	—	800	—	430	—	—		
工学部第2部	電子工学科	—	100	—	40	—	—	—	—		
	機械工学科	—	100	—	40	—	—	—	—		
	小計	—	200	—	80	—	—	—	—		
医療福祉工学部	医療福祉工学科	120	460	120	500	120	500	120	500		
	理学療法学科	40	80	40	120	40	160	40	160		
	小計	160	540	160	620	160	660	160	660		
情報通信工学部	情報工学科	160	520	160	680	160	660	160	640		
	通信工学科	80	260	80	340	80	320	80	320		
	光システム工学科	—	80	—	80	—	—	—	—		

	光・エレクトロニクス学科	80	160	80	240	80	320	80	320
	小計	320	1020	320	1340	320	1300	320	1280
総合情報学部	情報工学科	—	180	—	—	—	—	—	—
	メディア情報文化学科	—	290	—	130	—	—	—	—
	デジタルアート・アニメーション学科	100	200	100	330	100	460	100	460
	デジタルゲーム学科	110	500	110	500	110	500	110	500
	メディアコンピュータシステム学科	70	210	70	280	70	280	70	280
	小計	280	1380	280	1240	280	1240	280	1240
合計		1210	4940	1210	4980	1210	4980	1210	4980

3 工学部第1部については、改正後の規定にかかわらず、平成19年3月31日に当該学部在学する者が、在学しなくなるまでの間、従前の学則を適用する。

附 則

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

1 この学則は、平成20年4月1日から施行する。

2 第4条に規定する収容定員は、平成20年度から平成22年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科		平成20年度			平成21年度			平成22年度		
		入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員
工学部	電子工学科	90	—	180	90	—	270	90	—	360

	応用化学科	80	—	160	80	—	240	80	—	320
	電子機械工学科	90	—	180	90	—	270	90	—	360
	機械工学科	90	—	180	90	—	270	90	—	360
	環境技術学科	60	—	120	60	—	180	60	—	240
	基礎理工学科	40	—	80	40	—	120	40	—	160
	小計	450	—	900	450	—	1,350	450	—	1,800
工学部第 1部	電子工学科	—	—	200	—	—	100	—	—	—
	電子材料工学科	—	—	80	—	—	—	—	—	—
	応用化学科	—	—	80	—	—	80	—	—	—
	電子機械工学科	—	—	200	—	—	100	—	—	—
	機械工学科	—	—	180	—	—	90	—	—	—
	環境技術学科	—	—	60	—	—	60	—	—	—
	小計	—	—	800	—	—	430	—	—	—
工学部第 2部	電子工学科	—	—	40	—	—	—	—	—	—
	機械工学科	—	—	40	—	—	—	—	—	—
	小計	—	—	80	—	—	—	—	—	—
医療福祉 工学部	医療福祉工学科	80	10	460	80	10	420	80	5	375
	理学療法学科	40	—	120	40	—	160	40	—	160
	健康スポーツ科 学科	70	—	70	70	—	140	70	5	215
	小計	190	10	650	190	10	720	190	10	750
情報通信 工学部	情報工学科	160	—	680	160	—	660	160	—	640
	通信工学科	80	—	340	80	—	320	80	—	320
	光システム工学 科	—	—	80	—	—	—	—	—	—
	光・エレクトロ ニクス学科	—	—	160	—	—	160	—	—	80
	小計	240	—	1,260	240	—	1,140	240	—	1,040
総合情報 学部	メディア情報文 化学科	—	—	130	—	—	—	—	—	—

デジタルアー ト・アニメーシ ョン学科	100	30	330	100	30	460	100	30	460
デジタルゲーム 学科	130	30	520	130	30	540	130	30	560
メディアコンピ ュータシステム 学科	100	—	310	100	—	340	100	—	370
小計	330	60	1,290	330	60	1,340	330	60	1,390
合計	1,210	70	4,980	1,210	70	4,980	1,210	70	4,980

3 大阪電気通信大学情報通信工学部光・エレクトロニクス学科は、改正後の規定にかかわらず、平成20年3月31日に当該学科に在学する学生が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

- 1 この学則は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 第31条については、平成19年度以前に入学、編入学または再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1—2、別表第1—6及び別表第1—7にかかわらず、各学科に平成19年度以前に入学した者、平成20年度に2年次以上に再入学、転部又は転科した者、平成21年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び平成22年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 第4条に規定する収容定員は、平成21年度から平成23年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科		平成21年度			平成22年度			平成23年度		
		入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員
工学部	電気電子工学科	90	—	90	90	—	180	90	—	270
	電子工学科	—	—	180	—	—	180	—	—	90
	応用化学科	80	—	240	80	—	320	80	—	320
	電子機械工学科	90	—	270	90	—	360	90	—	360
	機械工学科	90	—	270	90	—	360	90	—	360
	環境技術学科	60	—	180	60	—	240	60	—	240
	基礎理工学科	40	—	120	40	—	160	40	—	160
	小計	450	—	1,350	450	—	1,800	450	—	1,800
工学部第1部	電子工学科	—	—	100	—	—	—	—	—	—
	応用化学科	—	—	80	—	—	—	—	—	—
	電子機械工学科	—	—	100	—	—	—	—	—	—
	機械工学科	—	—	90	—	—	—	—	—	—
	環境技術学科	—	—	60	—	—	—	—	—	—
	小計	—	—	430	—	—	—	—	—	—
医療福祉工学部	医療福祉工学科	80	10	420	80	5	375	80	5	330
	理学療法学科	40	—	160	40	—	160	40	—	160
	健康スポーツ科学科	70	—	140	70	5	215	70	5	290
	小計	190	10	720	190	10	750	190	10	780
情報通信工学部	情報工学科	160	—	660	160	—	640	160	—	640
	通信工学科	80	—	320	80	—	320	80	—	320
	光・エレクトロニクス学科	—	—	160	—	—	80	—	—	—
	小計	240	—	1,140	240	—	1,040	240	—	960
総合情報	デジタルアート・	100	30	460	100	30	460	100	30	460

学部	アニメーション学 科												
	デジタルゲーム学 科	130	30	540	130	30	560	130	30	580			
	メディアコンピュ ータシステム学科	100	—	340	100	—	370	100	—	400			
	小計	330	60	1,340	330	60	1,390	330	60	1,440			
合計	1,210	70	4,980	1,210	70	4,980	1,210	70	4,980				

附 則

- この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 第4条に規定する収容定員は、平成21年度から平成23年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科		平成21年度				平成22年度				平成23年度			
		入学 定員	2年 次編 入学 定員	3年 次編 入学 定員	収容 定員	入学 定員	2年 次編 入学 定員	3年 次編 入学 定員	収容 定員	入学 定員	2年 次編 入学 定員	3年 次編 入学 定員	収容 定員
工学部	電子工学科	80	—	—	260	80	—	—	340	80	—	—	330
	応用化学科	60	—	—	220	60	—	—	280	60	—	—	260
	電子機械工学 科	80	—	—	260	80	—	—	340	80	—	—	330
	機械工学科	80	—	—	260	80	—	—	340	80	—	—	330
	環境技術学科	60	—	—	180	60	—	—	240	60	—	—	240
	基礎理工学科	40	—	—	120	40	—	—	160	40	—	—	160
	小計	400	—	—	1,300	400	—	—	1,700	400	—	—	1,650
工学部第 I部	電子工学科	—	—	—	100	—	—	—	—	—	—	—	—
	応用化学科	—	—	—	80	—	—	—	—	—	—	—	—
	電子機械工学	—	—	—	100	—	—	—	—	—	—	—	—

	科												
	機械工学科	—	—	—	90	—	—	—	—	—	—	—	—
	環境技術学科	—	—	—	60	—	—	—	—	—	—	—	—
	小計	—	—	—	430	—	—	—	—	—	—	—	—
医療福祉 工学部	医療福祉工学 科	80	—	10	420	80	—	5	375	80	—	5	330
	理学療法学科	40	—	—	160	40	—	—	160	40	—	—	160
	健康スポーツ 科学科	70	—	—	140	70	—	5	215	70	—	5	290
	小計	190	—	10	720	190	—	10	750	190	—	10	780
情報通信 工学部	情報工学科	160	—	—	660	160	—	—	640	160	—	—	640
	通信工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	光・エレクト ロニクス学科	—	—	—	160	—	—	—	80	—	—	—	—
	小計	240	—	—	1,140	240	—	—	1,040	240	—	—	960
総合情報 学部	デジタルア ート・アニメ ーション学科	100	15	5	450	100	15	5	440	100	15	5	455
	デジタルゲー ム学科	110	15	5	510	110	15	5	500	110	15	5	515
	メディアコン ピュータシス テム学科	90	—	—	330	90	—	—	350	90	—	—	370
	小計	300	30	10	1,290	300	30	10	1,290	300	30	10	1,340
金融経済 学部	アセット・マ ネジメント学 科	80	—	—	80	80	—	—	160	80	—	30	270
合計		1,210	30	20	4,960	1,210	30	20	4,940	1,210	30	50	5,000

				0	0			0	0			0
--	--	--	--	---	---	--	--	---	---	--	--	---

附 則

この学則は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 医療福祉工学部医療福祉工学科については、改正後の別表第4の規定にかかわらず、平成21年3月31日に当該学科に在学する者には従前の規定を適用する。

附 則

この学則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1―1第3号及び別表第1―8については、平成21年3月31日に当該学科に在学する者、平成21年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成22年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者並びに平成23年度に4年次に再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1―3については、平成22年3月31日に当該学科に在学する者、平成22年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成23年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者並びに平成24年度に4年次に再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第27条及び別表第2(2)については、平成22年3月31日に当該学科に在学する者、平成22年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成23年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者並びに平成24年度に4年次に再入学した者は、従前の当該規定を適用する。
- 3 改正後の別表第1―1(2)については、当該学科に平成20年度に1年次に入学、再入学、転部又は転科した者、平成21年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平

成22年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者並びに平成23年度に4年次に再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 第4条に規定する収容定員は、平成23年度から平成25年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科		平成23年度				平成24年度				平成25年度			
		入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
工学部	電気電子工学科	80	—	—	330	80	—	—	320	80	—	—	320
	応用化学科	—	—	—	200	—	—	—	120	—	—	—	60
	電子機械工学科	80	—	—	330	80	—	—	320	80	—	—	320
	機械工学科	80	—	—	330	80	—	—	320	80	—	—	320
	環境技術学科	—	—	—	180	—	—	—	120	—	—	—	60
	基礎理工学科	60	—	—	180	60	—	—	200	60	—	—	220
	環境科学科	100	—	—	100	100	—	—	200	100	—	—	300
	小計	400	—	—	1,650	400	—	—	1,600	400	—	—	1,600
医療福祉学部	医療福祉工学科	80	—	5	330	80	—	5	330	80	—	5	330
	理学療法学科	40	—	—	160	40	—	—	160	40	—	—	160
	健康スポーツ	70	—	5	290	70	—	5	290	70	—	5	290

	ツ科学科												
	小計	190	—	10	780	190	—	10	780	190	—	10	780
情報通 信工学 部	情報工学科	160	—	—	640	160	—	—	640	160	—	—	640
	通信工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	小計	240	—	—	960	240	—	—	960	240	—	—	960
総合情 報学部	デジタルア ート・アニ メーション 学科	100	15	5	455	100	15	5	455	100	15	5	455
	デジタルゲ ーム学科	110	15	5	515	110	15	5	495	110	15	5	495
	メディアコ ンピュータ システム学 科	90	—	—	370	90	—	—	360	90	—	—	360
	小計	300	30	10	1,340	300	30	10	1,310	300	30	10	1,310
金融経 済学部	アセット・ マネジメン ト学科	80	—	30	270	80	—	30	380	80	—	30	380
合計		1,210	30	50	5,000	1,210	30	50	5,030	1,210	30	50	5,030

3 大阪電気通信大学工学部応用化学科及び工学部環境技術学科は、改正後の規定にかかわらず、平成23年3月31日に当該学科に在学する学生が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この学則は、平成22年10月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成23年2月1日から施行する。

附 則

1 この学則は、平成23年4月1日から施行する。

- 2 改正後の別表第1—1、別表第1—6、別表第1—7、別表第1—9及び別表第2にかかわらず、各学科に平成22年度以前に入学した者、平成23年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成24年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び平成25年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

この学則は、平成23年7月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1—3及び別表第1—5にかかわらず、各学科に平成23年度以前に入学した者、平成24年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成25年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び平成26年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1—4については、当該学科に平成23年度以前に入学した者、平成24年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成25年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び平成26年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1—7、別表第1—8及び別表第2については、各学科に平成23年度以前に入学した者、平成24年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成25年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び平成26年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

この学則は、平成24年6月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 第4条に規定する収容定員は、平成25年度から平成27年度までの間、次のとおりとする。

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
----	--------	--------	--------

学部・学科													
学部	学科	入 学 定 員	2年 次 編 入 学 定 員	3年 次 編 入 学 定 員	収 容 定 員	入 学 定 員	2年 次 編 入 学 定 員	3年 次 編 入 学 定 員	収 容 定 員	入 学 定 員	2年 次 編 入 学 定 員	3年 次 編 入 学 定 員	収 容 定 員
工学部	電気電子工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	応用化学科	—	—	—	60	—	—	—	—	—	—	—	—
	電子機械工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	機械工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	環境技術学科	—	—	—	60	—	—	—	—	—	—	—	—
	基礎理工学科	60	—	—	220	60	—	—	240	60	—	—	240
	環境科学科	100	—	—	300	100	—	—	400	100	—	—	400
	小計	400	—	—	1,600	400	—	—	1,600	400	—	—	1,600
医療福祉工 学部	医療福祉工学科	80	—	5	330	80	—	5	330	80	—	5	330
	理学療法学科	40	—	—	160	40	—	—	160	40	—	—	160
	健康スポーツ科学科	70	—	5	290	70	—	5	290	70	—	5	290
	小計	190	—	10	780	190	—	10	780	190	—	10	780
情報通信工 学部	情報工学科	160	—	—	640	160	—	—	640	160	—	—	640
	通信工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	小計	240	—	—	960	240	—	—	960	240	—	—	960
総合情報学 部	デジタルアート・アニメーション学科	100	15	5	455	100	15	5	455	100	15	5	455
	デジタルゲーム学科	110	15	5	495	110	15	5	495	110	15	5	495
	メディアコンピュータシステム学科	—	—	—	270	—	—	—	180	—	—	—	90
	情報学科	90	—	—	90	90	—	—	180	90	—	—	270

	小計	300	30	10	1,310	300	30	10	1,310	300	30	10	1,310
金融経済学部	アセット・マネジメント学科	80	—	30	380	80	—	30	380	80	—	30	380
	小計	80	—	30	380	80	—	30	380	80	—	30	380
合計		1,210	30	50	5,030	1,210	30	50	5,030	1,210	30	50	5,030

3 大阪電気通信大学総合情報学部メディアコンピュータシステム学科は、改正後の規定にかかわらず、平成25年3月31日に当該学科に在学する学生が当該学科に存学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この学則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1—10については、平成24年度以前に入学した者、平成25年度に2年次以上に編入学、再入学又は転部した者、平成26年度に3年次以上に編入学、再入学又は転部した者及び平成27年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 第4条に規定する収容定員は、平成26年度から平成28年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科		平成26年度				平成27年度				平成28年度			
		入 学 定 員	2年 次 編 入 学	3年 次 編 入 学	収 容 定 員	入 学 定 員	2年 次 編 入 学	3年 次 編 入 学	収 容 定 員	入 学 定 員	2年 次 編 入 学	3年 次 編 入 学	収 容 定 員
学部	学科												

			定員	定員			定員	定員			定員	定員	
工学部	電気電子工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	応用化学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	電子機械工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	機械工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	環境技術学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	基礎理工学科	60	—	—	240	60	—	—	240	60	—	—	240
	環境科学科	100	—	—	400	100	—	—	400	100	—	—	400
	小計	400	—	—	1,600	400	—	—	1,600	400	—	—	1,600
医療福祉工学部	医療福祉工学科	80	—	5	330	80	—	5	330	80	—	5	330
	理学療法学科	40	—	—	160	40	—	—	160	40	—	—	160
	健康スポーツ科学科	70	—	5	290	70	—	5	290	70	—	5	290
	小計	190	—	10	780	190	—	10	780	190	—	10	780
情報通信工学部	情報工学科	160	—	—	640	160	—	—	640	160	—	—	640
	通信工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	小計	240	—	—	960	240	—	—	960	240	—	—	960
総合情報学部	デジタルアート・アニメーション学科	100	15	5	455	100	15	5	455	100	15	5	455
	デジタルゲーム学科	—	—	—	180	—	—	—	90	—	—	—	—
	メディアコンピュータシステム学科	90	—	—	180	90	—	—	270	90	—	—	360
	情報学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	小計	300	30	10	1,310	300	30	10	1,310	300	30	10	1,310
	金融経済学部	アセット・マネジメント学科	—	—	30	300	—	—	30	220	—	—	—
資産運用学科	80	—	—	80	80	—	—	160	80	—	30	270	
小計	80	—	30	380	80	—	30	380	80	—	30	380	
合計		1,230	30	50	5,010	1,230	30	50	5,010	1,230	30	50	5,010

	10		30	10		30	10		30
--	----	--	----	----	--	----	----	--	----

3 大阪電気通信大学金融経済学部アセット・マネジメント学科は、改正後の規定にかかわらず、平成26年3月31日に当該学科に在学する学生が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この学則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 第4条に規定する収容定員は、平成27年度から平成29年度までの間、次のとおりとする。
- 3 大阪電気通信大学総合情報学部デジタルアート・アニメーション学科は、改正後の規定にかかわらず、平成27年3月31日に当該学科に在学する学生が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

学部・学科		年度				平成27年度				平成28年度				平成29年度			
		入 学 定 員	2年 次 編 入 学 定 員	3年 次 編 入 学 定 員	収 容 定 員	入 学 定 員	2年 次 編 入 学 定 員	3年 次 編 入 学 定 員	収 容 定 員	入 学 定 員	2年 次 編 入 学 定 員	3年 次 編 入 学 定 員	収 容 定 員				
工学部	電気電子工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320				
	電子機械工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320				
	機械工学科	90	—	—	330	90	—	—	340	90	—	—	350				
	基礎理工学科	60	—	—	240	60	—	—	240	60	—	—	240				
	環境科学科	90	—	—	390	90	—	—	380	90	—	—	370				
	小計	400	—	—	1,640	400	—	—	1,640	400	—	—	1,600				
医療福祉	医療福祉工学科	80	—	5	330	80	—	5	330	80	—	5	330				
工学部	理学療法学科	40	—	—	160	40	—	—	160	40	—	—	160				

	健康スポーツ科学科	70	—	5	290	70	—	5	290	70	—	5	290
	小計	190	—	10	780	190	—	10	780	190	—	10	780
情報通信 工学部	情報工学科	160	—	—	640	160	—	—	640	160	—	—	640
	通信工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	小計	240	—	—	960	240	—	—	960	240	—	—	960
総合情報 学部	デジタルアート・アニメーション学科	—	15	5	355	—	—	5	240	—	—	—	120
	デジタルゲーム学科	210	15	5	595	210	30	5	710	210	30	10	830
	メディアコンピュータシステム学科	—	—	—	90	—	—	—	—	—	—	—	—
	情報学科	90	—	—	270	90	—	—	360	90	—	—	360
	小計	300	30	10	1,300	300	30	10	1,300	300	30	10	1,300
金融経済 学部	アセット・マネジメント学科	—	—	30	220	—	—	—	110	—	—	—	—
	資産運用学科	80	—	—	160	80	—	30	270	80	—	30	380
	小計	80	—	30	380	80	—	30	380	80	—	30	380
合計		1,230	50	5,030	1,230	50	5,030	1,230	50	5,030	50	5,030	

附 則

- この学則は、平成27年4月1日から施行する。
- 改正後の別表第1—1、1—2及び1—6については、平成26年度以前に入学した者、平成27年度に2年次以上に編入学、再入学又は転部した者、平成28年度に3年次以上に編入学、再入学又は転部した者及び平成29年度に4年次に編入学、再入学又は転部した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

この規則は、平成27年2月1日から施行する。

附 則

- この学則は、平成27年4月1日から施行する。
- 改正後の別表第2については、各学科に平成26年度以前に入学した者、平成27年度に2年

次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成28年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び平成29年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1-4については、当該学科に平成27年度以前に入学した者、平成28年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成29年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び平成30年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1-3及び別表第1-5については、当該学科に平成27年度以前に入学した者、平成28年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成29年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び平成30年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

この学則は、平成29年1月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 金融経済学部アセット・マネジメント学科については、改正後の規定にかかわらず、平成29年3月31日に当該学科に在学する者が、在学しなくなるまでの間、従前の学則を適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1-8については、当該学科に平成28年度以前に入学した者、平成29年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成30年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び平成31年度に4年次に再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第26条及び第27条については、平成29年度以前に入学した者、平成30年度に2

年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成31年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者並びに平成32年度に4年次に再入学した者は従前の当該規定を適用する。

3 第4条に規定する収容定員は、平成30年度から平成32年度までの間、次のとおりとする。

年度		平成30年度			平成31年度			平成32年度		
学部・学科		入学定員	3年次編入学定員	収容定員	入学定員	3年次編入学定員	収容定員	入学定員	3年次編入学定員	収容定員
工学部	電気電子工学科	80	—	320	80	—	320	80	—	320
	電子機械工学科	80	—	320	80	—	320	80	—	320
	機械工学科	90	—	360	90	—	360	90	—	360
	基礎理工学科	60	—	240	60	—	240	60	—	240
	環境科学科	90	—	360	90	—	360	90	—	360
	建築学科	80	—	80	80	—	160	80	—	240
	小計	480	—	1,680	480	—	1,760	480	—	1,840
医療福祉工学部	医療福祉工学科	80	5	330	80	5	330	80	5	330
	理学療法学科	40	—	160	40	—	160	40	—	160
	健康スポーツ科学科	70	5	290	70	5	290	70	5	290
	小計	190	10	780	190	10	780	190	10	780
情報通信工学部	情報工学科	160	—	640	160	—	640	160	—	640
	通信工学科	80	—	320	80	—	320	80	—	320
	小計	240	—	960	240	—	960	240	—	960
総合情報学部	デジタルゲーム学科(注1)	—	—	700	—	—	450	—	—	210

	デジタルゲーム学科(注2)	140	—	140	140	—	280	140	5	425
	ゲーム&メディア学科	110	—	110	110	—	220	110	—	330
	情報学科	90	—	360	90	—	360	90	—	360
	小計	340	—	1,310	340	—	1,310	340	5	1,325
金融経済学部	資産運用学科	—	—	270	—	—	160	—	—	80
合計		1,250	10	5,000	1,250	10	4,970	1,250	15	4,985

(注1) 平成29年度廃止分

(注2) 平成30年度開設分

- 4 大阪電気通信大学総合情報学部デジタルゲーム学科及び金融経済学部資産運用学科は、改正後の規定にかかわらず、平成30年3月31日に当該学科に在学する学生が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この学則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 別表第4に規定する入学金及び学費について、平成31年3月31日に在学する者は、次の表のとおりとする。

学部	項目	金額(円)
工学部	入学金	200,000
情報通信工学部 総合情報学部	学費 (内訳 単位：円) 授業料 985,000 維持拡充費 340,000 学生生活動支援費 7,000	1,332,000
医療福祉工学部	入学金	200,000
医療福祉工学科	学費	1,382,000

	(内訳 単位：円) 授業料 985,000 維持拡充費 340,000 実験実習料 50,000 学生活動支援費 7,000	
医療福祉工学部	入学金	200,000
理学療法学科	学費 (内訳 単位：円) 授業料 985,000 維持拡充費 340,000 実験実習料 300,000 学生活動支援費 7,000	1,632,000
医療福祉工学部	入学金	200,000
健康スポーツ科学科	学費 (内訳 単位：円) 授業料 985,000 維持拡充費 240,000 実習料 100,000 学生活動支援費 7,000	1,332,000
金融経済学部	入学金	200,000
資産運用学科	学費 (内訳 単位：円) 授業料 800,000 維持拡充費 200,000 学生活動支援費 7,000	1,007,000

附 則

この学則は、平成30年10月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成30年11月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、2019年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第2の規定にかかわらず、2019年3月31日に在学する者は、在籍の間、従前の規定を適用する。
- 3 改正後の別表第2の規定にかかわらず、2019年3月31日に他大学及び本学において教職課程を有する学部・学科に在学し、教職課程を有する学部・学科に編入学及び転部・転科する者は、在籍の間、従前の規定を適用する。ただし、本学、他大学及び短期大学を卒業した者は除く。

附 則

この学則は、2019年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、2020年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第26条、第27条、別表第1—4、別表第1—5、別表第1—6、別表第2及び別表第4にかかわらず、各学科に2019年度以前に入学した者、2020年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、2021年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び2022年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。
- 3 第4条に規定する収容定員は、2020年度から2022年度までの間、次のとおりとする。

年度		2020年度			2021年度			2022年度		
		入学定員	3年次編入学定員	収容定員	入学定員	3年次編入学定員	収容定員	入学定員	3年次編入学定員	収容定員
工学部	電気電子工学科	80	—	320	80	—	320	80	—	320
	電子機械工学科	80	—	320	80	—	320	80	—	320
	機械工学科	90	—	360	90	—	360	90	—	360
	基礎理工学科	60	—	240	60	—	240	60	—	240
	環境科学科	90	—	360	90	—	360	90	—	360
	建築学科	80	—	240	80	—	320	80	—	320
	小計	480	—	1,840	480	—	1,920	480	—	1,920
医療福祉工	医療福祉工学科	—	5	250	—	5	170	—	—	85

学部	理学療法学科	—	—	120	—	—	80	—	—	40
	健康スポーツ科学科	—	5	220	—	5	150	—	—	75
	小計	—	10	590	—	10	400	—	—	200
医療健康科学部	医療科学科	80	—	80	80	—	160	80	5	245
	理学療法学科	40	—	40	40	—	80	40	—	120
	健康スポーツ科学科	70	—	70	70	—	140	70	5	215
	小計	190	—	190	190	—	380	190	10	580
情報通信工学部	情報工学科	160	—	640	160	—	640	160	—	640
	通信工学科	80	—	320	80	—	320	80	—	320
	小計	240	—	960	240	—	960	240	—	960
総合情報学部	デジタルゲーム学科 (注1)	—	—	210	—	—	—	—	—	—
	デジタルゲーム学科 (注2)	140	5	425	140	5	570	140	5	570
	ゲーム&メディア学 科	110	—	330	110	—	440	110	—	440
	情報学科	90	—	360	90	—	360	90	—	360
	小計	340	5	1,325	340	5	1,370	340	5	1,370
金融経済学部	資産運用学科	—	—	80	—	—	—	—	—	—
合計		1,250	15	4,985	1,250	15	5,030	1,250	15	5,030

(注1) 2017年度廃止分

(注2) 2018年度開設分

- 4 大阪電気通信大学医療福祉工学部医療福祉工学科、理学療法学科及び健康スポーツ科学科は、改正後の規定にかかわらず、2020年3月31日に当該学科に在学する学生が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

- この学則は、2020年4月1日から施行する。
- 改正後の別表第1—1から別表第1—5、別表第1—10、別表第1—11及び別表第1—13にかかわらず、各学科に2019年度以前に入学した者、2020年度に2年次以上に編入学、再入

学、転部又は転科した者、2021年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び2022年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

この学則は、2020年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、2020年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第2にかかわらず、各学科に2019年度以前に入学した者、2020年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、2021年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び2022年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

この学則は、2020年9月1日から施行する。

附 則

この学則は、2021年9月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、2024年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第21条、第25条及び第27条の規定にかかわらず、2023年度以前に入学した者は、従前の当該規定を適用する。
- 3 第4条に規定する収容定員は、2024年度から2026年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科		2024年度			2025年度			2026年度		
		入学定員	3年次編入学定員	収容定員	入学定員	3年次編入学定員	収容定員	入学定員	3年次編入学定員	収容定員
工学部	電気電子工学科	80	—	320	80	—	320	80	—	320
	電子機械工学科	80	—	320	80	—	320	80	—	320
	機械工学科	90	—	360	90	—	360	90	—	360
	基礎理工学科	86	—	266	86	—	292	86	—	318
	環境科学科	—	—	270	—	—	180	—	—	90
	建築学科	—	—	240	—	—	160	—	—	80
	小計	336	—	1,776	336	—	1,632	336	—	1,488
医療健康科学部	医療科学科	80	1	326	80	1	322	80	1	322
	理学療法学科	40	—	160	40	—	160	40	—	160

	健康スポーツ科学科	70	1	286	70	1	282	70	1	282
	小計	190	2	772	190	2	764	190	2	764
情報通信工学部	情報工学科	160	—	640	160	—	640	160	—	640
	通信工学科	80	—	320	80	—	320	80	—	320
	小計	240	—	960	240	—	960	240	—	960
総合情報学部	デジタルゲーム学科	140	1	566	140	1	562	140	1	562
	ゲーム&メディア学科	110	—	440	110	—	440	110	—	440
	情報学科	90	—	360	90	—	360	90	—	360
	小計	340	1	1,366	340	1	1,362	340	1	1,362
建築・デザイン学部	建築・デザイン学科	150	—	150	150	—	300	150	—	450
合計		1,256	3	5,024	1,256	3	5,018	1,256	3	5,024

別表第1 削除

別表第2 削除

別表第3 削除

別表第4 入学金及び学費

単位：円

学部	入学金	学費		
		項目	1年次	2年次以降
工学部 情報通信工学部 総合情報学部	200,000	授業料	1,282,000	1,482,000
医療健康科学部 医療科学科	200,000	授業料	1,282,000	1,482,000
		実験実習料	50,000	50,000
医療健康科学部 理学療法学科	200,000	授業料	1,182,000	1,382,000
		実験実習料	300,000	300,000
医療健康科学部 健康スポーツ科学科	200,000	授業料	1,082,000	1,282,000
		実習料	100,000	100,000
建築・デザイン学部	200,000	授業料	1,382,000	1,482,000

別表第5 削除

学則 変更事項を記載した書類

この法人は、この度、建築・デザイン学部建築・デザイン学科を新たに設置することとなったので、これに伴い、同時期に廃止及び収容定員変更する学科に関連する内容と併せて、学則を次のとおり変更する。

- 第3条第1項において、「建築・デザイン学部、建築デザイン学科」を加え、工学部から「環境科学科」及び「建築学科」を削る。

(事由) 2024年4月から建築・デザイン学部、建築デザイン学科を設置し、同時に工学部の環境科学科と建築学科を募集停止するため。

- 第4条において、設置、募集停止及び入学定員・3年次編入定員・収容定員変更を行う学科の定員を次のとおり改める。

学部学科名	改正対象	改正前	改正後
工学部基礎理工学科	入学定員	60名	86名
	収容定員	240名	344名
工学部環境科学科	入学定員	90名	0名
	収容定員	360名	0名
工学部建築学科	入学定員	80名	0名
	収容定員	320名	0名
工学部	入学定員	480名	336名
	収容定員	1,920名	1,344名
医療健康科学部医療科学科	3年次編入学定員	5名	1名
	収容定員	330名	322名
医療健康科学部健康スポーツ科学科	3年次編入学定員	5名	1名
	収容定員	290名	282名
医療健康科学部	3年次編入学定員	10名	2名
	収容定員	780名	764名
総合情報学部デジタルゲーム学科	3年次編入定員	5名	1名
	収容定員	570名	562名
総合情報学部	3年次編入定員	5名	1名
	収容定員	1,370名	1,362名
建築・デザイン学部建築・デザイン学科	入学定員	0名	150名
	収容定員	0名	600名

大学（合計）	入学定員	1,250名	1,256名
	3年次編入定員	15名	3名

（事由）2024年4月から建築・デザイン学部、建築デザイン学科を設置し、同時に工学部の環境科学科と建築学科を募集停止するため。

3. 第23条の2において、授業期間を「15週」を「13週」に改める。

（事由）2024年度より、授業時間を105分に変更することに伴い、授業期間が変更となるため。

4. 第25条第1項において、卒業の要件の単位数を「128単位」から「124単位」に改める。

（事由）2024年度より、教育課程を改めるため。

5. 第26条第2項において、「建築・デザイン学部 工学（学士）を加える。

（事由）2024年4月より、建築・デザイン学部の設置するため。

6. 第27条において、本学において取得することができる教育職員免許状の種類から、工学部環境科学科の記載内容（中学校教諭一種免許状（理科）（技術）及び高等学校教諭一種免許状（理科）（工業））を削る。

（事由）当該学科の募集停止に伴い、教員免許養成の課程を廃止するため。

7. 附則として、次の附則を加える。

- 1 この学則は、2024年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第21条、第25条及び第27条の規定にかかわらず、2023年度以前に入学した者は、従前の当該規定を適用する。

3 第4条に規定する収容定員は、2024年度から2026年度までの間、次のとおりとする。
(定員の一覧 略)

(事由) 施行日及び完成年度までの移行措置を、明確にするため。

8. 別表第4(入学金及び学費)に、建築・デザイン学部の入学金、学費等の内容を加える。

(事由) 2024年4月より、建築・デザイン学部の設置するため。

以上

大阪電気通信大学学則の一部改正

改正案	現行
<p>○大阪電気通信大学学則</p> <p>昭和36年4月1日 制定 最近改正 令和3年7月27日</p> <p>第1章 総則</p> <p>(名称)</p> <p>第1条 本大学は、大阪電気通信大学(以下「本学」という。)と称する。</p> <p>(目的)</p> <p>第2条 本学は、教育基本法(昭和22年法律第25号)及び学校教育法(昭和22年法律第26号)に基づき専門の学術を教授研究し、知的並びに道徳的な完成を期し、更に応用能力を展開させ得る人材の育成を目的とする。</p> <p>(自己点検評価等)</p> <p>第2条の2 本学は、教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。</p> <p>(学部及び学科)</p> <p>第3条 本学に次の学部及び学科をおく。</p>	<p>○大阪電気通信大学学則</p> <p>昭和36年4月1日 制定 最近改正 令和3年7月27日</p> <p>第1章 総則</p> <p>(名称)</p> <p>第1条 本大学は、大阪電気通信大学(以下「本学」という。)と称する。</p> <p>(目的)</p> <p>第2条 本学は、教育基本法(昭和22年法律第25号)及び学校教育法(昭和22年法律第26号)に基づき専門の学術を教授研究し、知的並びに道徳的な完成を期し、更に応用能力を展開させ得る人材の育成を目的とする。</p> <p>(自己点検評価等)</p> <p>第2条の2 本学は、教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。</p> <p>(学部及び学科)</p> <p>第3条 本学に次の学部及び学科をおく。</p>

学部	学科
工学部	電気電子工学科 電子機械工学科 機械工学科 基礎理工学科
医療健康科学部	医療科学科 理学療法学科 健康スポーツ科学科
情報通信工学部	情報工学科 通信工学科
総合情報学部	デジタルゲーム学科 ゲーム&メディア学科 情報学科
建築・デザイン学部	建築・デザイン学科

2 前項各学部及び学科の人材の養成に関する目的は、大阪電気通信大学学部規則(以下「学部規則」という。)に定める。

(機構)

第3条の2 本学に各学部学科と連携し専門力及び社会人基礎力教育の検討及び実施のため共通教育機構をおく。

(大学院)

学部	学科
工学部	電気電子工学科 電子機械工学科 機械工学科 基礎理工学科 環境科学科 建築科学科
医療健康科学部	医療科学科 理学療法学科 健康スポーツ科学科
情報通信工学部	情報工学科 通信工学科
総合情報学部	デジタルゲーム学科 ゲーム&メディア学科 情報学科

2 前項各学部及び学科の人材の養成に関する目的は、大阪電気通信大学学部規則(以下「学部規則」という。)に定める。

(機構)

第3条の2 本学に各学部学科と連携し専門力及び社会人基礎力教育の検討及び実施のため共通教育機構をおく。

(大学院)

第3条の3 本学に大学院をおく。

2 大学院の学則は、別に定める。

(附属施設及び機関)

第3条の4 本学に図書館、国際交流センター、メディアコミュニケーションセンター、エレクトロニクス基礎研究所、メカトロニクス基礎研究所、情報学研究所、先端マルチメディア合同研究所、衛星通信研究施設、研究連携推進センター、地域連携推進センター、ICT社会教育センター、教育開発推進センター、総合学生支援センター、実験センター、スポーツ強化センター、医務室その他の附属施設及び機関を置く。

2 附属施設及び機関に関する事項は、各規則に定める。

(収容定員)

第4条 学部及び学科の収容定員は次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	3年次編入 学定員	収容定員
工学部	電気電子工学科	80名	—	320名
	電子機械工学科	80名	—	320名
	機械工学科	90名	—	360名
	基礎理工学科	<u>86名</u>	—	<u>344名</u>
小計		<u>336名</u>	—	<u>1,344名</u>
医療健康科学	医療科学科	80名	1名	322名

第3条の3 本学に大学院をおく。

2 大学院の学則は、別に定める。

(附属施設及び機関)

第3条の4 本学に図書館、国際交流センター、メディアコミュニケーションセンター、エレクトロニクス基礎研究所、メカトロニクス基礎研究所、情報学研究所、先端マルチメディア合同研究所、衛星通信研究施設、研究連携推進センター、地域連携推進センター、ICT社会教育センター、教育開発推進センター、総合学生支援センター、実験センター、スポーツ強化センター、医務室その他の附属施設及び機関を置く。

2 附属施設及び機関に関する事項は、各規則に定める。

(収容定員)

第4条 学部及び学科の収容定員は次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	3年次編入 学定員	収容定員
工学部	電気電子工学科	80名	—	320名
	電子機械工学科	80名	—	320名
	機械工学科	90名	—	360名
	基礎理工学科	<u>60名</u>	—	<u>240名</u>
	<u>環境科学科</u> <u>建築科学科</u>	<u>90名</u> <u>80名</u>	—	<u>360名</u> <u>320名</u>
小計		<u>480名</u>	—	<u>1,920名</u>
医療健康科学	医療科学科	80名	5名	330名

部	理学療法学科	40名	—	160名
	健康スポーツ科学科	70名	1名	282名
	小計	190名	2名	764名
情報通信工学部	情報工学科	160名	—	640名
	通信工学科	80名	—	320名
	小計	240名	—	960名
総合情報学部	デジタルゲーム学科	140名	1名	562名
	ゲーム&メディア学科	110名	—	440名
	情報学科	90名	—	360名
	小計	340名	1名	1,362名
建築・デザイン学部	建築・デザイン学科	150名	—	600名
合計		1,256名	3名	5,030名

(修業年限及び在学年限)

第5条 学部の修業年限は4年とする。

2 学生は8年を超えて在学することはできない。

3 前2項の規定にかかわらず、職業を有している等の事情により、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する学生(以下「長期履修学生」という。)がその旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

4 長期履修学生の申し出は、入学時に行うものとする。

第2章 学年、学期及び休業日

部	理学療法学科	40名	—	160名
	健康スポーツ科学科	70名	5名	290名
	小計	190名	10名	780名
情報通信工学部	情報工学科	160名	—	640名
	通信工学科	80名	—	320名
	小計	240名	—	960名
総合情報学部	デジタルゲーム学科	140名	5名	570名
	ゲーム&メディア学科	110名	—	440名
	情報学科	90名	—	360名
	小計	340名	5名	1,370名
合計		1,250名	15名	5,030名

(修業年限及び在学年限)

第5条 学部の修業年限は4年とする。

2 学生は8年を超えて在学することはできない。

3 前2項の規定にかかわらず、職業を有している等の事情により、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する学生(以下「長期履修学生」という。)がその旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

4 長期履修学生の申し出は、入学時に行うものとする。

第2章 学年、学期及び休業日

(学年)

第6条 学年は4月1日に始まり翌年の3月31日に終わる。

(学期)

第7条 学年を分けて次の2学期とする。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

2 学長は、前項に定める前期の終期及び後期の始期を変更することができる。

(休業日)

第8条 休業日は次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日

(3) 本学の創立記念日 10月1日

(4) 夏期休業日 8月1日から9月30日まで

(5) 冬期休業日 12月24日から翌年1月7日まで

2 前項の規定にかかわらず、特に必要な場合には休業日に授業を行うことがあ

3 学長は必要な場合、学部教授会の議を経て、休業日を臨時に変更し、又は第1項に定めるもののほか、臨時の休業日を定めることができる。

第3章 入学、退学、休学、転部及び転科

(入学の時期)

(学年)

第6条 学年は4月1日に始まり翌年の3月31日に終わる。

(学期)

第7条 学年を分けて次の2学期とする。

前期 4月1日から9月15日まで

後期 9月16日から翌年3月31日まで

(休業日)

第8条 休業日は次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日

(3) 本学の創立記念日 10月1日

(4) 夏期休業日 8月1日から9月15日まで

(5) 冬期休業日 12月24日から翌年1月7日まで

2 前項の規定にかかわらず、特に必要な場合には休業日に授業を行うことがあ

3 学長は必要な場合、学部教授会の議を経て、休業日を臨時に変更し、又は第1項に定めるもののほか、臨時の休業日を定めることができる。

第3章 入学、退学、休学、転部及び転科

(入学の時期)

第9条 入学の時期は学年の始めとする。

(入学資格)

第10条 本学に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験又は大学入学資格検定規程(昭和26年文部省令第13号)により文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者
- (8) 本学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

(入学の出願)

第9条 入学の時期は学年の始めとする。

(入学資格)

第10条 本学に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験又は大学入学資格検定規程(昭和26年文部省令第13号)により文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者
- (8) 本学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

(入学の出願)

<p>第11条 本学に入学を志願する者は、本学所定の書類に入学検定料を添えて指定の期日までに提出しなければならない。</p>	<p>第11条 本学に入学を志願する者は、本学所定の書類に入学検定料を添えて指定の期日までに提出しなければならない。</p>
<p>2 入学検定料については、別に定める。 (入学者の選考)</p>	<p>2 入学検定料については、別に定める。 (入学者の選考)</p>
<p>第12条 前条の入学志願者については、選考により入学を許可すべき者を決定する。</p>	<p>第12条 前条の入学志願者については、選考により入学を許可すべき者を決定する。</p>
<p>2 前項の選考の方法及び基準は、運営会議の議を経て学長が定める。 (入学手続及び入学許可)</p>	<p>2 前項の選考の方法及び基準は、運営会議の議を経て学長が定める。 (入学手続及び入学許可)</p>
<p>第13条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、指定の期日までに、誓約書その他本学所定の書類を提出するとともに、所定の入学金及び学費を納付しなければならない。</p>	<p>第13条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、指定の期日までに、誓約書その他本学所定の書類を提出するとともに、所定の入学金及び学費を納付しなければならない。</p>
<p>2 学長は前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。</p>	<p>2 学長は前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。</p>
<p>3 前項により入学を許可された者は、入学式に出席し、かつ入学の宣誓をしなければならない。 (編入学、再入学)</p>	<p>3 前項により入学を許可された者は、入学式に出席し、かつ入学の宣誓をしなければならない。 (編入学、再入学)</p>
<p>第14条 本学に編入学を志願する者があるときは、編入学定員の範囲において、又は、編入学定員のない学科においては欠員のある場合に限られ、選考のうえ入学を許可する。</p>	<p>第14条 本学に編入学を志願する者があるときは、編入学定員の範囲において、又は、編入学定員のない学科においては欠員のある場合に限られ、選考のうえ入学を許可する。</p>
<p>2 本学に再入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限られ、選考のうえ入学を許可する。</p>	<p>2 本学に再入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限られ、選考のうえ入学を許可する。</p>
<p>3 編入学及び再入学について必要な事項は、別に定める。</p>	<p>3 編入学及び再入学について必要な事項は、別に定める。</p>

<p>(退学)</p> <p>第15条 退学しようとする者は、学長の許可を受けなければならぬ。</p> <p>(休学)</p> <p>第16条 疾病その他やむを得ない事情により、3か月以上にわたって修学することのできない者は、学長が許可した場合休学することができる。</p> <p>(休学の期間)</p> <p>第17条 休学期間は学年末を超えることはできない。ただし、特別の理由がある場合は、学長が許可した場合、休学期間を延長することができる。</p> <p>2 休学期間は通算して2年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、更に2年以内に限り延長することができる。</p> <p>3 休学期間は在学年数に算入しない。</p> <p>(復学)</p> <p>第18条 休学の理由が消滅した場合は、学長が許可した場合、復学することができる。ただし、休学期間が3か月未満となる場合は、休学許可を取り消す。</p> <p>(除籍)</p> <p>第19条 学長は、次の各号のいずれかに該当する者を除籍する。</p> <p>(1) 第5条第2項に定める在学年限を超えた者</p> <p>(2) 学費の納入を怠り、督促してもなお納入しない者</p> <p>(3) 死亡した者</p>	<p>(退学)</p> <p>第15条 退学しようとする者は、学長の許可を受けなければならぬ。</p> <p>(休学)</p> <p>第16条 疾病その他やむを得ない事情により、3か月以上にわたって修学することのできない者は、学長が許可した場合休学することができる。</p> <p>(休学の期間)</p> <p>第17条 休学期間は学年末を超えることはできない。ただし、特別の理由がある場合は、学長が許可した場合、休学期間を延長することができる。</p> <p>2 休学期間は通算して2年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、更に2年以内に限り延長することができる。</p> <p>3 休学期間は在学年数に算入しない。</p> <p>(復学)</p> <p>第18条 休学の理由が消滅した場合は、学長が許可した場合、復学することができる。ただし、休学期間が3か月未満となる場合は、休学許可を取り消す。</p> <p>(除籍)</p> <p>第19条 学長は、次の各号のいずれかに該当する者を除籍する。</p> <p>(1) 第5条第2項に定める在学年限を超えた者</p> <p>(2) 学費の納入を怠り、督促してもなお納入しない者</p> <p>(3) 死亡した者</p>
---	---

<p>(4) 第13条第3項に定める入学式に正当な理由なく欠席した者又は宣誓しない者 (転部)</p> <p>第20条 転部を願い出た者については、志望する学部^に欠員がある場合に限り、選考のうえ許可することがある。 (転科)</p> <p>第20条の2 転科を願い出た者については、志望する学部^に欠員がある場合に限り、選考のうえ許可することがある。</p> <p>第4章 教育課程及び履修方法等 (授業科目)</p> <p>第21条 教育課程は、授業科目を4年間に配当し、これを編成する。</p> <p>2 授業科目を、<u>共通科目</u>及び専門教育科目に区分し、区ごとに修得すべき単位数を定める。</p> <p>3 専門教育科目については、学科ごとに必修科目を定める。</p> <p>4 開設する授業科目の名称、単位数、配当年次等については、学部規則に定める。</p> <p>5 授業科目の履修について必要な事項は、別に定める。</p> <p>6 授業科目は、その授業の方法、内容及び年間の計画並びに成績評価の基準をあらかじめ学生に明示するものとする。 (授業の方法)</p> <p>第21条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかに</p>	<p>(4) 第13条第3項に定める入学式に正当な理由なく欠席した者又は宣誓しない者 (転部)</p> <p>第20条 転部を願い出た者については、志望する学部^に欠員がある場合に限り、選考のうえ許可することがある。 (転科)</p> <p>第20条の2 転科を願い出た者については、志望する学部^に欠員がある場合に限り、選考のうえ許可することがある。</p> <p>第4章 教育課程及び履修方法等 (授業科目)</p> <p>第21条 教育課程は、授業科目を4年間に配当し、これを編成する。</p> <p>2 授業科目を、<u>総合科目</u>及び専門教育科目に区分し、区ごとに修得すべき単位数を定める。</p> <p>3 専門教育科目については、学科ごとに必修科目を定める。</p> <p>4 開設する授業科目の名称、単位数、配当年次等については、学部規則に定める。</p> <p>5 授業科目の履修について必要な事項は、別に定める。</p> <p>6 授業科目は、その授業の方法、内容及び年間の計画並びに成績評価の基準をあらかじめ学生に明示するものとする。 (授業の方法)</p> <p>第21条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかに</p>
---	---

<p>より又はこれらの併用により行うものとする。</p>	<p>より又はこれらの併用により行うものとする。</p>
<p>2 文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。</p>	<p>2 文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。</p>
<p>3 第1項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。</p> <p>(教育内容等の改善のための組織的な研修等)</p>	<p>3 第1項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。</p> <p>(教育内容等の改善のための組織的な研修等)</p>
<p>第21条の3 本学は、本学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。</p> <p>(教職課程)</p>	<p>第21条の3 本学は、本学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。</p> <p>(教職課程)</p>
<p>第22条 第21条に定めるもののほか、教職に関する授業科目をおく。</p>	<p>第22条 第21条に定めるもののほか、教職に関する授業科目をおく。</p>
<p>2 前項の授業科目の名称、単位数、配当年次等は、学部規則に定める。</p> <p>(単位の計算方法)</p>	<p>2 前項の授業科目の名称、単位数、配当年次等は、学部規則に定める。</p> <p>(単位の計算方法)</p>
<p>第23条 1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算する。</p>	<p>第23条 1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算する。</p>
<p>(1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。</p>	<p>(1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。</p>
<p>(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。</p>	<p>(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。</p>

<p>(3) 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合の1単位の授業時間については、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準に基づき計算する。</p> <p>2 前項の規定に関わらず、卒業研究、卒業制作及び卒業設計の授業科目については、学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合、これに必要な学修等を考慮して単位数を定める。</p> <p>(授業期間)</p> <p>第23条の2 各授業科目の授業は、<u>13週</u>にわたる期間を単位として行う。ただし、教育上の特別の必要があると認められる場合は、<u>13週</u>より短い特定の期間において授業を行うことができる。</p> <p>(単位の授与等)</p> <p>第24条 授業科目を履修し、その試験等に合格した者には、所定の単位を与える。</p> <p>2 試験等の成績は、A(優)、B(良)、C(可)、D(不可)をもって表し、A(優)、B(良)、C(可)を合格とする。</p> <p>3 前項の規定にかかわらず、特に定める授業科目の成績は、G(合格)、D(不合格)をもって表す。</p> <p>4 授業科目の成績評価は、学部規則第23条に従って適切に行うものとする。</p> <p>5 試験について必要な事項は、別に定める。</p> <p>(他の大学等における授業科目の履修又は学修)</p>	<p>(3) 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合の1単位の授業時間については、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準に基づき計算する。</p> <p>2 前項の規定に関わらず、卒業研究、卒業制作及び卒業設計の授業科目については、学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合、これに必要な学修等を考慮して単位数を定める。</p> <p>(授業期間)</p> <p>第23条の2 各授業科目の授業は、<u>15週</u>にわたる期間を単位として行う。ただし、教育上の特別の必要があると認められる場合は、<u>15週</u>より短い特定の期間において授業を行うことができる。</p> <p>(単位の授与等)</p> <p>第24条 授業科目を履修し、その試験等に合格した者には、所定の単位を与える。</p> <p>2 試験等の成績は、A(優)、B(良)、C(可)、D(不可)をもって表し、A(優)、B(良)、C(可)を合格とする。</p> <p>3 前項の規定にかかわらず、特に定める授業科目の成績は、G(合格)、D(不合格)をもって表す。</p> <p>4 授業科目の成績評価は、学部規則第23条に従って適切に行うものとする。</p> <p>5 試験について必要な事項は、別に定める。</p> <p>(他の大学等における授業科目の履修又は学修)</p>
--	--

<p>第24条の2 教育上有益と認めるときは、学生が本学の定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなす。</p> <p>2 教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与える。</p> <p>3 学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合には、第1項の規定を準用する。</p> <p>4 前3項により修得したものとみなし、又は与える単位数は、合わせて60単位を超えないものとする。</p> <p>5 教育上有益と認める基準及び手続きについては、別に定める。</p> <p>(入学前の既修得単位等の認定)</p> <p>第24条の3 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入學する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学に入學した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなす。</p> <p>2 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入學する前に行った前条第2項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与える。</p> <p>3 学生が外国の大学又は短期大学において修得した単位については、第1項の規定を準用する。</p> <p>4 前3項により修得したものとみなし、又は与える単位数は、編入学及</p>	<p>第24条の2 教育上有益と認めるときは、学生が本学の定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなす。</p> <p>2 教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与える。</p> <p>3 学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合には、第1項の規定を準用する。</p> <p>4 前3項により修得したものとみなし、又は与える単位数は、合わせて60単位を超えないものとする。</p> <p>5 教育上有益と認める基準及び手続きについては、別に定める。</p> <p>(入学前の既修得単位等の認定)</p> <p>第24条の3 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入學する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学に入學した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなす。</p> <p>2 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入學する前に行った前条第2項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与える。</p> <p>3 学生が外国の大学又は短期大学において修得した単位については、第1項の規定を準用する。</p> <p>4 前3項により修得したものとみなし、又は与える単位数は、編入学及</p>
--	---

び再入学の場合を除き、前条第1項から第3項までにより本学において修得したものとみなし、又は与える単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

- 5 教育上有益と認める基準及び手続きについては、別に定める。

(特別の課程)

第24条の4 本学は、教育研究の成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するため、文部科学大臣が別に定めるところにより、本学の学生以外の者を対象とした特別の課程を編成し、これを修了した者に対し、修了の事実を証する証明書を交付することができる。

- 2 特別の課程の編成等に関し必要な事項は、別に定める。

第5章 卒業及び学士の学位等

(卒業の要件)

第25条 本学を卒業するためには、4年(編入学又は再入学した者については、第14条第3項によって定める年数)以上在学し、学部規則に定めるところにより、124単位以上を修得しなければならない。

- 2 学長は、前項の規定にかかわらず、本学の学生として3年以上在学し、大学院への進学を希望している者で、学部の定める卒業要件を満たし、かつ、優秀な成績を修めたと認めた場合、学部長が推薦し教授会の意見を参酌し、卒業を認めることができる。

- 3 第1項の規定により卒業の要件として修得しなければならない124単位のうち、第21条の2第2項の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。

び再入学の場合を除き、前条第1項から第3項までにより本学において修得したものとみなし、又は与える単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

- 5 教育上有益と認める基準及び手続きについては、別に定める。

(特別の課程)

第24条の4 本学は、教育研究の成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するため、文部科学大臣が別に定めるところにより、本学の学生以外の者を対象とした特別の課程を編成し、これを修了した者に対し、修了の事実を証する証明書を交付することができる。

- 2 特別の課程の編成等に関し必要な事項は、別に定める。

第5章 卒業及び学士の学位等

(卒業の要件)

第25条 本学を卒業するためには、4年(編入学又は再入学した者については、第14条第3項によって定める年数)以上在学し、学部規則に定めるところにより、128単位以上を修得しなければならない。

- 2 学長は、前項の規定にかかわらず、本学の学生として3年以上在学し、大学院への進学を希望している者で、学部の定める卒業要件を満たし、かつ、優秀な成績を修めたと認めた場合、学部長が推薦し教授会の意見を参酌し、卒業を認めることができる。

- 3 第1項の規定により卒業の要件として修得しなければならない128単位のうち、第21条の2第2項の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。

<p>(卒業)</p> <p>第26条 学長は、前条の規定による卒業の要件を備えた者には、教授会の意見を参酌し、卒業を認め、学士の学位を授与する。</p> <p>2 学士の学位は、卒業した学部に応じて、次のとおり定める。</p> <p>工学部 学士(工学)</p> <p>医療健康科学部 医療科学科 学士(工学)</p> <p>理学療法学科 学士(理学療法学)</p> <p>健康スポーツ科学科 学士(健康科学)</p> <p>情報通信工学部 情報工学科 学士(情報工学)</p> <p>通信工学科 学士(工学)</p> <p>総合情報学部 学士(情報学)</p> <p>(資格の取得)</p> <p>第27条 本学において取得することができる教育職員免許状の種類は、次のとおりとする。</p>	<p>(卒業)</p> <p>第26条 学長は、前条の規定による卒業の要件を備えた者には、教授会の意見を参酌し、卒業を認め、学士の学位を授与する。</p> <p>2 学士の学位は、卒業した学部に応じて、次のとおり定める。</p> <p>工学部 学士(工学)</p> <p>医療健康科学部 医療科学科 学士(工学)</p> <p>理学療法学科 学士(理学療法学)</p> <p>健康スポーツ科学科 学士(健康科学)</p> <p>情報通信工学部 情報工学科 学士(情報工学)</p> <p>通信工学科 学士(工学)</p> <p>総合情報学部 学士(情報学)</p> <p>建築・デザイン学部 学士(工学)</p> <p>(資格の取得)</p> <p>第27条 本学において取得することができる教育職員免許状の種類は、次のとおりとする。</p>																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>学部</th> <th>学科</th> <th>免許状の種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">工学部</td> <td>電気電子工学科</td> <td>中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)(情報)</td> </tr> <tr> <td>電子機械工学科</td> <td>中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)</td> </tr> </tbody> </table>	学部	学科	免許状の種類	工学部	電気電子工学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)(情報)	電子機械工学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>学部</th> <th>学科</th> <th>免許状の種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">工学部</td> <td>電気電子工学科</td> <td>中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)(情報)</td> </tr> <tr> <td>電子機械工学科</td> <td>中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)</td> </tr> </tbody> </table>	学部	学科	免許状の種類	工学部	電気電子工学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)(情報)	電子機械工学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)
学部	学科	免許状の種類															
工学部	電気電子工学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)(情報)															
	電子機械工学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)															
学部	学科	免許状の種類															
工学部	電気電子工学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)(情報)															
	電子機械工学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)															

機械工学科	中学校教諭一種免許状(数学)(技術) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)
基礎理工学科	中学校教諭一種免許状(数学)(理科) 高等学校教諭一種免許状(数学)(理科)
環境科学科	中学校教諭一種免許状(理科)(技術) 高等学校教諭一種免許状(理科)(工業)
医療健康科学部	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)
健康スポーツ科学科	中学校教諭一種免許状(保健体育) 高等学校教諭一種免許状(保健体育)
情報通信工学部	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)(情報)
通信工学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)(情報)
総合情報学部	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(情報)

2 前項の教育職員免許状授与の所要資格を取得しよととする者は、第25条に定める卒業の要件を満たすほか、教育職員免許法(昭和24年法律第147号)及び同法施行規則(昭和29年文部省令第26号)に定める所要の単位を修得しなければならない。

機械工学科	中学校教諭一種免許状(数学)(技術) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)
基礎理工学科	中学校教諭一種免許状(数学)(理科) 高等学校教諭一種免許状(数学)(理科)
医療健康科学部	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)
健康スポーツ科学科	中学校教諭一種免許状(保健体育) 高等学校教諭一種免許状(保健体育)
情報通信工学部	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)(情報)
通信工学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)(情報)
総合情報学部	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(情報)

2 前項の教育職員免許状授与の所要資格を取得しよととする者は、第25条に定める卒業の要件を満たすほか、教育職員免許法(昭和24年法律第147号)及び同法施行規則(昭和29年文部省令第26号)に定める所要の単位を修得しなければならない。

第7章 学費及びその他の費用 (学費)	第7章 学費及びその他の費用 (学費)
第31条 入学金及び学費の金額は別表第4のとおりとする。	第31条 入学金及び学費の金額は別表第4のとおりとする。
(その他の費用)	(その他の費用)
第32条 学費の他学習等に必要なる費用は、別にこれを徴収することがある。	第32条 学費の他学習等に必要なる費用は、別にこれを徴収することがある。
(学費等の納入)	(学費等の納入)
第33条 学費及びその他の費用の納入については、別に定める。	第33条 学費及びその他の費用の納入については、別に定める。
(休学の場合の学費)	(休学の場合の学費)
第34条 休学期間中の者については学費を免除し、在籍料を徴収する。	第34条 休学期間中の者については学費を免除し、在籍料を徴収する。
2 在籍料については、別に定める。	2 在籍料については、別に定める。
(既納の学費等)	(既納の学費等)
第35条 既納の学費等は原則としてこれを返付しない。	第35条 既納の学費等は原則としてこれを返付しない。
第8章 賞罰	第8章 賞罰
(表彰)	(表彰)
第36条 次の各号のいずれかに該当する者に対し、学部長は学部教授会の議を経て、これを賞することがある。	第36条 次の各号のいずれかに該当する者に対し、学部長は学部教授会の議を経て、これを賞することがある。
(1) 成績特に優秀なる者	(1) 成績特に優秀なる者
(2) 品行方正にして他学生の模範となる者	(2) 品行方正にして他学生の模範となる者
(懲戒)	(懲戒)
第37条 本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をし	第37条 本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をし

<p>た者は、学部教授会の議を十分に考慮した上で、学長が懲戒する。</p> <p>2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。</p> <p>3 前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する者についてこれを行う。</p> <p>(1) 品行不良で改善の見込みがないと認められる者</p> <p>(2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者</p> <p>(3) 正当の理由なくして、出席常でない者</p> <p>(4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者</p> <p>4 懲戒の手続きについては、別に定める学生の懲戒処分に関する規則による。</p>	<p>た者は、学部教授会の議を十分に考慮した上で、学長が懲戒する。</p> <p>2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。</p> <p>3 前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する者についてこれを行う。</p> <p>(1) 品行不良で改善の見込みがないと認められる者</p> <p>(2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者</p> <p>(3) 正当の理由なくして、出席常でない者</p> <p>(4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者</p> <p>4 懲戒の手続きについては、別に定める学生の懲戒処分に関する規則による。</p>
<p style="text-align: center;">第9章 職員組織 (職員)</p>	<p style="text-align: center;">第9章 職員組織 (職員)</p>
<p>第38条 本学の職員の種類は次のとおりとする。</p> <p>学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員</p> <p>2 学長は、人格が高潔で、学識が優れ、かつ、大学運営に関し識見を有する者であって、校務をつかさどり所属職員を統督する。</p> <p>3 教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。</p> <p>4 准教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知</p>	<p>第38条 本学の職員の種類は次のとおりとする。</p> <p>学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員</p> <p>2 学長は、人格が高潔で、学識が優れ、かつ、大学運営に関し識見を有する者であって、校務をつかさどり所属職員を統督する。</p> <p>3 教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。</p> <p>4 准教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知</p>

<p>識、能力及び実績を有し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。</p>	<p>識、能力及び実績を有し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。</p>
<p>5 講師は、教授又は准教授に準ずる。</p>	<p>5 講師は、教授又は准教授に準ずる。</p>
<p>6 助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識及び能力を有し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。</p>	<p>6 助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識及び能力を有し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。</p>
<p>7 助手は、その所属する組織における教育の円滑な実施に必要な業務に従事する。</p>	<p>7 助手は、その所属する組織における教育の円滑な実施に必要な業務に従事する。</p>
<p>8 事務職員は学内の事務をつかさどるほか、学生の実験、実習等の技術上の指導及び設備又は機器等の管理並びに整理にあたる。</p>	<p>8 事務職員は学内の事務をつかさどるほか、学生の実験、実習等の技術上の指導及び設備又は機器等の管理並びに整理にあたる。</p>
<p>第38条の2 本学に必要なに応じて副学長を置くことができる。</p>	<p>第38条の2 本学に必要なに応じて副学長を置くことができる。</p>
<p>2 副学長は、学長を補佐し、その命を受けて本学の管理運営に関する重要な事項についての企画及び各部門間の調整を行う。</p>	<p>2 副学長は、学長を補佐し、その命を受けて本学の管理運営に関する重要な事項についての企画及び各部門間の調整を行う。</p>
<p>第38条の3 学部に学部長をおき、教授をもって充てる。</p>	<p>第38条の3 学部に学部長をおき、教授をもって充てる。</p>
<p>2 学部長は、学長を補佐し、その命を受けて本学の教学運営業務を遂行し、各学部内の業務を処理するとともに、各学部に所属する職員を指揮監督する。</p>	<p>2 学部長は、学長を補佐し、その命を受けて本学の教学運営業務を遂行し、各学部内の業務を処理するとともに、各学部に所属する職員を指揮監督する。</p>
<p>第38条の4 本学は、教育研究活動等の組織的かつ効果的な運営を図るため、教員と事務職員等との適切な役割分担の下で、これらの者の間の連携体制を確保し、これらの者の協働によりその職務を行うものとする</p>	<p>第38条の4 本学は、教育研究活動等の組織的かつ効果的な運営を図るため、教員と事務職員等との適切な役割分担の下で、これらの者の間の連携体制を確保し、これらの者の協働によりその職務を行うものとする</p>

る。

(事務組織)

第39条 本学に、以下の事務をつかさどるために事務組織を置く。

- (1) 厚生補導に関する事務
- (2) 教務に関する事務
- (3) 入学試験及び入試広報に関する事務
- (4) 学生の就職に関する事務
- (5) 図書館に関する事務
- (6) 研究及び地域連携に関する事務
- (7) 会計及び施設に関する事務
- (8) その他、大学に必要な事務

第10章 運営組織

(運営会議)

第40条 本学に、運営会議をおく。

2 運営会議は、大学及び大学院の運営に関する全学的事項を審議し、学

長の意思決定の円滑化を図る。

3 運営会議に関する事項は、別に定める。

(学部教授会)

第41条 本学の各学部及び共通教育機構に、学部教授会をおく。

2 学部教授会に関する事項は、別に定める。

る。

(事務組織)

第39条 本学に、以下の事務をつかさどるために事務組織を置く。

- (1) 厚生補導に関する事務
- (2) 教務に関する事務
- (3) 入学試験及び入試広報に関する事務
- (4) 学生の就職に関する事務
- (5) 図書館に関する事務
- (6) 研究及び地域連携に関する事務
- (7) 会計及び施設に関する事務
- (8) その他、大学に必要な事務

第10章 運営組織

(運営会議)

第40条 本学に、運営会議をおく。

2 運営会議は、大学及び大学院の運営に関する全学的事項を審議し、学

長の意思決定の円滑化を図る。

3 運営会議に関する事項は、別に定める。

(学部教授会)

第41条 本学の各学部及び共通教育機構に、学部教授会をおく。

2 学部教授会に関する事項は、別に定める。

第42条 削除

第42条の2 削除

第43条 削除

第11章 その他

(施行細則)

第44条 本学則の施行に必要な細則は、別に定める。

(学則の改正)

第45条 本学則の改正は、学部教授会での意見を参酌し、運営会議の審議を経て学長が理事長に上程し、常任理事会での審議を経て理事会で決定する。

附 則

1 この学則は、2024年4月1日から施行する。

2 改正後の第21条、第25条及び第27条の規定にかかわらず、2023年度以前に入学した者は、従前の当該規定を適用する。

3 第4条に規定する収容定員は、2024年度から2026年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科	2024年度			2025年度			2026年度		
	入学	3年次編	収容定員	入学	3年次編	収容定員	入学	3年次編	収容定員
学部									
学科									

第42条 削除

第42条の2 削除

第43条 削除

第11章 その他

(施行細則)

第44条 本学則の施行に必要な細則は、別に定める。

(学則の改正)

第45条 本学則の改正は、学部教授会での意見を参酌し、運営会議の審議を経て学長が理事長に上程し、常任理事会での審議を経て理事会で決定する。

	定員	定員	定員	定員	定員	定員	
工学部	電気電子工学科	80	320	80	320	80	320
	電子機械工学科	80	320	80	320	80	320
	機械工学科	90	360	90	360	90	360
	基礎理工学科	86	266	86	292	86	318
	環境工学科		270		180		90
	建築学科		240		160		80
	小計	336	1,776	336	1,632	336	1,488
医療健康 科学部	医療科学科	80	326	80	322	80	322
	理学療法学科	40	160	40	160	40	160
	健康スポーツ科 学科	70	286	70	282	70	282
	小計	190	772	190	764	190	764
	情報通信 工学部	160	640	160	640	160	640
総合情報 学部	通信工学科	80	320	80	320	80	320
	小計	240	960	240	960	240	960
	デジタルゲーム 学科	140	566	140	562	140	562
ゲーム&メデイ ア学科	ゲーム&メデイ ア学科	110	440	110	440	110	440
	情報学科	90	360	90	360	90	360
	小計	360	1,440	360	1,440	360	1,440

小計	340	1,136,340	1,136,340	1,136,340	1,136,340
建築・デザイン学部	150	150	300	150	450
合計	1,256	3,502,125	3,501,125	1,256	3,502,125

別表第1 削除
別表第2 削除
別表第3 削除

別表第4 入学金及び学費

単位：円

学部	入学金	学費		
		項目	1年次	2年次以降
工学部 情報通信工学部	200,000	授業料	1,282,000	1,482,000
医療健康科学部	200,000	授業料	1,282,000	1,482,000
医療科学科		実験実習料	50,000	50,000

別表第1 削除
別表第2 削除
別表第3 削除

別表第4 入学金及び学費

単位：円

学部	入学金	学費		
		項目	1年次	2年次以降
工学部 情報通信工学部	200,000	授業料	1,282,000	1,482,000
医療健康科学部	200,000	授業料	1,282,000	1,482,000
医療科学科		実験実習料	50,000	50,000

医療健康科学部	200,000	授業料	1,182,000	1,382,000
理学療法学科		実験実習料	300,000	300,000
医療健康科学部	200,000	授業料	1,082,000	1,282,000
健康スポーツ科学科		実習料	100,000	100,000
<u>建築・デザイン学部</u>	<u>200,000</u>	<u>授業料</u>	<u>1,382,000</u>	<u>1,482,000</u>

別表第5 削除

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規則は、大阪電気通信大学学則(以下「学則」という。)に基づき、修学に関して必要な事項を定める。

(学部及び学科の人材の養成に関する目的)

第2条 学則第3条の規定に基づき、各学部の人材の養成に関する目的は、次のとおりとする。

- (1) 工学部は、産業社会の基盤である総合的な工学技術を支え発展させるために、工学技術の基礎知識及び応用に関する実学教育を通じて、学生の学修成果の向上及び学修目標の達成を支援し、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的とする。
- (2) 医療健康科学部は、人々の生活の質の向上をめざし、医療、健康、福祉及びリハビリテーションに活用可能な技術の基礎知識及び応用に関する実学教育を通じて、学生の学修成果の向上及び学修目標の達成を支援し、広く社会で活躍できる専門的人材を育成することを目的とする。
- (3) 情報通信工学部は、社会の基盤技術である情報通信工学にかかわる基礎知識及び応用に関する実学教育を通じて、学生の学修成果の向上及び学修目標の達成を支援し、情報通信技術をベースとして広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的とする。
- (4) 総合情報学部は、多様な生活文化の創造を支えるために、情報技術の基礎知識及び応用に関する実学教育並びにコンテンツ制作活動を通じて、学生の学修成果の向上及び学修目標の達成並びに技能の向上を支援し、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的とする。
- (5) 建築・デザイン学部は、人間を取り巻くあらゆる空間の設計・造形と構築に関する知識と技術の実学教育を通じて、学生の学修成果の向上及び学修目標の達成並びに技能の向上を支援し、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的とする。

2 学則第3条の規定に基づき、各学科の人材の養成に関する目的は、次のとおりとする。

- (1) 電気電子工学科は、電気電子情報社会を支える5分野(半導体デバイス、電気電子回

路、計測制御、情報技術、電力)について基礎から学び、高度情報化社会を支える基盤技術である電気電子工学に含まれる多くの技術分野のうち、学生自身が適性ある分野を講義・実習を通して見極め、自らの目標を設定したうえで、多彩に配置された実験・演習を通して社会で活躍できる技術力を修得した人材を育成することを目的とする。

- (2) 電子機械工学科は、ロボットやIoT、自動運転に代表される「メカトロニクス」の基礎である機械、電気電子、計測制御、情報の4分野の知識を教授すると共に、学生の適性に即した専門性の高い実験・実習による実践的な深化教育を通して、将来の超スマート社会の実現を担うメカトロニクスエンジニアを育成することを目的とする。
- (3) 機械工学科は、社会活動の基盤を支えるモノづくりに必要不可欠な機械工学の専門知識とそれを活かすための技術を総合的に教授することによって、国内外の産業界で広く活躍できる機械技術者を育成することを目的とする。
- (4) 基礎理工学科は、広範な科学知識、理数系的な思考力、高いコミュニケーション能力を兼ね備えた理数系ジェネラリストとして現代の社会に広く貢献する技術の獲得、また、人の健康維持に関与する食品に関する技術の基礎及び応用力の包括的な教授による「食環境」を守る技術の獲得により、未来に貢献しうる専門的な技術者・研究者や教育者(数学・理科教員等)を育成することを目的とする。
- (5) 医療科学科は、安心・安全な医療・健康を実現するために、医学及び工学を基盤とした医療健康科学について教授研究し、生体計測とデータ処理技術に精通した知能情報エンジニア、医療健康機器の開発や医療安全管理技術に深い理解を有する医療機器のスペシャリスト、臨床現場に貢献できる人間力・応用力を有した臨床工学技士を育成することを目的とする。
- (6) 理学療法学科は、責任感と豊かな人間性、論理的思考の基礎となる科学的素養とともに、最新の医療知識と技術を備えた人材を育成することを目的とする。
- (7) 健康スポーツ科学科は、科学的な視点を持ち、基礎医学やスポーツ科学・健康科学および情報処理技術の知識や技術を修得する。これにより、健康のためのライフスタイルの提言と実践的な指導ができる健康づくり運動や生涯スポーツの指導者の育成、および保健体育科教員や競技スポーツ指導者の育成を目的とする。
- (8) 情報工学科は、人間の活動に不可欠な「情報」を扱うシステムを作り出すための基盤となるコンピュータハードウェア・ソフトウェア・ネットワークに関わる知識と技術を、数理的な知識体系に基づいて、基礎から応用に至るまで実学教育を通して教授することにより、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材の育成を目的とする。

- (9) 通信工学科は、情報通信社会を支える3要素(ブロードバンド・マルチメディア・インターネット)の技術について基礎から教授することにより、情報化社会の発展に貢献する通信のスペシャリストの育成を目的とする。
- (10) デジタルゲーム学科は、デジタルゲームを軸とする主に対話的なエンタテインメントコンテンツ分野の学際的研究や制作を通して、幅広い意味でのエンタテインメントに関する高度な知識と技術の修得を支援し、協調性とコミュニケーション能力を持って、広く社会及び産業界で継続的に貢献できる人材を育成することを目的とする。
- (11) ゲーム&メディア学科は、エンタテインメントコンテンツの企画・制作・教育を軸とするデジタル分野の学際的研究や制作を行い、関連するメディアの幅広い知識と高度な制作技術を修得し、それらのコンテンツの意義や魅力を広く社会に発信することでビジネスにつなげ、社会で継続的に貢献できる人材を育成することを目的とする。
- (12) 情報学科は、進化し続けるICTやIoT技術の基盤となる知識の修得、即戦力となり得る実践力の獲得、コミュニケーション能力等を中心とした社会性の向上の3項目を教育目標とし、情報のスペシャリストとして社会で活躍できる人材の育成を目的とする。
- (13) 建築・デザイン学科は、すべての人々が安全で快適に生活できる社会を支える都市と建築、インテリアにいたる幅広いスケールの実空間や、デジタル技術により構築された情報空間など、現実と仮想を問わない、人間を取り巻くありとあらゆる空間の設計・造形と構築に関する知識と技術を講義する実学教育を通じて、学生の人間的成長を支援し、広く社会及び産業界で活躍でき、持続可能な社会の発展に貢献することができる専門的人材の育成を目的とする。

(教育課程の編成方法)

第3条 教育課程は、各授業科目を必修科目、選択必修科目及び選択科目に分け、これを4年間に配当し、編成する。

2 前項に規定する必修科目、選択必修科目及び選択科目の区分は次のとおりとする。

- (1) 必修科目とは、卒業までに必ず単位を修得しなければならない授業科目をいう。
- (2) 選択必修科目とは、指定された授業科目の中から一定の単位を修得しなければならない授業科目をいう。
- (3) 選択科目とは、科目の区分ごとに所定の単位数を修得しなければならない授業科目をいう。

(授業科目)

第4条 学則第21条に基づく授業科目の名称、単位数、必修科目・選択必修科目・選択科目の別

及び配当年次(以下「教育課程」という。)は別表第1のとおりとする。

- 2 入学時に適用された教育課程は、原則として卒業時まで適用する。ただし、転部・転科及び再入学にあたっては、転部・転科及び再入学先の教育課程を適用する。

(教職課程)

第5条 学則第22条に基づく教職に関する授業科目の名称、単位数、必修科目・選択必修科目・選択科目の別及び配当年次は別表第2のとおりとする。

(授業科目の開講期間)

第6条 第4条第1項に定める授業科目は、学則第7条に定める前期若しくは後期又はその双方の学期に亘って配置し開講する。

- 2 前項の授業科目の中には、特定期間に集中して授業を行うことがある。
- 3 一部の授業科目については、年度によってその開講する期間を変更することがある。
- 4 一部の授業科目については、年度によって開講しないことがある。

(授業時間)

第7条 授業時間は、次のとおりとする。

時限	寝屋川キャンパス	四條畷キャンパス
1時限	9:00~10:45	9:30~11:15
2時限	10:55~12:40	11:25~13:10
3時限	13:25~15:10	13:55~15:40
4時限	15:20~17:05	15:50~17:35
5時限	17:15~19:00	17:45~19:30

- 2 原則として、授業時間は、1時限から4時限までとする。

(クラス編成)

第8条 授業科目によっては、クラスに分けて授業を行うことがある。

第2章 授業科目の履修

(履修登録)

第9条 履修する授業科目は、登録しなければならない。

- 2 登録の時期は、前期及び後期の初めとする。
- 3 不合格等により、同じ授業科目を再度履修するときは、改めて登録しなければならない。
- 4 登録をしない授業科目は、単位を与えない。
- 5 一つの授業時間に2科目以上の授業科目を重複して登録することはできない。
- 6 上位年次配当の授業科目は登録することができない。

7 単位を取得した授業科目は、再度登録することができない。

(授業出席の義務)

第10条 学生は、授業に出席し、遅刻、欠席等のないように努めなければならない。

2 正当な理由がなく出席が常でない者は、科目担当者の判断によりその科目の受験資格を失うことがある。

3 欠席証明書は、次の各号のいずれかに該当する事由で授業を欠席した場合に、その理由を証する書類を提出した者に対して学務課又は四條畷学務課で発行する。

(1) 病気又は負傷等、医師が就学に耐えられないと判断したもの(医師の診断書が必要)

(2) 3親等以内の親族の死亡又は葬儀による忌引(公的証明書の写し又は葬儀日程がわかるものが必要。原則3日間以内)

(3) 交通機関による1時間以上の遅延(交通機関の遅延証明書が必要)

(4) 学会発表及び本学の教育目的と密接な関係があると認められる重要な資格試験のため(事前に証明できる書類を添付し、申し出が必要)

(5) 就職試験(事前に証明できる書類を添付し、申し出が必要)

(6) 教育実習及び教員免許状取得に関わる介護等の体験(事前の申し出が必要)

(7) 課外活動の公式試合(事前に証明できる書類を添付し、申し出が必要)

(8) 大阪府以外の地域の特別警報又は警報等による登学不能

(9) その他やむを得ないと認めた場合

第3章 進級・卒業要件

(進級・卒業要件)

第11条 各年次への進級及び卒業の要件は、別表第3のとおりとする。

(進級・卒業判定)

第12条 進級の判定は、各年度の3月に行う。

2 卒業の判定は、4年次生及び卒業の見込がある3年次生について行い、当該判定の時期は、第24条第2項及び第3項に定める単位授与の時期とする。

3 前項により卒業判定した結果、卒業要件を満たす場合、当該時期をもって卒業とする。ただし、年度途中の場合は、当該学生の願い出により、当該年度の9月又は3月に変更を認めることがある。

(卒業延期)

第13条 4年次生で第11条の要件を満たさず卒業できなかった場合は、卒業延期とする。

2 卒業延期となった者は、卒業延期生という。

第4章 成績評価の方法

(成績評価の方法)

第14条 成績評価方法は、試験、小テスト、課題レポート、その他本学が定める適切な手法により行う。

(試験の区分)

第14条の2 試験は、定期試験、追試験及び再試験とする。

- 2 試験は、面接方式又はオンライン方式によって行う。
- 3 定期試験は、学修到達度を確認する試験であり、原則として学期末に行う。ただし、特別の事情により学期末以外に行うことがある。
- 4 追試験は、病気その他やむを得ない理由により定期試験を受験できなかった者に対して行う試験をいう。
- 5 再試験は、試験の結果、不合格となった授業科目について4年次生に限り再度行う試験をいう。

(試験の時間)

第15条 定期試験の時間は、第7条に定める時間を準用する。

- 2 試験は定刻までに入室すること。試験時間は60分とする。

(受験の制限)

第16条 次の各号のいずれかに該当する場合は、試験を受験することはできない。

- (1) 休学又は停学期間中の場合
 - (2) 授業科目担当者より出席が常でない等の理由により受験資格なしと認められた場合
- (学生証等の提示)

第17条 試験の受験者は、定刻までに指定された試験室に入り、常に学生証を机の上に置かなければならない。

- 2 再試験の受験者は、学生証及び受験票(以下「学生証等」という。)を机の上に置かなければならない。
- 3 オンライン試験により実施する場合、第1項の試験室とは周囲に他者の存在が無くオンラインに接続できる環境を指す。
- 4 受験者は学生証等を、試験監督者の指示がある場合、速やかにカメラで撮影できる状態にしておかなければならない。

(遅刻及び退室)

第18条 試験開始後30分以内の遅刻は、受験を認める。ただし、試験時間は延長しない。

2 受験者の退室は、試験開始後40分を経過してから認める。

(参照・持込許可条件)

第19条 試験時における参照・持込許可物については、次のとおりとする。

記号	参照・持込許可物
A	一切不可
B	すべて可
C	教科書
D	自筆ノート(コピーは一切不可)
E	電卓(機能性能上の限定はしない)
F	<C、D、E以外の指定物>

2 受験中、机上におくことのできる物品は、学生証等及び前項に規定する物品のほかは次のとおりとする。

- (1) 筆記用具(ボールペン、万年筆、鉛筆、消しゴム、小刀等)
 - (2) 時計(ただし、電子計算機、辞書機能つきは除く。)
 - (3) 定規、物差し、コンパス(ただし、科目担当者が使用を認めない場合がある。)
- (不正行為)

第20条 試験中に不正行為をした者に対する取り扱いは、別に定める。

(追試験)

第21条 追試験を受験できる者は、次の各号のいずれかに該当する事由により定期試験を受験できなかった者とする。

- (1) 病気又は負傷等、医師が就学に耐えられないと判断したもの(医師の診断書が必要)
- (2) 3親等以内の親族の死亡又は葬儀による忌引(公的証明書の写し又は葬儀日程がわかるものが必要。原則3日間以内)
- (3) 交通機関による1時間以上の遅延(交通機関の遅延証明書が必要)
- (4) 学会発表及び本学の教育目的と密接な関係があると認められる重要な資格試験のため(事前に証明できる書類を添付し、申し出が必要)
- (5) 就職試験(事前に証明できる書類を添付し、申し出が必要)
- (6) その他学部長がやむを得ないと認めた場合(原則として学務課又は四條畷学務課が指定する証明書が必要)

2 追試験の受験を希望する場合は、当該科目の試験実施日から数えて3日以内(窓口休止日を除く)に、「追試験受験願」と受験できなかった理由を証する書類を添えて提出しなければな

らない。

3 追試験を欠席した者については、再度の追試験を行わない。

(再試験)

第22条 再試験を受験できる者は、4年次生で、かつ次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 卒業要件に対する単位不足者

(2) 教育職員免許状取得又は無線従事者免許取得のための必要単位不足者

2 再試験を受験できる科目は、4年次に履修した科目で、試験の結果、次条に規定するD評価を得た科目に限る。

3 第1項第1号の不足単位数のうち、選択必修科目及び選択科目の受験できる単位数は、それぞれの不足単位数の3倍までとする。

4 再試験を実施しない授業科目は、次のとおりとする。

(1) 定期試験を実施しない実験、実習、実技、演習又は製図の授業科目

(2) 教職課程における次の科目

代数学1、代数学2、幾何学1、幾何学2

(3) その他学科が指定する授業科目

5 再試験は、年度末に実施する。ただし、卒業延期生については、6月及び9月に実施することがある。

6 再試験の受験手続きは、指定の期日に再試験受験願を提出し、別に定める再試験料を納入しなければならない。

第5章 成績及び単位

(成績の評価)

第23条 成績の評価は、次の基準のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。

2 成績は、最高を100点とし、60点以上を合格とする。

評語	点数
A	100点～80点
B	79点～70点
C	69点～60点
D	59点～0点

3 未受験等により評価不可能の場合は、Eの評語をもって表す。

4 休学又は懲戒による停学が含まれる場合は、登録した授業科目の成績を評価しないことがある。

5 学則第24条第3項に規定するG(合格)、D(不合格)の評語をもって表す授業科目は、次のとおりとする。

- (1) 卒業研究、卒業制作又は卒業設計
- (2) その他学科で定める授業科目

6 学則第24条の2、第24条の3及び編入学に関する規則第6条の規定により単位を認定した授業科目については、Nの評語をもって表す。

(単位の授与)

第24条 前条の規定により、合格と判定した授業科目については、所定の単位を与える。

2 単位を授与する月は、9月又は3月とする。

3 卒業延期生に対しては、再試験等で合格した授業科目について、前項に規定するほか、6月に単位を与える場合がある。

(総合成績評価)

第25条 第23条の成績の評価に対して次の各号に掲げるグレード・ポイントを設定し、不合格の授業科目を含めて、履修科目のグレード・ポイントの平均(グレード・ポイント・アベレージ(以下「GPA」という。))を算出し、総合成績評価を行う。

成績評価(100点満点)	科目グレード・ポイント
(1) 90点以上	4
(2) 80点以上89点以下	3
(3) 70点以上79点以下	2
(4) 60点以上69点以下	1
(5) 59点以下	0
(6) 未受験	0

2 前項のGPAは、科目グレード・ポイントに各科目単位数を乗じ、その総和を履修登録単位数の総和で除して算出する。

3 GPAは、修学指導、学業優秀賞、各種奨学金及び大学院内部進学の対象者選抜等に用いる。

4 GPAの数値により、次の各号の修学指導を行う。

- (1) 年間GPAが0.600未満の者には、学科主任又はグループ担任が修学状況に関する面談を行い、改善を促す。
- (2) 連続する2学期において、各学期のGPAが共に0.600未満の者には、学科主任又はグループ担任が保護者同席の上で、修学に関する指導を行う。
- (3) 1年次後期以降で、連続する3学期において当該期間のGPAが0.600未満の者には、学部

長が退学を勧告することができる。

第6章 その他

(編入学等の教育課程適用)

第26条 編入学、再入学、転部及び転科の者の教育課程は、それぞれ在籍する年次の教育課程を適用する。

(交通機関の運行停止又は台風等による授業及び定期試験の取り扱い)

第27条 交通機関の運行停止又は台風等によって次の各号に定めるいずれかの事態が生じたときの授業及び定期試験の取扱いは、次項及び第3項の定めるところによる。

- (1) 特別警報又は暴風警報が大阪府下のいずれかの地域に発令されたとき
- (2) 次のいずれかの交通機関が、自然災害又は計画運休等により運行を停止しているとき
 - ア 京阪電鉄本線の全面運行停止
 - イ 大阪メトロとJR大阪環状線の同時運行停止
 - ウ JR学研都市線の全面運行停止(四條畷キャンパスのみ)
 - エ 四條畷キャンパスに入構する路線バス(京阪バス及び近鉄バス)の同時運行停止(四條畷キャンパスのみ)

2 授業の取扱いは、次のとおりとする。

- (1) 午前7時以降で前項各号の事態となっている場合は、1時限及び2時限の授業を休講とする。
- (2) 午前10時の時点で前項各号の事態が解消しているときは、3時限からの授業を行う。
- (3) 午前10時以降で前項各号の事態となっている場合は、3時限から5時限までの授業を休講とする。
- (4) 午後4時の時点で前項各号の事態が解消しているときは、6時限からの授業を行う。
- (5) 午後4時以降で前項各号の事態となっている場合は、6時限の授業を休講とする。
- (6) 学外での実習等の場合は、各実習先又は実習担当教員の指示に従うものとする。

3 定期試験期間中の取扱いは、次のとおりとする。ただし、第1項第2号ウ又はエに該当する場合、寝屋川キャンパスについても適用することがある。

- (1) 午前7時以降で第1項各号の事態となっている場合は、1時限及び2時限の定期試験は行わない。
- (2) 午前10時の時点で第1項各号の事態が解消しているときは、3時限からの定期試験を行う。
- (3) 午前10時以降で第1項各号の事態となっている場合は、3時限から5時限までの定期試験

を行わない。

- 4 自然災害又は計画運休以外の事由に伴う運行の停止が発生したとき、授業又は定期試験時間中に、特別警報若しくは暴風警報が発令されたとき、又はその他自然災害等が発生したときの授業及び定期試験の取り扱いについては、前2項の規定にかかわらず、学長の指示による。

(改廃)

第28条 この規則の改廃は、教務委員会からの発議に基づき、運営会議での審議を経て学長が決定し、教授会に報告するとともに理事長に報告する。

附 則

- 1 この規則は、平成10年4月1日から施行する。
- 2 履修要綱(昭和36年4月1日制定)は廃止する。

附 則

この規則は、平成10年6月11日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成11年4月1日から施行する。
- 2 第21条にかかわらず、工学部第1部電子工学科および情報工学部情報工学科に在籍する者のうち平成10年度以前に入学した者、平成11年度2年次以上に編入学または再入学した者には従前の教育課程を適用する。

附 則

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この要綱は、平成14年4月1日から施行する。
- 2 第8条の適用については、工学部第1部および第2部に、この要綱の施行の日(以下「施行日」という。)の前日に在籍する者で、施行日以後も引き続き在籍するものには、従前の規定を適用する。

附 則

この要綱は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成14年10月22日から施行する。

附 則

この要綱は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この要綱は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1第5号については、平成15年度以前に入学した者、平成16年度に2年次以上に編入学または再入学した者、平成17年度に3年次以上に編入学または再入学した者および平成18年度に4年次に再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

この要綱は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この要綱は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1第1号および第3号から第6号までについては平成17年度以前に入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- 1 この要綱は、平成18年9月1日から施行する。
- 2 工学部第2部については、施行日以後も引き続き当該学部在籍する者には、従前の規定を適用する。
- 3 改正後の第18条第3項第2号の適用については、平成17年までの教育課程適用者には、従前の規定を適用する。

附 則

この要綱は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この要綱は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1第2号および第7号から第8号までについては平成20年度以前に入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

この要綱は、平成21年2月3日から施行する。

附 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この要綱は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1第3号については、平成21年度以前に入学した者、平成22年度に2年次以上に再入学した者、平成23年度に3年次以上に再入学した者及び平成24年度に4年次に再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

この要綱は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この要綱は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1第11号については、平成24年度以前に入学した者、平成25年度に2年次以上に編入学、再入学又は転部した者、平成26年度に3年次以上に編入学、再入学又は転部した者及び平成27年度に4年次に再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この要綱は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1第4号及び第6号については、当該学科に平成27年度以前に入学した者、平成28年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成29年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び平成30年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。
- 3 改正後の別表第1第11号については、金融経済学部アセット・マネジメント学科に平成25年

度に入学した者、平成26年度に2年次に転部した者及び平成27年度に3年次に編入学した者に準用する。

附 則

- 1 この要綱は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1第10号については、当該学科に平成28年度以前に入学した者、平成29年度に2年次に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成30年度に3年次に編入学、再入学、転部又は転科した者及び平成31年度に4年次に再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- 1 この要綱は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1第10号については、デジタルゲーム学科に平成29年度以前に入学した者、平成30年度に2年次に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成31年度に3年次に編入学、再入学、転部又は転科した者及び平成32年度に4年次に再入学した者は、従前のデジタルゲーム学科の当該規定を適用する。

附 則

この要綱は、平成30年4月1日より施行する。

附 則

- 1 この要綱は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第21条については、平成29年度以前に入学した者、平成30年度に2年次に編入学又は再入学した者、平成31年度に3年次に編入学又は再入学した者、平成32年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。
- 3 別表第1の各年次進級要件における単位及び科目の指定に関する変更については、従前の教育課程適用者についても適用する。また、当該変更に伴う表外注記の改正についても同様に適用する。

附 則

この要綱は、平成30年10月1日より施行する。

附 則

- 1 この要綱は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1第1号から第11号までについては、平成30年度以前に入学した者、平成31年度に2年次に編入学又は再入学した者、平成32年度に3年次に編入学又は再入学した者、平成33年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- 1 この要綱は、2020年4月1日より施行する。
- 2 改正後の別表第1第5号から第7号までについては、当該学科に2019年度以前に入学した者、2020年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、2021年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び2022年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- 1 この要綱は、2020年4月1日より施行する。
- 2 改正後の別表第1第1号、第6号から第7号及び第9号については、当該学科に2019年度以前に入学した者、2020年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、2021年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び2022年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

この要綱は、2020年10月1日より施行する。

附 則

この規則は、2021年9月1日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、2022年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第3第8号については、2021年度以前に入学した者、2022年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、2023年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び2024年度に4年次に編入学、再入学、転部又は転科した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- 1 この規則は、2022年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第3第2号については、2021年度以前に入学した者、2022年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、2023年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び2024年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- 1 この規則は、2022年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第2にかかわらず、各学科に2021年度以前に入学、編入学又は再入学した者、2022年度に2年次以上に転部又は転科した者及び2023年度に3年次以上に転部又は転科した者

は、従前の当該規定を適用する。

附 則

この規則は、2022年9月6日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、2023年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1—7については、2022年度以前に入学、編入学、再入学、転部又は転科した者、2023年度に2年次以上に再入学、転部又は転科した者、2024年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、2025年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- 1 この規則は、2023年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第3第3号、第4号、第5号及び第9号にかかわらず、2019年度以前に入学、編入学、再入学、転部又は転科した者、2020年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、2021年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び2022年度に4年次に編入学、再入学、転部又は転科した者は、従前の当該規定を適用する。
- 3 改正後の別表第3第8号にかかわらず、2021年度以前に入学、編入学、再入学、転部又は転科した者、2022年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、2023年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び2024年度に4年次に編入学、再入学、転部又は転科した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- 1 この規則は、2023年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第3にかかわらず、2018年度以前に入学、編入学、再入学、転部又は転科した者、2019年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、2020年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び2021年度に4年次に編入学、再入学、転部又は転科した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- 1 この規則は、2024年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第2条、別表第1-4、別表第1-5及び別表第1-6の規定にかかわらず、工学部環境科学科及び建築学科に2023年度以前に入学した学生、2024年度に2年次に編入学、再入学、転部又は転科した学生、2025年度に3年次に編入学、再入学、転部又は転科した学生及び2026年度に4年次に編入学、再入学、転部又は転科した学生は、従前の当該規定を適用する。

別表第I—1 工学部 電気電子工学科

(1) 総合科目

(2020年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件 単位数		
				1年次	2年次	3年次	4年次			
				前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期			
総合科目	人文・社会・自然群	大学の学び リテラシー	総合教養	2	△	2・0				8単位 以上 人文・ 社会・ 自然群、 外国語 群、 健康・ スポーツ 群、 プロジ ェクト スキル 形成群 をあわ せて 22単位 から 40単位 まで
			総合ゼミナール	2	△	2・0				
			社会生活と法	2	△	2・0				
			現代社会と青年の心理	2	△	2・0				
	視野を広げる	異文化の理解	2	△	0・2					
		政治学	2	△	0・2					
		発達心理学	2	△	0・2					
		アジアの言語と文化	2	△	0・2					
	社会と つながる	ヨーロッパの言語と文化	2	△	0・2					
		現代社会を考える	2	△		2・0				
		歴史学の世界	2	△		2・0				
		経済学の世界	2	△		2・0				
		哲学の世界	2	△		2・0				
		文学の世界	2	△		0・2				
		日本国憲法	2	△		0・2				
		教育制度論	2	△		0・2				
	世界を知る	ジェンダー論	2	△		0・2				
		国際交流論	2	△			2・0			
	日本を知る	平和学	2	△			2・0			
		日本の近代史	2	△			0・2			
		技術と倫理	2	△			0・2			
	外国語群	英語	企業社会と労働	2	△			0・2		
			Core English 1	1	□	2・0			選択必 修科目 4単位 以上を 含み 6単位 以上	
Core English 2			1	□	0・2					
Core English 3			1	□	2・0					
Core English 4			1	□	0・2					
Intermediate English 1			1	□		2・0				
Intermediate English 2			1	□		0・2				
Advanced English 1			1	□			2・0			
Advanced English 2		1	□			0・2				
中国語		中国語1	1	△		2・0				
	中国語2	1	△		0・2					
	中国語3	1	△			2・0				
	中国語4	1	△			0・2				
健	健康と スポーツ	健康と スポーツ	1	△	2・0			3単位以 上		
		スポーツ実習1	1	△	2・0					
		スポーツ実習2	1	△	0・2					

		健康スポーツ科学論	2	△		(2・0) (0・2)			
		スポーツ実習3	1	△			(2・0) (0・2)		
プロジェクトスキル形成群	プロジェクト活動	プロジェクト活動スキル入門	2	○	2・0				必修科目 2単位 を含み、 4単位 以上
		プロジェクト活動演習1	2	△		2・0			
		プロジェクト活動演習2	2	△		0・2			
		キャリア設計プロジェクト実践	2	△			2・0		
	日本語活用	日本語上達法1	2	△	2・0				
		日本語上達法2	2	△	0・2				
		日本語活用法	2	△		(2・0) (0・2)			
	地域プロジェクト活動	地域プロジェクト活動1	2	△	0・2				
		地域プロジェクト活動2	2	△		0・2			
社会を知る	インターンシップ	2	△			0・2			

(注) 必選欄 ○：必修科目 □：選択必修科目 △：選択科目

(2) 専門教育科目

(2020年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件 単位数	
				1年次	2年次	3年次	4年次		
				前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期		
共通重点	情報	コンピュータリテラシー1	2	○	2・0				必修科目4単位、 選択科目あわせ て4単位から 6単位まで
		コンピュータリテラシー2	2	△	0・2				
		プログラミング基礎演習	2	○	0・2				
基礎専門科目	数学	基礎数学・演習	3	△	4・0				必修科目8単位、 選択科目をあわ せて15単位から 34単位まで
		基礎解析・演習	3	△	[4・0] [0・4]				
		微分積分・演習	3	△	[4・0] [0・4]	[4・0]			
		多変数の微積分・演習	3	△	[0・4]	[4・0]			
		ベクトルと行列1	2	△	2・0				
		ベクトルと行列2	2	△	0・2				
		微分方程式	2	△		0・2			
		確率・統計	2	△		2・0			
	解析学	2	△			2・0			
	物理	物理学1・演習	3	○	4・0				
		物理学・実験	3	○	0・4				
		物理学2	2	△	0・2				
		現代物理学入門	2	△		2・0			
	工学入門	電気電子工学入門	2	○	2・0				
専門科	実験	工学基礎実験	2	○	4・0				必修科目 42単位、 選択必修科目
		電気電子工学実験1	2	○		4・0			
		電気電子工学実験2	2	○		0・4			

目	電気電子工学実験3	2	○			4・0		2単位、 選択科目を あわせて58単位 から82単位まで
	電気電子工学実験4	2	○			0・4		
電気電子 工学基礎	電気数学・演習	2	○	<4・0> <0・0>				
	基礎電磁気学・演習	2	○	<0・4> <0・0>				
	電磁気学1	2	△		<0・4> <0・0>			
	電磁気学2	2	△		<0・0> <4・0>			
	電気電子設計製図	2	△			2・0		
電気・ 電子回路	電気回路1	2	○	<0・0> <0・4>				
	電気回路2	2	△		<0・0> <0・4>			
	基礎電気回路	2	○	<4・0> <0・0>				
	基礎電子回路	2	○		<4・0> <0・0>			
	電気回路演習	2	○		<4・0> <0・0>			
	電子回路演習	2	□		<0・0> <4・0>			
	デジタル電子回路	2	△			<4・0> <0・0>		
	アナログ電子回路	2	△			0・2		
エネルギー ・ 電気応用	画像・映像工学	2	△			<0・0> <4・0>		
	電気機器	2	△		<0・4> <0・0>			
	パワーエレクトロニクス応用	2	△			0・2		
	パワーエレクトロニクス・演習	2	△			<0・0> <4・0>		
	音響工学	2	△			0・2		
	電気法規と施設管理	2	△				2・0	
	送配電工学	2	△			0・2		
	発電工学	2	△			2・0		
高電圧変電工学	2	△			2・0			
情報	プログラム演習1	2	○			2・0		
	プログラム演習2	2	□			0・2		
	コンピュータ・ハードウェア	2	△			0・2		
	ハードウェア設計演習	2	△			0・2		
	情報工学1	2	○	<0・0> <0・4>				
	情報工学2	2	△		<0・4> <0・0>			
	情報工学3	2	△			<0・4>		

						<0・0>	
	コンピュータ・ソフトウェア・演習	2	△			0・2	
計測制御	制御工学・演習	2	○			<0・4> <0・0>	
	ロボット制御	2	△			2・0	
	デジタル信号処理	2	△			<0・0> <4・0>	
	計測・センサ工学	2	△		0・2		
	信号システム理論特論	2	△				0・2
電子・光デバイス	固体物理学・演習	2	○			<0・0> <4・0>	
	半導体工学・演習	2	○		<4・0> <0・0>		
	電気電子材料	2	△			0・2	
	半導体デバイス	2	△			<4・0> <0・0>	
	光エレクトロニクス	2	△			<0・4> <0・0>	
	量子物理学	2	△				2・0
	半導体デバイス工学	2	△				2・0
専門総合	特別ゼミナール1	2	△	2・0			
	特別ゼミナール2	2	△		0・2		
	特別ゼミナール3	2	△			2・0	
	電気電子連携講座	2	△			0・2	
	プレゼミナール	2	○			0・2	
	電気電子工学創成演習	2	△			0・2	
	異分野協働エンジニアリング・デザイン演習	2	△			1・1	
	卒業研究	8	○				◎・◎

(注) 必選欄 ○：必修科目 □：選択必修科目 △：選択科目

別表第1—2 工学部 電子機械工学科

(1) 総合科目

(2020年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件 単位数		
				1年次	2年次	3年次	4年次			
				前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期			
総合科目 人文・社会・自然群	大学の学び リテラシー	総合教養	2	△	2・0				6単 位以 上	人文・社会・自然群、外国語群、健康・スポーツ群、プロジェクトスキル形成群を
		総合ゼミナール	2	△	2・0					
		社会生活と法	2	△	2・0					
		現代社会と青年の心理	2	△	2・0					
	視野を広げる	異文化の理解	2	△	0・2					
		政治学	2	△	0・2					
		発達心理学	2	△	0・2					
		アジアの言語と文化	2	△	0・2					

		ヨーロッパの言語と文化	2	△	0・2					あわせて18 単位から40 単位まで	
社会と つながる		現代社会を考える	2	△		2・0					
		歴史学の世界	2	△		2・0					
		経済学の世界	2	△		2・0					
		哲学の世界	2	△		2・0					
		文学の世界	2	△		0・2					
		日本国憲法	2	△		0・2					
		教育制度論	2	△		0・2					
		ジェンダー論	2	△		0・2					
世界を知る		国際交流論	2	△			2・0				
		平和学	2	△			2・0				
日本を知る		日本の近代史	2	△			0・2				
		技術と倫理	2	△			0・2				
		企業社会と労働	2	△			0・2				
外国語群	英語	Core English 1	1	△	2・0					4単 位以 上	
		Core English 2	1	△	0・2						
		Core English 3	1	△	2・0						
		Core English 4	1	△	0・2						
		Intermediate English 1	1	△		2・0					
		Intermediate English 2	1	△		0・2					
		Advanced English 1	1	△			2・0				
		Advanced English 2	1	△			0・2				
	中国語		中国語1	1	△		2・0				
			中国語2	1	△		0・2				
			中国語3	1	△			2・0			
			中国語4	1	△			0・2			
健康と スポーツ		スポーツ実習1	1	△	2・0					2単 位以 上	
		スポーツ実習2	1	△	0・2						
		健康スポーツ科学論	2	△		(2・0) (0・2)					
		スポーツ実習3	1	△			(2・0) (0・2)				
プロ ジ ェ ク ト ス キ ル 形 成 群	プロジェク ト活動	プロジェクト活動スキル入門	2	○	2・0					必修 科目 2単 位を 含 み、 6単 位以 上	
		プロジェクト活動演習1	2	△		2・0					
		プロジェクト活動演習2	2	△		0・2					
		キャリア設計プロジェクト実践	2	△			2・0				
	日本語活用		日本語上達法1	2	△	2・0					
			日本語上達法2	2	△	0・2					
			日本語活用法	2	△		(2・0) (0・2)				
	地域プロジ ェク ト活動		地域プロジェクト活動1	2	△	0・2					
			地域プロジェクト活動2	2	△		0・2				
	社会を知る		インターンシップ	2	△			0・2			

(注) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(2) 専門教育科目

(2020年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件 単位数			
				1年次	2年次	3年次	4年次				
				前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期				
基礎専門科目	数学	基礎数学・演習	3	△	4・0				必修科目7単位、 選択科目をあわせて、24単位から46単位まで		
		基礎解析・演習	3	△	[4・0] [0・4]						
		微分積分・演習	3	△	[4・0] [0・4]	[4・0]					
		多変数の微積分・演習	3	△	[0・4]	[4・0]					
		ベクトルと行列1	2	△	2・0						
		ベクトルと行列2	2	△	0・2						
		微分方程式	2	△		0・2					
		確率・統計	2	△		2・0					
		解析学	2	△			2・0				
		物理	力学1・演習	3	△	4・0					
			力学2	2	△		2・0				
		基礎物理学	2	△	0・2						
		化学	物理学・実験	3	○	4・0					
			基礎化学	2	△		2・0				
		情報	コンピュータリテラシー1	2	○	2・0					
			コンピュータリテラシー2	2	△	0・2					
			プログラミング基礎演習	2	○	0・2					
			情報特別実習1	1	△		2・0				
			情報特別実習2	1	△		0・2				
			情報特別実習3	1	△			2・0			
			情報特別実習4	1	△			0・2			
			情報特別実習5	1	△					2・0	
			情報特別実習6	1	△					0・2	
		工学入門	基礎電気回路	2	△	2・0					
	専門科目	数理基礎	電磁気学1	2	△		2・0				必修科目22単位、 選択科目をあわせて64単位から86単位まで
			電磁気学2	2	△		0・2				
			力学3	2	△		0・2				
			メカトロニクス応用数学	2	△			<0・4> <0・0>			
		機械基礎力学	材料力学1	2	△		2・0				
			材料力学2	2	△		0・2				
			機械要素設計	2	△			2・0			
			機械運動学	2	△			<4・0> <0・0>			
			熱工学	2	△				2・0		
			流体力学	2	△				2・0		
			機械モデル論	2	△			2・0			

生産 ・ 加工	基礎製図1	1	△	0・2			
	基礎製図2	1	△		2・0		
	CAD基礎	2	△		0・2		
	CAD応用	2	△			2・0	
	工作法1	2	△			2・0	
	工作法2	2	△			0・2	
	材料工学	2	△			0・2	
電気 ・ 電子	電気回路1	2	△	0・2			
	電気回路2	2	△		2・0		
	基礎電子回路	2	△	0・2			
	高電圧変電工学	2	△			2・0	
	電子回路	2	△			0・2	
	デジタル回路	2	△				2・0
情報 ・ 制御	コンピュータ演習1	2	△		<4・0> <0・0>		
	コンピュータ演習2	2	△		<0・4> <0・0>		
	コンピュータ工学1	2	△		0・2		
	コンピュータ工学2	2	△			2・0	
	センシング論	2	△		0・2		
	制御基礎論	2	△			0・2	
	システム制御工学	2	△			2・0	
メカ トロ ニクス 総合	メカトロニクス基礎演習1	2	○	2・0			
	メカトロニクス基礎演習2	2	○	0・2			
	メカトロニクス実践演習1	2	△		2・0		
	メカトロニクス実践演習2	2	△		0・2		
	メカトロニクス創成演習	2	△			<4・0> <0・0>	
	メカトロニクス1	2	△		<0・0> <4・0>		
	メカトロニクス2	2	△			2・0	
	ロボット工学	2	△			0・2	
	電子機械演習1	2	○			4・0	
	電子機械演習2	2	○			0・4	
	電子機械実験1	2	○			4・0	
	電子機械実験2	2	○			0・4	
そ の 他	異分野協働エンジニアリング・デザ イン演習	2	△			1・1	
	特別ゼミナール1	2	△	2・0			
	特別ゼミナール2	2	△		0・2		
	特別ゼミナール3	2	△			2・0	
	プレゼミナール	2	○			0・2	
	卒業研究	8	○				◎・◎

(注) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

別表第1—3 工学部 機械工学科

(1) 総合科目

(2020年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件 単位数				
				1年次	2年次	3年次	4年次					
				前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期					
総合科目	人文・社会・自然群	大学の学び リテラシー	総合教養	2	△	2・0				6単 位以 上	人文・社会・自然群、外国語群、健康・スポーツ群、プロジェクトスキル形成群をあわせて24単位から40単位まで	
		総合ゼミナール	2	△	2・0							
		社会生活と法	2	△	2・0							
		現代社会と青年の心理	2	△	2・0							
	視野を広げる	異文化の理解	2	△	0・2							
		政治学	2	△	0・2							
		発達心理学	2	△	0・2							
		アジアの言語と文化	2	△	0・2							
	社会とつながる	ヨーロッパの言語と文化	2	△	0・2							
		現代社会を考える	2	△		2・0						
		歴史学の世界	2	△		2・0						
		経済学の世界	2	△		2・0						
		哲学の世界	2	△		2・0						
		文学の世界	2	△		0・2						
		日本国憲法	2	△		0・2						
		教育制度論	2	△		0・2						
	世界を知る	ジェンダー論	2	△		0・2						
		国際交流論	2	△			2・0					
	日本を知る	平和学	2	△			2・0					
		日本の近代史	2	△			0・2					
		技術と倫理	2	△			0・2					
	外国語群	英語	企業社会と労働	2	△			0・2				
			Core English 1	1	△	2・0						4単 位以 上
Core English 2			1	△	0・2							
Core English 3			1	△	2・0							
Core English 4			1	△	0・2							
Intermediate English 1			1	△		2・0						
Intermediate English 2			1	△		0・2						
Advanced English 1			1	△			2・0					
Advanced English 2		1	△			0・2						
中国語		中国語1	1	△		2・0						
	中国語2	1	△		0・2							
	中国語3	1	△			2・0						
	中国語4	1	△			0・2						
健康・スポーツ	健康とスポーツ	スポーツ実習1	1	△	2・0				2単 位以 上			
		スポーツ実習2	1	△	0・2							
		健康スポーツ科学論	2	△		(2・0) (0・2)						
		スポーツ実習3	1	△			(2・0) (0・2)					

プロジェクト スキル 形成群	プロジェクト 活動	プロジェクト活動スキル入 門	2	△	2・0				6単 位以 上
		プロジェクト活動演習1	2	△		2・0			
		プロジェクト活動演習2	2	△		0・2			
		キャリア設計プロジェクト 実践	2	△			2・0		
	日本語 活用	日本語上達法1	2	△	2・0				
		日本語上達法2	2	△	0・2				
		日本語活用法	2	△		(2・0) (0・2)			
	地域プロジェ クト活動	地域プロジェクト活動1	2	△	0・2				
		地域プロジェクト活動2	2	△		0・2			
	社会を知る	インターンシップ	2	△			0・2		

(注) 必選欄 △：選択科目

(2) 専門教育科目

(2020年度からの教育課程)

区分	授業科目	単 位 数	必 選	週時間数				卒業要件 単位数	
				1年次	2年次	3年次	4年次		
				前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期		
共通 重点 科目	情報	コンピュータリテラシー1	2	○	2・0				必修科目4単 位、選択科目を あわせて6単位 から10単位まで
		コンピュータリテラシー2	2	△	0・2				
		プログラミング基礎演習	2	○	0・2				
		プログラミング演習1	2	△		2・0			
		プログラミング演習2	2	△		0・2			
基礎 専門 科目	数学	基礎数学・演習	3	△	4・0				必修科目8単 位、選択科目を あわせて19単位 から30単位まで
		基礎解析・演習	3	△	[4・0] [0・4]				
		微分積分・演習	3	△	[4・0] [0・4]	[4・0]			
		多変数の微積分・演習	3	△	[0・4]	[4・0]			
		微分方程式	2	△		0・2			
		ベクトルと行列1	2	△	2・0				
		ベクトルと行列2	2	△	0・2				
		確率・統計	2	△		2・0			
	解析学	2	△			2・0			
	物理 / 化学	基礎力学・演習	3	○	4・0				
		基礎物理学	2	△	0・2				
		物理学・実験	3	○	4・0				
		基礎化学	2	△		2・0			
	工学入門	機械工学入門	2	○	2・0				
専門 科目	機械 基礎 力学・ 運動学	工業力学及び演習1	3	○	0・4				必修科目35単 位、選択必修科 目33単位以上 (□Aから5単位 以上、□Bから4
		工業力学及び演習2	2	□C		2・0			
		機械運動学	2	□C		2・0			
		機械力学I	2	○		0・2			
		機械力学演習	1	□A		0・2			

	機械力学2	2	□C		2・0		単位以上、□Cから14単位以上、□Dから10単位以上)、選択科目をあわせて68単位から79単位まで
材料 力学	材料力学1	2	○		2・0		
	材料力学演習	1	□A		2・0		
	材料力学2	2	□C		0・2		
	材料力学3	2	□D			2・0	
熱・ 流体 力学	流体力学1	2	○		0・2		
	流体力学演習	1	□A		0・2		
	流体力学2	2	□C			2・0	
	熱力学1	2	○		2・0		
	熱力学演習	1	□A		2・0		
	熱力学2	2	□C		0・2		
計測 ・ 制御 工学	伝熱工学	2	□C			2・0	
	計測工学	2	□D			2・0	
	制御工学1	2	○		0・2		
機械 材料 ・ 設計	制御工学演習	1	□A		0・2		
	制御工学2	2	□D			2・0	
	機械材料学	2	□C			0・2	
	機械工作法1	2	○			2・0	
	機械工作法演習	1	□A			2・0	
	機械工作法2	2	□D			0・2	
	機械要素設計1	2	○			2・0	
機械 創成	機械要素設計演習	1	□A			2・0	
	機械要素設計2	2	□D			0・2	
設計 ・ 製図	機械創成工学実習	2	□C			0・4	
	発展創成実習	2	□B			4・0	
	図学基礎	2	□D	2・0			
	機械製図基礎	2	○	0・2			
	CAD実習	1	□D		2・0		
	3次元CAD実習	1	□D		0・2		
機械工学 実験	機械設計製図1	2	○			4・0	
	機械設計製図2	2	□C			0・4	
電気・ 電子	機械工学実験1	3	○			4・0	
	機械工学実験2	3	○			0・4	
機械応用	電気電子工学	2	□C		0・2		
	電気機器学	2	□D			2・0	
	ロボット工学	2	□B			2・0	
その他	機械設備装置工学	2	□B			2・0	
	異分野協働エンジニアリング・ デザイン演習	2	□B			1・1	
	特別ゼミナール1	2	□D	2・0			
	特別ゼミナール2	2	□D		0・2		
	特別ゼミナール3	2	□D			2・0	
	機械工学連携講座	2	□B			0・2	
卒業研究	2	□B			0・2		
		8	○			◎・◎	

(注) 必選欄 ○：必修科目 □A、□B、□C、□D：選択必修科目 △：選択科目

別表第1—4 工学部 基礎理工学科

(1) 共通科目

(2024年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件 単位数			
				1年次	2年次	3年次	4年次				
				前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期				
共通科目	大学の びり テラ シー	総合教養	2	△	2・0				6単位から 26単位まで	人文・社 会・自然 語群、外国 語群、健康・スポ ーツ群、 プロジェ クトスキ ル形成 群、情報 基礎群を あわせて 24単位か ら36単位 まで	
		総合ゼミナール	2	△	2・0						
		社会生活と法	2	△	2・0						
		現代社会と青年の心理	2	△	2・0						
	視野 を広 げる	OECU概論I	1	△	1・0						
		異文化の理解	2	△	0・2						
		政治学	2	△	0・2						
		発達心理学	2	△	0・2						
	社会 とつ なが る	アジアの言語と文化	2	△	0・2						
		ヨーロッパの言語と文化	2	△	0・2						
		現代社会を考える1	2	△	2・0						
		現代社会を考える2	2	△	0・2						
		歴史学の世界	2	△	2・0						
		経済学の世界	2	△	2・0						
		哲学の世界	2	△	2・0						
		教育制度論	2	△	2・0						
	世界 を知 る	文学の世界	2	△	0・2						
		日本国憲法	2	△	0・2						
	日本 を知 る	ジェンダー論	2	△	0・2						
		国際コミュニケーション	2	△	2・0						
		平和学	2	△	2・0						
	科学 と 技術	企業社会と労働	2	△	2・0						
		日本の近代史	2	△	0・2						
		技術と倫理	2	△	0・2						
		学術横断講座	2	△	2・0						
	外国 語群	研究交流講座	2	△	0・2						
		科学のための教養1	2	△	2・0						
科学のための教養2		2	△	0・2							
Core English 1		1	□	2・0				選択必修科 目2単位を 含み、3単 位から16単 位まで			
Core English 2		1	□	0・2							
Core English 3		1	□	2・0							
Core English 4		1	□	0・2							
Intermediate Discourse 1		1	□		2・0						
Intermediate Discourse 2		1	□		0・2						
Intermediate Communication 1		1	□		2・0						
Intermediate Communication 2	1	□		0・2							
資格対策英語1	1	□		2・0							

		資格対策英語2	1	□		0・2			
		Advanced Discourse 1	1	□			2・0		
		Advanced Discourse 2	1	□			0・2		
		Advanced Communication 1	1	□			2・0		
		Advanced Communication 2	1	□			0・2		
	中国語	中国語1	1	△	2・0				
		中国語2	1	△	0・2				
		中国語3	1	△		2・0			
		中国語4	1	△		0・2			
健康・スポーツ群	健康とスポーツ	スポーツ実習1	1	△	2・0			2単位から6単位まで	
		スポーツ実習2	1	△	0・2				
		スポーツ実習3	1	△			(2・0) (0・2)		
		健康・スポーツ科学論	2	△		2・0			
		スポーツ文化論	2	△		0・2			
プロジェクトスキル形成群	プロジェクト活動	プロジェクト活動スキル入門	1	△	2・0			2単位から10単位まで	
		プロジェクト活動演習1	1	△		2・0			
		プロジェクト活動演習2	1	△		0・2			
		キャリア設計プロジェクト実践	1	△			2・0		
	日本語活用	日本語上達法1	2	△	2・0				
		日本語上達法2	2	△	0・2				
		日本語活用法	2	△		(2・0) (0・2)			
	地域プロジェクト活動	地域プロジェクト活動1	2	△	1・1				
		地域プロジェクト活動2	2	△		1・1			
		スキルアップ	グローバル研修	2	△				2・0
			グローバル研修(英語)	2	△				2・0
社会を知る	インターンシップ	2	△			2・2			
情報基礎群	情報	AI・データサイエンス入門	2	△	2・0			必修科目2単位を含み、2単位から8単位まで	
		コンピュータリテラシー1	2	○	2・0				
		コンピュータリテラシー2	2	△	0・2				
		プログラミング基礎演習	2	△		2・0			

(注) 必選欄 ○：必修科目 □：選択必修科目 △：選択科目

(2) 専門教育科目

(2024年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選		週時間数				卒業要件 単位数	
			数理科学専攻	環境化学専攻	1年次	2年次	3年次	4年次		
					前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期		
基礎専門科目	数学	基礎解析学Ⅰ・演習	2	△	△	4・0				必修科目2単位、選択科目をあわせて12単位から22単位まで
		基礎解析学Ⅱ・演習	2	△	△	0・4				
		基礎解析学Ⅲ・演習	2	△	△		4・0			
	線形代数	2	△	△	2・0					
	理科基礎	物理学Ⅰ・演習	2	△	△	4・0				
		物理学実験	2	○	○	0・4				
		物理学Ⅱ	2	△	△	0・2				
		物理学Ⅲ	2	△	△		2・0			
		化学Ⅰ	2	△	△	2・0				
		化学Ⅱ	2	△	△	0・2				
生物化学		2	△	△	2・0					
専門科目	数学系	幾何学Ⅰ	2	□a	△		2・0			数理科学専攻：必修科目14単位、選択必修科目14単位以上(□aから4単位以上、□bから4単位以上、□cから4単位以上、□dから2単位以上)、選択科目あわせて、66単位から88単位まで
		幾何学Ⅱ	2	□a	△			0・2		
		代数学Ⅰ	2	□a	△			0・2		
		代数学Ⅱ	2	□a	△				2・0	
		常微分方程式	2	□a	△			0・2		
		解析学	2	□a	△				2・0	
		応用解析	2	□a	△				0・2	
		確率・統計	2	□a	△			0・2		
	コンピュータと確率・統計	2	□a	△				2・0		
	物理系	地球科学	2	□b	△			2・0		環境化学専攻：必修科目12単位、選択必修科目4単位以上(□eから4単位以上)、選択科目あわせて、66単位から88単位まで
		一般力学	2	□b	△			0・2		
		熱力学	2	□b	△			0・2		
		電磁気学	2	□b	△			0・2		
		量子力学	2	□b	△				2・0	
		電気回路・演習	2	□b	△				2・0	
		物性科学	2	□b	△				0・2	
		宇宙科学	2	□b	△				0・2	
	化学系	物理化学Ⅰ	2	□c	△			2・0		
		物理化学Ⅱ	2	□c	△			0・2		
		有機化学Ⅰ	2	□c	△			2・0		
		有機化学Ⅱ	2	□c	△			0・2		
		無機化学	2	□c	△			0・2		
		高分子化学	2	□c	△				2・0	
放射線化学		2	□c	△				2・0		
電気化学		2	□c	△				2・0		
ナノ科学		2	□c	△				0・2		
有機機器分析		2	□c	△				0・2		

生物系	生化学	2	△	△	0・2			
	微生物学	2	△	△		2・0		
	食品微生物学実験	2	△	□e		0・8		
	生物学実験	2	△	△		2・0		
食品衛生系	分析化学	2	△	△	0・2			
	食品化学	2	△	△		2・0		
	食品工学	2	△	△		0・2		
	空気調和・冷凍工学	2	△	△			2・0	
	食品衛生学	2	△	△			2・0	
	食品製造学	2	△	△			0・2	
	公衆衛生学	2	△	△			0・2	
	食品化学実験	2	△	□e			4・0	
	実験・演習	工学基礎実験	2	○	○	4・0		
サイエンス実験		2	○	□e		4・0		
化学実験		2	□d	□e		0・8		
応用数理演習		2	□d	△		0・4		
工学基礎製図		1	△	△		0・2		
CAD 基礎		2	△	△			2・0	
情報・計測・シミュレーション	コンピュータ・シミュレーション	2	△	△		0・2		
	機械学習入門	2	△	△			0・2	
	データサイエンス基礎	2	△	△		2・0		
	人工知能	2	△	△			0・2	
融合・その他	OECU 概論 2	1	△	△	1・0			
	基礎理工学入門	2	△	△	2・0			
	アクティブサイエンスゼミナール	2	△	△			0・2	
	基礎理工学特別ゼミナール	2	△	△				0・2
	特別ゼミナール 1	2	△	△	2・0			
	特別ゼミナール 2	2	△	△		0・2		
	特別ゼミナール 3	2	△	△			2・0	
	自然科学特別講義	2	△	△			2・0	
	数理科学特別講義	2	△	△				2・0
	異分野協働エンジニアリング・デザイン演習	2	△	△			1・1	
	プレゼミナール	2	○	○			0・2	
	卒業研究	8	○	○				◎・◎

(注) 必選欄 ○：必修科目 □a、□b、□c、□d、□e：選択必修科目 △：選択科目

別表第1—5 削除

別表第1—6 削除

別表第1—7 医療健康科学部 医療科学科

(1) 総合科目

(2023年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必修	週時間数				卒業要件 単位数
				1年次	2年次	3年次	4年次	
				前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	
人文・ 社会・ 自然 群	大学の学	総合教養	2	△	2・0			選択必修科目1単位 以上(□aから1単位 以上)、選択科目を あわせて14単位から 40単位まで
	びり	総合ゼミナール	2	△	2・0			
	テラ	日本語上達法1	2	△	2・0			
	シー	政治学	2	△	2・0			
		現代社会と青年の心理	2	△	2・0			
		情報活用リテラシー	2	△	2・0			
		エレクトロニクス入門	2	△	2・0			
	視野	異文化の理解	2	△	0・2			
	を広	社会生活と法	2	△	0・2			
	げる	発達心理学	2	△	0・2			
		アジアの言語と文化	2	△	0・2			
		ヨーロッパの言語と文化	2	△	0・2			
		大阪の文化と歴史	2	△	0・2			
		高齢者社会と医療福祉	2	△	0・2			
		からだの科学	2	△	0・2			
	社会	現代社会を考える	2	△		2・0		
	とつ	歴史学の世界	2	△		2・0		
	なが	経済学の世界	2	△		2・0		
	る	哲学の世界	2	△		2・0		
		日本語上達法2	2	△		[2・0] [0・2]		
		文学の世界	2	△		0・2		
		日本国憲法	2	△		0・2		
		教育制度論	2	△		0・2		
	ジェンダー論	2	△		0・2			
	情報社会と情報倫理	2	△		0・2			
	文字の文化と歴史	2	△		0・2			
世界	国際交流論	2	△			2・0		
を知る	平和学	2	△			2・0		
日本	日本の近代史	2	△			0・2		
を知る	企業社会と労働	2	△			0・2		
外国 語 群	英語	Core English 1	1	□a	2・0			
		Core English 2	1	□a	0・2			
		Core English 3	1	□a	2・0			
		Core English 4	1	□a	0・2			
		Intermediate English 1	1	□a		2・0		
		Intermediate English 2	1	□a		0・2		
		医学英語1	1	□a			2・0	

		医学英語2	1	□a			0・2	
中国語		中国語1	1	△		2・0		
		中国語2	1	△		0・2		
		中国語3	1	△			2・0	
		中国語4	1	△			0・2	
健康とスポーツ	健康	スポーツの科学	2	△		0・2		
		スポーツ文化論	2	△		2・0		
	スポーツ	スポーツ実習1	1	△	2・0			
		スポーツ実習2	1	△	0・2			
		スポーツ実習3	1	△		[2・0] [0・2]		

(注) 必選欄 □a：選択必修科目 △：選択科目

(2) 専門教育科目

(2023年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件 単位数	
				1年次	2年次	3年次	4年次		
				前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期		
専門 科目	数学	数学基礎演習	2	△	4・0				必修科目15単位、 選択必修科目6単位以上 (□bから6単位以上)、 選択科目をあわせて73単位から 109単位まで
		基礎解析演習	2	△	[4・0] [0・4]				
		微分積分演習	2	△	0・4				
		線形代数演習	2	△	4・0				
		微分方程式	2	△		2・0			
		確率・統計	2	△		0・2			
		解析学	2	△			2・0		
		応用数学と臨床医工学	2	△			2・0		
理科	物理学基礎演習	物理学基礎演習	2	△	4・0				
		力学演習	2	△	0・4				
		基礎生理学	2	△	2・0				
		化学	2	△	2・0				
		物理学演習	2	△	0・4				
情報	コンピュータリテラシー	コンピュータリテラシー実習1	1	△	2・0				
		コンピュータリテラシー実習2	1	△	0・2				
		プログラミング基礎実習1	1	△	2・0				
		プログラミング基礎実習2	1	△	0・2				
		情報工学基礎演習	2	△		2・0			
		プログラミング応用実習1	2	□b		4・0			
		プログラミング応用実習2	2	□b		0・4			
医学	生理学	2	○	0・2					

	解剖学	2	○	2・0		
	機能解剖学	2	△		2・0	
	公衆衛生学	1	△	0・1		
	医療関係法規	1	△	0・1		
	免疫学	1	△		0・1	
	看護学概論	1	△			1・0
	生化学	2	△		2・0	
	病理学	1	△		0・1	
	薬理学	1	△			1・0
	医学概論	2	△	2・0		
	基礎医学特別演習	1	△			0・1
	臨床内科学総論	2	△			0・2
	臨床外科学総論	2	△			0・2
	臨床検査学	2	△			2・0
	応用医学総論	2	△			2・0
	臨床医学特別演習	1	△			0・1
情報工学	デジタル回路	2	△		0・2	
	計測工学	2	△		2・0	
	生体医工学基礎実習	2	□b		4・0	
	システム工学	2	△			2・0
	医療情報システム	2	△			2・0
	医療とICT	2	△			0・2
	医用情報工学演習	1	△			0・1
電気・電子工学	電気回路学	2	△	0・2		
	応用電気回路学	2	△		2・0	
	電気電子工学実験	3	○		0・6	
	電子回路学	2	△		2・0	
	医用電子工学実験	3	□b			6・0
	応用電子回路学	2	△		0・2	
	医用電気電子工学演習	1	△			0・1
	医用工学特別演習	2	△			2・0
機械工学	医用機械工学演習	1	△		0・1	
	生体材料工学	2	△		2・0	
	生体物性工学	2	△		0・2	
	材料力学	2	△		2・0	
	流体力学	2	△		0・2	
	機械力学	2	△			2・0
	メカトロニクス	2	△			0・2
	基礎製図演習	2	△			0・2
	製図・CAD実習	1	△			0・2
医用機器学	医用機器学概論	2	△	0・2		
	医用計測学	2	△		0・2	
	生体計測装置学	2	△			2・0
	医用生体計測学演習	1	△			1・0
	生体計測装置学実習	3	□b			0・6
	医用治療機器学	2	△			2・0

	医用機器安全制御学	2	△			2・0	
	医用機器安全管理学	2	△			0・2	
	医用機器学・安全管理学特別演習	2	△				2・0
	先端医工学特論	2	△				2・0
生体機能代行技術学	生体機能代行装置学1	2	△			2・0	
	生体機能代行装置学2	2	△			2・0	
	生体機能代行装置学3	2	△			0・2	
	生体機能代行医用機器学実習	3	□b			0・6	
	生体機能代行装置学実習	3	△				6・0
	臨床工学技士総合演習	2	△				0・2
健康福祉工学	ヒト型ロボット創造製作実習	3	□b			6・0	
	ヒト型ロボット歩行制御実習	3	□b			0・6	
	健康スポーツ統計演習	2	△			2・0	
	生活支援工学	2	△			2・0	
	福祉環境デザイン論	2	△	2・0			
	リハビリテーション工学	2	△	0・2			
卒業研究・臨床実習	臨床実習	7	△				14・0
	特別講義	2	△				2・0
	卒業研究	8	○				◎・◎
キャリア形成科目	医療科学入門実習	2	□c	4・0			
	医療科学基礎実習	2	□c		4・0		
	就職適性論	2	□d			1・1	
	特別キャリア演習	2	△				2・0
	医療科学実習	2	□c			4・0	
	プレゼミ	2	□d			0・4	
	総合医療工学実習	3	□d			0・6	

(注) 必選欄 ○：必修科目 □b・□c・□d：選択必修科目 △：選択科目

別表第1—8 医療健康科学部 理学療法学科

(1) 総合科目

(2020年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件 単位数
				1年次	2年次	3年次	4年次	
				前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期	
人文・社会・自然群	大学の学び	2	△	2・0				選択必修科目1単位以上(□aから1単位以上)、選択科目をあわせて14単位から26単位まで
	リテラシー	2	△	2・0				
	総合教養	2	△	2・0				
	総合ゼミナール	2	△	2・0				
	日本語上達法I	2	△	2・0				
	政治学	2	△	2・0				
現代社会と青年の心理	2	△	2・0					
情報活用リテラシー	2	△	2・0					

		エレクトロニクス入門	2	△	2・0				
視野を広げ る		異文化の理解	2	△	0・2				
		社会生活と法	2	△	0・2				
		発達心理学	2	△	0・2				
		アジアの言語と文化	2	△	0・2				
		ヨーロッパの言語と文化	2	△	0・2				
		大阪の文化と歴史	2	△	0・2				
		高齢者社会と医療福祉	2	△	0・2				
		からだの科学	2	△	0・2				
		今日の医療医学の課題	2	△	0・2				
社会とつな がる		現代社会を考える	2	△		2・0			
		歴史学の世界	2	△		2・0			
		経済学の世界	2	△		2・0			
		哲学の世界	2	△		2・0			
		日本語上達法2	2	△		[2・0] [0・2]			
		文学の世界	2	△		0・2			
		日本国憲法	2	△		0・2			
		教育制度論	2	△		0・2			
		ジェンダー論	2	△		0・2			
		情報社会と情報倫理	2	△		0・2			
		文字の文化と歴史	2	△		0・2			
世界を知る		国際交流論	2	△			2・0		
		平和学	2	△			2・0		
日本を知る		日本の近代史	2	△			0・2		
		企業社会と労働	2	△			0・2		
外国 語群	英語	Core English 1	1	□a	2・0				
		Core English 2	1	□a	0・2				
		Core English 3	1	□a	2・0				
		Core English 4	1	□a	0・2				
		Intermediate English 1	1	□a		2・0			
		Intermediate English 2	1	□a		0・2			
		医学英語1	1	□a			2・0		
		医学英語2	1	□a			0・2		
	中国語	中国語1	1	△		2・0			
		中国語2	1	△		0・2			
		中国語3	1	△			2・0		
		中国語4	1	△			0・2		
	健康・ スポ ーツ 群	健康とスポ ーツ	スポーツ文化論	2	△		2・0		
			スポーツ実習1	1	△	2・0			
スポーツ実習2			1	△	0・2				
スポーツ実習3			1	△		[2・0] [0・2]			

(注) 必選欄 □a: 選択必修科目 △: 選択科目

(2) 専門教育科目

(2020年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件 単位数	
				1年次	2年次	3年次	4年次		
				前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期		
専門 科目	数学	数学基礎演習	2	△	2・0			必修科目98単位、選 択科目をあわせて98 単位から110単位ま で	
		確率・統計	2	△		2・0			
	理科	物理学基礎演習	2	△	2・0				
		基礎解析演習	2	△	2・0				
	情報		コンピュータリテラシー 実習1	1	△	2・0			
			コンピュータリテラシー 実習2	1	△	0・2			
			プログラミング基礎実習1	1	△	2・0			
	支援工 学		バイオメカニクス	2	△	2・0			
			福祉環境デザイン論	2	△	2・0			
			リハビリテーション工学	2	△	0・2			
			プログラミング基礎実習2	1	△	0・2			
	基礎医 学		スポーツトレーニング学	2	△		2・0		
			運動発達学	2	△		0・2		
			運動生理学	2	△		2・0		
			コミュニケーション論	2	△	2・0			
			生理学	2	○	2・0			
			生理学演習	2	○	0・2			
			解剖学	2	○	2・0			
			解剖学演習	2	○	0・2			
			基礎医学実習	2	△	0・4			
			機能解剖学	2	○	0・2			
			機能解剖学演習	2	△		2・0		
			運動学実習	2	○	0・4			
			医療関係法規	2	△		2・0		
			介護予防学	2	○		0・2		
		臨床医 学		一般臨床内科学	2	○			2・0
			整形外科	2	○		0・2		
			神経内科学	2	○		2・0		
			リハビリテーション医学	2	○		0・2		
			精神医学	2	○		2・0		
			心の健康増進	2	△		2・0		
			基礎医学特論1	2	○		0・2		
			基礎医学特論2	2	○		0・2		
			神経系理学療法学演習B	2	○		2・0		
			臨床医学特論	2	○				2・0
			障害学演習	2	△		2・0		
	基礎理 学療法		日常生活活動学実習	2	○		0・4		
			理学療法学概論	2	△		2・0		

学	理学療法評価学演習1	4	○		4・0		
	理学療法評価学演習2	4	△		0・4		
	物理療法学実習	2	○		4・0		
	義肢装具学実習	2	○				4・0
	運動療法学	2	△		2・0		
	運動療法学演習	2	△		0・2		
	理学療法評価学	2	○		2・0		
理学療法治療学	運動系理学療法学演習A	2	○			2・0	
	運動系理学療法学演習B	2	○			0・2	
	内部障害系理学療法学演習A	2	○			0・2	
	内部障害系理学療法学演習B	2	△			0・2	
	小児系理学療法学演習	2	△			2・0	
	神経系理学療法学演習A	2	△		0・2		
	神経系理学療法学演習C	2	○			0・2	
	スポーツ障害とリハビリテーション	2	△			2・0	
	老年系理学療法学演習	2	○			0・2	
応用理学療法学	チームリハビリテーション学特論	2	○				2・0
	実践理学療法学演習B	2	△			2・0	
	実践理学療法学演習A	2	○			2・0	
	臨床理学療法学演習A	2	△			0・2	
	総合理学療法学演習A	2	○				2・0
	臨床理学療法学演習B	2	△				2・0
	総合理学療法学演習C	2	○				0・2
	臨床理学療法学演習C	2	△				0・2
	総合理学療法学演習B	2	○				0・2
	運動障害予防学	2	△		0・2		
	理学療法管理学	2	○			0・2	
	地域理学療法学演習	2	○			0・2	
	臨床理学療法学特論	2	△				2・0
	地域健康支援実習	2	○			2・2	
卒業研究・学外実習	臨床実習1	1	○	0・2			
	臨床実習2	3	○			6・0	
	臨床実習3	6	○			0・12	
	臨床実習4	10	○				0・20
	卒業研究	8	○				◎・◎
キャリア形成科目	アカデミック・ライティング	2	△	2・0			必修科目4単位、選択科目をあわせて4単位から10単位まで
	ベーシックキャリアデザイン	2	△		2・0		
	医療接遇マナー学	2	○	0・2			
	キャリアデザイン	2	△		0・2		
	スキルアップセミナー	2	○	2・0			

(注) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

別表第1—9 医療健康科学部 健康スポーツ科学科

(1) 総合科目

(2020年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必修	週時間数				卒業要件 単位数		
				1年次	2年次	3年次	4年次			
				前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期			
人文・ 社会・ 自然 群	大学の学び リテラシー	総合教養	2	△	2・0				選択必修科目1単位 以上(□aから1単位 以上)、選択科目を あわせて14単位から 40単位まで	
		総合ゼミナール	2	△	2・0					
		日本語上達法1	2	△	2・0					
		政治学	2	△	2・0					
		現代社会と青年の心理	2	△	2・0					
		情報活用リテラシー	2	△	2・0					
	視野を広げ る	エレクトロニクス入門	異文化の理解	2	△	0・2				
			社会生活と法	2	△	0・2				
			発達心理学	2	△	0・2				
			アジアの言語と文化	2	△	0・2				
			ヨーロッパの言語と文化	2	△	0・2				
			大阪の文化と歴史	2	△	0・2				
			高齢者社会と医療福祉	2	△	0・2				
			からだの科学	2	△	0・2				
			今日の医療医学の課題	2	△	0・2				
	社会とつな がる	現代社会を考 える	歴史学の世界	2	△		2・0			
			経済学の世界	2	△		2・0			
			哲学の世界	2	△		2・0			
			日本語上達法2	2	△		[2・0] [0・2]			
			文学の世界	2	△		0・2			
			日本国憲法	2	△		0・2			
			教育制度論	2	△		0・2			
			ジェンダー論	2	△		0・2			
			情報社会と情報倫理	2	△		0・2			
			文字の文化と歴史	2	△		0・2			
	世界を知る	国際交流論	平和学	2	△			2・0		
			平和学	2	△			2・0		
	日本を知る	日本の近代史	企業社会と労働	2	△			0・2		
			企業社会と労働	2	△			0・2		
	外国 語群	英語	Core English 1	1	□a	2・0				
Core English 2			1	□a	0・2					
Core English 3			1	□a	2・0					
Core English 4			1	□a	0・2					
Intermediate English 1			1	□a		2・0				
Intermediate English			1	□a		0・2				

	2						
	医学英語1	1	□a			2・0	
	医学英語2	1	□a			0・2	
中国語	中国語1	1	△		2・0		
	中国語2	1	△		0・2		
	中国語3	1	△			2・0	
	中国語4	1	△			0・2	

(注) 必選欄 □a: 選択必修科目 △: 選択科目

(2) 専門教育科目

(2020年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件 単位数		
				1年次	2年次	3年次	4年次			
				前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期			
専門 科目	基礎 科学	数学基礎演習	2	△	2・0				必修科目17単位、 選択科目をあわせ て80単位から110 単位まで	
		基礎解析演習	2	△	2・0					
		健康スポーツ統計入門	2	△		0・2				
		力学演習	2	△	2・0					
		生物学	2	△	2・0					
		化学	2	△	2・0					
		物理学基礎演習	2	△	0・2					
		コンピュータリテラシ ー実習1	1	△	2・0					
		コンピュータリテラシ ー実習2	1	△	0・2					
		プログラミング基礎実 習1	1	△	2・0					
		プログラミング基礎実 習2	1	△	0・2					
		身体 機能	バイオメカニクス 解剖学 生理学 生化学 運動生理学 機能解剖学 神経筋生理学 運動生理学・実習 発育・発達と老化 栄養学 スポーツ栄養学演習	2	△		0・2			
				2	○	2・0				
2	△			0・2						
2	△			0・2						
2	○				2・0					
2	△				2・0					
2	△			0・2						
4	△					0・6				
2	△				0・2					
2	△				0・2					
2	△					2・0				
スポー ツ医学	リハビリテーション工 学 公衆衛生と医療の法律 スポーツコンディショ ニング演習 スポーツ医学と救急救	2	△				0・2			
		2	△		0・2					
		2	△			2・0				
		2	△		2・0					

	命演習						
	精神医学	2	△			0・2	
	スポーツリハビリテーション演習	2	△				2・0
	運動療法学	2	△		2・0		
	運動障害と予防	2	△			2・0	
スポーツ情報	生体計測学	2	△		2・0		
	生体計測学演習	2	△		0・4		
	スポーツ情報処理入門	2	△			0・2	
	生体電気計測学演習	2	△			0・2	
	健康スポーツ統計演習	2	△			2・0	
	スポーツICT演習	2	△			0・2	
	プログラミング応用演習	2	△			0・2	
	体力測定と評価	2	△		0・2		
スポーツ教育	コミュニケーション論	2	△	2・0			
	スポーツ教育学	2	△	0・2			
	器械運動	1	△	2・0			
	ソフトボール	1	△	2・0			
	バレーボール	1	△	0・2			
	スポーツトレーニング	1	○	0・2			
	エアロビックダンス	1	△	0・2			
	スキー・スノーボード	1	△	0・2			
	バスケットボール	1	△				0・2
	創作ダンス	1	△		2・0		
	水泳・水中運動	1	△		0・2		
	陸上競技	1	△		2・0		
	テニス	1	△		0・2		
	武道	1	△		2・0		
	野外活動・基礎実習	1	△		2・0		
	野外活動・応用実習	1	△			2・0	
	運動学	2	△	2・0			
	スポーツ文化論	2	△	0・2			
	体育原理	2	△	0・2			
	体育心理学	2	△		2・0		
	学校保健	2	△		0・2		
	体育社会学	2	△			2・0	
スポーツコーチング	パフォーマンス分析演習	2	△			0・2	
	スポーツ指導実習(評定競技系)	1	△		0・2		
	スポーツ指導実習(判定競技系)	1	△				2・0
	スポーツ指導実習(測定競技系)	1	△				0・2
	スポーツコーチング実習	1	△				2・0

ヘルス プロモ ーショ ン	介護予防学	2	△			2・0		
	生活習慣病・健康管理 概論	2	△		2・0			
	健康づくり運動の理論 と施策	2	△	0・2				
	運動と心の健康増進	2	△		2・0			
	運動行動変容の理論と 実際	2	△		0・2			
	健康運動指導演習	2	△			2・0		
	健康運動指導学特別演 習	2	△			0・2		
	健康運動指導実技	1	△			2・0		
	スポーツ方法実習1	1	△			2・0		
	スポーツ方法実習2	1	△				2・0	
	福祉環境デザイン論	2	△				2・0	
	生涯ス ポーツ	スポーツビジネス論	2	△				2・0
		アダプテッドスポーツ	2	△				2・0
スポーツ・レクリエー ション論		2	△		2・0			
生涯スポーツ実習(集団 種目)		1	△			2・0		
生涯スポーツ実習(個人 種目)		1	△			2・0		
スポーツ・レクリエー ション実習(個人)		1	△		0・2			
スポーツ・レクリエー ション実習(集団)		1	△			2・0		
スポーツ施設・用具論		2	△			0・2		
フィットネス産業論		2	△			0・2		
スポーツ指導演習		2	△			0・2		
スポーツマネジメント 論		2	△			2・0		
スポーツクラブ実習		1	△			2・0		
卒業研 究・ゼ ミナー ル		健康スポーツ科学と医 学概論	2	△	2・0			
	プレゼミ	4	○			2・2		
	卒業研究	8	○				◎・◎	
キャリア形成 科目	キャリアデザイン	2	△		0・2		4単位から8単位ま で	
	アカデミック・ライテ ィング	2	△		2・0			
	地域連携・ボランティ ア演習	2	△		0・2			
	インターンシップ	2	△			2・0		

(注) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

別表第1—10 情報通信工学部 情報工学科

(1) 総合科目

(2020年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件 単位数			
				1年次	2年次	3年次	4年次				
				前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期				
総合科目 人文・社会・自然群	大学の学び	総合教養	2	△	2・0				8単 位以上 人文・社会・自然群、外国語群、健康・スポーツ群、プロジェクトスキル形成群をあわせて24単位から32単位まで		
	リテラシー	総合ゼミナール	2	△	2・0						
		社会生活と法	2	△	2・0						
		現代社会と青年の心理	2	△	2・0						
		コンピュータと情報活用術	2	△	2・0						
	視野を広げる	異文化の理解	2	△	0・2						
		政治学	2	△	0・2						
		発達心理学	2	△	0・2						
		アジアの言語と文化	2	△	0・2						
		ヨーロッパの言語と文化	2	△	0・2						
		コンピュータで文化を測る	2	△	0・2						
	社会とつながる	現代社会を考える	2	△		2・0					
		歴史学の世界	2	△		2・0					
		経済学の世界	2	△		2・0					
		哲学の世界	2	△		2・0					
		文学の世界	2	△		0・2					
		日本国憲法	2	△		0・2					
		教育制度論	2	△		0・2					
		ジェンダー論	2	△		0・2					
	世界を知る	国際交流論	2	△			2・0				
		平和学	2	△			2・0				
	日本を知る	日本の近代史	2	△			0・2				
		技術と倫理	2	△			0・2				
		企業社会と労働	2	△			0・2				
	外国語群	英語	Core English 1	1	□	2・0					選択 必修 科目 4単 位以上を 含み 6単 位以上
			Core English 2	1	□	0・2					
			Core English 3	1	□	2・0					
Core English 4			1	□	0・2						
Intermediate English 1			1	□		2・0					
Intermediate English 2			1	□		0・2					
Advanced English 1			1	□			2・0				
Advanced English 2			1	□			0・2				
中国語		中国語1	1	△		2・0					
		中国語2	1	△		0・2					
	中国語3	1	△			2・0					

		中国語4	1	△			0・2	
健康・スポーツ群	健康とスポーツ	スポーツ実習1	1	△	2・0			3単位以上
		スポーツ実習2	1	△	0・2			
		健康スポーツ科学論	2	△		(2・0) (0・2)		
		スポーツ実習3	1	△		(2・0) (0・2)		
プロジェクトスキル形成群	プロジェクト活動	プロジェクト活動スキル入門	2	△	2・0			6単位以上
		プロジェクト活動演習1	2	△		2・0		
		プロジェクト活動演習2	2	△		0・2		
		キャリア設計プロジェクト実践	2	△			2・0	
	日本語活用	日本語上達法1	2	△	2・0			
		日本語上達法2	2	△	0・2			
		日本語活用法	2	△		(2・0) (0・2)		
	地域プロジェクト活動	地域プロジェクト活動1	2	△	0・2			
		地域プロジェクト活動2	2	△		0・2		
	社会を知る	インターンシップ	2	△			0・2	

(注) 必選欄 □：選択必修科目 △：選択科目

(2) 専門教育科目

(2020年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件 単位数
				1年次	2年次	3年次	4年次	
				前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期	
基礎専門科目	基礎数学・演習	3	△	4・0				必修科目18単位、 選択科目をあわせて24単位 から40単位まで
	基礎解析・演習	3	△	[4・0] [0・4]				
	微分積分・演習	3	△	0・4				
	多変数の微積分・演習	3	△	0・4				
	ベクトルと行列1	2	△	2・0				
	ベクトルと行列2	2	△	0・2				
	解析学	2	△			2・0		
	確率・統計1	2	△	2・0				
	確率・統計2	2	△	0・2				
	応用数学	2	△		2・0			
理科	離散数学	2	△			2・0		
	基礎力学	2	△	2・0				
	基礎物理学	2	△	0・2				
	化学1	2	△	2・0				
情報	化学2	2	△	0・2				
	情報工学入門	2	△	2・0				
	情報工学概論	2	△	0・2				
	コンピュータ工学I	2	○	2・0				

	コンピュータ工学2	2	○	0・2			
	コンピュータ基礎演習	2	△	2・0			
	データベース基礎演習	2	△	0・2			
	プログラミング入門演習1	2	○	<4・0> <0・0>			
	プログラミング入門演習2	2	○	<0・4> <0・0>			
	プログラミング基礎演習1	2	○	<0・0> <4・0>			
	プログラミング基礎演習2	2	○	<0・0> <0・4>			
	基礎電気回路	2	△		2・0		
	基礎電子回路	2	△		0・2		
	情報工学基礎実験1	3	○		[4・0] [0・4]		
	情報工学基礎実験2	3	○		[4・0] [0・4]		
専門科目	情報理論1	2	△		2・0		区分「情報工学」から必修科目6単位、選択科目10単位以上、区分「コンピュータネットワーク」「知能情報科学」「データサイエンス」「情報システム」「メディア情報処理」「その他」から必修科目10単位、選択科目30単位以上あわせて56単位から80単位まで
	情報理論2	2	△		0・2		
	論理回路1	2	△	0・2			
	論理回路2	2	△		2・0		
	数値計算論	2	△			0・2	
	プログラミング応用演習1	2	△		<4・0> <0・0>		
	プログラミング応用演習2	2	△		<0・4> <0・0>		
	プログラミング発展演習1	2	△		<0・0> <4・0>		
	プログラミング発展演習2	2	△		<0・0> <0・4>		
	知能情報科学演習	2	△			2・0	
	メディア情報処理演習	2	△			2・0	
	情報システム設計演習	2	△			2・0	
	データサイエンス演習	2	△			2・0	
	情報工学実験1	3	○			[4・0] [0・4]	
	情報工学実験2	3	○			[4・0] [0・4]	
	コンピュータネットワーク	コンピュータネットワーク基礎	2	△		2・0	
コンピュータアーキテクチャ		2	△		0・2		
ネットワーク工学		2	△		0・2		
オペレーティングシステム		2	△			2・0	
ネットワークプログラミング論		2	△			2・0	

	クラウドコンピューティング	2	△			0・2	
知能情報科学	知能情報科学基礎	2	△		2・0		
	知能情報科学応用	2	△		0・2		
	データベース工学	2	△			2・0	
	アルゴリズム設計論	2	△			2・0	
	人工知能	2	△			0・2	
	ソフトコンピューティング	2	△			0・2	
データサイエンス	データサイエンス基礎	2	△		2・0		
	データサイエンス応用	2	△		0・2		
	ビッグデータサイエンス	2	△			2・0	
	オペレーションズリサーチ	2	△			2・0	
	認知科学	2	△			2・0	
	データマイニング	2	△			0・2	
	データマネジメント	2	△			0・2	
情報システム	情報システム学基礎	2	△		2・0		
	情報システム学応用	2	△		0・2		
	情報特許論	2	△		0・2		
	集積回路学	2	△			2・0	
	組み込みシステム論	2	△			0・2	
	ヒューマンインタフェース	2	△			0・2	
	情報セキュリティ工学	2	△			0・2	
メディア情報処理	メディア情報処理学基礎	2	△		2・0		
	メディア情報処理学応用	2	△		0・2		
	カラービジョン	2	△			2・0	
	音声・言語情報処理	2	△			2・0	
	コンピュータグラフィックス	2	△			0・2	
	画像情報処理	2	△			0・2	
	ロボット工学	2	△			0・2	
その他	特別ゼミナール1	2	△		2・0		
	特別ゼミナール2	2	△		0・2		
	プレゼミナール	2	○			0・2	
	卒業研究	8	○				◎・◎

(注) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

別表第I-11 情報通信工学部 通信工学科

(1) 総合科目

(2020年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件 単位数		
				1年次	2年次	3年次	4年次			
				前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期			
総	人文・大学の学	総合教養	2	△	2・0				2単	人文・社

合 科 目	社会・自然群	びりテラ シー	総合ゼミナール	2	△	2・0				位以 上	会・自然 群、外国語 群、健康・ スポーツ 群、プロジ ェクトスキ ル形成群を あわせて18 単位から40 単位まで
			社会生活と法	2	△	2・0					
			現代社会と青年の心理	2	△	2・0					
			コンピュータと情報活用術	2	△	2・0					
		視野を広 げる	異文化の理解	2	△	0・2					
			政治学	2	△	0・2					
			発達心理学	2	△	0・2					
			アジアの言語と文化	2	△	0・2					
			ヨーロッパの言語と文化	2	△	0・2					
			コンピュータで文化を測る	2	△	0・2					
		社会とつ ながる	現代社会を考える	2	△		2・0				
			歴史学の世界	2	△		2・0				
			経済学の世界	2	△		2・0				
			哲学の世界	2	△		2・0				
			文学の世界	2	△		0・2				
			日本国憲法	2	△		0・2				
			教育制度論	2	△		0・2				
			ジェンダー論	2	△		0・2				
		世界を知 る	国際交流論	2	△			2・0			
	平和学		2	△			2・0				
	日本を知 る	日本の近代史	2	△			0・2				
		技術と倫理	2	△			0・2				
		企業社会と労働	2	△			0・2				
	外国語 群	英語	Core English 1	1	□	2・0			選 択 必 修 科 目 3 単 位 以 上 を 含 み 3 単 位 以 上		
			Core English 2	1	□	0・2					
			Core English 3	1	□	2・0					
			Core English 4	1	□	0・2					
			Intermediate English 1	1	□		2・0				
			Intermediate English 2	1	□		0・2				
			Advanced English 1	1	□			2・0			
			Advanced English 2	1	□			0・2			
		中国語	中国語1	1	△		2・0				
中国語2			1	△		0・2					
中国語3			1	△			2・0				
中国語4			1	△			0・2				
健康・ス ポーツ 群	健康とス ポーツ	スポーツ実習1	1	△	2・0			1 単 位 以 上			
		スポーツ実習2	1	△	0・2						
		健康スポーツ科学論	2	△		(2・0) (0・2)					
		スポーツ実習3	1	△			(2・0) (0・2)				

プロジェクト スキル 形成群	プロジェクト活動	プロジェクト活動スキル入門	2	△	2・0				4単 位以 上
		プロジェクト活動演習1	2	△		2・0			
		プロジェクト活動演習2	2	△		0・2			
		キャリア設計プロジェクト実践	2	△			2・0		
	日本語活用	日本語上達法1	2	△	2・0				
		日本語上達法2	2	△	0・2				
		日本語活用法	2	△		(2・0) (0・2)			
	地域プロジェクト活動	地域プロジェクト活動1	2	△	0・2				
		地域プロジェクト活動2	2	△		0・2			
	社会を知る	インターンシップ	2	△			0・2		

(注) 必選欄 □：選択必修科目 △：選択科目

(2) 専門教育科目

(2020年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件 単位数	
				1年次	2年次	3年次	4年次		
				前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期		
共通 重点 科目	情報	コンピュータリテラシー1	2	○	2・0				必修科目4 位、選択科 目をあわせ て、4単位か ら12単位ま で
	コンピュータリテラシー2	2	△	0・2					
	プログラミング基礎演習	2	○	0・2					
	情報特別実習1	1	△		2・0				
	情報特別実習2	1	△		0・2				
	情報特別実習3	1	△			2・0			
	情報特別実習4	1	△			0・2			
	情報特別実習5	1	△				2・0		
情報特別実習6	1	△				0・2			
基礎 専門 科目	数学	基礎数学・演習	3	△	4・0				必修科目7単 位、選択科 目をあわせ て、13単位 から34単位 まで
	基礎解析・演習	3	△	[4・0] [0・4]					
	微分積分・演習	3	△	[4・0] [0・4]	[4・0]				
	多変数の微積分・演習	3	△	[0・4]	[4・0]				
	微分方程式	2	△		0・2				
	ベクトルと行列1	2	△	2・0					
	ベクトルと行列2	2	△	0・2					
	確率・統計	2	△		2・0				

		解析学	2	△			2・0	
	物理	物理学1・演習	3	△	4・0			
		物理学・実験	3	○	4・0			
		物理学2	2	△	0・2			
	工学入門	情報通信工学入門	2	○	2・0			
		基礎電気回路	2	○	2・0			
専門科目	通信方式	電気回路1a・演習	2	○	<0・0> <4・0>			必修科目28単位、選択必修科目10単位以上(□H又は□Sいずれか一方の選択必修科目を合わせて56単位から80単位まで)
		電気回路1b・演習	2	○	<0・0> <0・4>			
		基礎電磁気学1・演習	2	○	<0・0> <4・0>			
		基礎電磁気学2・演習	2	○	<0・0> <0・4>			
		電気回路2	2	□H		2・0		
		電子回路1	2	□H		2・0		
		電磁気学1	2	□H		2・0		
		計測工学	2	△		0・2		
		電子回路2	2	□H		0・2		
		電磁気学2	2	□H		0・2		
		パルス回路	2	△			2・0	
		アンテナ工学	2	□H			2・0	
	伝送線路工学	2	△			0・2		
	ワイヤレス通信	2	△			0・2		
	情報通信ネットワーク	通信工学基礎	2	△	0・2			
		情報伝送工学	2	□H			2・0	
		ネットワーク工学	2	△			2・0	
		光通信工学	2	△			2・0	
		デジタル伝送工学	2	△			0・2	
		ネットワーク設計	2	△			0・2	
		モバイル通信	2	△			0・2	
		光エレクトロニクス	2	△			0・2	
		電波法規	2	△				2・0
	情報工学	基礎情報工学	2	□S	0・2			
		コンピュータ工学	2	□S			2・0	
		ソフトウェア工学	2	□S			2・0	
		情報通信理論	2	△			0・2	
		コンピュータシステム	2	□S			0・2	
		マルチメディア情報処理	2	△			2・0	
符号理論		2	△			2・0		
情報セキュリティ		2	△			0・2		
プログラミング演習1		2	□S			2・0		
プログラミング演習2		2	□S			0・2		
プログラミング応用演習		2	□S			2・0		
Webプログラミング	2	△			0・2			
実験	工学基礎実験	2	○	0・4				
	電気実験I	2	○			4・0		

	電気実験2	2	○		0・4		
	情報通信工学実験1	2	○			4・0	
	情報通信工学実験2	2	○			0・4	
その他	特別ゼミナール1	2	△	2・0			
	特別ゼミナール2	2	△		0・2		
	特別ゼミナール3	2	△			2・0	
	プレゼミナール	2	○			0・2	
	異分野協働エンジニアリング・デザイン演習	2	△			1・1	
	IoT実習	1	△				2・0
	卒業研究	8	○				◎・◎

(注) 必選欄 ○：必修科目 □H・□S：選択必修科目 △：選択科目

別表第1—12 総合情報学部 デジタルゲーム学科、ゲーム&メディア学科

(1) 総合科目(共通)

(平成30年度からの教育課程)

区分	授業科目	単 位 数	必 選	週時間数				卒業要件単位数	
				1年次	2年次	3年次	4年次		
				前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期		
人文・ 社会・ 自然 群	人間の探究	哲学の世界	2	△	2・0				6単位 から16 単位ま で 人文・社 会・自然 群、外国語 群、健康・ スポーツ 群、キャリア 形成群を あわせて24 単位から40 単位まで
		発達心理学	2	△	2・0				
		人間形成と教育	2	△	0・2				
		現代社会と青年の心理	2	△	0・2				
		教育制度論	2	△		2・0			
	文化と社会の理 解	日本国憲法の理念と現 実	2	△	0・2				
		文学の世界	2	△	0・2				
		政治のしくみを探究す る	2	△	0・2				
		経済学の世界	2	△	2・0				
		国際コミュニケーション	2	△		2・0			
		日本の近代史を探究す る	2	△		0・2			
	科学と自然	情報社会と情報倫理	2	△		0・2			
		科学の世界	2	△		2・0			
数理の世界		2	△		0・2				
外国 語群	英語	基礎英語1	1	□	2・0			選択必 修科目 4単位 以上、 選択科 目2単 位以上 をあわ せて10	
		基礎英語2	1	□	0・2				
		英語リーディング1	1	□	2・0				
		英語リーディング2	1	□	0・2				
		英語リーディング3	1	□		2・0			
		英語リーディング4	1	□		0・2			
		英語スキルアップセミ ナー1	1	□			2・0		
		英語スキルアップセミ	1	□			0・2		

		ナー2							単位ま で
		英語コミュニケーション1	1	□		2・0			
		英語コミュニケーション2	1	□		0・2			
		英語コミュニケーション3	1	△			2・0		
		英語コミュニケーション4	1	△			0・2		
		英文法セミナー	1	△	[2・0] [0・2]				
	中国語	中国語1	1	△	2・0				
		中国語2	1	△	0・2				
	ドイツ語	ドイツ語1	1	△	2・0				
		ドイツ語2	1	△	0・2				
	日本語	日本語1	1	△	2・0				
		日本語2	1	△	0・2				
		日本語3	1	△	2・0				
		日本語4	1	△	0・2				
健康・ スポ ーツ 群	健康の科学	健康・スポーツ科学論	2	△		2・0			3単位 から7 単位ま で
		スポーツ文化論	2	△		0・2			
		スポーツ実習1	1	△	2・0				
		スポーツ実習2	1	△	0・2				
		スポーツ実習3	1	△			[2・0] [0・2]		
		スポーツ実習4	1	△				[2・0] [0・2]	
キャ リア 形成 群	キャリア形成基 礎	大学とその学び	1	○	2・0			必修科 目3単 位、選 択科目 4単位 以上を あわせ て11単 位まで	
		キャリアと学び	1	○		2・0			
		キャリア実践	1	○			1・1		
		インターンシップ	2	△			0・4		
		社会ボランティア実践	2	△		2・2			
	学部の特色	仕事と生活	2	△	0・2				
		コンピュータリテラシ ー	2	△	2・0				
		メディア芸術文化論	2	△	0・2				
		メディアリテラシー	2	△	0・2				
		知的財産権入門	2	△		0・2			
		文字の文化と歴史	2	△		0・2			
	高齢社会と医療福祉	2	△		0・2				
	今日の医療医学の課題	2	△		0・2				

(注) 必選欄 ○：必修科目 □：選択必修科目 △：選択科目

(2) 専門教育科目 デジタルゲーム学科

(平成30年度からの教育課程)

区分	授業科目	単 位	必 選	週時間数				卒業要件 単位数
				1年次	2年次	3年次	4年次	

		数		前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期		
専門科目	グラフィックス	コンピュータグラフィックス基礎論	2	△	2・0				必修科目26単位、選択必修科目8単位、選択科目をあわせて88単位以上
		グラフィックデザイン・実習1	2	△	0・4				
		グラフィックデザイン実習2	2	△		4・0			
		3Dグラフィックス・実習1	2	△		4・0			
		3Dグラフィックス実習2	2	△		0・4			
		Webデザイン・演習1	4	△			4・0		
		Webデザイン演習2	2	△			0・2		
		キャラクターデザイン・実習	2	△			0・4		
	VRグラフィックス演習	4	△				4・0		
	クリエイション	デザイン基礎実習	2	△	4・0				
		デッサンの基礎・実習	2	△	0・4				
		映像制作基礎演習	2	△		2・0			
		デッサン実習	2	△		4・0			
		表現実習1	2	△		0・4			
		映像制作実習	2	△			4・0		
		アドバンストデザイン・実習	2	△			4・0		
		UI・UXデザイン	2	△			2・0		
		コマーシャルデザイン	2	△			2・0		
		映像シナリオ	2	△			2・0		
		メディアアート・演習	2	△			0・2		
		表現実習2	2	△			0・4		
		イラストレーション・実習	2	△			0・4		
		エディトリアルデザイン・演習	2	△			0・2		
	3D造形・実習	2	△			0・4			
	コスチュームデザイン	2	△				2・0		
	アニメーション	アニメーション概論	2	△	2・0				
		アニメーション技法	2	△	0・2				
		2DCGアニメーション・実習1	2	△		4・0			
2DCGアニメーション実習2		2	△		0・4				
3DCGアニメーション・実習1		2	△		0・4				
3DCGアニメーション実習2		2	△			4・0			
モーショングラフィック演習		4	△			0・4			

ゲーム学	ゲーム学	2	○	2・0			
	ゲーム制作入門実習	2	△	4・0			
	知的所有権	2	○	0・2			
	インタラクティブメディア概論	2	○	0・2			
	ゲーム工学概論	2	△	0・2			
	ゲームシナリオ	2	△		2・0		
	ゲーム評価法・演習	2	△		0・2		
	ゲームデザイン	2	△		0・2		
	ゲームマネジメント	2	△			0・2	
	シリアスゲーム論	2	△				2・0
	ゲームと教育	2	△				2・0
ゲームの科学	ゲームの心理学	2	○	2・0			
	基礎生物学	2	△	2・0			
	ゲームの数学I	2	△	2・0			
	基礎力学・物理学	2	△	2・0			
	基礎天文学	2	△	0・2			
	論理・離散数学	2	△	0・2			
	ヒューマンインタラクション	2	△		2・0		
	社会学概論	2	△		2・0		
	ゲームの数学2	2	△		2・0		
	認知科学	2	△		0・2		
	確率・統計入門	2	△		0・2		
	人間工学	2	△		0・2		
	ゲームインタフェース実験	2	△			4・0	
	ゲームと人工知能	2	△			2・0	
パズルの数学	2	△				2・0	
情報工学	デジタル回路基礎	2	△	0・2			
	C++プログラミング・実習I	2	△		4・0		
	情報通信論	2	△		2・0		
	コンピュータアーキテクチャ	2	△		0・2		
	デジタルインタフェース	2	△		0・2		
	シミュレーションプログラミング	2	△		0・2		
	プログラミングシステム論	2	△			2・0	
	オペレーティングシステム	2	△			2・0	
	ゲームセンサー論	2	△			2・0	
	データベース概論・演習	2	△			0・2	
	情報セキュリティ	2	△			0・2	
	形式システム・計算論	2	△			0・2	
	プログラミング手法と言	2	△			0・2	

	語						
プログラミング	オブジェクト指向プログラミング入門・実習	2	△	4・0			
	スクリプトプログラミング入門・実習	2	△	4・0			
	オブジェクト指向プログラミング・実習	2	△	0・4			
	アルゴリズム基礎論	2	△	0・2			
	スクリプトプログラミング演習1	2	△		2・0		
	データ構造とアルゴリズム	2	△		2・0		
	オブジェクト指向ソフトウェア開発	2	△		0・2		
	3Dゲームプログラミング・実習	2	△		0・4		
	チーム開発技法	2	△		0・2		
	ゲーム開発実習	2	△			4・0	
	インタラクションプログラミング	2	△			2・0	
	C++プログラミング実習2	2	△			0・4	
	並列・ネットワークプログラミング・実習	2	△			0・4	
	ハードウェアプログラミング	2	△			0・2	
	Webプログラミング・実習	2	△				4・0
	スクリプトプログラミング演習2	2	△				2・0
	先端ゲームプログラミング・実習	2	△				4・0
サウンド	サウンドデザイン・実習	2	△	0・4			
	音楽理論	2	△		2・0		
	ゲームミュージック・演習	2	△			0・2	
プロデュース	プランニング入門・演習	2	△	0・2			
	コンテンツマーケティング・演習	2	△		2・0		
	コンセプトメイキング	2	△		0・2		
	コンテンツマネジメント・演習	2	△		0・2		
	アンケート調査法基礎	2	△			2・0	
	ビジネスマネジメント論	2	△			2・0	
	メディアプロデュース・実習	2	△			0・4	
	イベントプロデュース	2	△				2・0

アート&カルチャー	多文化コミュニケーション	2	△	2・0			
	芸術概論	2	△	2・0			
	視覚表現論	2	△	0・2			
キャリア形成	アクティブシンキング論・実習	2	△	4・0			
	問題解決の基礎	2	△	2・0			
	日本語表現法・演習	2	○	0・2			
	ゲーム・メディア制作特論	2	○	0・2			
	情報産業英語	2	△		2・0		
	コミュニケーション技法	2	△		2・0		
	テクニカルライティング	2	△		2・0		
	ビジネスコミュニケーション・演習	2	△		0・2		
	キャリアプランニング	2	○		0・2		
	プロジェクト	プロジェクト入門・実習	2	○	0・4		
プロジェクト実習1		2	○		4・0		
プロジェクト実習2		2	○		0・4		
社会プロジェクト実習		2	○			2・2	
その他	特別活動A	2	△		◎・◎		
	特別活動B	2	△		◎・◎		
	ゲーム制作実習	2	△			0・4	
ゼミナール	プレゼミ	2	○			2・0	
	ゼミナール	2	○			0・2	
	卒業制作	8	□				◎・◎
	卒業研究	8	□				◎・◎

(注) 必選欄 ○：必修科目 □：選択必修科目 △：選択科目

(3) 専門教育科目 ゲーム&メディア学科

(平成30年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件単位数
				1年次	2年次	3年次	4年次	
				前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期	
専門科目	コンピュータグラフィックス基礎論	2	△	2・0				必修科目26単位、 選択必修科目8単位、 選択科目をあわせて88単位以上
	グラフィックデザイン・実習1	2	△	0・4				
	グラフィックデザイン実習2	2	△		4・0			
	3Dグラフィックス・実習1	2	△		4・0			
	3Dグラフィックス実習2	2	△		0・4			
	Webデザイン・演習1	4	△			4・0		
	Webデザイン演習2	2	△			0・2		
	キャラクターデザイン・	2	△			0・4		

	実習						
	VRグラフィックス演習	4	△				4・0
クリエイション	デザイン基礎実習	2	△	4・0			
	映像・映画概論	2	△	2・0			
	デッサンの基礎・実習	2	△	0・4			
	映像設計	2	△	0・2			
	映像制作基礎演習	2	△		2・0		
	デッサン実習	2	△		4・0		
	表現実習1	2	△		0・4		
	映像制作実習	2	△			4・0	
	アドバンストデザイン・実習	2	△			4・0	
	UI・UXデザイン	2	△			2・0	
	コマーシャルデザイン	2	△			2・0	
	映像シナリオ	2	△			2・0	
	映像音響論・実習	2	△			4・0	
	メディアアート・演習	2	△			0・2	
	表現実習2	2	△			0・4	
	イラストレーション・実習	2	△			0・4	
	エディトリアルデザイン・演習	2	△			0・2	
	3D造形・実習	2	△			0・4	
	コスチュームデザイン	2	△				2・0
	アニメーション	アニメーション概論	2	△	2・0		
アニメーション技法		2	△	0・2			
2DCGアニメーション・実習1		2	△		4・0		
2DCGアニメーション実習2		2	△		0・4		
3DCGアニメーション・実習1		2	△		0・4		
3DCGアニメーション実習2		2	△			4・0	
モーションプログラミング演習		4	△			0・4	
3DCGアニメーション実習3		2	△				4・0
ゲーム学	ゲーム学	2	○	2・0			
	ゲーム制作入門実習	2	△	4・0			
	知的所有権	2	○	0・2			
	インタラクティブメディア概論	2	○	0・2			
	ゲームシナリオ	2	△		2・0		
	ゲーム評価法・演習	2	△		0・2		
	ゲームデザイン	2	△		0・2		
	シリアスゲーム論	2	△			2・0	

	ゲームと教育	2	△			2・0	
ゲームの科学	ゲームの心理学	2	○	2・0			
	社会学概論	2	△		2・0		
	認知科学	2	△		0・2		
情報工学	情報通信論	2	△		2・0		
	データベース概論・演習	2	△			0・2	
	情報セキュリティ	2	△			0・2	
プログラミング	オブジェクト指向プログラミング入門・実習	2	△	4・0			
	スクリプトプログラミング入門・実習	2	△	4・0			
	オブジェクト指向プログラミング・実習	2	△	0・4			
	アルゴリズム基礎論	2	△	0・2			
	スクリプトプログラミング演習1	2	△		2・0		
	オブジェクト指向ソフトウェア開発	2	△		0・2		
	3Dゲームプログラミング・実習	2	△		0・4		
	チーム開発技法	2	△		0・2		
	スクリプトプログラミング演習2	2	△			2・0	
	ゲーム開発実習	2	△			4・0	
	Webプログラミング・実習	2	△				4・0
	サウンド	サウンドデザイン・実習	2	△	0・4		
音楽理論		2	△		2・0		
音楽制作・実習		2	△		0・4		
ゲームミュージック・演習		2	△			0・2	
プロデュース	プランニング入門・演習	2	△	0・2			
	コンテンツマーケティング・演習	2	△		2・0		
	コンセプトメイキング	2	△		0・2		
	コンテンツマネジメント・演習	2	△		0・2		
	アンケート調査法基礎	2	△			2・0	
	ビジネスマネジメント論	2	△			2・0	
	イベントプロデュース	2	△			2・0	
	メディアプロデュース・実習	2	△			0・4	
アート&カルチャー	多文化コミュニケーション	2	△	2・0			
	芸術概論	2	△	2・0			
	視覚表現論	2	△	0・2			
	言葉のデッサン	2	△	0・2			

	サブカルチャー・コミック論	2	△		2・0		
	ナラティブライティング・実習	2	△		4・0		
メディア	メディア英語	2	△		0・2		
	放送システム	2	△		0・2		
	広報システム	2	△			0・2	
ライブ	アートイベント	2	△		0・2		
	アナウンス論・演習	2	△		0・2		
	演劇概論	2	△			2・0	
	ゲーム・メディアライブ・実習	2	△			0・4	
キャリア形成	アクティブシンキング論・実習	2	△	4・0			
	問題解決の基礎	2	△	2・0			
	日本語表現法・演習	2	○	0・2			
	ゲーム・メディア制作特論	2	○	0・2			
	情報産業英語	2	△		2・0		
	コミュニケーション技法	2	△		2・0		
	テクニカルライティング	2	△		2・0		
	ビジネスコミュニケーション・演習	2	△		0・2		
	キャリアプランニング	2	○		0・2		
プロジェクト	プロジェクト入門・実習	2	○	0・4			
	プロジェクト実習1	2	○		4・0		
	プロジェクト実習2	2	○		0・4		
	社会プロジェクト実習	2	○			2・2	
その他	特別活動A	2	△		◎・◎		
	特別活動B	2	△		◎・◎		
	ゲーム制作実習	2	△			0・4	
ゼミナール	プレゼミ	2	○			2・0	
	ゼミナール	2	○			0・2	
	卒業制作	8	□				◎・◎
	卒業研究	8	□				◎・◎

(注) 必選欄 ○：必修科目 □：選択必修科目 △：選択科目

別表第1—13 総合情報学部 情報学科

(1) 総合科目

(2020年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	コース別 必選		週時間数				卒業要件 単位数				
			CSコ ース	DMコ ース	1年次	2年次	3年次	4年次	CS コース	DM コース			
					前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期					
人文・ 社会・ 自然群	大学の 学びリ テラシ ー	総合ゼミナール	2	△	△	2・0				8単 位か ら12 単位 まで	人 文・ 社 会・ 自 然 群、 外 国 語 群、 健 康・ ス ポ ー ツ 群を 合わ せて 14単 位か ら18 単位 まで	8単 位か ら28 単位 まで	人 文・ 社 会・ 自 然 群、 外 国 語 群、 健 康・ ス ポ ー ツ 群を 合わ せて 14単 位か ら34 単位 まで
	日本語上達法I	2	△	△	2・0								
	政治学	2	△	△	2・0								
	現代社会と青年の心理	2	△	△	2・0								
	視野を 広げる	異文化の理解	2	△	△	0・2							
		社会生活と法	2	△	△	0・2							
		発達心理学	2	△	△	0・2							
		アジアの言語と文化	2	△	△	0・2							
		ヨーロッパの言語と文化	2	△	△	0・2							
		大阪の文化と歴史	2	△	△	0・2							
		高齢者社会と医療福祉	2	△	△	0・2							
		からだの科学	2	△	△	0・2							
		今日の医療医学の課題	2	△	△	0・2							
	社会と つなが る	現代社会を考える	2	△	△		2・0						
		歴史学の世界	2	△	△		2・0						
		経済学の世界	2	△	△		2・0						
		哲学の世界	2	△	△		2・0						
		日本語上達法2	2	△	△		[2・0] [0・2]						
		文学の世界	2	△	△		0・2						
		日本国憲法	2	△	△		0・2						
		教育制度論	2	△	△		0・2						
		ジェンダー論	2	△	△		0・2						
		文字の文化と歴史	2	△	△		0・2						
世界を 知る	国際交流論	2	△	△			2・0						
	平和学	2	△	△			2・0						
日本を 知る	日本の近代史	2	△	△			0・2						
	企業社会と労働	2	△	△			0・2						
外国語 群	英語	Core English 1	1	□a	△	2・0			選択 必修 科目 □a4 単位 以上、	4単 位か ら12 単位 まで			
		Core English 2	1	□a	△	0・2							
		Core English 3	1	□a	△	2・0							
		Core English 4	1	□a	△	0・2							
		Intermediate English 1	1	□a	△		2・0						
		Intermediate	1	□a	△		0・2						

		English 2								選択科目を合わせて8単位まで	
		Advanced English 1	1	□a	△			2・0			
		Advanced English 2	1	□a	△			0・2			
	中国語	中国語1	1	△	△		2・0				
		中国語2	1	△	△		0・2				
		中国語3	1	△	△			2・0			
		中国語4	1	△	△			0・2			
健康・スポーツ群	健康とスポーツ	スポーツ実習1	1	△	△	2・0				2単位から6単位まで	2単位から6単位まで
		スポーツ実習2	1	△	△	0・2					
		健康・スポーツ科学論	2	△	△		2・0				
		スポーツ文化論	2	△	△		0・2				
		スポーツ実習3	1	△	△			[2・0] [0・2]			

(注) 必選欄 △：選択科目 □a：選択必修科目

CSコース：コンピュータサイエンスコース、DMコース：デジタルメディアコース

(2) 専門教育科目

(2020年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	コース別必選		週時間数				卒業要件単位数	
			CSコース	DMコース	1年次	2年次	3年次	4年次	CSコース	DMコース
					前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期		
基礎専門科目	数学基礎演習	2	△	△	4・0				必修科目14単位、選択必修科目(□b)4単位以上、選択科目をあわせて20~30単位まで	20~38単位
	基礎解析演習	2	○	△	4・0 0・4					
	微分積分演習	2	△	△	0・4					
	情報数学1	2	○	△	2・0					
	情報数学2	2	○	△	0・2					
	ベクトルと行列	2	○	△	2・0					
	空間幾何	2	△	△		2・0				
	確率・統計演習	2	○	△		2・0				
	解析学	2	△	△			2・0			
理科	基礎化学	2	□b	△	2・0					
	基礎生物学	2	□b	△	2・0					
	力学	2	□b	△		2・0				
	電気・電子回路	2	□b	△		0・2				
情報	情報リテラシ演習1	2	△	△	2・0					
	情報リテラシ演習2	2	△	△	0・2					
	コンピュータ活用演習	2	○	△	0・2					
	コンピュータと社会	2	○	△	2・0					
	Linux演習	2	△	△		2・0				
	CGデザイン演習	2	△	△	0・2					

		ウェブデザイン演習	2	△	△		0・2				
専門科目	情報科学	アルゴリズムとデータ構造1	2	○	△		0・2			必修科目48単位、選択必修科目(□c)12単位以上、選択科目をあわせて80～94単位まで	必修科目18単位、選択必修科目(□d)4単位以上、選択科目をあわせて56～94単位まで
		アルゴリズムとデータ構造2	2	□c	△			2・0			
		プログラミング言語論	2	○	△		0・2				
		情報理論	2	○	△		0・2				
		データベース	2	□c	△			2・0			
		数値計算演習	2	△	△			0・2			
ソフトウェア科学	ソフトウェア科学	C++プログラミング実習1	2	○	□d	4・0					
		C++プログラミング実習2	2	○	□d	0・4					
		C++プログラミング実習3	2	○	□d		4・0				
		C++プログラミング実習4	2	□c	△		0・4				
		プログラミング総合演習1	2	□c	□d		2・0				
		プログラミング総合演習2	2	□c	△		0・2				
		プログラミング総合演習3	2	□c	△			2・0			
		グループプログラミング演習	2	○	△		0・2				
		ソフトウェアとシステムの検証	2	△	△			0・2			
		オブジェクト指向設計論	2	△	△				2・0		
コンピュータ工学	コンピュータ工学	コンピュータアーキテクチャ1	2	○	△	0・2					
		コンピュータアーキテクチャ2	2	□c	△		2・0				
		論理回路	2	○	△		2・0				
		論理設計演習	4	□c	△		0・4				
		組み込みソフトウェア開発基礎演習	2	□c	△			2・0			
		組み込みソフトウェア開発演習	2	△	△			0・2			
		コンピュータ計測と制御	2	△	△				2・0		
情報システム	情報システム	情報システム実験	2	○	○		4・0				
		情報ネットワーク	2	○	△		2・0				
		ウェブプログラミング演習	2	△	△		0・2				

	オペレーティングシステム	2	○	△			2・0	
	情報セキュリティマネジメント	2	△	△			2・0	
	情報システム設計論	2	○	△			2・0	
	並列分散システム	2	△	△			0・2	
	情報システムの構築・運用・管理	2	△	△			0・2	
情報メディア	ヒューマンコンピュータインタラクション	2	△	△	0・2			
	CGプログラミング演習	2	△	△		0・2		
	画像情報処理	2	△	△			2・0	
	GUIデザイン演習	2	△	△			0・2	
	コンピュータモデリング手法	2	△	△			0・2	
	情報メディア論	2	△	△				2・0
	データ解析手法	2	△	△				0・2
ITキャリア形成	スタディスキル	2	○	○	1・1			
	情報学入門	2	△	△	2・0			
	テクニカルプレゼンテーション	2	○	△	0・2			
	問題解決法	2	△	△		2・0		
	ITマネジメント	2	△	△		0・2		
	エンジニアリングデザイン演習	2	○	△			2・0	
	テクニカルコミュニケーション	2	○	△			0・2	
	キャリアプランニング1	2	○	○			0・2	
	キャリアプランニング2	2	○	○				2・0
	インターンシップ	2	△	△			0・4	
ゼミ及び研究	プレゼミ	2	○	○		1・1		
	卒業研究	8	○	○			◎・◎	
	特別研究	4	△	△				◎・◎

(注) コース別必選欄 ○：必修科目 □b、□c、□d：選択必修科目 △：選択科目
総合情報学部他学科の指定された科目を専門科目の選択科目として10単位まで認定する。

CSコース：コンピュータサイエンスコース

DMコース：デジタルメディアコース

別表第1—14 建築・デザイン学部 建築・デザイン学科

(1) 共通科目

(2024年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件単位数	
				1年次	2年次	3年次	4年次		
				前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期		
共通科目	人文・社会・自然群	大学の総合教養	2	△	2・0				8単位以上 人文・社会・自然群、外国語群、健康・スポーツ群、プロジェクトスキル形成群、情報基礎群をあわせて24単位から36単位まで
		大学の総合ゼミナール	2	△	2・0				
		社会生活と法	2	△	2・0				
		現代社会と青年の心理	2	△	2・0				
		OECU概論I	1	△	1・0				
		異文化の理解	2	△	0・2				
		政治学	2	△	0・2				
		発達心理学	2	△	0・2				
		アジアの言語と文化	2	△	0・2				
		ヨーロッパの言語と文化	2	△	0・2				
		現代社会を考える1	2	△	2・0				
		現代社会を考える2	2	△	0・2				
		歴史学の世界	2	△	2・0				
		経済学の世界	2	△	2・0				
	哲学の世界	2	△	2・0					
	教育制度論	2	△	2・0					
	文学の世界	2	△	0・2					
	日本国憲法	2	△	0・2					
	ジェンダー論	2	△	0・2					
	世界を知る	国際コミュニケーション	2	△	2・0				
		平和学	2	△	2・0				
	日本を知る	企業社会と労働	2	△	2・0				
		日本の近代史	2	△	0・2				
技術と倫理		2	△	0・2					
外国語群	英語	Core English 1	1	□	2・0			選択必修科目4単位を含み、4単位以上	
		Core English 2	1	□	0・2				
		Core English 3	1	□	2・0				
		Core English 4	1	□	0・2				
		Intermediate Discourse 1	1	□		2・0			
		Intermediate Discourse 2	1	□		0・2			
		Intermediate Communication 1	1	□		2・0			
		Intermediate Communication 2	1	□		0・2			
		資格対策英語 1	1	□		2・0			
		資格対策英語 2	1	□		0・2			

		Advanced Discourse 1	1	□			2・0		
		Advanced Discourse 2	1	□			0・2		
		Advanced Communication 1	1	□			2・0		
		Advanced Communication 2	1	□			0・2		
	中国語	中国語1	1	△	2・0				
		中国語2	1	△	0・2				
		中国語3	1	△		2・0			
		中国語4	1	△		0・2			
健康・スポーツ群	健康とスポーツ	スポーツ実習1	1	△	2・0				1単位以上
		スポーツ実習2	1	△	0・2				
		スポーツ実習3	1	△			0・2		
		健康・スポーツ科学論	2	△		2・0			
		スポーツ文化論	2	△		0・2			
プロジェクト活動スキル形成群	プロジェクト活動	プロジェクト活動スキル入門	1	△	2・0				3単位以上
		プロジェクト活動演習1	1	△		2・0			
		プロジェクト活動演習2	1	△		0・2			
		キャリア設計プロジェクト実践	1	△			2・0		
	日本語活用	日本語上達法1	2	△	2・0				
		日本語上達法2	2	△	0・2				
		日本語活用法	2	△		2・0			
	地域プロジェクト活動	地域プロジェクト活動1	2	△	1・1				
		地域プロジェクト活動2	2	△		1・1			
	スキルアップ	グローバル研修	2	△			2・0		
		グローバル研修（英語）	2	△			2・0		
	社会を知る	インターンシップ	2	△			2・2		
情報基礎群	情報	AI・データサイエンス入門	2	△	2・0				必修科目2単位を含み、2単位以上
		コンピュータリテラシー1	2	○	2・0				
		コンピュータリテラシー2	2	△	0・2				
		プログラミング基礎演習	2	△	0・2				

(注) 必選欄 ○：必修科目 □：選択必修科目 △：選択科目

(2) 専門教育科目

(2024年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選		週時間数				卒業要件単位数	
			建築専攻	空間デザイン専攻	1年次	2年次	3年次	4年次		
					前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期		
基礎専門科目	数学	基礎数学	2	△	△	2・0				4単位から11単位まで
	物理	力学	2	△	△	2・0				
		物理学	2	△	△	0・2				
	建築・デザイン入門	建築学入門	2	△	△	2・0				
		空間デザイン学入門	2	△	△	2・0				
		建築構造入門	2	△	△	2・0				
		OECU 概論 2	1	△	△	1・0				
専門科目	建築設計実習	建築・デザイン設計基礎実習	2	○	○	0・4				建築専攻：必修科目50単位、選択科目あわせて、77単位から96単位まで
		建築設計実習1	4	○	○		8・0			
		建築設計実習2	4	○	△		0・8			
		建築設計実習3	4	△	△			8・0		
		建築・デザイン総合演習	4	△	△			0・4		
	建築計画	建築史・都市史1	2	△	△		2・0			
		建築史・都市史2	2	△	△		0・2			
		建築史・都市史3	2	△	△			2・0		
		建築史実習	2	△	△				4・0	
		建築計画1	2	○	△		2・0			
		建築計画2	2	○	△		0・2			
		住環境計画	2	△	△			0・2		
		都市・街並み計画	2	△	△			2・0		
	建築環境	環境デザイン論	2	△	△			0・2		
		建築環境工学1	2	○	△	0・2				
		建築環境工学2	2	△	△		2・0			
	建築設備	建築環境工学実習	2	△	△			0・4		
		建築設備1	2	○	△		0・2			
		建築設備2	2	△	△			2・0		
		建築構造	建築構造力学1	2	○	△	0・2			
	建築構造力学2		2	○	△		2・0			
	建築構造力学3		2	△	△		0・2			
	建築構造力学4		2	△	△			2・0		
	建築一般構造	建築構造1	2	○	△		0・2			
		建築構造2	2	○	△			2・0		
		建築構造3	2	○	△			0・2		
	建築材料	建築材料・構成概論	2	○	△	2・0				
		建築材料・構造実験	2	△	△			4・0		
	建築	建築生産1	2	○	△			2・0		

生産	建築生産 2	2	△	△		0・2	
	建築経済	2	△	△		0・2	
建築法規	建築法規	2	○	△		2・0	
建築実務	建築技術者倫理	2	△	△		0・2	
空間デザイン	空間デザイン概論	2	△	○	2・0		
	建築都市デザイン	2	△	△		0・2	
	インテリアデザイン概論	2	△	△		2・0	
	インテリアデザイン実践	2	△	△		0・2	
	ランドスケープデザイン	2	△	△		2・0	
	建築プロジェクトデザイン	2	△	△		0・2	
アート & デザイン	基礎造形	2	△	○	2・0		
	空間芸術表現論	2	△	△		0・2	
	デッサン実習	2	△	○	4・0		
	デザイン概論	2	△	△	2・0		
	デザイン基礎演習	2	△	△	0・2		
機能デザイン	自然災害概論	2	△	△	0・2		
	都市環境の設備 1	2	△	△		0・2	
	都市環境の設備 2	2	△	△		2・0	
	住環境設備実験	2	△	△		0・4	
	空間環境デザイン 1	2	△	△	0・2		
	空間環境デザイン 2	2	△	△		2・0	
	構造デザイン総論	2	△	△		2・0	
デジタルデザイン	デジタル空間の表現	2	△	△		2・0	
	コンピュータ製図実習	1	△	△		2・0	
	コンピューターショナルデザイン	2	△	△		2・0	
	サイバー空間創成	2	△	△		0・2	
	行動シミュレーション	2	△	△		0・2	
	Building Information Modeling	2	△	△		2・0	
データ指向デザイン	空間表現の情報技術	2	△	△	0・2		
	社会データ分析	2	△	△		2・0	
	空間シミュレーション	2	△	△		0・2	
	建築空間DX	2	△	△		2・0	
	都市空間DX	2	△	△		2・0	
	構造シミュレーション	2	△	△		2・0	
	空間情報数理	2	△	△		2・0	
データサイエンス	データサイエンス基礎	2	△	△		2・0	
	人工知能	2	△	△		0・2	
その他	特別ゼミナール I	2	△	△		2・0	

特別ゼミナール2	2	△	△		0・2		
建築・デザインプレゼミナール1	2	○	○		0・2		
建築・デザインプレゼミナール2	2	○	○			2・0	
建築・デザインプレゼミナール3	2	○	○			0・2	
卒業研究	8	○	○				◎・◎

(注) 必選欄 ○：必修科目 □：選択必修科目 △：選択科目

別表第2 教職課程

(1) 教科及び教科の指導法に関する科目 工学部電気電子工学科

(2022年度からの教育課程)

免許教科	免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数	必選	週時間数			
						1年次	2年次	3年次	4年次
						前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期
数学	教科に関する専門的事項	代数学	代数学1	2	○		0・2		
			代数学2	2	△			2・0	
		幾何学	幾何学1	2	○		2・0		
			幾何学2	2	△			0・2	
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		数学科教育法1	2	○		2・0		
			数学科教育法2	2	○		0・2		
			数学科教育法3 *	2	△			2・0	
	数学科教育法4 *	2	△			0・2			
工業	教科に関する専門的事項	職業指導	職業指導	2	○		2・0		
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		工業科教育法1	2	○		2・0		
		工業科教育法2	2	○		0・2			
情報	教科に関する専門的事項	情報と職業	情報と職業	2	○		0・2		
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		情報科教育法1	2	○		2・0		
		情報科教育法2	2	○		0・2			

(注1) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(注2) *印の授業科目は、中一種必修とする。

(2) 教科及び教科の指導法に関する科目 工学部電子機械工学科

(2022年度からの教育課程)

免許教科	免許法施行規則に定	授業科目	単位	必選	週時間数
------	-----------	------	----	----	------

科	める科目区分等			数		1年次	2年次	3年次	4年次
						前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期
数学	教科に関する専門的事項	代数学	代数学1	2	○		0・2		
			代数学2	2	△			2・0	
		幾何学	幾何学1	2	○		2・0		
			幾何学2	2	△			0・2	
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		数学科教育法1	2	○		2・0		
			数学科教育法2	2	○		0・2		
			数学科教育法3 *	2	△			2・0	
	数学科教育法4 *	2	△			0・2			
工業	教科に関する専門的事項	職業指導	職業指導	2	○		2・0		
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		工業科教育法1	2	○		2・0		
		工業科教育法2	2	○		0・2			

(注1) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(注2) *印の授業科目は、中一種必修とする。

(3) 教科及び教科の指導法に関する科目 工学部機械工学科

(2022年度からの教育課程)

免許教科	免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位	必選	週時間数			
						1年次	2年次	3年次	4年次
						前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期
数学	教科に関する専門的事項	代数学	代数学1	2	○		0・2		
			代数学2	2	△			2・0	
		幾何学	幾何学1	2	○		2・0		
			幾何学2	2	△			0・2	
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		数学科教育法1	2	○		2・0		
			数学科教育法2	2	○		0・2		
			数学科教育法3 *	2	△			2・0	
	数学科教育法4 *	2	△			0・2			
工業	教科に関する専門的事項	職業指導	職業指導	2	○		2・0		
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		工業科教育法1	2	○		2・0		
		工業科教育法2	2	○		0・2			
技術	教科に関する専門的事項	木材加工(製図及び	木材加工	2	○		2・0		

的事項	実習を含む。)							
	栽培(実習を含む。)	栽培	2	○		2・0		
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	技術科教育法1	2	○		2・0		
		技術科教育法2	2	○		0・2		
		技術科教育法3	2	○		2・0		
技術科教育法4		2	○		0・2			

(注1) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(注2) *印の授業科目は、中一種必修とする。

(4) 教科及び教科の指導法に関する科目 工学部基礎理工学科

(2022年度からの教育課程)

免許教科	免許法施行規則に定める科目区分等	授業科目	単位数	必選	週時間数			
					1年次	2年次	3年次	4年次
					前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期
数学	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	数学科教育法1	2	○		2・0		
		数学科教育法2	2	○		0・2		
		数学科教育法3 *	2	△			2・0	
		数学科教育法4 *	2	△			0・2	
理科	教科に関する専門的事項	生物学実験 (コンピュータ活用を含む。)	1	△		2・0		
		地学実験 (コンピュータ活用を含む。)	1	△		2・0		
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	理科教育法1	2	○		2・0		
		理科教育法2	2	○		0・2		
		理科教育法3 *	2	△		2・0		
		理科教育法4 *	2	△		0・2		

(注1) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(注2) *印の授業科目は、中一種必修とする。

(5) 教科及び教科の指導法に関する科目 工学部環境科学科

(2022年度からの教育課程)

免許教科	免許法施行規則に定める科目区分等	授業科目	単位数	必選	週時間数			
					1年次	2年次	3年次	4年次
					前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期

工業	教科に関する専門的事項	職業指導	職業指導	2	○		2・0		
		各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		工業科教育法1	2	○		2・0	
				工業科教育法2	2	○		0・2	
技術	教科に関する専門的事項	木材加工(製図及び実習を含む。)	木材加工	2	○		2・0		
		栽培(実習を含む。)	栽培	2	○		2・0		
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		技術科教育法1	2	○		2・0		
			技術科教育法2	2	○		0・2		
			技術科教育法3	2	○		2・0		
			技術科教育法4	2	○		0・2		
	理科	教科に関する専門的事項	生物学実験(コンピュータ活用を含む。)	生物学実験 *	1	△		2・0	
地学実験(コンピュータ活用を含む。)			地学実験 *	1	△		2・0		
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)			理科教育法1	2	○		2・0		
			理科教育法2	2	○		0・2		
			理科教育法3 *	2	△		2・0		
	理科教育法4 *	2	△		0・2				

(注1) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(注2) *印の授業科目は、中一種必修とする。

(6) 教科及び教科の指導法に関する科目 医療健康科学部医療科学科

(2022年度からの教育課程)

免許教科	免許法施行規則に定める科目区分等	授業科目	単位数	必選	週時間数				
					1年次	2年次	3年次	4年次	
					前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期	
数学	教科に関する専門的事項	代数学	代数学1	2	○		0・2		
			代数学2	2	△			2・0	
		幾何学	幾何学1	2	○		2・0		
			幾何学2	2	△			0・2	
	各教科の指導法(情報)	数学科教育法1	2	○		2・0			

	通信技術の活用を含む。)	数学科教育法2	2	○		0・2		
		数学科教育法3 *	2	△			2・0	
		数学科教育法4 *	2	△			0・2	
工業	教科に関する専門的事項	職業指導	2	○		2・0		
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	工業科教育法1	2	○		2・0		
		工業科教育法2	2	○		0・2		
情報	情報と職業	情報と職業	2	○		0・2		

(注1) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(注2) *印の授業科目は、中一種必修とする。

(7) 教科及び教科の指導法に関する科目 医療健康科学部健康スポーツ科学科

(2022年度からの教育課程)

免許教科	免許法施行規則に定める科目区分等	授業科目	単位数	必選	週時間数			
					1年次	2年次	3年次	4年次
					前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期
保健体育	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	保健体育科教育法1	2	○		2・0		
		保健体育科教育法2	2	○		0・2		
		保健体育科教育法3 *	2	△			2・0	
		保健体育科教育法4 *	2	△			0・2	

(注1) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(注2) *印の授業科目は、中一種必修とする。

(8) 教科及び教科の指導法に関する科目 情報通信工学部情報工学科

(2022年度からの教育課程)

免許教科	免許法施行規則に定める科目区分等	授業科目	単位数	必選	週時間数				
					1年次	2年次	3年次	4年次	
					前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期	
数学	教科に関する専門的事項	代数学	代数学1	2	○		0・2		
			代数学2	2	△			2・0	
		幾何学	幾何学1	2	○		2・0		
			幾何学2	2	△			0・2	
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	数学科教育法1	2	○		2・0			
		数学科教育法2	2	○		0・2			
		数学科教育法3 *	2	△			2・0		
		数学科教育法4 *	2	△			0・2		

工業	教科に関する専門的事項	職業指導	職業指導	2	○		2・0		
		各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	工業科教育法1	2	○		2・0		
	工業科教育法2		2	○		0・2			
情報	教科に関する専門的事項	情報と職業	情報と職業	2	○		0・2		
		各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	情報科教育法1	2	○		2・0		
	情報科教育法2		2	○		0・2			

(注1) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(注2) *印の授業科目は、中一種必修とする。

(9) 教科及び教科の指導法に関する科目 情報通信工学部通信工学科

(2022年度からの教育課程)

免許教科	免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数	必選	週時間数			
						1年次	2年次	3年次	4年次
						前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期
数学	教科に関する専門的事項	代数学	代数学1	2	○		0・2		
			代数学2	2	△			2・0	
		幾何学	幾何学1	2	○		2・0		
			幾何学2	2	△			0・2	
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	数学科教育法1	2	○		2・0			
		数学科教育法2	2	○		0・2			
		数学科教育法3 *	2	△			2・0		
数学科教育法4 *	2	△			0・2				
工業	教科に関する専門的事項	職業指導	職業指導	2	○		2・0		
		各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	工業科教育法1	2	○		2・0		
	工業科教育法2		2	○		0・2			
情報	教科に関する専門的事項	情報と職業	情報と職業	2	○		0・2		
		各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	情報科教育法1	2	○		2・0		
	情報科教育法2		2	○		0・2			

(注1) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(注2) *印の授業科目は、中一種必修とする。

(10) 削除

(11) 教科及び教科の指導法に関する科目 総合情報学部情報学科

(2022年度からの教育課程)

免許教科	免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数	必選	週時間数			
						1年次	2年次	3年次	4年次
						前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期
数学	教科に関する専門的事項	代数学	代数学1	2	○		0・2		
			代数学2	2	△			2・0	
		幾何学	幾何学1	2	○		2・0		
			幾何学2	2	△			0・2	
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		数学科教育法1	2	○		2・0		
			数学科教育法2	2	○		0・2		
			数学科教育法3 *	2	△			2・0	
			数学科教育法4 *	2	△			0・2	
情報	教科に関する専門的事項	情報と職業	情報と職業	2	○		0・2		
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		情報科教育法1	2	○		2・0		
			情報科教育法2	2	○		0・2		

(注1) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(注2) *印の授業科目は、中一種必修とする。

(12) 教育の基礎的理解に関する科目等

工学部、情報通信工学部、医療健康科学部、総合情報学部

(2022年度からの教育課程)

免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数	必選	週時間数			
科目	各科目に含めることが必要な事項				1年次	2年次	3年次	4年次
					前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。) 教育に関する社会	教育原理	2	○		2・0		
		教職論	2	○		0・2		
		教育制度論	2	○		0・2		

	的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)						
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	○		2・0	
		発達心理学	2	△	0・2		
		現代社会と青年の心理	2	△	2・0		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別ニーズ教育の基礎と方法	2	○		2・0	
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2	○			0・2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と方法*	2	△		2・0	
	総合的な学習の時間の指導法	教育方法技術論と総合的な学習の時間の指導法	2	○		2・0	
	教育の方法及び技術						
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	情報通信技術活用論	2	○			2・0
	特別活動の指導法	特別活動指導法	2	○		0・2	
	生徒指導の理論及び方法	生徒・進路指導論	2	○			0・2
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法						
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談	2	○			0・2
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習1	2	○			2・2
		教育実習2 *	2	△			2・2
		事前・事後指導	1	○			1・1
	教職実践演習	教職実践演習(中・高)	2	○			0・2

(注1) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(注2) *印の授業科目は、中一種必修とする。

(13) 大学が独自に設定する科目

(2019年度からの教育課程)

免許法施行規則に定める科目 区分等	授業科目	単位 数	必選	週時間数			
				1年次	2年次	3年次	4年次
				前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期
大学が独自に設定する科目	介護等体験指導 *	1	△			2・0	

(注1) 必選欄 △：選択科目

(注2) *印の授業科目は、中一種必修とする。

別表第3 進級・卒業要件一覧表

(1) 工学部 電気電子工学科、電子機械工学科、機械工学科

(2024年度からの教育課程)

区分	卒業要件単位数					
	学科	電気電子工学科	電子機械工学科	機械工学科		
総合科目	人文・社会・自然群	8～26単位	6～26単位	6～30単位		
	外国語群	選択必修科目	4～8単位	—	—	
		選択科目	0～4単位	4～12単位	4～12単位	
		計	6～12単位	4～12単位	4～12単位	
	健康・スポーツ群	3～5単位	2～5単位	2～5単位		
	プロジェクトスキル形成群	必修科目	2単位	2単位	—	
		選択科目	2～18単位	4～18単位	6～20単位	
		計	4～20単位	6～20単位	6～20単位	
計		22～40単位	18～40単位	24～40単位		
専門教育科目	共通重点科目	必修科目	4単位	—	4単位	
		選択科目	0～2単位	—	2～6単位	
		計	4～6単位	—	6～10単位	
	基礎専門科目	必修科目	8単位	7単位	8単位	
		選択科目	7～26単位	17～39単位	11～24単位	
		計	15～34単位	24～46単位	19～30単位	
	専門科目	必修科目	卒業研究	8単位		
			卒業研究以外	34単位	14単位	27単位
		選択必修科目	2～4単位	—	□A 5～7単位 □B 4～12単位 □C 14～22単位 □D 10～20単位	

	選択科目	14～38単位	42～64単位	—
	特別選択科目	0～10単位	0～10単位	0～10単位
	計	58～82単位	64～86単位	68～79単位
合計	128単位			

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位50単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 卒業要件単位数のうち、100単位以上を修得していること。
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数128単位以上を修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、48単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目
インターンシップ

別表第2に定める教職課程の科目 ただし、教育の基礎的理解に関する科目等のうち次の科目は履修制限単位数に算入する。

発達心理学
現代社会と青年の心理
教育制度論

(注2) 留年生に対する特例措置

- ① 留年した1年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が20単位以上の者は、1年次配当科目のほか、2年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。
- ② 留年したことのある2年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が50単位以上の者は、2年次配当科目のほか、3年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。

(注3) 特別選択科目による他学科専門科目の履修について

自身の所属する学科に無い、他学科の学科専門科目のうち、実験、実習、演習及びゼミナール関連科目を除く授業科目について履修することができ、特別選択科目として10単位まで単位認定される。ただし、2年次生以上でかつ在籍年次より下の年次に配当されている授業科目を履修できることとする。また、科目担当教員の受講許可を必要とする。

(2) 工学部 基礎理工学科

(2024年度からの教育課程)

区分	卒業要件単位数	
	数理科学専攻	環境化学専攻

共通科目	人文・社会・自然群		6～26単位		
	外国語群	選択必修科目	2～14単位		
		選択科目	0～4単位		
		計	3～16単位		
	健康・スポーツ群		2～6単位		
	プロジェクトスキル形成群		2～10単位		
	情報基礎群	必修科目	2単位		
		選択科目	0～6単位		
		計	2～8単位		
	計		24～36単位		
専門基礎 教育科目	必修科目		2単位		
	選択科目		10～20単位		
	計		12～22単位		
	専門科目	必修科目	卒業研究	8単位	8単位
			卒業研究以外	6単位	4単位
		選択必修科目		<input type="checkbox"/> a 4～18単位 <input type="checkbox"/> b 4～16単位 <input type="checkbox"/> c 4～20単位 <input type="checkbox"/> d 2～4単位	<input type="checkbox"/> e 4～8単位
		選択科目		8～50単位	36～72単位
		特別選択科目		0～10単位	0～10単位
		計		66～88単位	
		合計		124単位	

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位50単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 卒業要件単位数のうち、94単位以上を修得していること。
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数124単位以上を修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、44単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

インターンシップ

別表第2に定める教職課程の科目 ただし、教育の基礎的理解に関する科目等のうち次の科目は履修制限単位数に算入する。

発達心理学

現代社会と青年の心理

教育制度論

(注2) 特別選択科目による他学科専門科目の履修について

自身の所属する学科に無い、他学科の学科専門科目のうち、実験、実習、演習及びゼミナール関連科目を除く授業科目について履修することができ、特別選択科目として10単位まで単位認定される。ただし、2年次生以上でかつ在籍年次より下の年次に配当されている授業科目を履修できることとする。また、科目担当教員の受講許可を必要とする。

(3) 医療健康科学部 医療科学科

(2020年度からの教育課程)

区分			卒業要件単位数	
総合科目	人文・社会・自然群、外国語群、健康・スポーツ群	選択必修科目a	1～8単位	
		選択科目	13～39単位	
		計	14～40単位	
専門教育科目	専門科目	必修科目	卒業研究	8単位
			卒業研究以外	7単位
		選択必修科目b	6～21単位	
		選択科目	52～88単位	
		計	73～109単位	
キャリア形成科目		選択必修科目c	2～6単位	
		選択必修科目d	2～7単位	
		選択科目	0～2単位	
		計	5～15単位	
合計			128単位	

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位50単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 卒業要件単位数のうち100単位以上を修得していること。
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数128単位以上を修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、48単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目

国家試験受験資格取得に必要な指定科目

別表第2に定める教職課程の科目 ただし、教職に関する科目のうち次の科目は履修制限単位数に算入する。

発達心理学

現代社会と青年の心理

教育制度論

(注2) 留年生に対する特例措置

- ① 留年した1年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が20単位以上の者は、1年次配当科目のほか、2年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。ただし、専門教育科目の実習科目の履修は認めない。
- ② 留年したことのある2年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が50単位以上の者は、2年次配当科目のほか、3年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。ただし、専門教育科目で実習科目の履修は認めない。なお、プレゼミは履修登録すること。
- ③ 上記①、②とも、低学年配当の必修科目を優先して履修する。

(注3) 他学科履修について

医療健康科学部の他学科専門科目のうち、指定された授業科目について、選択科目として30単位まで履修することができる。ただし、在籍年次より上の年次に配当されている授業科目については履修できない。また、受講人数が多い場合は、履修制限を行う。

(4) 医療健康科学部 理学療法学科

(2020年度からの教育課程)

区分			卒業要件単位数	
総合科目	人文・社会・自然群、 外国語群、健康・スポーツ群	選択必修科目a	1～8単位	
		選択科目	13～25単位	
		計	14～26単位	
専門教育科目	専門科目	必修科目	卒業研究	8単位
			卒業研究以外	90単位
		選択科目	0～12単位	
		計	98～110単位	
		キャリア形成科目	必修科目	4単位
	選択科目	0～6単位		
	計	4～10単位		
合計			128単位	

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位50単位以上を修得していること。
4年次進級要件	休学・停学期間を除き3年以上在学していること。
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数128単位以上を修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、48単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩

和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目

国家試験受験資格取得に必要な指定科目

(注2) 留年生に対する特例措置

- ① 留年した1年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が20単位以上の者は、1年次配当科目のほか、2年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。
- ② 留年したことのある2年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が50単位以上の者は、2年次配当科目のほか、3年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。
- ③ 上記①、②とも、低学年配当の必修科目を優先して履修する。

(5) 医療健康科学部 健康スポーツ科学科

(2020年度からの教育課程)

区分			卒業要件単位数	
総合科目	人文・社会・自然群、 外国語群	選択必修科目a	1～8単位	
		選択科目	13～39単位	
		計	14～40単位	
専門教育科目	専門科目	必修科目	卒業研究	8単位
			卒業研究以外	9単位
		選択科目	63～93単位	
		計	80～110単位	
キャリア形成科目		選択科目	4～8単位	
		計	4～8単位	
合計			128単位	

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位50単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 卒業要件単位数のうち100単位以上を修得していること。
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数128単位以上を修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、48単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目

別表第2に定める教職課程の科目 ただし、教職に関する科目のうち次の科目は履修制限単位数に算入する。

発達心理学

現代社会と青年の心理
教育制度論

(注2) 留年生に対する特例措置

- ① 留年した1年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が20単位以上の者は、1年次配当科目のほか、2年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。
- ② 留年したことのある2年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が50単位以上の者は、2年次配当科目のほか、3年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。ただし、次の学科で指定する授業科目の履修は認めない。

生体電気計測学演習、プログラミング応用演習、健康スポーツ統計演習、スポーツICT演習、スポーツ医学と救急救命演習、スポーツコンディショニング演習、スポーツ情報処理入門

- ③ 上記①②とも、低学年配当の必修科目を優先に履修する。

(注3) 他学科履修について

医療健康科学部の他学科専門科目のうち、指定された授業科目について、選択科目として30単位まで履修することができる。ただし、在籍年次より上の年次に配当されている授業科目については履修できない。また、受講人数が多い場合は、履修制限を行う。

(6) 情報通信工学部 情報工学科

(2020年度からの教育課程)

区分		卒業要件単位数		
総合科目	人文・社会・自然群		8～16単位	
	外国語群	選択必修科目	4～8単位	
		選択科目	0～4単位	
		計	6～12単位	
	健康・スポーツ群		3～5単位	
	プロジェクトスキル形成群		6～14単位	
	計		24～32単位	
専門教育科目	基礎専門科目		必修科目	18単位
			選択科目	6～22単位
			計	24～40単位
	専門科目	情報工学	必修科目	6単位
			選択科目	10～20単位
		情報工学以外	必修科目	2単位
			選択科目	30～54単位
	卒業研究		必修科目	8単位
	特別選択科目			0～10単位
	計			56～80単位
合計			128単位	

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。

	2 総修得単位50単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 卒業要件単位数のうち、100単位以上を修得していること。
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数128単位以上を修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、48単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目

インターンシップ

別表第2に定める教職課程の科目 ただし、教育の基礎的理解に関する科目等のうち次の科目は履修制限単位数に算入する。

発達心理学

現代社会と青年の心理

教育制度論

(注2) 留年生に対する特例措置

① 留年した1年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が20単位以上の者は、1年次配当科目のほか、2年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。

② 留年したことのある2年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が50単位以上の者は、2年次配当科目のほか、3年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。

(注3) 特別選択科目による他学科専門科目の履修について

自身の所属する学科に無い、他学科の学科専門科目のうち、実験、実習、演習、ゼミナール関連科目を除く授業科目について履修することができ、特別選択科目として10単位まで単位認定される。ただし、2年次生以上でかつ在籍年次より下の年次に配当されている授業科目を履修できることとする。また、科目担当教員の受講許可を必要とする。

(7) 情報通信工学部 通信工学科

(2020年度からの教育課程)

区分		卒業要件単位数	
		H履修プログラム	S履修プログラム
総合科目	人文・社会・自然群	2～14単位	
	外国語群	選択必修科目	3～8単位
		選択科目	0～4単位
		計	3～12単位
	健康・スポーツ群	1～5単位	
プロジェクトスキル形成群	4～16単位		

	計		18～40単位	
共通重点科目	必修科目		4単位	
	選択科目		0～8単位	
	計		4～12単位	
専門教育科目	基礎専門科目	必修科目	7単位	
		選択科目	5～32単位	
		計	13～34単位	
	専門科目	必修科目	卒業研究	8単位
			卒業研究以外	20単位
		選択必修科目	□H 10～14単位	□S 10～14単位
		選択科目	14～38単位	
		特別選択科目	0～10単位	
計	56～80単位			
合計		128単位		

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位50単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 各履修プログラムの卒業要件単位数のうち100単位以上を修得していること。
卒業要件	1 休学・停学期間を除き4年以上在学していること。 2 各履修プログラムの卒業要件単位数128単位以上をいずれかの履修プログラムにおいて修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、48単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目
インターンシップ

別表第2に定める教職課程の科目 ただし、教育の基礎的理解に関する科目等のうち次の科目は履修制限単位数に算入する。

発達心理学
現代社会と青年の心理
教育制度論

(注2) 留年生に対する特例措置

- ① 留年した1年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が20単位以上の者は、1年次配当科目のほか、2年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。
- ② 留年したことがある2年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が50単位以上の者は、2年次配当科目のほか、3年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目

の履修を認める。

(注3) 特別選択科目による他学科専門科目の履修について

自身の所属する学科に無い、他学科の学科専門科目のうち、実験、実習、演習、ゼミナール関連科目を除く授業科目について履修することができ、特別選択科目として10単位まで単位認定される。ただし、2年次生以上でかつ在籍年次より下の年次に配当されている授業科目を履修できることとする。また、自学科主任の許可及び科目担当教員の受講許可を必要とする。

(8) 総合情報学部 デジタルゲーム学科、ゲーム&メディア学科

(2022年度からの教育課程)

区分	卒業要件単位数		
総合科目	人文・社会・自然群		6～16単位
	外国語群	選択必修科目	4～8単位
		選択科目	2～6単位
		計	6～10単位
	健康・スポーツ群		3～7単位
	キャリア形成群		7～11単位
計		24～40単位	
専門教育科目	必修科目		26単位
	選択必修	卒業制作	8単位
		卒業研究	
	選択科目		54～70単位
	計		88～104単位
合計			128単位

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	休学・停学期間を除き2年以上在学していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 総修得単位100単位以上を修得していること。
卒業要件	1 休学・停学期間を除き4年以上在学していること。 2 卒業要件単位数 128単位以上を修得していること。 3 卒業研究又は卒業制作を修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、48単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目
インターンシップ

(注2) 履修上の取り扱い

専門教育科目のうち、選択科目については、在籍年次より上の年次に配当されている授業科目も履修可とする。ただし、受講人数が多い場合は、履修制限を行う。

(注3) 他学科履修について

総合情報学部の他学科専門科目のうち、指定された授業科目について、選択科目として20単位まで履修することができる。ただし、在籍年次より上の年次に担当されている授業科目については履修できない。また、受講人数が多い場合は、履修制限を行う。

(9) 総合情報学部 情報学科

(2020年度からの教育課程)

区分		卒業要件単位数		
		CSコース (コンピュータサイエンスコース)	DMコース (デジタルメディアコース)	
総合科目	人文・社会・自然群	8～12単位	8～28単位	
	外国語群	□a 選択必修科目	4～8単位	—
		選択科目	0～4単位	4～12単位
		合計	4～8単位	4～12単位
	健康・スポーツ群	2～6単位	2～6単位	
	計	14～18単位	14～34単位	
基礎専門科目	必修科目	14単位	—	
	選択必修科目	□b 4～8単位	—	
	選択科目	0～12単位	20～38単位	
	計	20～30単位	20～38単位	
専門科目	必修科目	48単位	18単位	
	選択必修科目	□c 12～20単位	□d 4～8単位	
	選択科目	12～34単位	30～72単位	
	計	80～94単位	56～94単位	
合計		128単位	128単位	

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位50単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 CSコース又はDMコースのいずれかの卒業要件単位数が90単位以上を修得していること。
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業時に所属コースの卒業要件単位数128単位以上を修得していること。(なお4年次途中でのコース変更は認めない。)

(注1) 履修制限

- ① 一年度内に履修できる単位数は、48単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。な

お、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目
インターンシップ

別表第2に定める教職課程の科目 ただし、教育の基礎的理解に関する科目等のうち次の科目は履修制限単位数に算入する。

発達心理学
現代社会と青年の心理
教育制度論

- ② 卒業研究に着手している期間、3年次の授業時間割に編成された卒業研究の時間において、次の科目を除き授業を履修することはできない。
- (a) スタディスキル、C++プログラミング実習1、C++プログラミング実習2、情報システム実験、キャリアプランニング1、キャリアプランニング2
- (b) 教職課程における免許取得上の必修科目

(注2) 留年生に対する特例措置

- ① 留年したことのある1年次生は、1年次配当科目のほか、2年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。ただし、次の授業科目の履修は認めない。
C++プログラミング実習3、C++プログラミング実習4、プログラミング総合演習1、プログラミング総合演習2、論理設計演習、グループプログラミング演習、情報システム実験、ウェブプログラミング演習、CGプログラミング演習、プレゼミ
- ② 留年したことのある2年次生は、2年次配当科目のほか、3年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。ただし、次の授業科目の履修は認めない。
プログラミング総合演習3、組み込みソフトウェア開発基礎演習、組み込みソフトウェア開発演習、GUIデザイン演習、エンジニアリングデザイン演習
- ③ 留年したことのある3年次生は、4年次配当科目を履修することができる。また、卒業要件を満たした場合、卒業することができる。

(注3) 卒研着手条件

3年次生以上で、かつ「プレゼミ」の科目に合格していること。

(注4) 他学科履修

4年次生は、総合情報学部その他学科の開講科目の中で、学科で指定された科目を同一年度に10単位まで履修することができる。なお、合格した場合は専門科目の選択科目(△)として単位認定する。

(10) 建築・デザイン学部建築・デザイン学科

(2024年度からの教育課程)

区分		卒業要件単位数		
		建築専攻	空間デザイン専攻	
共通科目	人文・社会・自然群		8～24単位	
	外国語群	選択必修科目	4～8単位	
		選択科目	0～4単位	
		計	4～12単位	
健康・スポーツ群		1～5単位		

		プロジェクトスキル形成群		3～14単位	
	情報基礎群	必修科目		2単位	
			選択科目	0～6単位	
		計	2～8単位		
		計	24～36単位		
専門教育科目	基礎専門科目	選択科目		4～11単位	
		必修科目	卒業研究	8単位	8単位
	卒業研究以外		42単位	18単位	
	選択科目		23～49単位	47～73単位	
	特別選択科目		0～10単位	0～10単位	
	計		77～96単位		
合計		124単位			

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位50単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 卒業要件単位数のうち、94単位以上を修得していること。
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数124単位以上を修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、44単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目
インターンシップ

(注2) 特別選択科目による他学科専門科目の履修について

自身の所属する学科に無い、他学科の学科専門科目のうち、実験、実習、演習、ゼミナール関連科目を除く授業科目について履修することができ、特別選択科目として10単位まで単位認定される。ただし、2年次生以上でかつ在籍年次より下の年次に担当されている授業科目を履修できることとする。また、科目担当教員の受講許可を必要とする。

	卒業研究以外	34単位	14単位	27単位
	選択必修科目	2～4単位	—	<input type="checkbox"/> A 5～7単位 <input type="checkbox"/> B 4～12単位 <input type="checkbox"/> C 14～22単位 <input type="checkbox"/> D 10～20単位
	選択科目	14～38単位	42～64単位	—
	特別選択科目	0～10単位	0～10単位	0～10単位
	計	58～82単位	64～86単位	68～79単位
合計	128単位			

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位50単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 卒業要件単位数のうち、100単位以上を修得していること。
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数128単位以上を修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、48単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目
インターンシップ

別表第2に定める教職課程の科目 ただし、教育の基礎的理解に関する科目等のうち次の科目は履修制限単位数に算入する。

発達心理学
現代社会と青年の心理
教育制度論

(注2) 留年生に対する特例措置

- ① 留年した1年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が20単位以上の者は、1年次配当科目のほか、2年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。
- ② 留年したことのある2年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が50単位以上の者は、2年次配当科目のほか、3年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。

(注3) 特別選択科目による他学科専門科目の履修について

自身の所属する学科に無い、他学科の学科専門科目のうち、実験、実習、演習及びゼミナール関連科目を除く授業科目について履修することができ、特別選択科目として10単位まで単位認定される。ただし、2年次生以上でかつ在籍年次より下の年次に配当されている授業科目を履修できることとする。また、科目担当教員の受講許可を必要とする。

(2) 工学部 基礎理工学科

(2024年度からの教育課程)

区分			卒業要件単位数		
			数理科学専攻	環境化学専攻	
共通科目	人文・社会・自然群		6～26単位		
	外国語群	選択必修科目	2～14単位		
		選択科目	0～4単位		
		計	3～16単位		
	健康・スポーツ群		2～6単位		
	プロジェクトスキル形成群		2～10単位		
	情報基礎群	必修科目	2単位		
		選択科目	0～6単位		
		計	2～8単位		
	計		24～36単位		
専門 教育 科目	基礎専 門科目	必修科目	2単位		
		選択科目	10～20単位		
		計	12～22単位		
	専門科 目	必修科目	卒業研究	8単位	8単位
			卒業研究以外	6単位	4単位
		選択必修科目	<input type="checkbox"/> a 4～18単位 <input type="checkbox"/> b 4～16単位 <input type="checkbox"/> c 4～20単位 <input type="checkbox"/> d 2～4単位	<input type="checkbox"/> e 4～8単位	
		選択科目	8～50単位	36～72単位	
		特別選択科目	0～10単位	0～10単位	
		計	66～88単位		
		合計	124単位		

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位50単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 卒業要件単位数のうち、94単位以上を修得していること。
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数124単位以上を修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、44単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

インターンシップ

別表第2に定める教職課程の科目 ただし、教育の基礎的理解に関する科目等のうち次の科目は履修制限単位数に算入する。

発達心理学

現代社会と青年の心理

教育制度論

(注2) 特別選択科目による他学科専門科目の履修について

自身の所属する学科に無い、他学科の学科専門科目のうち、実験、実習、演習及びゼミナール関連科目を除く授業科目について履修することができ、特別選択科目として10単位まで単位認定される。ただし、2年次生以上でかつ在籍年次より下の年次に担当されている授業科目を履修できることとする。また、科目担当教員の受講許可を必要とする。

(3) 医療健康科学部 医療科学科

(2020年度からの教育課程)

区分			卒業要件単位数	
総合科目	人文・社会・自然群、外国語群、健康・スポーツ群	選択必修科目a	1～8単位	
		選択科目	13～39単位	
		計	14～40単位	
専門教育科目	専門科目	必修科目	卒業研究	8単位
			卒業研究以外	7単位
		選択必修科目b	6～21単位	
		選択科目	52～88単位	
		計	73～109単位	
キャリア形成科目		選択必修科目c	2～6単位	
		選択必修科目d	2～7単位	
		選択科目	0～2単位	
		計	5～15単位	
合計			128単位	

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位50単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 卒業要件単位数のうち100単位以上を修得していること。
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数128単位以上を修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、48単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を

優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目

国家試験受験資格取得に必要な指定科目

別表第2に定める教職課程の科目 ただし、教職に関する科目のうち次の科目は履修制限単位数に算入する。

発達心理学

現代社会と青年の心理

教育制度論

(注2) 留年生に対する特例措置

- ① 留年した1年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が20単位以上の者は、1年次配当科目のほか、2年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。ただし、専門教育科目の実習科目の履修は認めない。
- ② 留年したことのある2年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が50単位以上の者は、2年次配当科目のほか、3年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。ただし、専門教育科目で実習科目の履修は認めない。なお、プレゼミは履修登録すること。
- ③ 上記①、②とも、低学年配当の必修科目を優先して履修する。

(注3) 他学科履修について

医療健康科学部の他学科専門科目のうち、指定された授業科目について、選択科目として30単位まで履修することができる。ただし、在籍年次より上の年次に配当されている授業科目については履修できない。また、受講人数が多い場合は、履修制限を行う。

(4) 医療健康科学部 理学療法学科

(2020年度からの教育課程)

区分		卒業要件単位数		
総合科目	人文・社会・自然群、 外国語群、健康・スポーツ群	選択必修科目a		1～8単位
		選択科目		13～25単位
		計		14～26単位
専門教育科目	専門科目	必修科目	卒業研究	8単位
			卒業研究以外	90単位
		選択科目		0～12単位
		計		98～110単位
キャリア形成科目		必修科目		4単位
		選択科目		0～6単位
		計		4～10単位
合計				128単位

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位50単位以上を修得していること。
4年次進級要件	休学・停学期間を除き3年以上在学していること。

卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数128単位以上を修得していること。
------	--

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、48単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目
 国家試験受験資格取得に必要な指定科目

(注2) 留年生に対する特例措置

- ① 留年した1年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が20単位以上の者は、1年次配当科目のほか、2年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。
- ② 留年したことのある2年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が50単位以上の者は、2年次配当科目のほか、3年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。
- ③ 上記①、②とも、低学年配当の必修科目を優先して履修する。

(5) 医療健康科学部 健康スポーツ科学科

(2020年度からの教育課程)

区分			卒業要件単位数	
総合科目	人文・社会・自然群、 外国語群	選択必修科目a	1～8単位	
		選択科目	13～39単位	
		計	14～40単位	
専門教育科目	専門科目	必修科目	卒業研究	8単位
			卒業研究以外	9単位
		選択科目	63～93単位	
		計	80～110単位	
キャリア形成科目		選択科目	4～8単位	
		計	4～8単位	
合計			128単位	

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位50単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 卒業要件単位数のうち100単位以上を修得していること。
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数128単位以上を修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、48単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の

単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目

別表第2に定める教職課程の科目 ただし、教職に関する科目のうち次の科目は履修制限単位数に算入する。

発達心理学

現代社会と青年の心理

教育制度論

(注2) 留年生に対する特例措置

① 留年した1年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が20単位以上の者は、1年次配当科目のほか、2年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。

② 留年したことのある2年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が50単位以上の者は、2年次配当科目のほか、3年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。ただし、次の学科で指定する授業科目の履修は認めない。

生体電気計測学演習、プログラミング応用演習、健康スポーツ統計演習、スポーツICT演習、スポーツ医学と救急救命演習、スポーツコンディショニング演習、スポーツ情報処理入門

③ 上記①②とも、低学年配当の必修科目を優先に履修する。

(注3) 他学科履修について

医療健康科学部の他学科専門科目のうち、指定された授業科目について、選択科目として30単位まで履修することができる。ただし、在籍年次より上の年次に配当されている授業科目については履修できない。また、受講人数が多い場合は、履修制限を行う。

(6) 情報通信工学部 情報工学科

(2020年度からの教育課程)

区分		卒業要件単位数			
総合科目	人文・社会・自然群		8～16単位		
	外国語群	選択必修科目	4～8単位		
		選択科目	0～4単位		
		計	6～12単位		
	健康・スポーツ群		3～5単位		
	プロジェクトスキル形成群		6～14単位		
計		24～32単位			
専門教育科目	基礎専門科目		必修科目	18単位	
			選択科目	6～22単位	
			計	24～40単位	
	専門科目	情報工学	必修科目	6単位	
			選択科目	10～20単位	
		情報工学以外	必修科目	2単位	
			選択科目	30～54単位	
		卒業研究		必修科目	8単位
		特別選択科目			0～10単位
	計			56～80単位	

合計	128単位
----	-------

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位50単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 卒業要件単位数のうち、100単位以上を修得していること。
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数128単位以上を修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、48単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目

インターンシップ

別表第2に定める教職課程の科目 ただし、教育の基礎的理解に関する科目等のうち次の科目は履修制限単位数に算入する。

発達心理学

現代社会と青年の心理

教育制度論

(注2) 留年生に対する特例措置

① 留年した1年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が20単位以上の者は、1年次配当科目のほか、2年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。

② 留年したことのある2年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が50単位以上の者は、2年次配当科目のほか、3年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。

(注3) 特別選択科目による他学科専門科目の履修について

自身の所属する学科に無い、他学科の学科専門科目のうち、実験、実習、演習、ゼミナール関連科目を除く授業科目について履修することができ、特別選択科目として10単位まで単位認定される。ただし、2年次生以上でかつ在籍年次より下の年次に配当されている授業科目を履修できることとする。また、科目担当教員の受講許可を必要とする。

(7) 情報通信工学部 通信工学科

(2020年度からの教育課程)

区分		卒業要件単位数	
		H履修プログラム	S履修プログラム
総合科目	人文・社会・自然群	2～14単位	
	外国語群	選択必修科目	3～8単位
		選択科目	0～4単位

		計	3～12単位		
		健康・スポーツ群	1～5単位		
		プロジェクトスキル形成群	4～16単位		
		計	18～40単位		
共通重点科目		必修科目	4単位		
		選択科目	0～8単位		
		計	4～12単位		
専門教育科目	基礎専門科目	必修科目	7単位		
		選択科目	5～32単位		
		計	13～34単位		
	専門科目	必修科目	卒業研究	8単位	
			卒業研究以外	20単位	
		選択必修科目	□H 10～14単位	□S 10～14単位	
		選択科目	14～38単位		
		特別選択科目	0～10単位		
		計	56～80単位		
合計		128単位			

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位50単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 各履修プログラムの卒業要件単位数のうち100単位以上を修得していること。
卒業要件	1 休学・停学期間を除き4年以上在学していること。 2 各履修プログラムの卒業要件単位数128単位以上をいずれかの履修プログラムにおいて修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、48単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目
インターンシップ

別表第2に定める教職課程の科目 ただし、教育の基礎的理解に関する科目等のうち次の科目は履修制限単位数に算入する。

発達心理学

現代社会と青年の心理

教育制度論

(注2) 留年生に対する特例措置

- ① 留年した1年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が20単位以上の者は、1

年次配当科目のほか、2年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。

- ② 留年したことがある2年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が50単位以上の者は、2年次配当科目のほか、3年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。

(注3) 特別選択科目による他学科専門科目の履修について

自身の所属する学科に無い、他学科の学科専門科目のうち、実験、実習、演習、ゼミナール関連科目を除く授業科目について履修することができ、特別選択科目として10単位まで単位認定される。ただし、2年次生以上でかつ在籍年次より下の年次に配当されている授業科目を履修できることとする。また、自学科主任の許可及び科目担当教員の受講許可を必要とする。

(8) 総合情報学部 デジタルゲーム学科、ゲーム&メディア学科

(2022年度からの教育課程)

区分	卒業要件単位数		
総合科目	人文・社会・自然群		6～16単位
	外国語群	選択必修科目	4～8単位
		選択科目	2～6単位
		計	6～10単位
	健康・スポーツ群		3～7単位
	キャリア形成群		7～11単位
計		24～40単位	
専門教育科目	必修科目		26単位
	選択必修	卒業制作	8単位
		卒業研究	
	選択科目		54～70単位
	計		88～104単位
合計			128単位

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	休学・停学期間を除き2年以上在学していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 総修得単位100単位以上を修得していること。
卒業要件	1 休学・停学期間を除き4年以上在学していること。 2 卒業要件単位数 128単位以上を修得していること。 3 卒業研究又は卒業制作を修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、48単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目
インターンシップ

(注2) 履修上の取り扱い

専門教育科目のうち、選択科目については、在籍年次より上の年次に配当されている授業科目も履修可とする。ただし、受講人数が多い場合は、履修制限を行う。

(注3) 他学科履修について

総合情報学部の他学科専門科目のうち、指定された授業科目について、選択科目として20単位まで履修することができる。ただし、在籍年次より上の年次に配当されている授業科目については履修できない。また、受講人数が多い場合は、履修制限を行う。

(9) 総合情報学部 情報学科

(2020年度からの教育課程)

区分		卒業要件単位数		
		CSコース (コンピュータサイエンスコース)	DMコース (デジタルメディアコース)	
総合科目	人文・社会・自然群	8～12単位	8～28単位	
	外国語群	□a 選択必修科目	4～8単位	—
		選択科目	0～4単位	4～12単位
		合計	4～8単位	4～12単位
	健康・スポーツ群	2～6単位	2～6単位	
	計	14～18単位	14～34単位	
基礎専門科目	必修科目	14単位	—	
	選択必修科目	□b 4～8単位	—	
	選択科目	0～12単位	20～38単位	
	計	20～30単位	20～38単位	
専門科目	必修科目	48単位	18単位	
	選択必修科目	□c 12～20単位	□d 4～8単位	
	選択科目	12～34単位	30～72単位	
	計	80～94単位	56～94単位	
合計		128単位	128単位	

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位50単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 CSコース又はDMコースのいずれかの卒業要件単位数が90単位以上を修得していること。
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業時に所属コースの卒業要件単位数128単位以上を修得していること。(なお4年次途中でのコース変更は

認めない。)

(注1) 履修制限

- ① 一年度内に履修できる単位数は、48単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目
インターンシップ

別表第2に定める教職課程の科目 ただし、教育の基礎的理解に関する科目等のうち次の科目は履修制限単位数に算入する。

発達心理学
現代社会と青年の心理
教育制度論

- ② 卒業研究に着手している期間、3年次の授業時間割に編成された卒業研究の時間において、次の科目を除き授業を履修することはできない。

(a) スタディスキル、C++プログラミング実習1、C++プログラミング実習2、情報システム実験、キャリアプランニング1、キャリアプランニング2

(b) 教職課程における免許取得上の必修科目

(注2) 留年生に対する特例措置

- ① 留年したことのある1年次生は、1年次配当科目のほか、2年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。ただし、次の授業科目の履修は認めない。

C++プログラミング実習3、C++プログラミング実習4、プログラミング総合演習1、プログラミング総合演習2、論理設計演習、グループプログラミング演習、情報システム実験、ウェブプログラミング演習、CGプログラミング演習、プレゼミ

- ② 留年したことのある2年次生は、2年次配当科目のほか、3年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。ただし、次の授業科目の履修は認めない。

プログラミング総合演習3、組み込みソフトウェア開発基礎演習、組み込みソフトウェア開発演習、GUIデザイン演習、エンジニアリングデザイン演習

- ③ 留年したことのある3年次生は、4年次配当科目を履修することができる。また、卒業要件を満たした場合、卒業することができる。

(注3) 卒研着手条件

3年次生以上で、かつ「プレゼミ」の科目に合格していること。

(注4) 他学科履修

4年次生は、総合情報学部他学科の開講科目の中で、学科で指定された科目を同一年度に10単位まで履修することができる。なお、合格した場合は専門科目の選択科目(△)として単位認定する。

(10) 建築・デザイン学部建築・デザイン学科

(2024年度からの教育課程)

区分		卒業要件単位数	
		建築専攻	空間デザイン専攻
共通科目	人文・社会・自然群	8～24単位	

	外国語群	選択必修科目	4～8単位			
		選択科目	0～4単位			
		計	4～12単位			
	健康・スポーツ群		1～5単位			
	プロジェクトスキル形成群		3～14単位			
	情報基礎群	必修科目	2単位			
		選択科目	0～6単位			
		計	2～8単位			
	計		24～36単位			
	専門教育科目	基礎専門科目	選択科目		4～11単位	
専門科目			必修科目	卒業研究	8単位	8単位
				卒業研究以外	42単位	18単位
		選択科目		23～49単位	47～73単位	
		特別選択科目		0～10単位	0～10単位	
計		77～96単位				
合計		124単位				

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位50単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 卒業要件単位数のうち、94単位以上を修得していること。
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数124単位以上を修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、44単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目
インターンシップ

(注2) 特別選択科目による他学科専門科目の履修について

自身の所属する学科に無い、他学科の学科専門科目のうち、実験、実習、演習、ゼミナール関連科目を除く授業科目について履修することができ、特別選択科目として10単位まで単位認定される。ただし、2年次生以上でかつ在籍年次より下の年次に配当されている授業科目を履修できることとする。また、科目担当教員の受講許可を必要とする。

学部規則 変更事項を記載した書類

この法人は、この度、建築・デザイン学部建築・デザイン学科を新たに設置することとなったので、これに伴い、同時期に廃止及び収容定員変更する学科に関連する内容と併せて、学部規則を次のとおり変更する。

1. 第2条第1項において、第5号を加える。

第2条第1項第5号

建築・デザイン学部は、人間を取り巻くあらゆる空間の設計・造形と構築に関する知識と技術の実学教育を通じて、学生の学修成果の向上及び学修目標の達成並びに技能の向上を支援し、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的とする。

(事由) 2024年4月より、建築・デザイン学部を設置するため、当該学部の人材の養成に関する目的を定める。

2. 第2条第2項第4号において、「、技術者・研究者や教育者(数学・理科教員等)を育成することを目的とする。」を、「技術の獲得、また、人の健康維持に関与する食品に関する技術の基礎及び応用力の包括的な教授による「食環境」を守る技術の獲得により、未来に貢献しうる専門的な技術者・研究者や教育者(数学・理科教員等)を育成することを目的とする。」に改める。

(事由) 2024年4月より、当該学科の教育課程を改めるため。

3. 第2条第2項第5号(環境科学科)及び第6号(建築学科)を削る。

(事由) 2024年4月より、環境科学科及び建築学科の募集停止を行うため。

4. 第7条第1項を改める、各時限の授業時間を改める。

(事由) 2024年4月より、授業時間を105分に改めることとしたため。

5. 附則として、次の附則を加える。

- 1 この規則は、2024年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第2条、別表第1-4、別表第1-5及び別表第1-6の規定にかかわらず、工学部環境科学科及び建築学科に2023年度以前に入学した学生、2024年度に2年次に編入学、再入学、転部又は転科した学生、2025年度に3年次に編入学、再入学、転部又は転科した学生及び2026年度に4年次に編入学、再入学、転部又は転科した学生は、従前の当該規定を適用する。2 改正後の第26条及び第27条については、平成30年度以前に入学した者、平成31年度2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成32年度3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者ならびに平成33年度4年次に再入学した者は従前の当該規定を適用する。

(事由) 施行日及び完成年度までの移行措置を、明確にするため。

6. 別表第1-4(工学部基礎理工学科)の内容を改める。

(事由) 2024年4月より、基礎理工学科の教育課程を改めるため。

7. 別表第1-5(工学部環境科学科)及び別表第1-6(工学部建築学科)を削る。

(事由) 2024年4月より、環境科学科及び建築学科の募集停止を行うため。

8. 別表第1-14(建築・デザイン学部建築・デザイン学科)を加える。

(事由) 2024年4月より、建築・デザイン学部を設置するため。

9. 別表第3において、「(1) 工学部 電気電子工学科、電子機械工学科、機械工学科」に改め、基礎理工学科及び環境科学科の文言を削除する。

(事由) 2024年4月より、環境科学科及び建築学科の募集停止を行うため。

10. 別表第3において、「(2) 工学部 基礎理工学科」を加える。

(事由) 2024年4月より、基礎理工学科の教育課程を改めるため。

11. 別表第3において、「(2) 工学部 建築学科」を削る。

(事由) 2024年4月より、建築学科の募集停止を行うため。

12. 別表第3において、「(10) 建築・デザイン学部建築・デザイン学科」を加える。

(事由) 2024年4月より、建築・デザイン学部を設置するため。

以上

大阪電気通信大学学部規則の一部改正

改正案	現行
<p>○大阪電気通信大学学部規則</p> <p>平成10年4月1日 制定</p> <p>第1章 総則 (趣旨)</p> <p>第1条 この規則は、大阪電気通信大学学則(以下「学則」という。)に基づき、修学に関して必要な事項を定める。 (学部及び学科の人材の養成に関する目的)</p> <p>第2条 学則第3条の規定に基づき、各学部の人材の養成に関する目的は、次のとおりとする。</p> <p>(1) 工学部は、産業界の基盤である総合的な工学技術を支え発展させるために、工学技術の基礎知識及び応用に関する実学教育を通じて、学生の学修成果の向上及び学修目標の達成を支援し、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的とする。</p> <p>(2) 医療健康科学部は、人々の生活の質の向上をめざし、医療、健康、福祉及びリハビリテーションに活用可能な技術の基礎知識及び応用に関する実学教育を通じて、学生の学修成果の向上及び学修目標の達成を支援し、広く社会で活躍できる専門的人材を育成することを目的とする。</p>	<p>○大阪電気通信大学学部規則</p> <p>平成10年4月1日 制定</p> <p>第1章 総則 (趣旨)</p> <p>第1条 この規則は、大阪電気通信大学学則(以下「学則」という。)に基づき、修学に関して必要な事項を定める。 (学部及び学科の人材の養成に関する目的)</p> <p>第2条 学則第3条の規定に基づき、各学部の人材の養成に関する目的は、次のとおりとする。</p> <p>(1) 工学部は、産業界の基盤である総合的な工学技術を支え発展させるために、工学技術の基礎知識及び応用に関する実学教育を通じて、学生の学修成果の向上及び学修目標の達成を支援し、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的とする。</p> <p>(2) 医療健康科学部は、人々の生活の質の向上をめざし、医療、健康、福祉及びリハビリテーションに活用可能な技術の基礎知識及び応用に関する実学教育を通じて、学生の学修成果の向上及び学修目標の達成を支援し、広く社会で活躍できる専門的人材を育成することを目的とする。</p>

(3) 情報通信工学部は、社会の基盤技術である情報通信工学にかかわる基礎知識及び応用に関する実学教育を通じて、学生の学修成果の向上及び学修目標の達成を支援し、情報通信技術をベースとして広く社会及び産業界で活躍できる専門の人材を育成することを目的とする。

(4) 総合情報学部は、多様な生活文化の創造を支えるために、情報技術の基礎知識及び応用に関する実学教育並びにコンテンツ制作活動を通じて、学生の学修成果の向上及び学修目標の達成並びに技能の向上を支援し、広く社会及び産業界で活躍できる専門の人材を育成することを目的とする。

(5) 建築・デザイン学部は、人間を取り巻きあらゆる空間の設計・造形と構築に関する知識と技術の実学教育を通じて、学生の学修成果の向上及び学修目標の達成並びに技能の向上を支援し、広く社会及び産業界で活躍できる専門の人材を育成することを目的とする。

2 学則第3条の規定に基づき、各学科の人材の養成に関する目的は、次のとおりとする。

(1) 電気電子工学科は、電気電子情報社会を支える5分野(半導体デバイス、電気電子回路、計測制御、情報技術、電力)について基礎から学び、高度情報化社会を支える基盤技術である電気電子工学に含まれる多くの技術分野のうち、学生自身が適性ある分野を講義・実習を通して見極め、自らの目標を設定したうえで、多彩に配置された実験・演習を通して社会で活躍できる技術力を修得した人材を育成することを目的とする。

(3) 情報通信工学部は、社会の基盤技術である情報通信工学にかかわる基礎知識及び応用に関する実学教育を通じて、学生の学修成果の向上及び学修目標の達成を支援し、情報通信技術をベースとして広く社会及び産業界で活躍できる専門の人材を育成することを目的とする。

(4) 総合情報学部は、多様な生活文化の創造を支えるために、情報技術の基礎知識及び応用に関する実学教育並びにコンテンツ制作活動を通じて、学生の学修成果の向上及び学修目標の達成並びに技能の向上を支援し、広く社会及び産業界で活躍できる専門の人材を育成することを目的とする。

2 学則第3条の規定に基づき、各学科の人材の養成に関する目的は、次のとおりとする。

(1) 電気電子工学科は、電気電子情報社会を支える5分野(半導体デバイス、電気電子回路、計測制御、情報技術、電力)について基礎から学び、高度情報化社会を支える基盤技術である電気電子工学に含まれる多くの技術分野のうち、学生自身が適性ある分野を講義・実習を通して見極め、自らの目標を設定したうえで、多彩に配置された実験・演習を通して社会で活躍できる技術力を修得した人材を育成することを目的とする。

(2) 電子機械工学科は、ロボットやIoT、自動運転に代表される「メカトロニクス」の基礎である機械、電気電子、計測制御、情報の4分野の知識を教授すると共に、学生の適性に即した専門性の高い実践・実習による実践的な深化教育を通して、将来の超スマート社会の実現を担うメカトロニクスエンジニアを育成することを目的とする。

(3) 機械工学科は、社会活動の基盤を支えるモノづくりに必要不可欠な機械工学の専門知識とそれを活かすための技術を総合的に教授することによって、国内外の産業界で広く活躍できる機械技術者を育成することを目的とする。

(4) 基礎理工学科は、広範な科学知識、理数系的な思考力、高いコミュニケーション能力を兼ね備えた理数系ジェネラリストとして現代の社会に広く貢献する技術の獲得、また、人の健康維持に関する食品に関する技術の基礎及び応用力の包括的な教授による「食環境」を守る技術の獲得により、未来に貢献しうる専門的な技術者・研究者や教育者(数学・理科教員等)を育成することを目的とする。

(2) 電子機械工学科は、ロボットやIoT、自動運転に代表される「メカトロニクス」の基礎である機械、電気電子、計測制御、情報の4分野の知識を教授すると共に、学生の適性に即した専門性の高い実践・実習による実践的な深化教育を通して、将来の超スマート社会の実現を担うメカトロニクスエンジニアを育成することを目的とする。

(3) 機械工学科は、社会活動の基盤を支えるモノづくりに必要不可欠な機械工学の専門知識とそれを活かすための技術を総合的に教授することによって、国内外の産業界で広く活躍できる機械技術者を育成することを目的とする。

(4) 基礎理工学科は、広範な科学知識、理数系的な思考力、高いコミュニケーション能力を兼ね備えた理数系ジェネラリストとして現代の社会に広く貢献する、技術者や教育者(数学・理科教員等)を育成することを目的とする。

(5) 環境科学科は、地球環境保全に寄与する機能性材料を作り出す技術や機械・電気・情報技術の基礎および応用力の総合的な教授による「住環境」を守る技術の獲得、また、人の健康維持に関する食品に関する技術の基礎および応用力の包括的な教授による「食環境」を守る技術の獲得により、未来に貢献しうる専門的な人材を育成することを目的とする。

(6) 建築学科は、持続可能な社会を実現する「人と環境に配慮した建

物・まちづくり」を目指した教育研究を通じて、「人に対して安全かつ快適な空間であることを考慮しつつ、環境に対して自然との循環型共生や省エネルギーで環境負荷の低い建築物や都市を念頭に置いて、計画、設計、施工ができる建築家や建築技術者を育成する」ことを目的とする。

(7) 医療科学科は、安心・安全な医療・健康を実現するために、医学及び工学を基盤とした医療健康科学について教授研究し、生体計測とデータ処理技術に精通した知能情報エンジニア、医療健康機器の開発や医療安全管理技術に深い理解を有する医療機器のスペシャリスト、臨床現場に貢献できる人間力・応用力を有した臨床工学技士を育成することを目的とする。

(8) 理学療法学科は、責任感と豊かな人間性、論理的思考の基礎となる科学的素養とともに、最新の医療知識と技術を備えた人材を育成することを目的とする。

(9) 健康スポーツ科学科は、科学的な視点を持ち、基礎医学やスポーツ科学・健康科学および情報処理技術の知識や技術を修得する。これにより、健康のためのライフスタイルの提言と実践的な指導ができる健康づくり運動や生涯スポーツの指導者の育成、および保健体育科教員や競技スポーツ指導者の育成を目的とする。

(10) 情報工学科は、人間の活動に不可欠な「情報」を扱うシステムを作り出すための基盤となるコンピュータハードウェア・ソフトウェア・ネットワークに関わる知識と技術を、数理的な知識体系に基づいて、基礎から応用に至るまで実学教育を通して教授することに

(5) 医療科学科は、安心・安全な医療・健康を実現するために、医学及び工学を基盤とした医療健康科学について教授研究し、生体計測とデータ処理技術に精通した知能情報エンジニア、医療健康機器の開発や医療安全管理技術に深い理解を有する医療機器のスペシャリスト、臨床現場に貢献できる人間力・応用力を有した臨床工学技士を育成することを目的とする。

(6) 理学療法学科は、責任感と豊かな人間性、論理的思考の基礎となる科学的素養とともに、最新の医療知識と技術を備えた人材を育成することを目的とする。

(7) 健康スポーツ科学科は、科学的な視点を持ち、基礎医学やスポーツ科学・健康科学および情報処理技術の知識や技術を修得する。これにより、健康のためのライフスタイルの提言と実践的な指導ができる健康づくり運動や生涯スポーツの指導者の育成、および保健体育科教員や競技スポーツ指導者の育成を目的とする。

(8) 情報工学科は、人間の活動に不可欠な「情報」を扱うシステムを作り出すための基盤となるコンピュータハードウェア・ソフトウェア・ネットワークに関わる知識と技術を、数理的な知識体系に基づいて、基礎から応用に至るまで実学教育を通して教授することによ

り、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材の育成を目的とする。

(9) 通信工学科は、情報通信社会を支える3要素(ブロードバンド・マルチメディア・インターネット)の技術について基礎から教授することにより、情報化社会の発展に貢献する通信のスペシャリストの育成を目的とする。

(10) デジタルゲーム学科は、デジタルゲームを軸とする主に対話的なエンタテインメントコンテンツ分野の学際的研究や制作を通して、幅広い意味でのエンタテインメントに関する高度な知識と技術の修得を支援し、協調性とコミュニケーション能力を持って、広く社会及び産業界で継続的に貢献できる人材を育成することを目的とする。

(11) ゲーム&メディア学科は、エンタテインメントコンテンツの企画・制作・教育を軸とするデジタル分野の学際的研究や制作を行い、関連するメディアの幅広い知識と高度な制作技術を修得し、それらのコンテンツの意義や魅力を広く社会に発信することでビジネスにつなげ、社会で継続的に貢献できる人材を育成することを目的とする。

(12) 情報学科は、進化し続けるICTやIoT技術の基盤となる知識の修得、即戦力となり得る実践力の獲得、コミュニケーション能力等を中心とした社会性の向上の3項目を教育目標とし、情報のスペシャリストとして社会で活躍できる人材の育成を目的とする。

(13) **建築・デザイン学科は、すべての人々が安全で快適に生活できる**

より、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材の育成を目的とする。

(11) 通信工学科は、情報通信社会を支える3要素(ブロードバンド・マルチメディア・インターネット)の技術について基礎から教授することにより、情報化社会の発展に貢献する通信のスペシャリストの育成を目的とする。

(12) デジタルゲーム学科は、デジタルゲームを軸とする主に対話的なエンタテインメントコンテンツ分野の学際的研究や制作を通して、幅広い意味でのエンタテインメントに関する高度な知識と技術の修得を支援し、協調性とコミュニケーション能力を持って、広く社会及び産業界で継続的に貢献できる人材を育成することを目的とする。

(13) ゲーム&メディア学科は、エンタテインメントコンテンツの企画・制作・教育を軸とするデジタル分野の学際的研究や制作を行い、関連するメディアの幅広い知識と高度な制作技術を修得し、それらのコンテンツの意義や魅力を広く社会に発信することでビジネスにつなげ、社会で継続的に貢献できる人材を育成することを目的とする。

(14) 情報学科は、進化し続けるICTやIoT技術の基盤となる知識の修得、即戦力となり得る実践力の獲得、コミュニケーション能力等を中心とした社会性の向上の3項目を教育目標とし、情報のスペシャリストとして社会で活躍できる人材の育成を目的とする。

社会を支える都市と建築、インテリアにいたる幅広いスケールの実空間や、デジタル技術により構築された情報空間など、現実と仮想を問わない、人間を取り巻くありとあらゆる空間の設計・造形と構築に関する知識と技術を講義する実学教育を通じて、学生の人間的成長を支援し、広く社会及び産業界で活躍でき、持続可能な社会の発展に貢献することができる専門的人材の育成を目的とする。

(教育課程の編成方法)

第3条 教育課程は、各授業科目を必修科目、選択必修科目及び選択科目に分け、これを4年間に配当し、編成する。

2 前項に規定する必修科目、選択必修科目及び選択科目の区分は次のとおりとする。

(1) 必修科目とは、卒業までに必ず単位を修得しなければならない授業科目をいう。

(2) 選択必修科目とは、指定された授業科目の中から一定の単位を修得しなければならない授業科目をいう。

(3) 選択科目とは、科目の区分ごとに所定の単位数を修得しなければならない授業科目をいう。

(授業科目)

第4条 学則第21条に基づき授業科目の名称、単位数、必修科目・選択必修科目・選択科目の別及び配当年次(以下「教育課程」という。)は別表第1のとおりとする。

2 入学時に適用された教育課程は、原則として卒業時まで適用する。ただし、転部・転科及び再入学にあたっては、転部・転科及び再入学先

(教育課程の編成方法)

第3条 教育課程は、各授業科目を必修科目、選択必修科目及び選択科目に分け、これを4年間に配当し、編成する。

2 前項に規定する必修科目、選択必修科目及び選択科目の区分は次のとおりとする。

(1) 必修科目とは、卒業までに必ず単位を修得しなければならない授業科目をいう。

(2) 選択必修科目とは、指定された授業科目の中から一定の単位を修得しなければならない授業科目をいう。

(3) 選択科目とは、科目の区分ごとに所定の単位数を修得しなければならない授業科目をいう。

(授業科目)

第4条 学則第21条に基づき授業科目の名称、単位数、必修科目・選択必修科目・選択科目の別及び配当年次(以下「教育課程」という。)は別表第1のとおりとする。

2 入学時に適用された教育課程は、原則として卒業時まで適用する。ただし、転部・転科及び再入学にあたっては、転部・転科及び再入学先

の教育課程を適用する。

(教職課程)

第5条 学則第22条に基づき教職に関する授業科目の名称、単位数、必修科目・選択必修科目・選択科目の別及び配当年次は別表第2のとおりとする。

(授業科目の開講期間)

第6条 第4条第1項に定める授業科目は、学則第7条に定める前期若しくは後期又はその双方の学期に亘って配置し開講する。

2 前項の授業科目の中には、特定期間に集中して授業を行うことがある。

3 一部の授業科目については、年度によってその開講する期間を変更することができる。

4 一部の授業科目については、年度によって開講しないことがある。

(授業時間)

第7条 授業時間は、次のとおりとする。

時限	寢屋川キャンパス	四條畷キャンパス
1時限	9:00～10:45	9:30～11:15
2時限	10:55～12:40	11:25～13:10
3時限	13:25～15:10	13:55～15:40
4時限	15:20～17:05	15:50～17:35
5時限	17:15～19:00	17:45～19:30

の教育課程を適用する。

(教職課程)

第5条 学則第22条に基づき教職に関する授業科目の名称、単位数、必修科目・選択必修科目・選択科目の別及び配当年次は別表第2のとおりとする。

(授業科目の開講期間)

第6条 第4条第1項に定める授業科目は、学則第7条に定める前期若しくは後期又はその双方の学期に亘って配置し開講する。

2 前項の授業科目の中には、特定期間に集中して授業を行うことがある。

3 一部の授業科目については、年度によってその開講する期間を変更することができる。

4 一部の授業科目については、年度によって開講しないことがある。

(授業時間)

第7条 授業時間は、次のとおりとする。

時限	寢屋川キャンパス	四條畷キャンパス
1時限	9:00～10:30	9:30～11:00
2時限	10:40～12:10	11:10～12:40
3時限	13:00～14:30	13:30～15:00
4時限	14:40～16:10	15:10～16:40
5時限	16:20～17:50	16:50～18:20
6時限	18:00～19:30	18:30～20:00

<p>2 原則として、授業時間は、1時限から<u>4時限</u>までとする。</p> <p>第8条～第28条（略）</p> <p style="text-align: center;"><u>附 則</u></p> <p>1 <u>この規則是、2024年4月1日から施行する。</u></p> <p>2 <u>改正後の第2条、別表第1-4、別表第1-5及び別表第1-6の規定にかかわらず、工学部環境科学科及び建築学科に2023年度以前に入学した学生、2024年度に2年次に編入学、再入学、転部又は転科した学生、2025年度に3年次に編入学、再入学、転部又は転科した学生及び2026年度に4年次に編入学、再入学、転部又は転科した学生は、従前の当該規定を適用する。</u></p> <p>別表第1―1～別表第1―3（略） 別表第1―4 工学部 基礎理工学科 (1) 共通科目</p> <p style="text-align: right;">(2024年度からの教育課程)</p>	<p>2 原則として、授業時間は、1時限から<u>5時限</u>までとする。</p> <p>第8条～第28条（略）</p> <p>別表第1―1～別表第1―3（略） 別表第1―4 工学部 基礎理工学科 (1) <u>総合科目</u></p> <p style="text-align: right;">(2020年度からの教育課程)</p>
---	---

区分	授業科目	単位数	必修	週時間数				卒業要件単位数
				1年次 前期・ 後期	2年次 前期・ 後期	3年次 前期・ 後期	4年次 前期・ 後期	
人文・社会・自然群	総合教養	2	△	2・0				6単 位
	総合ゼミナール	2	△	2・0				人文・自然 から26 単 位
	社会学	2	△	2・0				外国 語群、健 康・スポ ーツ群、 プロジェ クトスキ ル形成 群、情報 基礎群を あわせて 24単 位
	社会学と法	2	△	2・0				から36 単 位 まで
	現代社会と青年の心理	2	△	2・0				
	OECD概論	1	△	1・0				
	異文化の理解	2	△	0・2				
	政治学	2	△	0・2				
	発達心理学	2	△	0・2				
	アジアの言語と文化	2	△	0・2				

区分	授業科目	単位数	必修	週時間数				卒業要件単位数
				1年次 前期・ 後期	2年次 前期・ 後期	3年次 前期・ 後期	4年次 前期・ 後期	
人文・社会・自然群	総合教養	2	△	2・0				6単 位
	総合ゼミナール	2	△	2・0				人文・自然 から26 単 位
	社会学	2	△	2・0				外国 語群、健 康・スポ ーツ群、 プロジェ クトスキ ル形成 群、情報 基礎群を あわせて 24単 位
	社会学と法	2	△	2・0				から36 単 位 まで
	現代社会と青年の心理	2	△	2・0				
	OECD概論	1	△	1・0				
	異文化の理解	2	△	0・2				
	政治学	2	△	0・2				
	発達心理学	2	△	0・2				
	アジアの言語と文化	2	△	0・2				

中国語2	1	△	0.2						2単位から
中国語3	1	△	2.0						6単位まで
中国語4	1	△	0.2						
スポーツ実習1	1	△	2.0						
スポーツ実習2	1	△	0.2						
スポーツ実習3	1	△			(2.0)				
健康・スポーツ科学論	2	△	2.0		(0.2)				
スポーツ文化論	2	△	0.2						
プロジェクトスキル入門	1	△	2.0						2単位から
プロジェクト活動演習1	1	△	2.0						10単位まで
プロジェクト活動演習2	1	△	0.2						

成 群	キャリア 設計プロ ジェクト 実践	1	△			2・0
	日本語上 達法1	2	△	2・0		
	日本語上 達法2	2	△	0・2		
	日本語活 用法	2	△		(2・0) (0・2)	
	地域プロ ジェクト 活動1	2	△	1・1		
	地域プロ ジェクト 活動2	2	△		1・1	
	グローバル 研修	2	△			2・0
	グローバル	2	△			2・0

情報基礎群	必修科目	2単位	含む	2単位	から	8単位	まで
アル研修(英語)							
インターンシップ	△						
社会を知る		2.2					
AI・データサイエンス入門	△	2.0					
コンピュータリテラシー1	○	2.0					
コンピュータリテラシー2	△	0.2					
プログラミング基礎演習	△					2.0	

(注) 必修科目 ○：必修科目 □：選択必修科目 △：選択科目

(2) 専門教育科目

(2024年度からの教育課程)

(注) 必修欄 ○：必修科目 □：選択必修科目 △：選択科目

(2) 専門教育科目

(2020年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件 単位数
				1年次 前期	2年次 前期	3年次 前期	4年次 前期	
理工学 重点科目	コンピュータリ テラシー1	2	○	2・0				必修科 目2単 位、選択 科目合 わせて2 単位か ら6単位 まで
	コンピュータリ テラシー2	2	△	0・2				
	プログラミング 基礎演習	2	△	2・0				
数学 基礎専門科目	基礎数学・演習	3	△	4・0				必修科 目3単 位、選択 科目を あわせ て18単 位から3 2単位ま で
	基礎解析・演習	3	△	[4・ 0]				
	微分積分・演習	3	△	[4・ 0]	[4・ 0]			
	多変数の微積 分・演習	3	△	[0・ 4]	[4・ 0]			

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件 単位数
				1年次 前期	2年次 前期	3年次 前期	4年次 前期	
数学 基礎専門科目	基礎解析学 1・演習	2	△	4・0				必修科目2 単位、選択 科目をあ わせて12 単位から 22単位ま で
	基礎解析学 2・演習	2	△	0・4				
	基礎解析学 3・演習	2	△	4・0				
	線形代数	2	△	2・0				
	物理学1・演習2	2	△	4・0				
	物理学実験	2	○	0・4				
	物理学2	2	△	0・2				
	物理学3	2	△	2・0				
	化学1	2	△	2・0				
	化学2	2	△	0・2				
数学 専門科目	生物化学	2	△	2・0				
	幾何学1	2	□	2・0				数理科学 専攻：必 修科目14 単位、選択 必修科目 14単位以 上
	幾何学2	2	□		0・2			
	代数学1	2	□	0・2				

地球科学	2	□b	2・0		□dから
一般力学	2	□b	0・2		2単位以
熱力学	2	□b	0・2		上、□e
電磁気学1	2	□b	0・2		から2単
電磁気学2	2	□b	2・0		位以
現代物理学入門	2	□b	2・0		上)、選
量子力学	2	□b	0・2		択科目
電気回路・演習	2	□b	2・0		あわせ
物性科学	2	□b	0・2		て、58単
宇宙環境	2	□b	2・0		位から8
宇宙科学	2	□b	0・2		6単位ま
量子物理学特論	2	△	2・0		c
太陽系科学特論	2	△	0・2		
現代物理学特論	2	△	0・2		
半導体工学特論1	1	△	0・1		
半導体工学特論2	1	△	0・1		
物理化学1	2	□c	2・0		
物理化学2	2	□c	0・2		
有機化学1	2	□c	2・0		
有機化学2	2	□c	0・2		
無機化学	2	□c	0・2		
無機材料化学	2	□c	2・0		
生化学	2	□c	0・2		

有機化学1	2	□△	2・0		
有機化学2	2	□△	0・2		
無機化学	2	□△	0・2		
高分子化学	2	□△	2・0		
放射線化学	2	□△	2・0		
電気化学	2	□△	2・0		
ナノ科学	2	□△	0・2		
有機機器分析	2	□△	0・2		
生化学	2	△△	0・2		
微生物学	2	△△	2・0		
食品微生物学2 実験	2	△△	0・8		
生物学実験	2	△△	2・0		
分析化学	2	△△	0・2		
食品化学	2	△△	2・0		
食品工学	2	△△	0・2		
空調調和・冷 凍工学	2	△△	2・0		
食品衛生学	2	△△	2・0		

高分子化学	2	□c				2・0
放射線化学	2	□c				2・0
電気化学	2	□c				2・0
ナノ化学	1	□c				0・2
有機機器分析	2	□c				2・0
実験・演習 工学基礎実験	2	○4・0				
サイエンス実験	2	○	4・0			
化学実験	2	□d				4・0
数理科学演習	2	□d				4・0
情報・計測・シミュレーション コンピュータ・シミュレーション	2	△		0・2		
計測・データ処理	2	△				0・2
ディープラーニング入門	2	△				0・2
融合・そ の他	2	△2・0				
基礎理工学入門	2	△0・2				
基礎理工学ゼミナール	2	△				
融合科学概論	2	△	2・0			
アクティブサイエンスゼミナール1	2	□e		0・2		
理工系のためのビジネススキル	2	△				2・0

食品製造学	2	△△				0・2
公衆衛生学	2	△△				0・2
食品化学実験	2	△□e				4・0
工学基礎実験	2	○4・0				
サイエンス実験	2	○□e	4・0			
化学実験	2	□□d□e	0・8			
応用数理演習	2	□□d	0・4			
工学基礎製図	1	△△	0・2			
CAD基礎	2	△△				2・0
情報・計測・シミュレーション コンピュータ・シミュレーション	2	△△	0・2			
機械学習入門	2	△△				0・2
データサイエンス基礎	2	△△	2・0			
人工知能	2	△△				0・2

融合・その他	1	△	△	1・0				
基礎理工学入門	2	△	△	2・0				
アクティブサイエンスゼミナール	2	△	△		0・2			
基礎理工学特別ゼミナール	2	△	△				0・2	
特別ゼミナール1	2	△	△	2・0				
特別ゼミナール2	2	△	△		0・2			
特別ゼミナール3	2	△	△			2・0		
自然科学特別講義	2	△	△			2・0		
数理科学特別講義	2	△	△				2・0	
異分野協働エンジニアリング・デザイン演習	2	△	△			1・1		
プレゼミナール	2	○	○				0・2	
卒業研究	8	○	○					◎・◎

(注) 必選欄 ○：必修科目 □a、□b、□c、□d、□e：選択必修科目
目 △：選択科目

別表第1—5 削除

アクティブサイエンスゼミナール2	2	□e			0・2		
基礎理工学特別ゼミナール	2	△				0・2	
特別ゼミナール1	2	△	2・0				
特別ゼミナール2	2	△		0・2			
特別ゼミナール3	2	△			2・0		
自然科学特別講義	2	△				2・0	
数理科学特別講義	2	△					2・0
プレゼミナール	2	○			0・2		
卒業研究	8	○					◎・◎

(注) 必選欄 ○：必修科目 □a、□b、□c、□d、□e：選択必修科目
目 △：選択科目

別表第1—5 工学部 環境科学科

(1) 総合科目

(2020年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件 単位数
				1年次 前期・後期	2年次 前期・後期	3年次 前期・後期	4年次 前期・後期	
総合科目 人文・社会・自然 群	大学の総合教養	2	△	2・0				2単 位
	大学の学び	2	△	2・0				文・
	テラシ	2	△	2・0				社 会・
	現代社会と青年の心理	2	△	2・0				自 然
	異文化の理解	2	△	0・2				群、
	政治学	2	△	0・2				外 国
	発達心理学	2	△	0・2				語 群、
	アジアの言語と文化	2	△	0・2				健 康・
	ヨーロッパの言語と文化	2	△	0・2				ス ポ
	社会とつながる	2	△	2・0				ーツ 群、
歴史学の世界	2	△	2・0				プ ロ	

	日本語活用法	2	△	(2.0)		
	地域プロジェクト活動1	2	△	0.2		
	地域プロジェクト活動2	2	△	0.2		

(注) 必選欄 △：選択科目

(2) 専門教育科目

(2020年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件単位数
				1年次	2年次	3年次	4年次	
共通情報重点科目	コンピュータリテラシー1	2	○		2.0			必修科目3単位、選択科目あわせて、3単位から11単位まで
	コンピュータリテラシー2	2	△		0.2			
	コンピュータ演習	2	△		2.0			

	物理化学1	2	△		2・0		
	熱力学	2	△		2・0		
	微生物学	2	△		2・0		
	基礎電気回路	2	△		0・2		
	公害防止学	2	△		2・0		
数学	基礎数学・演習	3	△	4・0			
	基礎解析・演習	3	△	[4・0]			
				[0・4]			
	微分積分・演習	3	△	[4・0]			
	多変数の微積分・演習	3	△	[0・4]			
	ベクトルと行列1	2	△	2・0			
	ベクトルと行列2	2	△	0・2			
専環境科	食品衛生学	2	○		2・0		必修科目12
	空気調和・冷凍工学	2	△		2・0		単位、選択
専門科目	衛生統計学	2	△		0・2		必修科目6
	電気電子工学	2	△		2・0		単位以上、選択科目あり
	電気実験	2	□		0・4		合わせて、34

食品衛生学	2	△	0・2			単位から74
生化学	2	△	2・0			単位まで
食品化学	2	△		0・2		
公衆衛生学	2	△				
食品工学	2	△	0・2			
食品製造学	2	△		0・2		
放射線化学	2	△			2・0	
食品微生物学実 験	2	□		<0・ 0>・ <8・ 0> <0・ 0>・ <0・ 0>・ <0・ 8>		
食品化学実験	2	□			<8・ 0>・ <0・ 0> <0・ 8>・ <0・ 0>	
応用化 学	2	△		0・2		
物理化学2	2	△				
有機機器分析	2	△			2・0	

電気化学	2	△			2・0
環境と電池	1	△			0・2
ナノ化学	1	△			0・2
化学実験	2	□		<0・0>・	
				<8・0>	
				<0・0>・	
				<0・0>・	
				<0・8>	
住環境工学					
機械CAD	2	△		0・2	
インテリア製図	2	△			0・2
流体力学	2	△		0・2	
伝熱工学	2	△			2・0
エネルギー変換工学	1	△			0・2
材料・構造力学1	2	△			0・2
材料・構造力学2	2	△			2・0
建築構造と住環境設備	2	△			2・0
住環境工学実験	2	□			<8・0>・
					<0・>

	数	次		次	8単 位以 上	人 文・社 会・自 然群、 外国 語群、 健 康・ス ポ ーツ群、 キャ リア 形成 群を あわ せて2 4単位 から4 0単位
		前 期・後 期	前 期・後 期			
人 文・社 会・自 然 群	人間の 探求	2	△2・0			
	哲学の世界	2	△2・0			
	発達心理学	2	△2・0			
	現代社会と青年 の心理	2	△0・2			
	教育制度論	2	△	2・0		
	人間形成と教育	2	△0・2			
	道徳と教育	2	△	0・2		
	歴史学の世界	2	△2・0			
	日本の近代史を 探究する	2	△	0・2		
	文化の 理解	2	△0・2			
文学の世界	2	△	2・0			
国際コミュニケ ーション	2	△				
現代社会を考え る1	2	△2・0				
現代社会を考え る2	2	△0・2				
異文化の理解	2	△0・2				
日本語上達法1	2	△2・0				

語	ドイツ語2	1	△	0・2					
フラン	フランス語1	1	△	2・0					
ス語	フランス語2	1	△	0・2					
中国語	中国語1	1	△	<4・0>・<0・0>					
	中国語2	1	△	<0・4>・<0・0>					
	中国語3	1	△	<0・0>・<4・0>					
健康・スポーツ	健康・スポーツ科学論	2	△	2・0				3単位以上	
スポーツ	スポーツ実習1	1	△	2・0					
群	スポーツ実習2	1	△	0・2					
	スポーツ実習3	1	△	0・2					
	スポーツ実習4	1	△	2・0					
キャリア	キャリア入門	2	△	2・0				6単位以上	
リア	建築学入門	2	△	2・0					
形成	グローバル研修	2	△	0・2					

建築計画	建築史・都市史1	2	△			2・0		から80単位
	建築史・都市史2	2	△			0・2		まで
	建築史・都市史3	2	△				2・0	
	建築計画1	2	○		2・0			
	建築計画2	2	○		0・2			
	住環境計画	2	△			0・2		
	インテリア計画	2	△		0・2			
	都市・街並み計画2	2	△			2・0		
	環境デザイン論	2	△			0・2		
	建築工学・ 環境工学1	2	○	0・2				
	建築工学2	2	△		2・0			
	建築環境工学演 習	4	△			0・4		
	建築設備1	2	○		0・2			
建築設備2	2	△			2・0			
建築構造・ 材料	建築構造力学1	2	○	2・0				
	建築構造力学2	2	○	0・2				
	建築構造力学3	2	△		2・0			
	建築構造力学4	2	△		0・2			
	建築構造1	2	○		0・2			
	建築構造2	2	○			2・0		
	建築構造3	2	△			0・2		
	建築材料	2	○		0・2			

	建築材料・構造実2 験					4・0
建築生産・ 法規	建築生産1	2	○			0・2
	建築生産2	2	△			0・2
その他	建築経済	2	△			0・2
	BIM実習	1	△			0・2
	建築法規	2	○			2・0
	建築技術者倫理	2	○			2・0
	建築史実習	2	△			4・0
	建築設計実務実 習	2	△			4・0
	2次元CAD実習	1	△		2・0	
	3次元CAD/DTP実 習	1	△		0・2	
	コンピューテーシ ヨナルデザイン 実習	1	△			2・0
	特別ゼミナール1	2	△		2・0	
	特別ゼミナール2	2	△		0・2	
	建築プレゼミナ ール1	2	△		0・2	
	建築プレゼミナ ール2	2	△			2・0
	プレゼミナール	2	○			0・2

卒業設計	8	□				◎・◎
卒業研究	8	□				◎・◎

(注) 必選欄 ○：必修科目 □：選択必修科目 △：選択科目

別表第1—7～別表第1—13 (略)

別表第1—14 建築・デザイン学部 建築・デザイン学科

(1) 共通科目

(2024年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件単位	
				1年次 前期・ 後期	2年次 前期・ 後期	3年次 前期・ 後期	4年次 前期・ 後期		
共通 人文 科学	総合教養	2	△	2・0				8単 位以 上	人文・社 会・自然 群、外国 語群、健 康・スポ ーツ群、 プロジェ クトスキ ル形成 群、情報 基礎群を
	総合ゼミ ナール	2	△	2・0					
社会 ・自然 群	社会学 びと法	2	△	2・0					
	現代社会 と青年の 心理	2	△	2・0					
シ ニ	0ECU概論	1	△	1・0					
	異文化の	2	△	0・2					

Intermediate Discourse 1									
Intermediate Discourse 2	<input type="checkbox"/>	0.2							
Intermediate Communication 1	<input type="checkbox"/>	2.0							
Intermediate Communication 2	<input type="checkbox"/>	0.2							
資格対策英語1	<input type="checkbox"/>	2.0							
資格対策英語2	<input type="checkbox"/>	0.2							
Advanced Discourse 1	<input type="checkbox"/>		2.0						
Advanced Discourse 2	<input type="checkbox"/>		0.2						
Advanced Communication 1	<input type="checkbox"/>		2.0						
Advanced Communication 2	<input type="checkbox"/>		0.2						
中国語1	<input type="checkbox"/>								
中国語2	<input type="checkbox"/>								
中国語1	<input checked="" type="checkbox"/>	2.0							

中国語2	1	△	0.2						1単 位以 上
中国語3	1	△	2.0						
中国語4	1	△	0.2						
スポーツ 健康 実習1	1	△	2.0						
スポーツ 健康 実習2	1	△	0.2						
スポーツ 健康 実習3	1	△			0.2				
健康・スポ ーツ科学 論	2	△			2.0				
スポーツ 文化論	2	△			0.2				
プロジェ クト活動 スキル入 門	1	△	2.0						3単 位以 上
プロジェ クト活動 演習1	1	△			2.0				
プロジェ クト活動 演習2	1	△			0.2				

成 群	キャリア 設計プロ ジェクト 実践	1	△			2・0
	日本語上 達法1	2	△	2・0		
	日本語上 達法2	2	△	0・2		
	日本語活 用法	2	△		2・0	
	地域プロ ジェクト 活動1	2	△	1・1		
	地域プロ ジェクト 活動2	2	△		1・1	
	グローバル 研修	2	△			2・0
	グローバル	2	△			2・0

	数	専攻	間	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	
基礎数学	2	基礎数学	△△	2・0				4単位から
基礎物理	2	力学	△△	2・0				11単位ま
専門	2	物理学	△△	0・2				で
専門	2	建築学入門	△△	2・0				
建築・デザイン	2	空間デザイン学入門	△△	2・0				
専門	2	建築構造入門	△△	2・0				
専門	1	OECU概論	△△	1・0				
建築設計実習	2	建築・デザイン設計基礎実習	○○	0・4				建築専攻：必修科目50単位、選択科目あわせて、77単位から96単位
科目	4	建築設計実習1	○○	8・0				
	4	建築設計実習2	○○	0・8				
	4	建築設計	△△				8・0	

	実習3							まで	
建築 計画	建築・デザ4 イン総合 演習	△△		0・4				空間・デザ イン専 攻：必修科 目26単位、 選択科目 あわせて、 77単位か ら96単位 まで	
	建築史・都2 市史1	△△		2・0					
	建築史・都2 市史2	△△		0・2					
	建築史・都2 市史3	△△		2・0					
	建築史実2 習	△△				4・0			
	建築計画12	○△		2・0					
	建築計画22	○△		0・2					
	住環境計2 画	△△		0・2					
	都市・街並2 み計画	△△		2・0					
	環境デザ2 イン論	△△		0・2					
	建築 環境	建築環境 工学1	○△	0・2					
		建築環境 工学2	△△		2・0				

	建築環境	2	△△			0・4
建築設備	工学実習					
建築設備	建築設備1	2	○△	0・2		
	建築設備2	2	△△		2・0	
建築構造	建築構造	2	○△	0・2		
	力学1					
建築構造	力学2	2	○△	2・0		
	力学3	2	△△	0・2		
建築構造	力学4	2	△△		2・0	
	建築構造1	2	○△	0・2		
建築一般構造	建築構造2	2	○△		2・0	
	建築構造3	2	○△		0・2	
建築材料	建築材料	2	○△	2・0		
	材料・構成概論					
建築生産	建築材料	2	△△		4・0	
	材料・構造実験					
建築生産	建築生産1	2	○△		2・0	
	建築生産2	2	△△		0・2	
建築法規	建築経済	2	△△		0・2	
	建築法規	2	○△		2・0	

建築実務	建築技術者倫理	2	△△			0・2	
空間デザイン	空間デザイン概論	2	△○	2・0			
	建築都市デザイン	2	△△		0・2		
	インテリアデザイン概論	2	△△		2・0		
	インテリアデザイン実践	2	△△		0・2		
	ランドスケープデザイン	2	△△			2・0	
	建築プロジェクトデザイン	2	△△			0・2	
アート&デザイン	基礎造形	2	△○	2・0			
	空間芸術表現論	2	△△		0・2		
	デジタルデザイン実習	2	△○	4・0			
	デジタルデザイン概論	2	△△	2・0			
	デジタルデザイン基礎演習	2	△△	0・2			
機能デザイン	自然災害概論	2	△△	0・2			
	都市環境の設備1	2	△△		0・2		

都市環境 の設備	2	△△			2・0	
住環境 備実験	2	△△			0・4	
空間環境 デザイン	2	△△	0・2			
空間環境 デザイン	2	△△		2・0		
構造デザ イン	2	△△		2・0		
デジタル 空間の表 現	2	△△		2・0		
コンピュ ータ製図 実習	1	△△		2・0		
コンピュ テーショ ナルデザ イン	2	△△		2・0		
サイバー 空間創成	2	△△		0・2		
行動シ ミュレー ション	2	△△			0・2	
Building Informati on Modeling	2	△△			2・0	
空間表現 の情 報技 術	2	△△	0・2			

デジ
タル
デザ
イン

デー
タ指
向デ

ガイ ン	社会デー タ分析	2	△△	2・0			
	空間シミ ュレーシ ョン	2	△△		0・2		
	建築空間 X	2	△△		2・0		
	都市空間 X	2	△△		2・0		
	構造シミ ュレーシ ョン	2	△△			2・0	
	空間情報 数理	2	△△			2・0	
	データサ イエンス 基礎	2	△△	2・0			
	人工知能	2	△△		0・2		
	特別ゼミ ナール1	2	△△	2・0			
	特別ゼミ ナール2	2	△△	0・2			
	建築・デザ インプレ ゼミナ ール1	2	〇〇	0・2			
	建築・デザ インプレ	2	〇〇		2・0		

ゼミナール2								
建築・デザインプレゼミナール3	0.2							
卒業研究	8	○	○					◎・◎

(注) 必選欄 ○：必修科目 □：選択必修科目 △：選択科目

別表第2 (略)

別表第3 進級・卒業要件一覧表

(1) 工学部 電気電子工学科、電子機械工学科、機械工学科

(2024年度からの教育課程)

区分	卒業要件単位数			
	学科	電気電子工学科	電子機械工学科	機械工学科
総合科目	人文・社会・自然群	8～26単位	6～26単位	6～30単位
	外国語群	4～8単位	—	—
	選択必修科目	0～4単位	4～12単位	4～12単位

別表第2 (略)

別表第3 進級・卒業要件一覧表

(1) 工学部 電気電子工学科、電子機械工学科、機械工学科、基礎理

工学科、環境科学科

(2020年度からの教育課程)

区分	卒業要件単位数			
	学科	電気電子工学科	電子機械工学科	基礎理工学科
総合科目	人文・社会・自然群	8～26単位	6～26単位	6～28単位
	外国語群	4～8単位	—	4～8単位
	選択必修科目	0～4単位	4～12単位	0～4単位

専門 教育 科目	共通 重点 科目	計	6～12単 位	4～12単 位	4～12単 位	3～12単 位
		健康・スポー ツ群	3～5単位	2～5単位	2～5単位	2～5単位
		必修 科目	2単位	2単位	—	—
		プロ ジェ クト	2～18単 位	4～18単 位	6～20単 位	4～18単 位
		スキ ル形 成群	4～20単 位	6～20単 位	6～20単 位	4～18単 位
		計	22～40単 位	18～40単 位	24～40単 位	24～40単 位
		必修科目	4単位	—	4単位	3単位
		選択科目	0～2単位	—	2～6単位	0～8単位
		計	4～6単位	—	6～10単 位	3～11単 位
		基礎 専門 科目	8単位	7単位	8単位	7単位
専門 科目	基礎 専門 科目	必修科目	7～26単 位	17～39単 位	11～24単 位	15～29単 位
		選択科目	15～34単 位	24～46単 位	19～30単 位	18～32単 位
		計	8単位	8単位	27単位	27単位
卒業 研究	卒業 研究	必修科目	34単位	14単位	6単位	4単位
		計	34単位	14単位	6単位	4単位
		卒業	34単位	14単位	6単位	4単位

専門 教育 科目	共通 重点 科目	計	6～12単 位	4～12単 位	4～12単 位	3～12単 位
		健康・スポー ツ群	3～5単位	2～5単位	2～5単位	2～5単位
		必修 科目	2単位	2単位	—	—
		プロ ジェ クト	2～18単 位	4～18単 位	6～20単 位	4～18単 位
		スキ ル形 成群	4～20単 位	6～20単 位	6～20単 位	4～18単 位
		計	22～40単 位	18～40単 位	24～40単 位	24～40単 位
		必修科目	4単位	—	4単位	3単位
		選択科目	0～2単位	—	2～6単位	0～8単位
		計	4～6単位	—	6～10単 位	3～11単 位
		基礎 専門 科目	8単位	7単位	8単位	7単位
専門 科目	基礎 専門 科目	必修科目	7～26単 位	17～39単 位	11～24単 位	15～29単 位
		選択科目	15～34単 位	24～46単 位	19～30単 位	18～32単 位
		計	8単位	8単位	27単位	27単位
卒業 研究	卒業 研究	必修科目	34単位	14単位	6単位	4単位
		計	34単位	14単位	6単位	4単位
		卒業	34単位	14単位	6単位	4単位

卒業要件	こと。
休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数128単位以上を修得していること。	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数128単位以上を修得していること。
(注1) 履修制限	
<p>一年度内に履修できる単位数は、48単位を超えないものとする。</p> <p>ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。</p> <p>履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目</p> <p>インターンシップ</p> <p>別表第2に定める教職課程の科目 ただし、教育の基礎的理解に関する科目等のうち次の科目は履修制限単位数に算入する。</p> <p>発達心理学</p> <p>現代社会と青年の心理</p> <p>教育制度論</p>	
(注2) 留年生に対する特例措置	
<p>① 留年した1年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が20単位以上の者は、1年次配当科目のほか、2年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。</p> <p>② 留年したことがある2年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が50単位以上の者は、2年次配当科目のほか、3年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。</p>	

(注3) 特別選択科目による他学科専門科目の履修について

自身の所属する学科に無い、他学科の学科専門科目のうち、実験、実習、演習及びゼミナール関連科目を除く授業科目について履修することができ、特別選択科目として10単位まで単位認定される。ただし、2年次生以上でかつ在籍年次より下の年次に配当されている授業科目を履修できることとする。また、科目担当教員の受講許可を必要とする。

(2) 工学部 基礎理工学科

(2024年度からの教育課程)

区分	卒業要件単位数	
	数理科学専攻	環境化学専攻
共通科目	人文・社会・自然群	6～26単位
	外国語群	2～14単位
	選択必修科目	0～4単位
	選択科目	3～16単位
	計	2～6単位
健康・スポーツ群		2～10単位
プロジェクトスキル形成群		2単位
情報基礎群	必修科目	0～6単位
	選択科目	2～8単位
	計	24～36単位
専門基礎	必修科目	2単位
専門	選択科目	10～20単位

(注3) 特別選択科目による他学科専門科目の履修について

自身の所属する学科に無い、他学科の学科専門科目のうち、実験、実習、演習及びゼミナール関連科目を除く授業科目について履修することができ、特別選択科目として10単位まで単位認定される。ただし、2年次生以上でかつ在籍年次より下の年次に配当されている授業科目を履修できることとする。また、科目担当教員の受講許可を必要とする。

教育科目	科目計	12～22単位	
	必修科目	卒業研究	8単位
科目	卒業研究以外	6単位	4単位
	選択必修科目	□a 4～18単位 □b 4～16単位 □c 4～20単位 □d 2～4単位	□e 4～8単位
	選択科目	8～50単位	36～72単位
	特別選択科目	0～10単位	0～10単位
	計	66～88単位	
	合計	124単位	

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位50単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 卒業要件単位数のうち、94単位以上を修得していること。
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数124単位以上を修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、44単位を超えないものとする。

ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位

の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目

インターンシップ

別表第2に定める教職課程の科目 ただし、教育の基礎的理解に関する科目等のうち次の科目は履修制限単位数に算入する。

発達心理学

現代社会と青年の心理

教育制度論

(注2) 特別選択科目による他学科専門科目の履修について

自身の所属する学科に無い、他学科の学科専門科目のうち、実験、実習、演習及びゼミナール関連科目を除く授業科目について履修することができ、特別選択科目として10単位まで単位認定される。ただし、2年次生以上でかつ在籍年次より下の年次に配当されている授業科目を履修できることとする。また、科目担当教員の受講許可を必要とする。

(2) 削除

(2) 工学部 建築学科

(2022年度からの教育課程)

区分	卒業要件単位数
総合科目	人文・社会・自然群 8～25単位
	外国語群 選択必修科目 4～19単位

	選択科目	0～11単位
	計	6～23単位
	健康・スポーツ群	3～6単位
	キャリア形成群	6～18単位
	計	24～40単位
専門教育	基礎専門科目	24～40単位
科目	必修科目	36単位
	選択必修科目	8単位
	卒業設計	
	卒業研究	
	選択科目	12～36単位
	特別選択科目	0～10単位
	計	56～80単位
合計	128単位	
2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。	
3年次進級要件	1	休学・停学期間を除き2年以上在学していること。
	2	総修得単位50単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1	休学・停学期間を除き3年以上在学していること。
	2	卒業要件単位数のうち、100単位以上を修得していること。
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数128単位以上を修得していること。	

(注1) 履修制限
 一年度内に履修できる単位数は、48単位を超えないものとする。

ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目

インターンシップ

(注2) 留年生に対する特例措置

① 留年した1年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が20単位以上の者は、1年次配当科目のほか、2年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。

② 留年したことのある2年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が50単位以上の者は、2年次配当科目のほか、3年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。

(注3) 特別選択科目による他学科専門科目の履修について

自身の所属する学科に無い、他学科の学科専門科目のうち、実験、実習、演習、ゼミナール関連科目を除く授業科目について履修することができ、特別選択科目として10単位まで単位認定される。ただし、2年次生以上でかつ在籍年次より下の年次に配当されている授業科目を履修できることとする。また、自学科主任の許可及び科目担当教員の受講許可を必要とする。

(3) ～ (9) (略)

(3) ～ (9) (略)

(10) 建築・デザイン学部 建築・デザイン学科

(2024年度からの教育課程)

区分		卒業要件単位数	
		建築専攻	空間デザイン専攻
共通科目	人文・社会・自然群	8～24単位	
	外国語群	選択必修科目	4～8単位
		選択科目	0～4単位
		計	4～12単位
	健康・スポーツ群	1～5単位	
	プロジェクトスキル形成群	3～14単位	
	情報基礎群	必修科目	2単位
		選択科目	0～6単位
		計	2～8単位
		計	24～36単位
専門 基礎 教育 科目	選択科目	4～11単位	
	専門 必修 科目	卒業研究	8単位
		卒業研究以外	42単位
		計	23～49単位
	特別選択科目	0～10単位	0～10単位
		計	77～96単位
	合計	124単位	
	2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。	
	3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。	

	2 総修得単位50単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。
	2 卒業要件単位数のうち、94単位以上を修得していること。
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数124単位以上を修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、44単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目

目

インターンシップ

(注2) 特別選択科目による他学科専門科目の履修について

自身の所属する学科に無い、他学科の学科専門科目のうち、実験、実習、演習、ゼミナール関連科目を除く授業科目について履修することができ、特別選択科目として10単位まで単位認定される。ただし、2年次生以上でかつ在籍年次より下の年次に配当されている授業科目を履修できることとする。また、科目担当教員の受講許可を必要とする。

○学部教授会規則

平成17年4月19日

制定

最近改正 令和3年7月13日

(趣旨)

第1条 この規則は、大阪電気通信大学学則(以下「学則」という。)第41条第3項の規定に基づき、学部教授会(以下「教授会」という。)の構成と運営に関し必要な事項を定める。

(構成)

第2条 教授会は、当該学部等所属の専任の教員をもって組織する。

2 この規則において「教員」とは、学則第38条に規定する教授、准教授及び講師をいう。

3 複数の学部等が合同で教授会を開催することができる。

(審議事項等)

第3条 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学、卒業及び課程の修了

(2) 学位の授与

(3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める次の事項

ア 教育課程に関する事項

イ 学生の身分の取扱いに関する事項

ウ 学生の学修指導及び評価に関する事項

エ 学生の厚生補導、賞罰に関する事項

オ 教育の改善及び研究に関する事項

カ 教員の人事選考に関する事項

キ 学部長等の選考に関する事項

ク 学部等に関する学則及び規則に関する事項

ケ 主任会から提起された事項

コ その他学部等の運営に関する事項

2 前項第1号の入学に関する事項については、合否判定会議の審議をもって代えることができる。

3 教授会は、第1項に規定するもののほか、学長、学部長及び機構長(以下この項において

「学長等」という。)がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(主任会)

第4条 教授会は、教授会の構成員のうちの一部をもって構成される主任会を置くことができる。

2 主任会に関する事項は、別に定める。

(教員選考委員会)

第5条 第3条第1項第3号カの人事選考に関する事項を審議するため、教員選考委員会をおく。

2 教員選考委員会に関する規則は、別に定める。

(教授会の招集)

第6条 教授会は、あらかじめ議案を通知して、学部長等がこれを招集し、その議長となる。

複数の学部等が合同で教授会を開催する場合には、議長は当該学部長等の間で定める。

2 学部長等が職務を遂行できないときは、学部長等の指名した者が、学部長等の職務を代行する。

(教授会の運営)

第7条 教授会の運営は、次のとおりとする。

(1) 教授会は、構成員の過半数の出席によって成立し、その議決は、構成員である出席者の過半数によって行う。ただし、可否同数の場合は、議長が決する。

(2) 前号の構成員数には休職中の者、在外研究員及び国内研究員の数は含めない。

(3) 教授会の議事は、議長の指名する書記によって記録し、次回教授会の冒頭に確認した後、議事録として構成員に公開するものとする。

(4) 教授会が必要と認めた場合、構成員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

(改廃)

第8条 この規則の改廃は、教授会での意見を参酌し、運営会議の審議を経て学長が決定し、理事長へ報告する。

附 則

1 この規則は、平成17年5月1日から施行する。

2 学部教授会規則(平成7年4月1日制定)は、廃止する。

附 則

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、2021年9月1日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類
(建築・デザイン学部 建築・デザイン学科)

目次

1. 設置の趣旨及び必要性	p. 2
2. 学部・学科等の特色	p. 10
3. 学部・学科等の名称及び学位の名称	p. 12
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	p. 12
5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	p. 21
6. 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画	p. 23
7. 取得可能な資格	p. 26
8. 入学者選抜の概要	p. 26
9. 教員組織の編成の考え方及び特色	p. 31
10. 研究の実施についての考え方、体制、取組	p. 32
11. 施設、設備等の整備計画	p. 33
12. 管理運営及び事務組織	p. 36
13. 自己点検・評価	p. 37
14. 情報の公表	p. 38
15. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	p. 42
16. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	p. 42

設置の趣旨等を記載した書類

1. 設置の趣旨及び必要性

(1) 建築・デザイン学部 建築・デザイン学科 を設置する社会的背景及び必要性

建築学はもとより建築の計画・生産に関する工学に加えて歴史・文化の分野、人間工学や感性などあらゆる学問、人類の叡智を集めた幅広い分野ではあるが、近年の情報技術の急速な展開により建築学の概念が広がっている。

人を環境から保護する建物を堅牢・安全に造るための工学として重要であることには変わりないが、精神的にもより豊かで快適な空間を設計するためのデザイン性を追求することや、都市という広域の空間としての社会の入れ物としての空間を創造すること、さらには情報化社会あるいは Society5.0 や SDGs という社会の要請に従って都市の役割が変容する中で、人を取り巻く空間のあり方を探求する学問にしていかなければならない。他方デザインは、情報技術の発展と密接に関係をしながら変化を遂げてきた。そこでは建築デザインも例外ではなく、現在では建築デザインは情報デザインの一側面であるという考え方もできる。インターネットに広がる仮想空間においてもメタバースの空間表現に対して建築デザインの専門性が活かせる可能性はもちろんのこと、個々の存在が重要視される Web3 やブロックチェーン技術から進展する DAO (Decentralized Autonomous Organization) で期待されている分散型自律社会においても個々のコミュニティ空間の認識やプロジェクト管理能力についても伝統的な建築学で蓄積された知識と情報科学分野との相互発展が期待できる。

建築学は、強・用・美の3要素により立脚しており、芸術と工学との学際的領域が必然で、近年の情報技術の進展により工学的にも芸術的にも建築学に変容を要求し続けている。その多様化し領域が拡大している建築においてデザインを行うことは、視覚的なバランスや色といった「美」を作り出すことに収まらず、様々に絡み合う多様な領域と連携し暮らしのシステムを構築する必要がある。複雑化する現在の生活空間（建築、都市、情報）においては、現実の物質空間と情報空間が融合することが求められる。その複雑に多様な要素が絡み合った生活空間を豊かにするには論理性のみならず豊かな感受性が必要であり、その論理性と感受性が相互補完しながら社会を俯瞰した上で新しいもの作りができる力こそが、今、求められている。そこでは、自然科学及び社会科学の論理性と人文科学の感受性といった幅広い領域への理解が必要である。また、それらの領域を学び、それを豊かな感性によって社会に活かせる空間を構築できる力を身につけることこそが、デザイン教育を行う意義である。いわゆる理系、文系、芸術系を問わず様々な個性を持った人材が集い協力して広義の建築をデザインできる場になることを本学部は目指している。

実社会においては事実上コンピュータリテラシーが建築という仕事の基礎になっている。時代のキーワードとして DX (デジタルトランスフォーメーション) があらゆる分野で要請されているが、これは裏返して考えると我が国がデジタルの波に取り残されていることによる

現象とも捉えられる。建築分野においては BIM (Building Information Modeling) が進められているものの、情報リテラシーの高い人材が国内建築業界では不足しており、世界標準の流れから残念ながら取り残されているのが現状である。

世界的感染症の流行を機に、建築分野においても、職場・学校、住宅、公共施設、交通などあらゆる都市空間において、人と人の接し方、都市活動、経済、モノと人の流通など活発性と流動性を落とすことなく、安全で機能的な都市・建築のあり方を見直す必要性が切実になってきた。併せて ICT(Information and Communication Technology)を活用したライフスタイルの変容により、高い付加価値を生み出す情報の流通など、建築分野ではより広い視野で時代の変化に応じた対応が求められている。

このような社会的背景から大阪府内の大学でも近畿大学では建築を学部として設置し、大阪工業大学では工学部建築学科に加えてロボティクス&デザイン工学部に空間デザイン学科として情報技術や制御技術と連携した建築分野を設置し、大阪産業大学ではデザイン工学部建築・環境デザイン工学科として建築分野を広く捉える教育・研究体制に移行する流れがあり、いずれも志願倍率が高く需要度の高い学科となっている。

本学においても平成 30 年 4 月に工学部の中に建築学科を開設したが、近年の DX の流れに沿って高度な情報化への対応が急務であると判断し、さらに建築に関連する広い分野を網羅し、世界の潮流に対応できる人材を育成するために学部として再編成することになった。

この拡張された建築分野を扱う新しい学部は「建築・デザイン学部」と呼称し、建築学を基礎としながらデザイン分野を広い意味で拡張・強化し、その中心となるのは情報技術分野であり、構造や環境についても情報技術の側面から拡張・強化する。そのため学部の構造としては建築・デザイン学科という学科の中に、建築士を目指す設計製図、計画、環境工学、設備、構造力学、構造、材料、生産、法規の伝統的な建築学を扱うために工学部建築学科のカリキュラムを継承する「建築専攻」と、新たな空間デザインと情報技術及び環境工学を強化した「空間デザイン専攻」を置き、学生指導のコースを設定しながらも相互に補完・連携して一体的に運営するシステムとする。

(2) 建築・デザイン学部建築・デザイン学科において養成する人材像

人間を取り巻くあらゆる空間の設計・造形と構築に関する知識と技術の実学教育を通じて、学生の学修成果の向上及び学修目標の達成並びに技能の向上を支援し、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を養成する。

また、すべての人々が安全で快適に生活できる社会を支える都市と建築、インテリアにいたる幅広いスケールの実空間や、デジタル技術により構築された情報空間など、現実と仮想を問わない、人間を取り巻くあらゆる空間の設計・造形と構築に関する知識と技術を講義す

る実学教育を通じて、学生の人間的成長を支援し、広く社会及び産業界で活躍でき、持続可能な社会の発展に貢献することができる専門の人材を養成する。

(3) 建築・デザイン学部建築・デザイン学科における3つのポリシー

① 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

建築・デザイン学部（建築専攻と空間デザイン専攻）は、すべての人々が安全で快適に生活できる社会を支える都市と建築、インテリアにいたる幅広いスケールの実空間や、デジタル技術により構築された情報空間など、現実と仮想を問わない人間を取り巻くあらゆる空間の設計・造形と構築に関する知識と技術を講義する実学教育を通じて、学生の人間的成長を支援し、広く社会および産業界で活躍でき、持続可能な社会の発展に貢献することができる専門的人材を育成することを目的としている。

そのため、本学の基本理念を理解し、次の能力を有すると認められた学生に学士（工学）の学位を授与する。

ア. 専門知識・技能を修得し、実践する力（手+頭）

デジタル技術・造形物製作技術と人間の感性と伝統的な手わざによる設計技術・造形物製作技術を自在に組み合わせ、持続的社会的構築と発展のために貢献できる空間設計・造形を行い、空間を構築することができる。

イ. コミュニケーション力（心）

情報技術も活用して最適な空間を構築するために、他者の意見を聞き、自分の意見を説明することができる。

ウ. 課題を発見し、問題を解決する力（手+頭）

社会的影響を理解した上で、専門知識・技能に加えてデジタル技術を活用して効率良く問題解決に取り組める。

エ. 他者と協力して目的を達成する力（手+頭+心）

人々と積極的に交流できる力を磨き、個性を発揮しながらも他者と協調して自らの役割を責任を持って果たせる。

オ. 自らを律し、学び続ける力（手+心）

自らに誇りを持ち、心豊かな生活を営む価値観のもと、獲得した専門知識・技能を社会で正しく使用する倫理観と責任感を持って自ら進んで学び続けることができる。

カ. 総合力（手+頭+心）

新たな課題に対して、獲得した専門知識・技能を活用し、誠意ある態度で、かつ個性を活かした総合的能力により社会の維持・発展に貢献できる。

② 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

建築・デザイン学部建築・デザイン学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる要件を修得するために、工学・建築学・デザイン学の幅広い専門知識と基礎力を育成する。そのた

めに、各専攻において以下の教育方針の下でカリキュラムを編成する。

[建築専攻]

ア. 専門知識・技能を修得し、実践する力

基礎専門科目、専門科目に座学と実験・実習、演習科目を配置し、安全で快適な生活のために発展してきた建築技術に関する基礎から応用までの知識・技能を修得できる課程を編成する。建築学の導入教育としては「建築学入門」に重点をおいた教育を行う。さらには、一級・二級建築士受験資格に必要な建築設計、建築計画、建築環境工学・建築設備、構造力学・建築構造・建築材料、建築生産・法規についての授業科目を提供する。

イ. コミュニケーション力

総合科目に外国語群やプロジェクトスキル形成群を配置し、低年次から上位年次まで常に主体性・実行力・コミュニケーション力を修得する課程を編成する。また、スポーツ実習や実験・実習科目を通じ、同様の力を培う機会を提供する。

ウ. 課題を発見し、問題を解決する力

プロジェクトスキル形成群及び基礎専門科目(数学・物理)の知識や共通重点科目(情報)を活用して、課題発見力・問題解決力の修得を目指す。また、建築各分野全体をテーマにICTを駆使して、CAD(Computer Aided Design)により図面を描き、デジタルデザイン技術により図面を実際の建物のようにリアルに描画し、3次元でBIMによりデザインした建物に様々な建物情報を与えることで、設計、施工、維持管理を最適化する技術演習を実施する。これらの授業科目を通じて、課題発見力・問題解決力のさらなる修得を目指す。

エ. 他者と協力して目的を達成する力

プロジェクトスキル形成群やスポーツ実習、実験・実習科目を通じ、他者との協働力を修得できる機会を提供する。

オ. 自らを律し、学び続ける力

プレゼミナール、卒業研究を通して、倫理観と共に主体的に新しい知識・技能を修得する機会を提供する。卒業研究には卒業論文による成果に加えて建築設計による成果を評価対象として認めるものとする。

カ. 総合力

総合科目の人文・社会・自然群において幅広い教養を身につけるとともに、専門科目で修得した様々な内容を組み合わせ、さらに卒業研究を必修として学修することで、総合力を修得する機会を提供する。持続可能社会を実現する「人と環境に配慮した建物・まちづくり」をモットーとして、人に対しては、安全かつ快適な空間を提供し、環境に対しては、自然との循環型共生や省エネルギーで環境負荷の低い建築物や都市を計画、設計、施工できる建築家や建築技術者の養成を目指している。また、コンピュータを活用して、建築設計・構造・設備などの実務に携われる技術者の養成を目指す。

さらに、地域（特に京阪電気鉄道沿線）の方々と積極的に交流し、住みやすいまちづくりをめざしたアクティブラーニングを教育の一環とし、コミュニケーション能力、チームで働く能力などの社会人として必要な基礎能力（社会人基礎力）を確実に身につけさせ、社会に貢献できる人材を輩出できる教育を行い、社会で活躍できる人材の育成を目指している。

そして卒業生は、建築、構造、設備の設計や施工に携わる建築家及び建築技術者として、ゼネコン（総合建設会社）、建築設備会社、建築設計事務所、住宅メーカーや住宅関連の設備会社への就職を目指す。また、リノベーションやコンバージョン建築など時代や用途のニーズにこたえる設計や施工、建築・まちづくりに関するプランナー、コミュニティデザイナー、行政担当者、あるいは、工業・技術分野での教育者などの進路も目指す。

[空間デザイン専攻]

ア. 専門知識・技能を修得し、実践する力

基礎専門科目、専門科目に座学と実験・実習、演習科目を配置し、人類の歴史と共に環境から身を守る安全な生活のために発展してきた建築技術と、あらゆる分野の基礎として急速に進展している情報技術に関する基礎から応用までの知識・技能を修得できる課程を編成する。空間デザイン学の導入教育としては「空間デザイン入門」に重点をおいた教育を行う。さらには、一級・二級建築士受験資格の獲得も可能となるように、建築設計、建築計画、建築環境工学・建築設備、構造力学・建築構造・建築材料、建築生産・法規についての授業科目を提供する。

イ. コミュニケーション力

総合科目に外国語群やプロジェクトスキル形成群を配置し、低年次から上位年次まで常に主体性・実行力・コミュニケーション力を修得する課程を編成する。また、スポーツ実習や実験・実習科目を通じ、同様の力を培う機会を提供する。

ウ. 課題を発見し、問題を解決する力

プロジェクトスキル形成群及び基礎専門科目(数学・物理)の知識や共通重点科目(情報)を活用して、課題発見力・問題解決力の修得を目指す。また、建築のインテリアから建物、地域、都市、その活動も含めた人の周りの空間について、視覚や形状のデザイン、熱やエネルギーなどの物理、都市計画のための情報システムなど、空間デザインというキーワードにより実社会で必要とされている技術、並びに、SDGs を実現する未来社会のキーワードである Society5.0 の中核になる IoT、スマートホームやスマートシティのための最先端の技術を学ぶことができる講義と演習を実施する。これらの授業科目を通じて、課題発見力・問題解決力のさらなる修得を目指す。

エ. 他者と協力して目的を達成する力

プロジェクトスキル形成群やスポーツ実習、実験・実習科目を通じ、他者との協働力を修得できる機会を提供する。

オ. 自らを律し、学び続ける力

プレゼミナール、卒業研究を通して、倫理観と共に主体的に新しい知識・技能を修得する機会を提供する。卒業研究には卒業論文による成果に加えて建築設計及び作品制作による成果を評価対象として認めるものとする。

カ. 総合力

総合科目の人文・社会・自然群において幅広い教養を身につけるとともに、専門科目で修得した様々な内容を組み合わせ、さらに卒業研究を必修として学修することで、総合力を修得する機会を提供する。持続可能社会を実現する「人と環境に配慮した建物・まちづくり」をモットーとして、人に対しては、安全かつ快適な空間を提供し、環境に対しては、自然との循環型共生や省エネルギーで環境負荷の低い建築物や都市を計画、設計、施工できる建築家や建築技術者の養成を目指している。また、コンピュータを活用して、建築設計・構造・設備などの実務に携われる技術者の養成を目指す。

さらに、地域（特に京阪電気鉄道沿線）の方々と積極的に交流し、住みやすいまちづくりをめざしたアクティブラーニングを教育の一環とし、コミュニケーション能力、チームで働く能力などの社会人として必要な基礎能力（社会人基礎力）を確実に身につけさせ、社会に貢献できる人材を輩出できる教育を行い、社会で活躍できる人材の育成を目指している。

そして卒業生は、建築、構造、設備の設計や施工に携わる建築家及び建築技術者として、ゼネコン（総合建設会社）、建築設備会社、建築設計事務所、住宅メーカーや住宅関連の設備会社への就職を目指す。また、建築・まちづくりに関するプランナー、コミュニティデザイナー、行政担当者、あるいは、工業・技術分野での教育者などの進路も目指す。

③ 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

建築・デザイン学部（建築専攻と空間デザイン専攻）は、すべての人々が安全で快適に生活できる社会を支える都市と建築、インテリアにいたる幅広いスケールの実空間や、デジタル技術により構築された情報空間など、現実と仮想を問わない人間を取り巻くあらゆる空間の設計・造形と構築に関する知識と技術を講義する実学教育を通じて、学生の人間の成長を支援し、広く社会および産業界で活躍でき、持続可能な社会の発展に貢献することができる専門的人材を育成することを目的としている。

そのような人材を育成するにあたり、各専攻ごとに次のような知識・意欲・情熱を持った入学者を求める。

[建築専攻]

(知識・技能)

ア. 高等学校までの履修教科のうち理科、工業化系科目を学び、自然の事物・現象や産業技術について科学的・工学的に探求する能力を身に付けている者

イ. 高等学校までの履修教科のうち数学を学び、事象を数学的に考察し表現できる能力を身に付けている者

ウ. 高等学校までの履修教科のうち情報を学び、情報や情報技術に関する科学的・工学的な見方や考え方を身に付けている者

エ. 高等学校までの履修教科のうち外国語(英語)を学び、基本的なコミュニケーションに必要な知識技能を身に付けている者

(思考力・判断力・表現力)

オ. これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる者、または取り組む意欲がある者

(主体性・多様性・協調性)

カ. 建築の専門知識や技能を学びたいと強く望み、主体的に学ぶことができる者

キ. 建物やまちづくりについて、人々と積極的に交流しながら取り組むことができる者

ク. 建築技術者を目指して、真剣に取り組むことができる者

[空間デザイン専攻]

(知識・技能)

ア. 高等学校までの履修教科のうち理科または工業化系科目を学び、自然の事物・現象や産業技術について科学的・工学的に探求する能力を身に付けている者

イ. 高等学校までの履修教科のうち国語または数学を学び、事象を言語や記号によって論理的に考察し表現できる能力を身に付けている者

ウ. 高等学校までの履修教科のうち情報を学び、情報や情報技術に関する科学的・工学的あるいは社会的な見方や考え方を身に付けている者

エ. 高等学校までの履修教科のうち外国語(英語)を学び、基本的なコミュニケーションに必要な知識技能を身に付けている者

(思考力・判断力・表現力)

オ. これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる者、または取り組む意欲がある者

(主体性・多様性・協調性)

カ. 空間デザインの専門知識や技能を学びたいと強く望み、主体的に学ぶことができる者

キ. 現実の都市や建築、データによる情報空間など様々な空間デザインについて人々と積極的に交流しながら、取り組むことができる者

ク. 空間デザインの専門技術者を目指して、真剣に取り組むことができる者

以上の3つのポリシーを基に、1-(2)で述べた「快適に生活できる社会を支える都市と建築、インテリアにいたる幅広いスケールの実空間を対象とし、デジタル技術により構築された情報空間、現実と仮想を問わない、人間を取り巻くあらゆる空間の設計・造形と構築が行える」という人材育成を前提として設定した。

ディプロマ・ポリシーでは人材像そのままに「すべての人々が安全で快適に生活できる社会を支える都市と建築、インテリアにいたる幅広いスケールの実空間を対象とした空間の構築に関する知識と技術を学びます。」としている。また、重要視する点としてデジタル技術の活用とデジタル空間も対象として学修と研究を進めることも言及している。この主要な学問分野の修得と研究を行う基盤として、技能の修得と実践ができる力とコミュニケーション力、課題発見力、協調性、続ける努力については大学での学びとして当然のこととして定義している。

カリキュラム・ポリシーでも、「工学・建築学・デザイン学の幅広い専門知識と基礎力」を育成することを述べており、建築専攻では「人類の歴史と共に環境から身を守る安全な生活のために発展してきた建築技術に関する基礎から応用までの知識・技能」を中心に置き、責任と技術を備えた建築士の育成を目指し、空間デザイン専攻では建築技術に加えて「あらゆる分野の基礎として急速に進展している情報技術に関する基礎から応用までの知識・技能」を拡張した構成となっている。カリキュラム・ポリシーにおいても、技能の修得と実践ができる力とコミュニケーション力、課題発見力、協調性、続ける努力について大学での学びとして当然のこととして定義している。

学年進行に従った両専攻の専門科目についてのカリキュラムマップを示す。緑色欄の科目は建築専攻の学生が優先して履修する科目、橙色欄の科目は空間デザイン専攻の学生が優先して履修する科目を示している。両方の色のグラデーション欄の科目については、各専攻で共通の科目として、学生の学びの進展に応じて自由に選択できる科目群を示している。また、各専攻で共通の科目には、主に建築設計の実習で多くの時間を使い、実践的な設計プロジェクトについて、前提となる環境などの条件把握や構想から材料・寸法の決定、プレゼンテーションを含む内容で学修する。

アドミッション・ポリシーは上述のカリキュラムマップの科目を修めるために必要となる高等学校までの学修の前提を定義している。

[資料1：カリキュラムマップ]

(4) 教育研究の目的及び研究対象とする学問分野

建築・デザイン学部では設計製図、計画、環境工学、設備、構造力学、構造、材料、生産、法規の伝統的な建築学はもちろんその中核に位置するものであると同時に、工学の基盤である電気電子・機械・情報・通信・環境、医療福祉、理学療法、健康・スポーツ分野の工学、情報学をベースにしたデジタルゲームやアニメーションなどの工学と連携し、本学独自の色

彩を強調できる教育・研究を目的としている。例えば、伝統の電気技術や通信技術を取り込んだ建築設備学の修得については、3D-CAD(3Dimensional Computer Aided Design)、CG(Computer Graphics)や造形技術を駆使できる建築設計技術の修得、さらには建築の生産性向上において普及・活用が期待されているBIMの修得を目指す。

このように、建築・デザイン学部建築・デザイン学科が組織として研究対象とする中心的な学問は「工学」とする。

2. 学部・学科等の特色

現行の工学部建築学科では人の健康で快適な生活を支援し、地球の環境を守りながら安心・安全な人間社会における調和を築くため、工学部の多様な理工学・技術分野とも連携して創造的な教育研究環境の整備に努力してきた。設計製図や模型作成のためのアトリエや家具製作のための木工室も活用するが、積極的にコンピュータを活用するため、学生は個人所有のコンピュータを用い、必要に応じて演習室の高性能コンピュータも用いて学修を進めることができる。

他大学にあまり例を見ない本学の持つ独自性として、総合情報学部「デジタルゲーム学科」及び「ゲーム&メディア学科」を有し、デジタル技術を駆使した表現や次世代の新たなデジタルコミュニケーションメディアに対応し、芸術と工学が融合したデザインと制作に関して系統的な教育と研究を行い、感性豊かな生活文化社会の創造に貢献できる人材の育成に努めている。また医療健康科学部では医療への工学応用の分野において人材育成に努めているが、少子高齢化が急激に進んでいる我国にとって、医療工学は欠くことができない領域で、人の生活の舞台である建築・都市において医療工学の応用は興味深い。頻発する自然災害に対する防災・減災も建築・デザイン学部の研究・教育が扱うテーマとして重要視しており、空間環境デザイン1、2の科目は防災・減災の教育内容を想定している。

今回、建築学の新しい広がりとして、建築・デザイン学部を構成する重要な要素は、対象空間の拡大、デザイン・芸術性教育の強化、情報技術活用の強化が主軸となる。

対象空間の拡大としては、建築内のインテリアや設備・環境のディテールから環境や地域、都市のレベルでの空間の拡大、さらには実空間から仮想空間・情報空間への拡大を行う。

デザイン・芸術性教育の強化としては、建築士としての設計知識と技能に加えて、表現の基本であるデッサンから芸術的創造性を高めるための教育へと広げる。世の中に対するものの見方、捉え方の訓練から始まり、これまで見てきた世の中の捉え方が変わることが芸術的創造性の基本となる。

情報技術活用の強化としては、コンピュータグラフィクスや仮想現実、データサイエンス、建築計画のためのソーシャルデータ、地理統計情報、スマートホーム、スマートシティ関連など、デジタル技術の応用対象を広げて強化する。

情報技術とデジタルによる芸術表現、環境科学に関する本学の教育・研究のリソースを活かす。また、建築分野本来のインテリアから都市に至るデザインに関する教育研究の強化のために世界視野で実績のある教員を配置する。

実空間のセンシングから得られた大量データから構成される情報空間のモデルで定量的に解析・予測した結果を物理的空間にフィードバックする CPS(Cyber Physical System)が IoT(Internet of things)を包含する概念として注目されているが、情報分野と連携した建築学の新たな広がりとして、機械学習、大規模言語モデルの人工知能(AI)の流れも反映し、地域・建築分野への活用を CPS と共に研究分野としてカバーする。生成系 AI はデザイン分野のツールとして活用するだけでなく、デザインの発想の本質を探る上で AI が学習するネットワークの解析にも可能性がある。CPS と AI は本学の得意分野であるセンシングやロボットなどの関連研究分野と繋がって、これからの高齢化社会の課題に対応するインテリジェントな空間創成も研究対象分野として認識している。

工学とは社会に役立ってこそその分野である。ここまで述べてきた本学全体の研究・教育分野に対して建築・デザイン学部は人の社会生活に最も密接な社会との接点のハブとして位置付けられる。持続可能社会を実現する「人と環境に配慮した建物・まちづくり」を目指した教育研究を通じて、自然災害に対応し安全かつ快適な空間であることを考慮しつつ、環境に対して自然との循環型共生や省エネルギーで環境負荷の低い建築物や都市を念頭に置いて、計画、設計、施工できる建築家や建築技術者を養成することを研究教育の目的とする。

また、住みやすい豊かなまちづくりをめざしたアクティブラーニングを中心とした教育により、コミュニケーション能力、チームワークなどの社会人として必要な社会人基礎力を身につけさせ、社会に貢献できる人材を輩出できる教育を行い、社会で活躍できる人材を養成することを人材養成の目的とする。

これらのことから、建築・デザイン学部建築・デザイン学科が担う機能と特色としては、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえて、「幅広い職業人養成」の機能を重点的に担うとともに、人間が主体として心豊かな住環境の創造に関する諸問題にも比重を置いた教育研究に取り組むことである。

専攻の特色を持たせながらも、学生の学びの進展に応じて自由な学問追求ができるように専攻間の仕切りは極力緩やかにしており、両専攻の教員は学科一体として教育・研究・運営にあたる体制をとっている。以下に専攻ごとの特色を明記する。

[建築専攻]

一級建築士として、戸建て住居から大規模な公共建築を設計できる人材育成を目指す。そのため定員を学科全体の5分の2に絞り、精鋭グループとして専門性の高い教育を行う。ただし、学年進行途上で建築分野の新たな広がり分野へ進路を変更する場合は空間デザイン専攻での必修要件を満たせば建築・空間デザイン学科の卒業要件を満たすことができる。

[空間デザイン専攻]

建築に関連する情報工学、環境工学、防災、まちづくり、ランドスケープからインテリア、家具にいたるデザインなど、建築分野の新たな広がりに対応するべく追加した専攻である。学問領域が多岐にわたるため、履修パターンには学生が学修したい科目を自由に選択できるように、制限は最小限にとどめており、伝統的な建築分野にとどまらずデジタル技術、環境工学やプロダクトデザインまで建築に関連する広い分野を自由に学ぶことができる。ただし、建築士を目指す学生はモデル履修パターン以外の科目から必要科目を履修することで建築士の受験資格を得られる。空間デザイン専攻のモデル履修パターンでも一級建築士の受験資格を得られる構造になっている。

この二つの専攻は自由に行き来できるものの、入試段階で選抜を分離しており、専攻単位の基本的なポリシーに従った学生を入学時点でグルーピングすることで、緩やかな垣根を作り、目指す方向性をそろえた専攻を形成する計画である。

3. 学部・学科等の名称及び学位の名称

建築・デザイン学部建築・デザイン学科は、建築物と人間及び自然・都市環境との共生を志向し、機能的であり、かつ住みやすい居住環境を創造できる人材を養成できることを目的とした学科であり、その学問分野としては建築関連工学、環境、情報、芸術分野との学際的領域を基礎の一部としながら、現代の情報社会に求められる広い工学分野の人材養成のため、建築を中心とした新しい学部である建築・デザイン学部として設置し、学科の名称及び学位の名称を次のとおりとした。

「デザイン」の対象として建築はもちろん、都市やその機能、さらにインテリアやプロダクトデザインを含む広い範囲を意味していることもあるが、工学が扱う物理や情報・制御・土木などの総合的な設計の意味を込めている。

学部学科の名称及び学位の名称

建築・デザイン学部 「Faculty of Architecture and Design」

建築・デザイン学科 「Department of Architecture and Design」

学士（工学） 「Bachelor of Engineering」

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

建築・デザイン学部建築・デザイン学科では、工学・建築学・デザイン学の幅広い専門知識と基礎力を育成する。そのために、学科に建築専攻と空間デザイン専攻の2つの専攻を置くこととし、各専攻において以下の教育方針の下でカリキュラムを編成する。

建築・デザイン学部建築・デザイン学科のカリキュラム・ポリシーを以下に示す。

◇ カリキュラム・ポリシー

建築・デザイン学部建築・デザイン学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる要件を修得するために、工学・建築学・デザイン学の幅広い専門知識と基礎力を育成する。そのために、各専攻において以下の教育方針の下でカリキュラムを編成している。

[建築専攻]

ア. 専門知識・技能を修得し、実践する力

基礎専門科目、専門科目に座学と実験・実習、演習科目を配置し、人類の歴史と共に環境から身を守る安全な生活のために発展してきた建築技術に関する基礎から応用までの知識・技能を修得できる課程を編成する。建築学の導入教育としては「建築学入門」に重点をおいた教育を行う。さらには、一級・二級建築士受験資格に必要な建築設計、建築計画、建築環境、建築設備、建築構造、建築材料、建築生産・法規についての授業科目を提供する。

イ. コミュニケーション力

共通科目に外国語群やプロジェクトスキル形成群を配置し、低年次から上位年次まで常に主体性・実行力・コミュニケーション力を修得する課程を編成する。また、スポーツ実習や実験・実習科目を通じ、同様の力を培う機会を提供する。

ウ. 課題を発見し、問題を解決する力

プロジェクトスキル形成群、情報基礎群及び基礎専門科目(数学・物理)の知識を活用して、課題発見力・問題解決力の修得を目指す。また、建築各分野全体をテーマに ICT を駆使して、CAD により図面を描き、デジタルデザイン技術により図面を実際の建物のようにリアルに描画し、3次元で BIM によりデザインした建物に様々な建物情報を与えることで、設計、施工、維持管理を最適化する技術演習を実施する。これらの授業科目を通じて、課題発見力・問題解決力のさらなる修得を目指す。

エ. 他者と協力して目的を達成する力

プロジェクトスキル形成群やスポーツ実習、実験・実習科目を通じ、他者との協働力を修得できる機会を提供する。

オ. 自らを律し、学び続ける力

プレゼミナール、卒業研究を通して、倫理観と共に主体的に新しい知識・技能を修得する機会を提供する。卒業研究には卒業論文による成果に加えて建築専攻と空間デザイン専攻において建築設計を含み、空間デザイン専攻では作品制作による成果を認めるものとする。

カ. 総合力

共通科目の人文・社会・自然群において幅広い教養を身につけるとともに、専門科目で修得した様々な内容を組み合わせ、さらに卒業研究を必修として学修することで、総合力を修得する機会を提供する。持続可能社会を実現する「人と環境に配慮した建物・まちづくり」をモットーとして、人に対しては、安全かつ快適な空間を提供し、環境に対し

ては、自然との循環型共生や省エネルギーで環境負荷の低い建築物や都市を計画、設計、施工できる建築家や建築技術者の養成を目指している。また、コンピュータを活用して、建築設計・構造・設備などの実務に携われる技術者の養成を目指す。

さらに、地域（特に京阪電気鉄道沿線）の方々と積極的に交流し、住みやすいまちづくりをめざしたアクティブラーニングを教育の一環とし、コミュニケーション能力、チームで働く能力などの社会人として必要な基礎能力（社会人基礎力）を確実に身につけさせ、社会に貢献できる人材を輩出できる教育を行い、社会で活躍できる人材の育成を目指している。

そして卒業生は、建築、構造、設備の設計や施工に携わる建築家及び建築技術者として、ゼネコン（総合建設会社）、建築設備会社、建築設計事務所、住宅メーカーや住宅関連の設備会社への就職を目指す。また、建築・まちづくりに関するプランナー、コミュニティデザイナー、行政担当者、あるいは、工業・技術分野での教育者などの進路も目指す。

[空間デザイン専攻]

ア. 専門知識・技能を修得し、実践する力

基礎専門科目、専門科目に座学と実験・実習、演習科目を配置し、人類の歴史と共に環境から身を守る安全な生活のために発展してきた建築技術と、あらゆる分野の基礎として急速に進展している情報技術に関する基礎から応用までの知識・技能を修得できる課程を編成する。空間デザイン学の導入教育としては「空間デザイン入門」に重点をおいた教育を行う。さらには、一級・二級建築士受験資格の獲得も可能となるように、建築設計、建築計画、建築環境工学・建築設備、構造力学・建築構造・建築材料、建築生産・法規についての授業科目を提供する。

イ. コミュニケーション力

共通科目に外国語群やプロジェクトスキル形成群を配置し、低年次から上位年次まで常に主体性・実行力・コミュニケーション力を修得する課程を編成する。また、スポーツ実習や実験・実習科目を通じ、同様の力を培う機会を提供する。

ウ. 課題を発見し、問題を解決する力

プロジェクトスキル形成群及び基礎専門科目(数学・物理)の知識や共通重点科目(情報)を活用して、課題発見力・問題解決力の修得を目指す。また、建築のインテリアから建物、地域、都市、その活動も含めた人の周りの空間について、視覚や形状のデザイン、熱やエネルギーなどの物理、都市計画のための情報システムなど、空間デザインというキーワードにより実社会で必要とされている技術、並びに、SDGs を実現する未来社会のキーワードである Society5.0 の中核になる IoT、スマートホームやスマートシティのための最先端の技術を学ぶことができる講義と演習を実施する。これらの授業科目を通じて、課題発見力・問題解決力のさらなる修得を目指す。

エ. 他者と協力して目的を達成する力

プロジェクトスキル形成群やスポーツ実習、実験・実習科目を通じ、他者との協働力を修得できる機会を提供する。

オ. 自らを律し、学び続ける力

プレゼミナール、卒業研究を通して、倫理観と共に主体的に新しい知識・技能を修得する機会を提供する。卒業研究には卒業論文による成果に加えて建築専攻と空間デザイン専攻において建築設計を含み、空間デザイン専攻では作品制作による成果を認めるものとする。

カ. 総合力

共通科目の人文・社会・自然群において幅広い教養を身につけるとともに、専門科目で修得した様々な内容を組み合わせ、さらに卒業研究を必修として学修することで、総合力を修得する機会を提供する。

持続可能社会を実現する「人と環境に配慮した建物・まちづくり」をモットーとして、人に対しては、安全かつ快適な空間を提供し、環境に対しては、自然との循環型共生や省エネルギーで環境負荷の低い建築物や都市を計画、設計、施工できる建築家や建築技術者の養成を目指している。また、コンピュータを活用して、建築設計・構造・設備などの実務に携われる技術者の養成を目指す。

さらに、地域（特に京阪電気鉄道沿線）の方々と積極的に交流し、住みやすいまちづくりをめざしたアクティブラーニングを教育の一環とし、コミュニケーション能力、チームで働く能力などの社会人として必要な基礎能力（社会人基礎力）を確実に身につけさせ、社会に貢献できる人材を輩出できる教育を行い、社会で活躍できる人材の育成を目指している。

そして卒業生は、建築、構造、設備の設計や施工に携わる建築家及び建築技術者として、ゼネコン（総合建設会社）、建築設備会社、建築設計事務所、住宅メーカーや住宅関連の設備会社への就職を目指す。また、建築・まちづくりに関するプランナー、コミュニティデザイナー、行政担当者、あるいは、工業・技術分野での教育者などの進路も目指す。

以上のカリキュラム・ポリシーに基づき、教育課程の編成の考え方及び特色について具体的に説明を行う。

(1) 共通科目

建築・デザイン学部建築・デザイン学科の教育課程は、全学の教育課程の体系に準じて、共通科目(人文・社会・自然群、外国語群、健康・スポーツ群、プロジェクトスキル形成群及び情報基礎群)、基礎専門科目と専門科目からなる。

共通科目は、本学の教養教育として位置づけられ、「社会人基礎力を醸成する」を目的として各科目(群)の編成を行っている。特に、プロジェクトスキル形成群は中心的な科目群であり、学部学生としての基礎的な能力の育成から社会人基礎力の醸成に至る本学の特色たる実学教育の根幹をなすものである。

① 人文・社会・自然群

人間のありようと教育の重要性、個人の自由と平等、社会において担うべき責任を理解し、公正に判断する能力を養うことや、文化・科学の成り立ちと、現代社会における様々な課題の認識を理解する。

② 外国語群

国際社会に対応できる英語能力をはじめとする外国語によるコミュニケーション能力を養うとともに、日本文化と外国文化の理解を通じ、国際感覚を高め、相互の個性を尊重し、信頼し合う精神を養う。

③ 健康・スポーツ群

生涯にわたって自ら健康を維持していくことができるための素養と、健康に関する情報が氾濫する現代社会において、科学の観点から健康に関する基礎知識を学び、自身で健康を守るための素養を身につける。

④ プロジェクトスキル形成群

社会人としての基礎力である「学び」のあり方について、まず本学、大阪電気通信大学の学生としての学びから始めて、社会人の学びや、学部・学科の卒業生としての基本的な教養、及び関連する社会情勢とその問題点に関する知識を身につける。グループディスカッションなどを行い、「自分を知る」・「大学を知る」・「社会を知る」ことから自分の将来を真剣に考え、人間形成を行う。

④ 情報基礎群

情報社会に対応できる情報活用能力を養うとともに、主体的にコンピュータを活用するためのプログラミング能力を身につけ、データサイエンスの基礎知識と適切な情報技術を活用することで実社会の多様な情報を分析するための基礎力を身につける。

(2) 専門科目

建築・デザイン学部建築・デザイン学科では、建築専攻及び空間デザイン専攻が共通して学ぶ、工学の基礎専門科目(基礎数学、「物理」群、「建築・デザイン入門」群)と、建築専攻の学生が主に学ぶ、一級・二級建築士受験資格を念頭にした科目群からなる専門科目と、空間デザイン専攻の学生が主に学ぶ、空間デザインというキーワードにより実社会で必要とされている技術、SDGsを実現する未来社会の中核になるIoT、スマートホームやスマートシティのための最先端の技術を学ぶ科目群からなる専門科目で構成している。

[建築専攻]

建築専攻に関する専門科目は、「建築設計実習」群、「建築計画」群、「建築環境」群、「建築設備」群、「建築構造」群、「建築一般構造」群、「建築材料」群、「建築生産」群、「建築法規」、「建築実務」、「データサイエンス」群、「その他」の12群からなっている。「その他」を除く各群には、さらに一級建築士の受験資格に必要となる専門分野に区分されており、分野毎に必修となる授業科目と必要な単位数が定められている。

以下、各科目群についてその目的と教育概要について述べる。

① 建築設計実習群

様々な規模、機能等を有し、人々に心の豊かさや安心安寧、社会の活性化を促進する建築や空間を自らデザインし、表現する能力を継続的な実習を通して醸成する。また、建築物等の建築工事を実施するために必要となる図面等の作成を行うことができる技能を身につける。

1年次の「建築・デザイン設計基礎実習」では、建築製図を行う上での基礎的技術を訓練し、2年次の「建築設計実習1、2」で比較的小規模で身近な建築を自らデザインしつつ、機能計画、構造等を学ぶ。これらの授業科目は建築専攻の必修とし、建築士受験資格に必要な単位数が満たされる。3年次には、「建築設計実習3、建築・デザイン総合演習」において、より規模が大きく、機能が複雑な、あるいは象徴的な建築を設計、提案する訓練を行うとともに、後期の構造設計、設備設計、補修・補強を伴うリノベーションなどの技術分野についても実習を通して学ぶ。

② 建築計画群

様々な機能を満たし、建築内とその周辺の空間のあり方等の配置に係る計画を作成する際に考慮することが必要となる人間の行動及び意識に与える作用に関することを教授する。また、住環境、都市・街並みに関する計画や環境デザインについても教授する。さらに日本や世界の伝統的建築、近現代の建築、都市の形成過程等を教授する。

2年次の「建築計画1、2」は必修であり、人間に深く関わる建築物の企画から竣工後の運用に至る全てのプロセスにおける基礎的な理論と、用途毎で異なる基本的な事項を学ぶ。同時期の建築設計実習群「建築設計実習1、2」での応用によっても確実な知識となる。建築は単独で成立するものではなく、周辺環境に影響を受け、逆に周辺に対しても影響を与える。3年次の「住環境計画」、「都市・街並み計画」、「環境デザイン論」は、建築と周辺環境について学ぶ授業科目である。また、建築は空間的存在であると同時に時間的存在として意識される。2、3年次の「建築史・都市史1～3」では、人間の歴史における建築物の係わりを日本・世界の技術進化やデザイン変遷を通して学び、4年次に配当されている「建築史実習」において、実際に、建築物を訪れ、調べ、報告することで、より確実なものとする。

③ 建築環境群

建築環境工学分野は「建築環境工学1、2」、「建築環境工学演習」の3科目からなり、建築内において人の健康等に与える影響のある光、音、空気、温度等の工学理論を教授し、PBL形式の演習を通して深く理解する。

④ 建築設備群

建築設備分野は「建築設備1、2」の2科目からなり、快適な室内環境の形成及び維持のために必要な換気、暖房・冷房等の設備、建築物の安全性を確保するために必要な消火、排煙等の設備、さらにそれらを運転するために必要な電気、ガス等の設備等について教授する。

⑤ 建築構造群

建築構造分野は「建築構造力学1～4」の4科目からなり、地震や台風、豪雪などの建築に加わる外力や建築物を形づける材料の重量、人や什器等の荷重に対して安全性を担保するために、部材応力や変形等を求める構造計算の基礎理論、耐震性能に関する構造力学を教授する。この分野では、一級建築士受験資格を得るには4単位以上が必要であり、「建築構造力学1、2」を必修とする。

⑥ 建築一般構造群

建築一般構造分野は「建築構造1～3」の3科目からなり、建築物の主たる構造形式である鉄筋コンクリート構造、鋼構造、木造の構造特性と構造設計等について教授する。この分野では、一級建築士受験資格を得るには3単位以上が必要であり、「建築構造1、2、3」が必修である。

⑦ 建築材料群

建築材料分野は「建築材料・構成概論」、「建築材料・構造実験」の2科目で構成し、建築物の構造を形成する木材、鋼材、鉄筋、コンクリート等の構造材料、建築内外装材の特性について教授する。また、構造材料や構造形態に関して実験を通して強さや変形性能などを観察させる。一級建築士受験資格を得るには2単位以上が必要であり、「建築材料・構成概論」を必修とする。

⑧ 建築生産群

建築生産分野は「建築生産1、2」、「建築経済」の3科目であり、「建築生産1、2」では総合建設業やハウジングメーカーなどにおける企画、設計プロセス、工事施工等の建築生産過程を、「建築経済」では必要経費の積算等、について教授する。一級建築士受験資格を得るには2単位以上が必要であり、「建築生産1」を必修とする。

⑨ 建築法規

建築法規は、建築基準法令や建築行政等について教授する。一級建築士受験資格には当該科目が必修である。

⑩ 建築実務

建築実務は、「建築技術者倫理」として、安全かつ安心できる建築物を提供する建築技術者となるための正しい倫理観を養えるよう、建築設計倫理、建築構造倫理、建築生産倫理の3つについて教授する。

⑪ データサイエンス群

データサイエンス分野は、「データサイエンス基礎」、「人工知能」の2科目で構成し、データサイエンス及びデータエンジニアリングの基礎並びにデータエンジニアリングデザイン能力修得のための基本的な概念と手法、応用例を教授する。

⑫ その他

建築専攻及び空間デザイン専攻において、共通の科目群である。ゼミナール、卒業研究が含まれている。2年次後期、3年次前期、後期の「建築プレゼミナール1、2、3」では、総合技術である建築をより深く捉えるために、専任教員の全ての指導のもと、アクティブラーニングによる学びを展開するとともに、4年次からの卒業研究の研究テーマに繋げるための、必要な基礎知識を復習し、関連する専門知識についても調べ、身につけていく。

[空間デザイン専攻]

空間デザイン専攻に関する専門科目は、「空間デザイン」群、「アート&デザイン」群、「機能デザイン」群、「デジタルデザイン」群、「データ指向デザイン」群、「データサイエンス」群、「その他」の7群からなっている。また、建築専攻に関する専門科目にある一級建築士の受験資格に必要な科目も修得可能となっている。

また、本学の特長としてコンピュータを活用したCADやBIMを修得できる授業科目を充実させている。以下、各科目群についてその目的と教育概要について述べる。

① 空間デザイン群

空間デザイン分野は、「空間デザイン概論」、「建築都市デザイン」、「インテリアデザイン概論」、「インテリアデザイン実践」、「ランドスケープデザイン」、「建築プロジェクトデザイン」の6科目で構成し、空間デザイン分野の基礎となる理論、具体例、法的・倫理的、数学・物理的な基礎や実践的なデザインその他、建築及び都市空間の創造に係るプロジェクト全体のデザインについて教授する。「空間デザイン概論」を必修とする。

② アート&デザイン群

アート&デザイン分野は、「基礎造形」、「空間芸術表現論」、「デッサン実習」、「デザイン概論」、「デザイン基礎演習」の5科目で構成し、デザインを学ぶ上で必要な色や形の組み合わせといった表現方法の基礎を教授し、鉛筆デッサンやコンピュータを使用して深く理解する。「基礎造形」、「デッサン実習」を必修とする。

③ 機能デザイン群

機能デザイン分野は、「自然災害論」、「都市環境の設備1」、「都市環境の設備2」、「住環境設備実験」、「空間環境デザイン1」、「空間環境デザイン2」、「構造デザイン総論」の7科目で構成し、住宅やビルの建築設備の仕組みや管理・保全に必要な知識と技術の他、建築基準法、建築物衛生法などに基づいた設備設計や施工の方法論を教授する。なお、本分野のうち、「都市環境の設備1」、「都市環境の設備2」、「住環境設備実験」、「空間環境デザイン1」、「空間環境デザイン2」は、建築士受験における建築環境工学の一部について学ぶ授業科目である。

④ デジタルデザイン群

デジタルデザイン分野は、「デジタル空間の表現」、「コンピュータ製図実習」、「コンピューテーショナルデザイン」、「サイバー空間創成」、「行動シミュレーション」、「Building Information Modeling」の6科目で構成し、CGによるパースやアニメーション、イラストレーション、写真や動画メディアなど、デジタルによる様々な表現手法を学ぶ他、3次元CAD・BIMシステムの実用的な操作方法を教授する。

⑤ データ指向デザイン群

データ指向デザイン分野は、「空間表現の情報技術」、「社会データ分析」、「空間シミュレーション」、「建築空間DX」、「都市空間DX」、「構造シミュレーション」、「空間情報数理」の7科目で構成し、3Dデータの取り扱いや空間統計データの分析手法を学修する他、建築設備や建築構造を各ソフトウェアツールを使用して直感的に学び、基礎技術を教授する。

⑥ データサイエンス群

データサイエンス分野は、「データサイエンス基礎」、「人工知能」の2科目で構成し、データサイエンス及びデータエンジニアリングの基礎並びにデータエンジニアリングデザイン能力修得のための基本的な概念と手法、応用例を教授する。

⑦ その他

建築専攻及び空間デザイン専攻において、共通の科目群である。ゼミナール、卒業研究が含まれている。2年次後期、3年次前期、後期の「建築プレゼミナール1、2、3」では、総合技術である建築をより深く捉えるために、専任教員の全ての指導のもと、アクティブラーニングによる学びを展開するとともに、4年次からの卒業研究の研究テーマに繋げるための、必要な基礎知識を復習し、関連する専門知識についても調べ、身につけていく。

5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(1) 授業の方法

本学の各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じて、当該授業における教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

講義、演習については授業15時間、授業外30時間の学修をもって1単位とする。

実験、実習については授業30時間、授業外15時間の学修をもって1単位とする。

ただし、卒業研究については、学修の成果を評価して単位を授与する。

建築・デザイン学部建築・デザイン学科における授業方法は、教育内容に応じて、適宜、講義形式、演習形式、実験形式、実習形式をとる。各分野の知識と理解を目的とする科目については、講義形式を中心とした授業形態をとるが、知識や理論を応用する能力を身につけることを目的とする科目については、演習による授業形態をとることとする。さらには、現象の理解や理論を検証することを目的とする科目については、実験形式を中心とした授業形態をとる。また、図面等による建築の表現能力を養うことを目的とする科目については、実習形式を中心とした授業形態をとる。現地調査、文献調査等を伴う科目についても、実習形式とする。

(2) 学生数の設定

授業の内容に応じた学生数の設定については、授業科目ごとの授業形態に則した教育目的を効果的かつ確実に達成するために、工学の基礎となる「英語」及び「数学」の科目において、クラス分割を行い、実施する。専門教育科目については、受講予定者の状況に応じて、教育効果上必要があれば、クラス分割を行い、実施する。

また、「実験」、「実習」、「演習」及び「製図」の各授業形式を中心に、必要に応じて大学院生のティーチングアシスタント(TA)又は学部4年次生のスチューデントアシスタント(SA)を適切に配置し、教育効果を向上させる。

(3) 配当年次

配当年次は、基礎専門科目から専門科目へと体系的な学修が可能となるようにするとともに、専門教育においても、専門分野ごとに、例えば、建築設計実習1、建築設計実習2、建築設計実習3などと履修の順位を明確にして、4年間で計画的に履修できるように配慮した配当となっている。

(4) 履修科目の登録上限

単位制度の実質化の観点を踏まえ、学生の主体的な学修を促し、教室における授業と教室外の学修を合わせた充実した授業を展開することにより学修効果を高めるために、1年間に履修科目として受講の届出を行うことができる単位数の上限は、各年次とも44単位とする。

ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者が、履修指導により認められた場合は、この限りではない。また、卒業設計・研究の「認定」科目についてはそれらの制限から除外することとする。

(5) 成績評価

成績の評価は、A（優）、B（良）、C（可）、D（不可）及びG（合格）をもって表し、C（可）以上もしくはGを合格とする。成績判定の方法は、各授業科目において試験、又は課題提出を実施し、その結果により判定する。各授業科目の成績評価基準はシラバスにおいて明示する。また、厳格な成績評価により、学修成果の質を確保するために、GPA(Grade Point Average)制度を導入する。

(6) 履修指導方法

建築・デザイン学部建築・デザイン学科における履修指導方法は、1、2、3年次では、約10人の学生それぞれに対してグループ担任制度を設けて、きめ細やかな教育指導を行う。さらには、学生に対して、オフィスアワーを利用して教員が相談に応じる時間を設けて教育指導を行う。また、前期開始前に、学年別の履修ガイダンスを実施したうえで、学生の適性や能力に応じて、学生の履修科目の選択に関する個別の履修相談に応じるなど、履修指導体制を整備する。また、特定の学期における偏りのある履修登録を避け、学生が学修目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるような指導や、養成する具体的な人材像、また学生個人のキャリアデザインに対応した「履修モデル」を提示し指導する。

特に、一級建築士試験の資格取得については、専攻に関わらず多くの学生が志望すると予想できるので、いずれの専攻でも、必修科目と建築士試験に関する推奨科目を履修モデルに沿って単位取得すれば、一級建築士の受験資格を得られるようにしている。

[資料2:履修モデル]

(7) 卒業要件

建築・デザイン学部建築・デザイン学科における卒業要件は、学部に4年以上在学し体系的な授業科目の履修により、124単位以上を修得することとする。共通科目では、「人文・社会・自然群」中の選択科目8単位以上、「外国語群」中の「英語」より4単位以上、「健康・スポーツ群」は、1単位以上、「プロジェクトスキル群」は、3単位以上、「情報基礎

群」は、必修科目2単位を含み2単位以上、各群をあわせて24単位以上36単位までを修得する。

基礎専門科目では、「基礎専門科目」は、4単位以上11単位までを修得する。

専門科目においては、建築専攻及び空間デザイン専攻に共通の、必修科目（「卒業研究」を含む。）20単位を含み、77単位以上96単位までを卒業要件としている。

さらに、各専攻それぞれの養成する人材像に則するため専攻独自の必修科目を共通の必修科目20単位は別に、次のように定めている。

建築専攻においては、建築士資格取得に則した必選を定めており、「建築設計実習2」、「建築計画1」、「建築計画2」、「建築環境工学1」、「建築設備1」、「建築構造力学1」、「建築構造力学2」、「建築構造1」、「建築構造2」、「建築構造3」、「建築材料・構成概論」、「建築生産1」、「建築法規」、「建築技術者倫理」の14科目30単位を必修としている。また、「卒業研究」の選択必修科目8単位を修得する。

空間デザイン専攻においては、「空間デザイン概論」、「基礎造形」、「デッサン実習」の3科目6単位を必修としている。また、「卒業研究」の選択必修科目8単位を修得する。

各科目区分で、専攻共通の必修科目及び専攻ごとの必修科目を含み、合計124単位以上を修得することが卒業要件となる。

6. 企業実習（インターンシップを含む。）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

（1）選択科目「インターンシップ」

① 目的

本科目は、技術者教育における体験学習の重要性を踏まえたもので、基礎専門科目や建築学の知識を基盤として、企業における実習体験（研究・開発・製造・販売・補修等）を通じ、社会における建築学分野の位置付けや将来性をより深く認識する機会を与える。企業での就業体験により、現象を認識して知識として体系化するプロセスを修得することで、高い倫理観を持った技術者育成を実現することを目指す。また、企業への就職に対する心構えや準備をより具体的に進めることで、企業とのミスマッチの防止や職業意識・職業観の育成、あるいは課題探究能力育成や専門技術の向上等、より一層実践的な力を高めることを目的に実施している。

② 実施及び運営

3年次生を対象とし、コンソーシアム大阪で実施するプログラムを活用した運用とする。

3年次通年集中の「インターンシップ」を履修し、かつ、担当教員との面接などの活動を行うことにより、企業で働くとはどのようなことかを自覚し、よく考える。また、企業での実習に対しての心構えや、社会常識等を十分に学んだ上で、夏期休暇等を利用して、企業での実習を行う。実習前には事前研修を行う。実習後も報告書の作成、学内での報告

会への参加等の活動が必要である。

③ 単位認定

単位認定評価基準を満たした者は、共通科目の選択科目「インターンシップ」として単位認定を行う。

④ 実習期間

原則夏期休業中の2～3週間程度（実習日10日以上）

⑤ 実習先の確保の状況

添付の資料のとおり。

本学科からの紹介企業も含め就職部からコンソーシアム大阪に情報を共有し、認定されればインターンシップ先企業として登録されるため、今後もインターンシップ先の企業を拡大するため各企業と協議を続けている。

[資料3 インターンシップ 受入企業]

⑥ 実習先との連携体制

ア. 大学から企業へコンソーシアム大阪が実施する「就業体験型インターンシップ」の案内を行い、ご協力いただける企業に対し、コンソーシアム大阪と連携しプログラムの説明を行う。

イ. 学生は、出願票により企業へのエントリーを行い、コンソーシアム大阪にて面接による選考を受ける。

ウ. 選考通過後、実習の日程を調整し、コンソーシアム大阪にて事前研修を受ける。

エ. 実習企業の確定後、企業・大学コンソーシアム大阪・大学で3者協定を締結する。

オ. 学生は実習中、実習日誌を企業の研修担当者に提出する。終了後は研修担当者からの評価を受け、「実習日誌・評価票」をコンソーシアム大阪を経由して、大学に提出する。

カ. 全体終了後、コンソーシアム大阪にて事後研修を受けるとともに、学科単位での事後研修も行う。

⑦ 成績評価体制及び単位認定方法

インターンシップの成績担当教員が単位認定の条件（実習期間原則実質10日間以上、事前・事後研修の参加、実習日誌の提出）を満たしていることの確認を行い、該当者の成績報告書を学務部に提出する。単位は「インターンシップ」2単位として認定する。

(2) 選択科目「グローバル研修」

① 目的

国際交流センターで管轄する派遣留学制度などにより、異文化を理解することにより国際的な視野を持ち、海外で活躍できる技術者を育成する。

② 研修先の確保の状況及び運営等

国際交流センターで対象プログラムを決定する。

内容としては1ヶ月未満の短期留学もしくはインターネットを利用した交流プログラムなどが対象となる。

時期的には授業期間外に実施されることが多いが、国際情勢や感染症対策など、状況に応じて変更されることがあり、最新情報や詳細については国際交流センターにて管理運営している。

③ 研修先との連携体制

学生が研修するに際し、国際交流センターを通じ、申込みを行う。国際交流センターは、実施に先立ち研修関係機関に対し、直接、日程の設定、研修内容及び実施体制の確認を行う。研修終了後、研修関係機関から研修修了の報告を受ける。

④ 成績評価体制及び単位認定方法

学生は、帰国後の報告会で研修の報告を行う。

グローバル研修の成績担当教員が単位認定の条件を満たしていることの確認を行い、該当者の成績報告書を学務部に提出する。単位は「グローバル研修」2単位として認定する。

(3) キャリア教育群 選択科目「グローバル研修（英語）」

① 目的

短期語学文化研修のプログラムに参加することによって、単に英語の技能を磨くのみならず、その国に暮らす人びとに接し、歴史や文化、社会への理解を深め、多様な視点を内面化していくことによって、グローバルな視座を獲得する。このような経験を通して、海外で活躍できる技術者としての資質を身につける。

② 実習先の確保の状況及び運営等

留学先	内容	期間
ブリティッシュコロンビア大学（カナダ）の English Language Institute が実施する English for the Global Citizen プログラム	ホームステイを通して、カナダの人びととの交流を深め、カナダの歴史や文化、社会について学ぶ。また語学の授業に出席し、英語力を高める。	例年2月下旬から3月下旬にかけて実施（4週間プログラム）

③ 実習先との連携体制

国際交流センターが、語学文化研修に関する業務の委託先を介して、ブリティッシュコロンビア大学の語学研修機関 English Language Institute と連携を図りながら、日程などの実施体制に加え、当該科目の目的などに照らし実習内容の確認を行う。

④ 成績評価体制及び単位認定方法

当該科目の成績評価については、成績担当である英語教育研究センターが、事前に実施される英語特別セミナーの参加態度や実習中の学修内容を検討した上で、事後に課すレポ

ートなどの課題を評価することによって、単位認定の条件を満たしているかどうかの判定を行う。

7. 取得可能な資格

(1) 一級建築士

ア 国家資格、イ 受験資格

ウ 卒業要件単位に含まれる科目の修得で受験資格取得可能であるが、受験資格取得が卒業の必須要件ではない。

(2) 二級建築士

ア 国家資格、イ 受験資格

ウ 卒業要件単位に含まれる科目の修得で受験資格取得可能であるが、受験資格取得が卒業の必須要件ではない。

(3) 木造建築士

ア 国家資格、イ 受験資格

ウ 卒業要件単位に含まれる科目の修得で受験資格取得可能であるが、受験資格取得が卒業の必須要件ではない。

8. 入学者選抜の概要

(1) アドミッション・ポリシー

建築・デザイン学部（建築専攻と空間デザイン専攻）は、すべての人々が安全で快適に生活できる社会を支える都市と建築、インテリアにいたる幅広いスケールの実空間や、デジタル技術により構築された情報空間など、現実と仮想を問わない人間を取り巻くあらゆる空間の設計・造形と構築に関する知識と技術を講義する実学教育を通じて、学生の人的成長を支援し、広く社会および産業界で活躍でき、持続可能な社会の発展に貢献することができる専門的人材を育成することを目的としている。

そのような人材を育成するにあたり、各専攻ごとに次のような知識・意欲・情熱を持った入学者を求める。

[建築専攻]

(知識・技能)

- ① 高等学校までの履修教科のうち理科、工業化系科目を学び、自然の事物・現象や産業技術について科学的・工学的に探求する能力を身に付けている者。
- ② 高等学校までの履修教科のうち数学を学び、事象を数学的に考察し表現できる能力を身に付けている者。
- ③ 高等学校までの履修教科のうち情報を学び、情報や情報技術に関する科学的・工学的な見方や考え方を身に付けている者。

④ 高等学校までの履修教科のうち外国語(英語)を学び、基本的なコミュニケーションに必要な知識技能を身に付けている者。

(思考力・判断力・表現力)

⑤ これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる者、または取り組む意欲がある者。

(主体性・多様性・協調性)

⑥ 建築の専門知識や技能を学びたいと強く望み、主体的に学ぶことができる者。

⑦ 建物やまちづくりについて、人々と積極的に交流しながら、取り組むことができる者。

⑧ 建築技術者を目指して、真剣に取り組むことができる者。

[空間デザイン専攻]

(知識・技能)

① 高等学校までの履修教科のうち理科または工業化系科目を学び、自然の事物・現象や産業技術について科学的・工学的に探求する能力を身に付けている者。

② 高等学校までの履修教科のうち国語または数学を学び、事象を言語や記号によって論理的に考察し表現できる能力を身に付けている者。

③ 高等学校までの履修教科のうち情報を学び、情報や情報技術に関する科学的・工学的あるいは社会的な見方や考え方を身に付けている者。

④ 高等学校までの履修教科のうち外国語(英語)を学び、基本的なコミュニケーションに必要な知識技能を身に付けている者。

(思考力・判断力・表現力)

⑤ これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる者、または取り組む意欲がある者。

(主体性・多様性・協調性)

⑥ 空間デザインの専門知識や技能を学びたいと強く望み、主体的に学ぶことができる者。

⑦ 現実の都市や建築、データによる情報空間など様々な空間デザインについて人々と積極的に交流しながら、取り組むことができる者。

⑧ 空間デザインの専門技術者を目指して、真剣に取り組むことができる者。

(2) 入学者選抜方法・体制

選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿い、建築・デザイン学部(建築専攻と空間デザイン専攻)の教育を受けるにふさわしい能力・意欲・適性などを多面的・総合的に判定し公正かつ妥当な方法で入学者を選抜するため、主に以下の選抜制度を専攻ごとに実施する。

① 【一般選抜】一般入学試験[募集人員 47名 約31%]

本学独自の学力試験により選抜を行う。理系型・文系型での試験科目を設定しており、

高得点重視型、高得点採用型及び均等配点型などの多様な判定方式を設けることで、幅広い対象からアドミッション・ポリシーに定める(知識・技能)、(思考力・判断力・表現力)、(主体性・多様性・協調性)を持った優秀な人材を選抜することを目的とする。

◇学力試験の内容

・前期

理系型		文系型	
外国語（英語）	（配点 100）	外国語（英語）	（配点 100）
数学	（配点 150）	国語	（配点 150）
理科（物理、化学、生物より選択）	（配点 100）		

高得点重視型	外国語又は理科の高得点教科を 150 点に換算し、判定
高得点採用型	外国語又は理科の高得点教科と数学の合計点で判定
均等配点型	外国語の得点を 150 点に換算し、判定

・中期

理系型		文系型	
外国語（英語）	（配点 100）	外国語（英語）	（配点 100）
数学	（配点 150）	国語	（配点 150）
理科（物理、化学、生物より選択）	（配点 100）		

・後期

理系型		文系型	
外国語（英語）	（配点 100）	外国語（英語）	（配点 100）
数学	（配点 150）	国語	（配点 150）

② 【一般選抜】一般入学試験（大学入学共通テストを利用した入学試験）

[募集人員 11 名 約 8%]

大学入学共通テストの成績により選抜を行う。本学独自の学力試験を行わないことで、受験生の負担を軽減し、建築・デザイン学部での学びに関心を持つ者に受験の門戸を広げ、広範な地域からよりアドミッション・ポリシーに定める(知識・技能)、(思考力・判断力・表現力)、(主体性・多様性・協調性)を持った優秀な人材を選抜することを目的とする。

◇指定科目

数 学	「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」から1科目 及び「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」から1科目
-----	--

外国語	「英語（リスニングを含む）」
理 科	「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」から2科目 又は「物理」「化学」「生物」から1科目の高得点採用

・前期

理系型		文系型	
数学	(配点 150)	国語	(配点 150)
外国語	(配点 100)	外国語	(配点 150)
理科	(配点 100)		

・後期

理系型		文系型	
数学	(配点 200)	国語	(配点 150)
外国語	(配点 100)	外国語	(配点 150)

③ 【総合型選抜】AO入学試験〔募集人員19名 約13%〕

建築・デザイン学部の教育内容に強い関心を持ち、学びに対して意欲的で探究心旺盛な者を対象とし、通常の学力試験では評価できない、やる気や適性（センス）を高く評価する。具体的には、調査書等で一定の学力を確認するとともに、建築・デザインに対する関心度を課題小論文（思考や問題解決力）や保有する資格（自己研鑽）、面接（人物像）などにより多面的に評価し、総合的な観点から建築・デザイン学部での学びを熱望し、アドミッション・ポリシーに定める（知識・技能）、（思考力・判断力・表現力）、（主体性・多様性・協調性）を持った人材を選抜することを目的とする。

④ 【学校推薦型選抜】公募推薦入学試験〔募集人員41名 約27%〕

高校での学習成績・人物が優秀で、出身高等学校長が推薦する者を対象とし、適性検査の結果に加え、調査書の内容や各種資格取得の有無など、総合的な観点から人物を評価することで、アドミッション・ポリシーに定める（知識・技能）、（思考力・判断力・表現力）、（主体性・多様性・協調性）を持った優秀な人材を確保することを目的とする。

◇適性検査の内容

・前期

理系型		文系型	
数学の素養	(配点 150)	国語の素養	(配点 150)
外国語（英語）の素養	(配点 100)	外国語（英語）の素養	(配点 100)

・後期

理系型		文系型	
数学の素養	(配点 150)	国語の素養	(配点 150)

外国語（英語）の素養（配点 100）	外国語（英語）の素養（配点 100）
--------------------	--------------------

⑤ 【学校推薦型選抜】指定校推薦入試〔募集人員 39名 約 17%〕

本学が指定する学校の学校長が推薦する学業・人物ともに特に優秀な者について、出願書類による審査及び面接により総合的に評価し、アドミッション・ポリシーに定める(知識・技能)、(思考力・判断力・表現力)、(主体性・多様性・協調性)を持った優秀な人材を確保することを目的とする。

⑥ 【学校推薦型選抜】専門学科・総合学科特別推薦入学試験〔募集人員 6名 約 4%〕

適性検査の1科目の結果に加え、調査書の内容を積極的に評価し、専門高校及び総合高校で培った専門性や多様性に優れ、アドミッション・ポリシーに定める(知識・技能)、(思考力・判断力・表現力)、(主体性・多様性・協調性)を持った人材を選抜することを目的とする。

◇適性検査の内容

数学の素養	出願時に選択（配点 150）
国語の素養	
外国語（英語）の素養	

⑦ 帰国生徒入学試験〔若干名〕

外国での学校教育を2年以上受けた者を対象とし、学力試験と面接により総合的に評価し、海外での貴重な経験を活かし国際的に活躍したいとする意欲があり、アドミッション・ポリシーに定める(知識・技能)、(思考力・判断力・表現力)、(主体性・多様性・協調性)を持った人材を選抜することを目的とする。

◇学力試験の内容

理系型		文系型	
数学（配点 150）		国語（配点 150）	
外国語（英語）（配点 100）		外国語（英語）（配点 100）	

⑧ 社会人入学試験〔若干名〕

2年以上の就業経験を有する者を対象とし、建築・デザイン学部での学びに関する口頭試問と書類審査により総合的に評価し、自らの教養を高めたいとする意欲があり、アドミッション・ポリシーに定める(知識・技能)、(思考力・判断力・表現力)、(主体性・多様性・協調性)を持った人材を選抜することを目的とする。

⑨ 外国人留学生入学試験〔若干名〕

外国籍を有する者を対象とし、学力試験と面接により総合的に評価し、本学への留学経験を活かし日本や自国あるいは国際的に活躍したいとする意欲があり、アドミッション・

ポリシーに定める(知識・技能)、(思考力・判断力・表現力)、(主体性・多様性・協調性)を持った人材を選抜することを目的とする。

◇学力試験の内容

・Ⅰ期

理系型		文系型	
数学	(配点 150)	国語	(配点 150)
外国語(英語)	(配点 100)	外国語(英語)	(配点 100)

・Ⅱ期

理系型		文系型	
外国語(英語)	(配点 100)	外国語(英語)	(配点 100)
数学	(配点 150)	国語	(配点 150)
理科(物理、化学、生物より選択)	(配点 100)		

9. 教員組織の編成の考え方及び特色

建築・デザイン学部建築・デザイン学科は教授9名、准教授6名、講師1名の合計16名の専任教員で教員組織を構成する。教育課程の特色で述べた各専攻の教育方針に沿った専門の教員を配置する。

主に建築専攻の授業科目を担当する教員は8名で教授5名、准教授3名で、建築士受験資格群の構成に対応した教員配置とすることとし、建築士受験資格における分野である、建築設計製図、建築計画、建築環境工学、建築設備、構造力学、建築一般構造、建築材料、建築生産において、一級建築士資格を有する教員や大手総合建設会社において工務担当者として従事し、関連する施工管理技士資格を有している教員も配置しており、教育・研究だけでなく実務に携わってきた教員を配置している。さらに、これからの建築生産プロセス及びライフサイクルの管理に不可欠となるBIM技術を教育研究する教員も配置している。

主に空間デザイン専攻の授業科目を担当する教員も8名で、教授5名、准教授2名、講師1名となっている。都市・建築・インテリアなど、人間を取り巻くあらゆる空間のデザインを学ぶ、空間デザイン、アート&デザイン及び機能デザインの区分においては、建築事務所において第一線で活躍しながら教育にも携わってきている者や建築環境工学、熱工学、流体工学の研究者を配置し、デジタルデザイン、データ志向デザイン及びデータサイエンスの区分においては、現実空間だけでなく仮想空間までデザインするための、情報技術(VR、AR)の研究者を配置している。また、非常勤教員が担当する科目においては、それぞれの科目群の専任教員が責任を持ち、教育の質を管理する。

なお、2、3年次の「建築・デザインプレゼミナール1、2、3」及び4年次の「卒業研究」は専任教員全員で担当することを原則とし、少人数教育できめ細かな指導を行う。また、必修科目は、必ず専任教員が担当することとしている。

教員の年齢構成は、60代4名、50代9名、40代2名、30代1名である。既設工学建築学科を基礎にしているため、完成年度までに定年となる者が3名いるが、いずれも後任に50代の者を迎えることにしており、申請時の教員構成を完成年度以降も維持できる充実安定した教育研究の実施体制となっている。また建築実務者（建設会社、建築設計事務所）6名、一級建築士が、完成年度では全体の約3分の2にあたる10名（開設時9名）、大学研究者は6名であり、博士学位保有者が8名おり、実践面、研究面の両面に配慮した構成としている。

なお、教員の定年については、定年規則に定められており、教授は68歳、准教授及び講師は65歳である。

[資料4：学校法人大阪電気通信大学定年規則]

10. 研究の実施についての考え方、体制、取組

安全で快適に生活できる社会を支える都市と建築、インテリアにいたる幅広いスケールの実空間とインターネット上に広がる仮想的な自由な表現を可能とするデジタル空間も対象としているため、教員の研究分野は多彩である。

建築物の安全性に関わる、建築骨組の最適設計理論及び木造建物の耐震性能評価や、建築制震構造システムの研究や、建築生産プロセスおよびライフサイクルの管理に不可欠となるBIM技術を研究、今後の建築に不可欠なユニバーサルアクセスの研究等の研究分野がある。さらに、建築をとりまく空間に関する研究の実施に関しては、住民と連携した実践を通じた研究を行っており、概念的建築ではなく、建築物と周辺環境との関係に配慮できる研究を展開する。

情報技術等に関する研究に関しては、CADや3DCGに関する研究から仮想空間をデザインするVRやARに関する研究まで展開しており、人間を取り巻く空間をデザインする多面的な建築や製図だけでなく、デジタル技術を駆使するための研究を展開する。

研究・教育の成果を社会還元する専門部署として、研究連携推進センターを設置しており、新しい科学・技術の可能性を発掘し、これを推進していくためのさまざまな取り組みを行っている。

特に研究連携を推進するために、産学官連携コーディネーターを配置しており、本学教員の研究分野や外部資金獲得状況の把握をするとともに、学内研究シーズの発信をすることで、研究連携を進めている。また、国内外の研究動向等の情報収集や科研費や競争的資金等の獲得支援も行っている。

11. 施設、設備等の整備計画

(1) 校地、運動場の整備計画

本学は、大阪府の東北部、淀川沿いの寝屋川市に「寝屋川キャンパス」を設置し、寝屋川市に隣接する関西文化学術研究都市のエントランスゾーンに位置する四條畷市清滝に「四條畷キャンパス」がある。

校地面積については、寝屋川キャンパス 42,188.77 m²、四條畷キャンパス 78,834.00 m²、その他（グラウンド）170,309.72 m²、合計 291,332.49 m²となり大学設置基準を満たしている。

寝屋川キャンパスにおいては、既設の工学部6学科（電気電子工学科、電子機械工学科、機械工学科、基礎理工学科、環境科学科、建築学科）及び情報通信工学部2学科（情報工学科、通信工学科）が教育研究を行っており、この度の建築・デザイン学部建築・デザイン学科については、既設の工学部環境科学科及び建築学科の募集を停止した代わりに設置するので、引き続き寝屋川キャンパスで教育研究を行う。なお、他のキャンパスでの状況については、四條畷キャンパスでは、医療健康科学部3学科（医療科学科、理学療法学科、健康スポーツ科学科）及び総合情報学部3学科（デジタルゲーム学科、ゲーム&メディア学科、情報学科）が教育研究を行っている。

本学は、開学以来、工学部は寝屋川キャンパスにおいて教育研究を行っており、同キャンパスの教育研究環境の整備と充実にこれまで取り組み続けてきている。これにより本学開学時に設置された工学部については、講義室、実験・演習室、研究室などの各教室と運動場などの基本的な教育研究の設備環境は十分に整備されており、まだ十分な余裕を持っている。この度の建築・デザイン学部建築・デザイン学科については、既設の工学部環境科学科及び建築学科の募集を停止した代わりに設置するので、既存の校地、講義室、実験・演習室、研究室などの各教室と運動場などを活用することとしている。

(2) 校舎等施設の整備計画

建築・デザイン学部建築・デザイン学科教員の研究室は、現在、空いているA号館 OECU イノベーションスクエア2階にある教員室を利用する。

寝屋川キャンパスにおける講義全般については、主にJ号館（延べ床面積 15,281.01 m²）の3階から5階が使用されており、教室数は、90.43 m²から 271.29 m²までの大小 28 教室がある。この度設置する建築・デザイン学部建築・デザイン学科も、これらの教室を使用し、既存の工学部及び情報通信工学部の2学部の共同利用としても十分な広さがある。実験・実習室については、A号館、K号館及びY号館にある部屋を他の学部学科と共同で使用する。既存の工学部及び情報通信工学部の各学科で各種実験が行われているが、既に整備されている設備で実験は可能である。

建築・デザイン学部建築・デザイン学科として、既存の学科で使用しているK号館2階の

製図室2室を共同で使用する。また、仮想空間までデザインするため情報技術（CG、VR、AR）の教育については、本学メディアコミュニケーションセンターが管理する共同利用のコンピュータ演習室（J号館6階及び7階）を使用する。その他、材料の強度を計測するための万能試験機については、工学部建築学科設置に伴い整備した構造実験棟を使用する。

この度の建築・デザイン学部建築・デザイン学科の開設にあたっては、3DCADを用いた製図技術及び建設関連企業で導入が進むBIMやデジタルツインなどの先進技術の知識や活用スキルを養成する場として、新たに「BIMスタジオ」を整備する。また、学生が建築や空間をデザインするための創作の場として、既存のアトリエを充実整備する。

大学全体の校舎敷地面積については、寝屋川キャンパス 42,188.77 m²、四條畷キャンパス 78,834.00 m²、合計 121,022.77 m²となり大学設置基準を上回っている。

以上のように本学における校舎や教育施設については、この度、設置する建築・デザイン学部建築・デザイン学科及び他学部学科も含めた学生が時間・空間的に余裕を持って利用できるよう整備している。建築・デザイン学科の時間割案を資料として示す。

[資料5： 建築・デザイン学部建築・デザイン学科時間割案]

(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

本学は、工学を中心とする教育研究を柱として、理工系図書を中心に約283,000冊の図書と約3,800種の雑誌資料を有する図書館を設置している。情報社会に対応して、情報検索システムの構築及びオンライン化や学術雑誌の電子ジャーナル化など、環境、設備の充実に努めている。特に情報検索システムについては、「JDreamⅢ」、「MathSciNet」及び「Building Types Online」を利用し的確な情報収集体制を構築している。

図書館は、寝屋川キャンパス及び四條畷キャンパスに設置している。各キャンパスにおいて設置学部が異っており、寝屋川キャンパスの本館は工学・情報通信・建築・ソフトウェア分野、四條畷館は医療系、生物学、スポーツ科学、ソフトウェア分野を重点的に収書している。建築・デザイン学部建築・デザイン学科は、寝屋川キャンパスを本拠とするため本館を主に利用することが想定される。

本館には、個人デスクを含む閲覧席を約250席設置しており、自習スペースは十分にあり、ここで自習に励む学生が多い。また、学内LANに接続するための無線LANを整備しており、個人パソコンを持ち込んでの使用が可能だけでなく、タブレット端末、スマートフォン等をWi-Fi接続して利用することができる。その他、DVD等の視聴覚資料が館内で視聴ができるよう、6席の視聴専用ブースも確保している。図書、視聴覚資料ともに所蔵がないものについては、学生の要望を受け付けており、学生一人ひとりのニーズに答えている。

本学は工学・理学関係の学科を運営しているため、図書館にはすでに建築に関しても構造・力学・設計・数学・物理・芸術など関連する分野の書籍は十分に保有しているが、建築・デザイン学部の教育と研究に直接関係する資料を既存・新規を合わせて整理したところ、芸術、

デザイン、建築に関連が深い物理・数学と情報技術に関連する学術研究用の雑誌は 60 誌以上を数える。

建築学会の構造、計画、環境系の論文報告集、日本構造協会の鋼構造論文集、日本都市計画学会の都市計画論文集、学会建築史学会の建築史学等の和雑誌、洋雑誌については、Journal of Architectural Education、Journal of Asian Architecture and Building Engineering、Journal of Engineering Mechanics 等を含み、電子ジャーナルとしても Journal of Building Pathology and Rehabilitation、Journal of Housing and the Built Environment、AI & SOCIETY、AI and Ethics、Augmented Human Research、International Journal of Civil Engineering などが関連する。

そのほか幅広い研究・教育の資料として役立つような雑誌を商用誌も含めて列挙すると、アイデア、イラストレーション、a+u、応用物理、芸術新潮、建築技術、建築知識、GA JAPAN、CG world & digital video、住宅特集、新建築、ディテール、日経アーキテクチュア、日経 ESG、日経コンピュータ、日経ソフトウェア、日経パソコン、美術手帖：BT、文化財、Applied Physics Letters、Journal of Applied Physics、Math SciNet、BUILDING TYPES ONLINE、Applied Physics Express、Japanese Journal of Applied Physics、Environmental Science & Technology、Environmental Science & Technology Letters、Industrial & Engineering Chemistry Research、The Journal of Physical Chemistry{A, B, C}、ACS Environmental Au、ACS Physical Chemistry Au、Physical Review {B, E, X, Applied, Fluids, Letters, Materials, Modern Physics, Special Topics}、PRX Energy、PRX Quantum、Algorithmica、Applied Physics A、Autonomous Robots、Communications in Mathematical Physics、Machine Learning、Quality of Life Research などを契約し準備している。

図書館では、特筆すべき 3 つの学生支援策を講じている。

第 1 は、平成 24 年からの取り組みで英語教育センターと連携して英語の習熟度に応じたレベルの本をたくさん読むこと（多読、リーディングシャワー）によって英語に慣れ親しみ、理解力の向上を目指している。多読授業を開始してから年々図書館利用者が増えており、多読図書の所蔵も増えている。

第 2 は、カリキュラム上の各教育科目において指定された教科書、参考書を各館にてそれぞれ配架し、学生の図書館利用と学修の便宜向上を図っている。

第 3 は、学生のプレゼンテーション力を養う言語活動—ビブリオバトル。この取り組みに参加したことで学会発表や就職活動に役立ったという学生の声が多く寄せられている。また、ビブリオバトルは国際交流センターとのコラボレーション企画でも年 2 回行っており、留学生の日本語能力の向上に貢献している。また、留学生同士のつながりや日本人学生との交流を深めるイベントにもなっている。

このように図書館を単なる「知識の宝庫」として受動的に整備するだけでなく学内の教員、学生、各部課室と連携して、図書館のより効率的な利用を目指して積極的に取り組んでいる。

12. 管理運営及び事務組織

(1) 運営会議

大学全体に係る教育及び研究に関する最高審議機関として、全学教授会に代わるものとして、平成 27 年度より設置している。構成員は、学長、副学長、各学部長、共通教育機構長、各研究科長、学務部長、学務部事務部長、就職部長、入試部長及び大学事務局長であり、必要に応じて学長が招集して議長となる。また、構成員は、審議内容に応じて、教育開発推進センター長、図書館長、メディアコミュニケーションセンター長が出席している。

運営会議は、(1)教育の基本方針及び教育編成並びに大学の将来計画に関する事項、(2)教育研究予算の編成方針に関する事項、(3)学生の入学、卒業及び課程の修了その他学生の身分の取扱いに関する事項、(4)学位の授与の基本に関する事項、(5)学生の懲戒の決定に関する事項、(6)教員人事の方針、選考基準及び最終選考に関する事項、(7)学部長、共通機構長及び研究科長の選考に関する事項、(8)学則その他の重要な規則の制定改廃に関する事項、(9)自己点検及び外部評価に関する事項、(10)学部及び大学院その他の機関相互の連絡・調整に関する事項、(11)理事会から付議又は諮問された事項及び学部教授会又は大学院研究科委員会から提起された事項、(12)その他大学の運営に関する重要事項、について審議する。

さらに、学部及び大学院に渉る全学的事項について意見を集約し、学長の意思決定の円滑化を図っている。運営会議での審議後は、以下の組織での意見参酌又は、報告を行っている。

(2) 学部教授会及び主任会

学部教授会は各学部に所属する専任教員で組織し、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べる。

- ① 学生の入学、卒業及び課程の修了
- ② 学位の授与
- ③ その他教育研究に関する重要事項で教授会の意見を聴くものとして学長が定める次の事項
 - ア. 教育課程に関する事項
 - イ. 学生の身分の取扱いに関する事項
 - ウ. 学生の学修指導及び評価に関する事項
 - エ. 学生の厚生補導、賞罰に関する事項
 - オ. 教育の改善及び研究に関する事項
 - カ. 教員の人事選考に関する事項
 - キ. 学部長の選考に関する事項
 - ク. 学部に関する学則及び規則に関する事項
 - ケ. 主任会から提起された事項
 - コ. その他学部の運営に関する事項

学部の運営を円滑に行うために各学部には主任会を置いている。主任会は、学部長、共通教育機構長と各学科主任で組織する。ここでは、学部運営上の具体的業務の協議・調整を行い、(1)学部教授会へ提出される議案の検討、(2)学部教授会から審議を委ねられた事項、(3)その他、学長及び学部長等が必要と認めた事項、について協議している。

(3) 所属施設の運営

教育を担う附属施設としては、図書館、実験センター、メディアコミュニケーションセンター及び教育開発推進センターがあり、主として研究を担う附属施設としては、エレクトロニクス基礎研究所、メカトロニクス基礎研究所、情報学研究所、先端マルチメディア合同研究所及び衛星通信研究施設がある。これらは、大学における教育研究の目的を達成するために、学部や大学院との連携をとりながら、それぞれ適切に運営されている。

(4) 各種委員会

教育業務の円滑な運営を図るため、教授会の下に以下の委員会が設置されている。

① 教務委員会

学長を委員長として関係部署長等の委員を召集して開催する委員会であり、教育課程、授業計画及び試験等の教育課程において重要となる事項について審議している。

② 就職対策委員会

各学科ごとに就職対策委員を置き、就職部長の招集により開催する委員会であり、就職に関する市場状況、進路指導状況などを共有し、就職部と連携しながら学生の就職指導を円滑に進められるようにしている。

13. 自己点検・評価

本学は使命・目的において、確かな実学の教育とそれをベースにした人間力の養成を掲げており、その教育の実行と効果に対する自己点検・評価のシステムとして自己点検・評価委員会にあたるIRE委員会を設置し、全学における教育・研究の自己点検・評価を行い、改善を図るシステムを構築している。また、財団法人日本高等教育評価機構の機関別認証評価を定期的に受審し、その結果を運営会議、教授会、理事会で共有し、改善の一助としている。機関別認証評価の評価結果及び認証評価受審時の自己点検評価書は、大学ホームページ上に公開している。さらに、学科単位では定期的に外部評価を実施している。

また、これらの教育点検の一部とFD活動を担い、自己点検・評価のPDCAサイクルを円滑に促進するための組織として教育開発推進センターを設置している。

(1) IRE委員会

I R E 委員会は、委員長である学長のもと、構成員として副学長、各学部長、共通教育機構長、研究科長、大学事務局長、入試部長、学務部長、学務部事務部長、就職部長、図書館長、メディアコミュニケーションセンター長及び教育開発推進センター長によって構成されており、教学に係る部門の長が適切に状況を判断できる体制になっている。機関別認証評価も本委員会が中心となり、取りまとめを行っている。機関別認証評価の時期以外にも、毎年大学全体の自己点検評価を行い、自己点検評価書を大学ホームページ上で公開している。

また、当該委員会は、I R (Institutional Research) 作業部会及び I E (Institutional Evaluation) 作業部会で構成されており、前者は本学の教育研究に関する情報の収集と分析を行うのに対し、後者は本学の自己点検・評価に向けて必要な準備作業を行っている。

さらに、自己点検・評価の各種資料は、学長が教授会及び理事会において説明しており、教学部門と経営部門の意思疎通を図っている。

(2) 教員及び学科の自己点検評価

全教員に対して、自己点検評価である「活動評価」を実施し、統計処理をした上で、教授会及び理事会で報告している。評価項目について添付資料で示す。また、学科ごとの教員の自己点検・評価書は、学科主任に回付し、学科運営の参考資料として活用している。この評価書は、教員（個人）が継続的な改善策を考慮した（P D C A のサイクルを組み込んだ）F D という位置づけで実施している。一方、各学科においても、外部評価を行っている。

[資料6:活動評価シート]

14. 情報の公表

本学では、学則、学校教育法施行規則等の趣旨に沿って、大学が公的な教育機関として、社会に対する説明責任を果たすとともに、教育の質向上の観点から、教育研究に関する情報については、大学ホームページ上に次のとおり公開している。

大学ホームページ URL: <https://www.osakac.ac.jp/>

(1) 大学の教育研究上の目的及び3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）に関すること

① 大学の教育研究上の目的

大学学部規則第2条に規定されており、大学ホームページ上に公開している。

HOME⇒大学紹介⇒教育基本3方針／学部設置の目的)

(URL: <https://www.osakac.ac.jp/about/policy/>)

HOME⇒大学紹介⇒教育情報の公表／学部、学科、研究科ごとの名称および教育研究上の目的)

(URL: <https://www.osakac.ac.jp/about/educational-information/>)

- ② 3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）に関すること

次のとおり大学ホームページ上に公開している。

HOME⇒大学紹介⇒教育基本3方針（ポリシー）⇒学部設置の目的と教育基本3方針⇒教育三方針

(URL:<https://www.osakac.ac.jp/about/policy/>)

- (2) 教育研究上の基本組織に関すること

大学学則第3条～第3条の4及び第39条に規定されており、その学則を大学ホームページ上に公開している。

HOME⇒大学紹介⇒学則・設置認可／届出に関する書類⇒大阪電気通信大学学則)

(URL:<https://www.osakac.ac.jp/about/document/>)

- (3) 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

- ① 教員組織と各教員が保有する学位及び業績

次のとおり大学ホームページ上に公開している。

HOME⇒大学紹介⇒教員情報データベース

(URL:<https://www.osakac.ac.jp/about/>)

- ② 教員の数

次のとおり大学ホームページ上に公開している。

HOME⇒大学紹介⇒教育情報の公表⇒教職員数等⇒教職員数

(URL:<https://www.osakac.ac.jp/about/educational-information/faculty/>)

- (4) 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること
次のとおり大学ホームページ上に公開している。

- ① 入学者受入れ方針

次のとおり大学ホームページ上に公開している。

HOME⇒大学紹介⇒教育情報の公表⇒入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在学者数、卒業（修了）者数、進学者数、就職者数⇒大学のアドミッション・ポリシー

- ② 入学者の数、在学学生数、卒業者数、進学者数、就職者数

次のとおり大学ホームページ上に公開している。

HOME⇒大学紹介⇒教育情報の公表⇒入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在学者数、卒業（修了）者数、進学者数、就職者数⇒「入学者数、入学者推移」、「在学者数」、「学位授与（卒業・修了）者数」、「進学・就職者数」）
(URL: <https://www.osakac.ac.jp/about/educational-information/>)

③ 収容定員

大学学則第4条に規定されており、その学則を大学ホームページ上に公開している。
HOME⇒大学紹介⇒学則・設置認可／届出に関する書類⇒大阪電気通信大学学則)
(URL:<https://www.osakac.ac.jp/about/document/>)

④ 進学・就職の状況

進学・就職の状況及び主な就職内定先を、次のとおり大学ホームページ上に公開している。

HOME⇒大学紹介⇒教育情報の公表⇒入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在学者数、卒業（修了）者数、進学者数、就職者数⇒主な内定先および内定先業種
(URL: <https://www.osakac.ac.jp/about/educational-information/>)

(5) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

次のとおり大学ホームページ上に公開している。

HOME⇒大学紹介⇒教育情報の公表⇒授業科目、授業の方法および内容並びに年間の授業計画（シラバス又は年間授業計画の概要）
(URL: <https://www.osakac.ac.jp/about/educational-information/>)

(6) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

大学学則第24条及び第25条に規定されており、その学則を大学ホームページ上に公開している。

HOME⇒大学紹介⇒学則・設置認可／届出に関する書類⇒大阪電気通信大学学則)
(URL:<https://www.osakac.ac.jp/about/document/>)

(7) 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

寝屋川キャンパス及び四條畷キャンパスと2つのキャンパスがあり、各キャンパスの建物の配置及び施設の情報については、次のとおり大学ホームページ上に公開している。

HOME⇒施設・キャンパス⇒寝屋川キャンパス、四條畷キャンパス)
(URL: <https://www.osakac.ac.jp/institution/>)

(8) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

次のとおり大学ホームページ上に公開している。

HOME⇒大学紹介⇒教育情報の公表⇒授業料、入学料その他の大学等が徴収する費用
⇒学費（大学）

(URL: <https://www.osakac.ac.jp/about/educational-information/>)

(9) 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

次のとおり大学ホームページ上に公開している。

① 学生の修学及び心身の健康等に関する支援

HOME⇒大学紹介⇒教育情報の公表⇒学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援
⇒修学・心身の健康等に関する支援)

(URL: <https://www.osakac.ac.jp/about/educational-information/>)

② 進路選択に関する支援

HOME⇒大学紹介⇒教育情報の公表⇒学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援
⇒進路選択に関する支援)

(URL: <https://www.osakac.ac.jp/about/educational-information/>)

(10) その他

① 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識および能力に関する情報

次のとおり大学ホームページ上に公開している。

HOME⇒大学紹介⇒教育情報の公表⇒教育上の目的の応じ学生が修得すべき知識および能力に関する情報

(URL: <https://www.osakac.ac.jp/about/educational-information/>)

② 学則等の各規程

次のとおり大学ホームページ上に公開している。

HOME⇒大学紹介⇒学則・設置認可/届出に関する書類⇒学則

(URL:<https://www.osakac.ac.jp/about/document/>)

③ 設置認可申請書及び届出書、設置計画履行状況等報告書

次のとおり大学ホームページ上に公開している。

HOME⇒大学紹介⇒学則・設置認可/届出に関する書類⇒設置届出に係る書類

(URL:<https://www.osakac.ac.jp/about/document/>)

④ 自己点検・自己評価報告書、認証評価の結果

次のとおり大学ホームページ上に公開している。

HOME⇒大学紹介⇒自己点検・評価⇒大学機関別認証評価

(URL: <https://www.osakac.ac.jp/about/self-assessment/>)

15. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

教育目的の達成状況を測る指標の1つとして、各学科で「学修効果の測定方法」を策定し、各学科の特性を活かした評価方法を開発している。評価方法の種類は、学修課題全体と専門的知識に関するレーダーチャート、分野ごとの修得単位数の年次経過、総合的な自己評価シート、科目横断的な記述試験等に分類できる。

また、教育目的の達成状況を見るには、在学生の評価だけでなく、卒業生（大学院修了生を含む）の評価も不可欠であると考え、卒業時（学位授与判定後）に「卒業生満足度調査」を行い、そのアンケート結果を運営会議で共有し、教育改善に役立てている。

一方、組織的な研修としては、教育開発推進センターにおいて、定期的に学内FD研修会を実施し教員の能力向上に努めると同時に、学外のFD研修会についても、開催案内を通知して参加を奨励している。

また、大学職員に必要な知識・技能を修得させるための取組としては、年度毎に「職員の職能開発（SD）」に関する実施方針を作成し、部課長会等を通じて職員に周知するとともに、年に数回、教育開発推進センターが主体となり、教員を含む職員を対象とした研修を実施している。主なテーマとしては、「3つのポリシーに基づく大学の取組の自己点検・評価と内部質保証」「大学運営に関する法律について」「経常費補助金を見据えた大学改革に関するもの」「特性がある学生への支援に関するもの」などである。

[資料7:FD・SD 実施テーマ]

さらに、大学職員として必要な業務スキルの向上を目的として、外部講師を迎えた研修を毎年実施すると共に、外部機関主催の研修について法人契約を締結し参加を奨励するなど、職員が自らの知識・技能を向上させることができる機会を幅広く設けている。

16. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

(1) 教育課程内における取組について

本学科の、学生に対する社会的・職業的自立に関する取組は、教育課程においてはまず、教養教育である共通科目内でのプロジェクトスキル形成群において、これから4年間の大学生活や建築・デザイン学部建築・デザイン学科で学ぶ意義を明確にすることで、キャリア形成のサポートをしていくこととしており、そのために地域の活性化に繋がる活動やグローバルな活動等を通じて社会人基礎力を高める教育を行い、将来のキャリア設計を具体化し、将来の就職への足掛かりとしている。これらの科目の多くを学部学科の専任教員が担当することで、本学科の卒業生が目指すべき建築業界における基本的な職業的な知識、技能の教育と、社会人としての応用力(仕事力)を身に付けるためのPBL(プロジェクトに基づく教育)を行えるようにしている。

[資料8:共通科目プロジェクトスキル形成群 授業科目概要]

(2) 教育課程外における取組について

就職活動への取組にあたり、全体スケジュールや就職支援講座の内容、学内の就職関連情報や就職支援の利用について理解を深めるよう、3年生を対象に学科毎にオリエンテーションを実施している。

具体的な取組としては、就職支援講座においては就職活動の基本知識やスキルを体系的に身に付けるよう、業界・企業研究、自己分析、筆記試験対策、応募書類対策、面接対策等の講座を開催し、就職関連情報や就職支援については、学内のシステム利用による求人情報提供や企業セミナー等のイベント案内、「キャリアコンサルタント」資格を有するカウンセラーによる個々の学生の就職相談への対応等を行っている。

また、資格学習支援センターでは、社会で役立つ各種資格取得や試験合格を支援する講座を運営している。

(3) 就職支援の体制について

就職支援の専門部署として就職部を設置し、キャンパス毎に寝屋川就職課、四條畷就職課が学部・学科の体制に応じた就職支援を行っている。

学生の就職・進路選択にあたりきめ細かな指導・支援を行うため、学科毎に就職対策委員の教員を任命し、就職部の学科担当職員と連携のもと、個々の学生の就職活動状況の把握・共有、学科毎の就職活動イベントの企画・実施、求人情報の学科内展開、来校企業への対応、求人企業の開拓等を実施している。

また、個々の学生の就職相談に対応するカウンセラーは、学科担当職員と連携し、学生の志向に見合う求人の紹介や採用選考にあたっての応募書類や面接の対策等を実施している。

建築・デザイン学部新設の際にも同様の体制を構築し、個々の学生への就職支援を行う。

[資料9：就職支援体制]

設置の趣旨等を記載した書類

資料目次

(建築・デザイン学部 建築・デザイン学科)

- [資料1] カリキュラムマップ
- [資料2] 履修モデル
- [資料3] インターンシップ 受入企業
- [資料4] 学校法人大阪電気通信大学定年規則
- [資料5] 授業時間割
- [資料6] 活動評価シート
- [資料7] F D ・ S D 実施テーマ
- [資料8] 共通科目プロジェクトスキル形成群 授業科目概要
- [資料9] 就職支援体制

建築・デザイン学部建築・デザイン学科 カリキュラムマップ

基礎専門科目

専攻	科目区分	1年次	
		前期	後期
建築専攻	建築・デザイン入門	建築学入門	
建築専攻 空間デザイン専攻	数学	基礎数学	
	物理学	力学	物理学
	建築・デザイン入門	BCU概論2	
空間デザイン専攻	建築・デザイン入門	空間デザイン学入門	
		建築構造入門	

専門科目

専攻	科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
建築専攻 空間デザイン専攻	建築設計実習					建築設計実習3			
	建築計画					都市・街並み計画		住環境計画	建築史実習
	建築構造					建築環境工学2		建築環境工学実習	
	建築材料					建築設備			
	建築法規					建築構造力学3			
	建築実務					建築構造力学2			
	空間デザイン					建築一般構造			
	アート&デザイン					建築材料			
	デジタルデザイン					建築生産			
	その他								
建築専攻 空間デザイン専攻	建築設計実習								
	建築計画								
	建築構造								
	建築材料								
	建築法規								
	建築実務								
	空間デザイン								
	アート&デザイン								
	デジタルデザイン								
	その他								
空間デザイン専攻	空間デザイン概論								
	アート&デザイン								
	機能デザイン								
	デジタルデザイン								
	データ指向デザイン								
	データサイエンス								
	空間デザイン								
	アート&デザイン								
	機能デザイン								
	デジタルデザイン								

○：必修科目

建築・デザイン学部 建築・デザイン学科 建築専攻 履修モデル

人間を取り巻くあらゆる空間の設計・造形と構築に関する知識と技術により、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材（一級建築士受験資格取得）

科目区分		1年		2年		3年		4年	
共通科目	人文・社会・自然群	現代社会と青年の心理	2	教育制度論	2				
		発達心理学	2	日本国憲法	2				
	外国語群	Core English 1	1						
		Core English 2	1						
		Core English 3	1						
		Core English 4	1						
	健康・スポーツ群	スポーツ実習1	1						
		スポーツ実習2	1						
	プロジェクトスキル形成群	プロジェクト活動スキル入門	1	プロジェクト活動演習1	1	キャリア設計プロジェクト実践	1		
				プロジェクト活動演習2	1				
基礎専門科目	情報基礎群	AI・データサイエンス入門	2						
		〇コンピュータリテラシー1	2						
		コンピュータリテラシー2	2						
		基礎数学	2						
	力学	物理学	2						
		建築学入門	2						
専門科目	建築設計実習	〇建築・デザイン設計基礎実習	2	〇建築設計実習1	4	建築設計実習3	4		
				建築設計実習2	4	建築・デザイン総合演習	4		
	建築計画			建築史・都市史1	2	建築史・都市史3	2		
				建築史・都市史2	2	都市・街並み計画	2	建築史実習	
				建築計画1	2				
				建築計画2	2				
	建築環境	建築環境工学1	2	建築環境工学2	2	建築環境工学実習	2		
		建築設備		建築設備1	2	建築設備2	2		
				建築設備力学1	2	建築設備力学4	2		
	建築一般構造			建築構造力学2	2	建築構造力学3	2		
				建築構造力学1	2	建築構造力学2	2		
	建築材料			建築構造1	2	建築構造2	2		
				建築材料・構成概論	2	建築構造3	2		
	建築生産					建築材料・構造実験	2		
					建築生産1	2			
建築法規					建築経済	2			
					建築法規	2			
建築実務					建築技術者倫理	2			
機能デザイン	自然災害概論	2	空間環境デザイン2	2					
	空間環境デザイン1	2	コンピュータシヨナルデザイン	2	Building Information Modeling	2			
デジタルデザイン			〇建築・デザインプレゼミナール1	2	〇建築・デザインプレゼミナール2	2	〇卒業研究		
					〇建築・デザインプレゼミナール3	2			
単位数 計			37		38		39	10	
〇：必修科目									
							単位数	総合計	124

建築・デザイン学部 建築・デザイン学科 空間デザイン専攻 履修モデル

現実と仮想を問わない、人間を取り巻くあらゆる空間の設計・造形と構築に関する知識と技術により、広く社会及び産業界で活躍でき、持続可能な社会の発展に貢献することができる専門的人材（一級建築士受験資格取得）

科目区分	1年		2年		3年		4年	
	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数
共通科目	人文・社会・自然群	2	現代社会と青年の心理 発達心理学	2	教育制度論 日本国憲法	2		
	外国語群	1	Core English 1					
		1	Core English 2					
		1	Core English 3					
健康・スポーツ群	1	Core English 4						
	2	健康・スポーツ科学論	2	健康・スポーツ科学論	2			
情報基礎群	1	プロジェクト活動スキル入門	1	プロジェクト活動演習1	1	キャリア設計プロジェクト実践	1	
	2	プロジェクト活動スキル2	2	プロジェクト活動演習2	2			
	2	日本語活用法	2	日本語活用法	2			
基礎専門科目	2	○コンピュータリテラシー1 コンピュータリテラシー2	2					
	2	基礎数学	2					
	2	カ学	2					
	2	物理学	2					
	2	空間デザイン学入門	2					
	2	建築構造入門	2					
	2	○建築・デザイン設計基礎実習	2					
	4	○建築設計実習1	4	○建築設計実習1	4	建築・デザイン総合演習	4	
	4	建築設計実習2	4	建築設計実習2	4			
	2	建築史・都市史1	2	建築史・都市史1	2	建築史・都市史	2	
専門科目	2	建築計画	2	建築史・都市史2	2			
	2	建築計画1	2	建築史・都市史2	2			
	2	建築計画2	2	建築計画1	2			
	2	建築計画2	2	建築計画2	2			
	2	建築環境	2	建築環境工学1	2			
	2	建築設備	2	建築設備1	2			
	2	建築構造	2	建築構造力学1	2			
	2	建築一般構造	2	建築構造1	2	建築構造2 建築構造3	2 2	
	2	建築材料	2	建築材料・構成概論	2			
	2	建築生産	2			建築生産1	2	
	2	建築法規	2			建築法規	2	
	2	建築実務	2			建築技術者倫理	2	
2	空間デザイン	2	空間デザイン概論	2	ランドスケープデザイン	2		
アート&デザイン	2	基礎造形	2					
	2	デザイン実習	2					
	2	デザイン概論	2					
	2	デザイン基礎演習	2					
機能デザイン	2	空間表現の情報技術	2	都市環境の設備1	2	都市環境の設備2	2	
	2		2					
データ指向デザイン	2		2	空間シミュレーション	2	都市環境の設備2	2	
	2		2	建築空間DX	2	空間シミュレーション	2	
その他	2		2	都市空間DX	2	空間情報数理	2	
	2		2	○建築・デザインプレゼミナール1	2	○建築・デザインプレゼミナール2	2	
単位数 計	43		38		31		12	
○：必修科目								単位数 総合計
								124

建築・デザイン学部建築・デザイン学科 インターンシップ 受入企業

No.	企業・団体名	No.	企業・団体名
1	社会医療法人愛仁会	51	株式会社ソフトム
2	株式会社アイティープランニング	52	大成温調株式会社
3	あおみ建設株式会社	53	大鉄工業株式会社
4	社会福祉法人あかつき福祉会	54	TAKUTO グループ
5	株式会社浅川組	55	学校法人谷岡学園
6	旭建設株式会社	56	チトセ工業株式会社
7	株式会社味の吉川	57	株式会社中央電機計器製作所
8	株式会社尼崎工作所	58	寺崎電気産業株式会社
9	社会福祉法人永寿福祉会	59	株式会社電業
10	エース設計産業株式会社	60	東果大阪株式会社
11	愛媛県大阪事務所	61	東洋スクリーン工業株式会社
12	株式会社エフ・ラボ	62	特定非営利活動法人とよなか市民環境会議アジェンダ21
13	一般財団法人大阪教育文化振興財団	63	豊中市役所
14	公益社団法人大阪自然環境保全協会	64	豊中市立文化芸術センター
15	大阪司法書士会	65	株式会社中田製作所
16	大阪信用金庫	66	社会福祉法人長野社会福祉事業財団
17	大阪石材工業株式会社	67	株式会社ナフコ
18	大阪中央ダイカスト株式会社	68	奈良県川西町役場
19	大阪府泉南郡熊取町役場	69	奈良トヨタ株式会社
20	大津観光株式会社里湯昔話雄山荘	70	株式会社日南
21	株式会社カースキャリアセンター	71	株式会社日刊工業新聞社西日本支社
22	株式会社加藤建設	72	日工電子工業株式会社
23	金井ホールディングス株式会社	73	日本ハウズイング株式会社
24	株式会社かわべフードサービス	74	長谷川電機工業株式会社
25	関西福祉科学大学図書館	75	ビーイングホールディングス株式会社
26	株式会社関西マツダ	76	NPO 法人ビーブルアクティブライフ
27	株式会社木内計測	77	株式会社ヒツツカンパニー
28	共栄ダイカスト株式会社	78	株式会社ベオスアイティーホールディングス
29	京都市役所	79	放送文化総研有限公司
30	紀洋木材株式会社	80	社会福祉法人豊年福祉会
31	共和技術工業株式会社	81	前田道路株式会社
32	協和テクノロジズ株式会社	82	マツダ株式会社
33	特定非営利活動法人近畿環境市民活動相互支援センター	83	株式会社松田組
34	株式会社近鉄・都ホテルズホテル近鉄ユニバーサル・シティ	84	三菱電機コントロールパネル株式会社
35	株式会社クラックスシステム	85	有限会社南歯車製作所
36	栗本建設工業株式会社	86	守口市役所
37	株式会社グルメ軒屋	87	株式会社森本組
38	株式会社甲和ビルド	88	八尾市役所
39	社会福祉法人堺暁福祉会特別養護老人ホーム遊づる	89	株式会社箭木木工所
40	株式会社サカイ引越センター	90	ヤマト工業株式会社
41	佐藤工業株式会社	91	株式会社遊文舎
42	株式会社サンテック大阪支社	92	由利ロール株式会社
43	株式会社ジェッター	93	株式会社ロードカー
44	株式会社ジオリゾーム		
45	シグマ薬品株式会社		
46	シバタ工業株式会社		
47	SHINT 株式会社		
48	鈴木合金株式会社		
49	生和コーポレーション株式会社		
50	摂津市役所		

以上

○学校法人大阪電気通信大学定年規則

昭和49年4月1日

制定

最近改正 平成31年3月30日

第1条 この規則は、学校法人大阪電気通信大学就業規則(以下、「就業規則」という。)第41条の定めに基づき、本法人に勤務する専任職員の定年に関する事項を定める。

第2条 職員の定年は、次のとおりとする。

- (1) 学長 満74歳
- (2) 校長 満68歳
- (3) 教授 満68歳
- (4) その他の職員 満65歳

2 学長、校長については、任期の定めにかかわらず前項の適用を受けるものとする。

第3条 職員は、定年に達した日の属する年度末をもって、当然に雇用契約が終了し、退職するものとする。

第4条 退職一時金支給については、就業規則別表I「退職一時金支給率表」中、定年による支給率を適用する。

第5条 削除

第6条 勤続年数が満20年以上の職員が退職するときは、その受けるべき退職一時金に関し、定年による支給率を適用する。

第7条 法人は、退職期日の60日以前に文書をもって、定年該当者にその旨通知するものとする。

附 則

この規程は、昭和49年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和55年3月31日から施行する。

附 則

この規程は、昭和62年2月24日から施行する。

附 則

この規程は、平成3年2月6日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成4年3月27日から施行する。

2 第5条については、平成4年4月1日以降採用者から適用する。

附 則

この規則は、平成7年5月27日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。

2 削除

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年5月23日から施行する。

附 則

この規則は、2019年3月30日から施行する。

建築・デザイン学部建築・デザイン学科時間割表（1～4年）前期

前期	1年		2年		3年		4年	
	授業名	担当者	教室	授業名	担当者	教室	授業名	担当者
1時限目	デッサン実習	金村 仁、中道 由紀子	Z5階アトリエ	建築構造力学2	北尾 陽子	J306	建築設備2	森田 剛生、工藤 直志
2時限目	デッサン実習	金村 仁、中道 由紀子	Z5階アトリエ	建築史・都市史1	矢ヶ崎 響太、飯田 治子	J306	Advanced Communication 1 Advanced Discourse 1	カルモナ・ダニエル 松本 知子
3時限目	基礎造形	金村 仁	Z5階アトリエ	社会データ分析	寶珍 宏元	J306	建築生産1	守台 幸治
4時限目							ランドスケープデザイン	松下 岳生
1時限目	基礎数学	若林 徳子	J305	建築設計実習1	寶珍 宏元、水田 瑛也、 梅原 悠、北澤 麻帆、 岡田 治子、河田 剛、 高 藤子、谷口 真依子、 栗田 暁	Z5階アトリエ Y6階アトリエ	建築史・都市史3	笠原 一人
2時限目				建築設計実習1	寶珍 宏元、水田 瑛也、 梅原 悠、北澤 麻帆、 岡田 治子、河田 剛、 高 藤子、谷口 真依子、 栗田 暁	Z5階アトリエ Y6階アトリエ	建築構造力学4	辻 聖暎
3時限目	スポーツ実習1	堀井 水穂、小林 直生、 倉本 真知子	グランド アクティビティホール	Intermediate Communication 1	長谷川 麗子 本野 和規	J403 J404	建築設計実習3	水田 瑛也、深川 礼子、 北澤 麻帆、井上 雅祐、 高橋 悠、森 雅章
4時限目	Core English 3	上原 公明 杉村 寛子	J401 J402	Intermediate Discourse 1	松田 正貴 梅田 茜奈	J501 J502	建築設計実習3	水田 瑛也、深川 礼子、 北澤 麻帆、井上 雅祐、 高橋 悠、森 雅章
オンデマンド	力学	原田 融	-	データサイエンス基礎	阪口 昌彦	-	建築空間DX	上善 恒雄
	総合教養	安達 未來、大村 基樹、 松本 知子、杉村 寛子、 原田 融、梅田 暁、 中野 孝徳、矢ヶ崎 響太、 田中 佳明、古崎 嘉司、 柴垣 岡田 治子	-	資格対策英語1	杉村 寛子	-	都市空間DX	寶珍 宏元
	デザイン概論	金村仁	-					
集中授業	AI・データサイエンス入門	江原 直生、大西 智孝、 上善 恒雄、中村 英夫、 沼田 昌宏、水野 祐志	-					
	OECU概論1 OECU概論2	上善 恒雄 上善 恒雄	- -	特別ゼミナール1 コンピュータ製図実習	上善 恒雄 水田 瑛也、飯島 憲一	- -	グローバル研修 グローバル研修(英国)	金村 仁 杉村 寛子
学年集中	地域プロジェクト活動1	中田 亮生	J610	地域プロジェクト活動2	中田 亮生	J610	インターンシップ	上善 恒雄
							卒業研究	各研究室 野村 裕一、水田 瑛也、 梅原 悠、深川 礼子、 中田 亮生、光石 新哉、 金村 仁、上善 恒雄、 飯島 憲一、北澤 麻帆、 松田 正貴、古崎 嘉司、 杉村 寛子、谷口 真依子、 坂口 武司、飯田 治子

建築・デザイン学部建築・デザイン学科時間割表（1～4年）後期

後期	1年			2年			3年			4年		
	授業名	担当者	教室	授業名	担当者	教室	授業名	担当者	教室	授業名	担当者	教室
月曜	1時間目	発達心理学	平沼 勝博	J306	建築・デザイン・プレミナール1	徳原 浩二、上田 陽雄、飯島 基一、添田 晴生、辻 聖哉、守台 幸治	各研究室	スポーツ実習3	堀口 徹佑、松本 賢次	グラウンド アクティビティホール		
		ゼンター論	堀 聖祐子	J307								
		日本語上級2	中里見 博	J407								
		中国語2	王 少鋒	J401								
火曜	2時間目	ヨーロッパの言語と文化	中里見 博	J306	中国語4	王 少鋒	J401	建築・デザイン・プレミナール3	賢珍 宏一、本田 理也、相原 浩、深川 礼子、中田 英生、水石 朝彦、森村 仁二、上田 陽雄、飯島 基一、添田 晴生、北尾 隆夫、守台 幸治、坂口 武司、矢野崎 善太郎、岡田 浩子	各研究室		
		文字の世界	富田 成美	J307	スポーツ文化論	村木 有也	J408					
		技術と倫理	大村 基博	J407	プロジェクト活動演習2	竹内 和広	J306					
	3時間目											
4時間目												
水曜	1時間目	コンピュータリテラシー2	小朝 啓子、荒木 千秋、高袋 壽子	J703ab	建築都市デザイン	深川 礼子	J305	建築環境工学実習	添田 晴生	Y6階アトリエ		
		政治学	西 通美	J306								
		日本国憲法	中里見 博	J307								
		アジアの言語と文化	王 少鋒	J407								
木曜	2時間目	プログラミング基礎演習	大村 基博、石塚 文晴、高袋 壽子	J306	建築計画2	北澤 誠吾、坂口 康司	J508	建築環境工学実習	添田 晴生	Y6階アトリエ		
		現代社会を考える2	中里見 博、金田 啓俊、熊井 文輔、安達 未来、大村 基博	J307								
		日本の近代史	松本 賢一	J407								
		異文化の理解	王 少鋒	J408								
金曜	3時間目	Core English 2	上垣 公明、松田 正樹、松本 寛子、杉村 真子	J401 J402 J403 J404	建築設計実習2	賢珍 宏一、相原 浩、深川 礼子、坂口 武司、玉置 原 土生、遠藤 松枝、岡田 浩子	Z5階アトリエ Y6階アトリエ	建築技術者論理	守台 幸治、高平 修秀、松井 宣明	J306		
	4時間目											

2021年度における活動評価シート

- ① 該当する項目（数値を記入できる項目を含む）のチェックボックス□に☑を入れてください。
 ② 該当する項目のうち、E列に単位が入力されているものは、必要に応じて枠内に数値を入力してください。
 ※ 所属・氏名および太枠内のみ編集してください。

所属： ○○学科
 氏名： 電通 太郎

○教育

1. 授業担当（学部）

		数値	単位
<input type="checkbox"/>	1 授業を担当した（週単位の時数を記入）1コマ15週で2.0時間	[]	時間
<input type="checkbox"/>	2 「講義」科目を担当した	[]	コマ
<input type="checkbox"/>	3 「実験・演習」系科目を担当した	[]	コマ
<input type="checkbox"/>	4 必修科目を担当した	[]	コマ
<input type="checkbox"/>	5 選択科目・選択必修科目を担当した	[]	コマ
<input type="checkbox"/>	6 他教員の代講をした	[]	回
<input type="checkbox"/>	7 授業時間以外に学生の質問に応じた		
<input type="checkbox"/>	8 オフィス・アワーで学生を指導した		
<input type="checkbox"/>	9 授業はシラバス通り進んだ		
<input type="checkbox"/>	10 成績評価の方法や基準を明示した		
<input type="checkbox"/>	11 試験の正解や模範解答を公表した		
<input type="checkbox"/>	12 試験の答案を返却した		
<input type="checkbox"/>	13 レポートを返却した		
<input type="checkbox"/>	14 卒業研究・制作の指導をした	[]	人

2. 授業担当（大学院）

<input type="checkbox"/>	15 授業を担当した（週単位のコマ数を記入）	[]	コマ
<input type="checkbox"/>	16 修士論文審査の主査を務めた	[]	人
<input type="checkbox"/>	17 修士論文審査の副査を務めた	[]	人
<input type="checkbox"/>	18 博士論文（課程）審査の主査を務めた	[]	人
<input type="checkbox"/>	19 博士論文（課程）審査の副査を務めた	[]	人
<input type="checkbox"/>	20 博士論文（論文）審査の主査を務めた	[]	人
<input type="checkbox"/>	21 博士論文（論文）審査の副査を務めた	[]	人

3. 教材・教育方法開発

<input type="checkbox"/>	22 単著の教科書を執筆した	[]	冊
<input type="checkbox"/>	23 共著の教科書を執筆した	[]	冊
<input type="checkbox"/>	24 教科書以外の教材を執筆した	[]	冊
<input type="checkbox"/>	25 教科書以外の教材を開発した	[]	冊
<input type="checkbox"/>	26 教え方について独自の工夫をした		
<input type="checkbox"/>	27 留学生に対して特別な指導をした		
<input type="checkbox"/>	28 社会人学生に対して特別な指導をした		
<input type="checkbox"/>	29 障がい学生に対して特別な指導をした		

4. 授業改善活動

<input type="checkbox"/>	30 学内のFD関連研修会に参加した	[]	回
<input type="checkbox"/>	31 学外のFD関連研修会に参加した	[]	回
<input type="checkbox"/>	32 学生による授業評価の結果から授業改善プランを作成し、公表した		

5. 正課外活動

<input type="checkbox"/>	33	学内学生団体の部長（顧問）をした		
<input type="checkbox"/>	34	学内学生団体の実質的な（技術的な）指導をした		
<input type="checkbox"/>	35	学内学生団体の合宿に同行した		
<input type="checkbox"/>	36	学内学生団体の対外試合等に帯同した		
<input type="checkbox"/>	37	留学生の指導をした（チューター、カウンセラー）		
<input type="checkbox"/>	38	学生の就職相談に応じた		
<input type="checkbox"/>	39	就職に際して推薦状を書いた		
<input type="checkbox"/>	40	学生に就職先を紹介した		
<input type="checkbox"/>	41	学生の就職先を訪問した		
<input type="checkbox"/>	42	大学院進学について、相談に応じた		
<input type="checkbox"/>	43	学内の高大連携活動に参加した		
<input type="checkbox"/>	44	学外の高大連携活動に参加した		
<input type="checkbox"/>	45	学生関連のイベントを担当した		回
<input type="checkbox"/>	46	資格取得支援のための講座を担当した		回

○研究

1. 著作物（著書・論文等）

<input type="checkbox"/>	47	単著の学術書を刊行した		冊
<input type="checkbox"/>	48	学術書以外（注釈書・辞書・学術的翻訳書等）の単著を刊行した		冊
<input type="checkbox"/>	49	共著の学術書を刊行した		冊
<input type="checkbox"/>	50	学術書以外（注釈書・辞書・学術的翻訳書等）の共著を刊行した		冊
<input type="checkbox"/>	51	査読付国際雑誌に論文を発表した		本
<input type="checkbox"/>	52	査読付学外雑誌に論文を発表した		本
<input type="checkbox"/>	53	学内紀要に論文を発表した		本
<input type="checkbox"/>	54	芸術（建築、美術、音楽等）創作活動を行った		点

2. 学会報告

<input type="checkbox"/>	55	国内の学会で研究報告をした		回
<input type="checkbox"/>	56	国内の学会でシンポジウムの報告を担当した		回
<input type="checkbox"/>	57	国内の学会で企画リーダー（座長）を務めた		回
<input type="checkbox"/>	58	国際学会で研究報告をした		回
<input type="checkbox"/>	59	国際学会でシンポジウムの報告を担当した		回
<input type="checkbox"/>	60	国際学会で企画リーダー（座長）を務めた		回

3. 研究資金等

<input type="checkbox"/>	61	学内の競争的研究資金に応募した		回
<input type="checkbox"/>	62	学内の競争的研究資金を獲得した		回
<input type="checkbox"/>	63	学外の競争的研究資金に応募した		回
<input type="checkbox"/>	64	学外の競争的研究資金を獲得した		回
<input type="checkbox"/>	65	奨学寄附金を受領した		回
<input type="checkbox"/>	66	受託研究・受託事業・学外共同研究を受け入れた		回
<input type="checkbox"/>	67	学内の共同研究に加わった		回
<input type="checkbox"/>	68	学外の共同研究に加わった		回
<input type="checkbox"/>	69	学外の客員研究員を受入れた（本学退職教員の客員研究員を除く）		回

4. 研究評価

<input type="checkbox"/>	70	研究活動に対して、国内の機関から表彰を受けた		回
<input type="checkbox"/>	71	研究活動に対して、国外の機関から表彰を受けた		回

○大学運営

1. 入試広報

<input type="checkbox"/>	72	入学試験において出題や採点あるいは実施の責任者を務めた		
<input type="checkbox"/>	73	入学試験において出題や採点の委員を務めた		
<input type="checkbox"/>	74	入学試験において書類選考を担当した		
<input type="checkbox"/>	75	入学試験において面接を担当した		
<input type="checkbox"/>	76	入学試験において試験監督を担当した		
<input type="checkbox"/>	77	オープンキャンパスにおける行事を担当した		回

□	78	模擬授業、体験授業、学生募集のための高校訪問をした		回
2. 学部、学科内				
□	79	学科主任その他専攻主任などを務めた		回
□	80	その他（学科内検討組織等）の委員を務めた		回

3. 大学全体

<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>

- 81 学長、副学長、学部長、研究科長を務めた
- 82 部長、研究所長、センター長等を務めた
- 83 全学的な委員会の委員長を務めた
- 84 全学的な委員会の委員を務めた

回
回
回

○社会貢献活動

1. 公的機関

<input type="checkbox"/>

- 85 政府の審議会の委員（委員・専門委員・幹事）を務めた
- 86 大学関係機関・団体等の役職を務めた
- 87 大学関係機関・団体等の委員を務めた
- 88 国内の所属学会で役員を務めた
- 89 国外の所属学会で役員を務めた
- 90 所属大学の公開講座等の講師を務めた
- 91 所属大学以外の主催する公開講座等の講師を務めた
- 92 公的機関の要請による研修講座の講師を務めた
- 93 マスコミ媒体から論評やコメントを求められた
- 94 地方公共団体の審議会等の委員を務めた
- 95 国家試験の試験委員を務めた

回
回
回
回
回
回
回
回
回
回
回

2. 産学連携、知財、TLO

<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>

- 96 企業と連携した活動を行った
- 97 企業と連携した社会人向けの教育プログラムを担当した
- 98 特許を出願した
- 99 特許を取得した

回
件
件

3. ステークホルダー

<input type="checkbox"/>

- 100 教育懇談会に参加した

4. その他NPO法人等を通じた公益性のある社会貢献活動

<input type="checkbox"/>

- 101 学外の団体が行う社会貢献活動に参加した

--

回

【自由記述欄】

その他特記事項等があれば記述してください。

1. 教育

--

2. 研究

--

3. 大学運営

--

4. 社会貢献活動

--

5. その他（教育、研究、大学運営、社会貢献活動以外）

--

FD・SD 実施テーマ

2023年度テーマ一覧

日程等	テーマ	講師
第1回	2022年度リメディアル教育実践報告	全学科リメディアル教育担当者
第2回	2023年5月11日 2023年6月8日 (未定)	(未定)
第3回	2023年7月6日 105分授業の実施に向けて	学外より講師招聘
第4回	2023年8月24日 SD：メンタルヘルス（タイトル未定）	安全管理室にて講師調整
第5回	2023年9月14日 (未定)	(未定)
第6回	2023年10月12日 入学準備教育の効果（タイトル未定）	学内講師調整中
第7回	2023年12月7日 (未定)	(未定)
第8回	2024年2月29日 合理的配慮の義務化に向けて	総合学生支援センター

2022年度テーマ一覧

日程等	テーマ	講師
第1回	2020年度教育推進費事業実施・成果報告	環境科学科齋藤安貴子教授ほか3名
第2回	2022年6月9日 入学前教育と基礎学力の養成	教育開発推進センター 斎藤幸一 特任講師ほか4名
第3回	2022年7月7日 SD：安全第一の職場環境の実現を目指して	元北大阪労働基準監督署長 伊飼貴明氏
第4回	2022年9月15日 大学初年次における自律的相互学習を通じたコミュニケーション能力の育成	早稲田大学 原田康也 教授
第5回	2022年12月8日 プロジェクトスキルの形成群とキャリア教育	教育開発推進センター 斎藤幸一 特任講師ほか3名
第6回	2023年1月26日 新しい時代のオンライン授業にむけて	ゲーム&メディア学科学科 ナカタ 准教授ほか1名
第7回	2023年3月2日 合理的配慮の義務化に向けた本学の課題	筑波大学 佐々木 銀河 准教授ほか1名

2021年度テーマ一覧

日程等	テーマ	講師
第1回	2020年度教育推進費事業実施・成果報告	電気電子工学科 海老原 聡 教授ほか1名
第2回	2021年6月10日 入学前教育と入学後の修学支援②	教育開発推進センター 斎藤幸一 特任講師ほか4名
第3回	2021年7月8日 SD①：防火防災を考える1	法人事務局 千松 哲也 氏ほか1名
第4回	2021年8月26日 SD②：防火防災を考える2	寝屋川消防署 深見 隆氏ほか1名
第5回	2021年9月16日 体験の場と社会人基礎力	寝屋川就職課 鈴木 晃子 氏ほか2名
第6回	2021年11月26日 「タクナル」を用いた授業研究	(株)リアセック様
第7回	2021年12月9日 教育3方針WG報告	学務部長 柴垣 佳明 氏
第8回	2022年2月24日 2021年度リメディアル教育実践報告	全学科リメディアル教育担当者

共通科目プロジェクトスキル形成群 授業科目概要

科目区分	科目名	授業概要
プロジェクト活動	プロジェクト活動スキル入門	本講義では、教員の学生時代の経験や企業での経験などを学生たちに伝えたり、また、建設業の企業への見学などを通して、これから4年間をかけて建築学を学ぶにあたり、良い動機付けを与え、目的意識を明確にし、学生の有意義なキャリア形成をサポートする。
	プロジェクト活動演習1	本講義では、学生が様々なキャリア(体験・経験)を通して、人間形成していくことにより、自分らしい自分を作り上げていくことの重要性と、そのキャリアをこれからの人生に生かしていくことの大切さについて教える。
	プロジェクト活動演習2	本講義では、本学の理念である ①「手が動かせる=(主体的に課題に向かう)」、 ②「絵が描ける=(文章や絵、図を使い、頭の中にあることを表現する)」、 ③「コミュニケーションができる=(協働して学ぶ態度を身につける)」 の三原則の基礎を身につけるため、グループワークを通して学び、さらには、問題解決能力も養う。
	キャリア設計プロジェクト実践	就職活動に向けた準備として、実際にどのような流れで就職活動を行うのか、そのためには「いつまでに」「何を」「どうやって」準備しておくべきなのかを学びます。その上で、社会に出るための基本スキルを養います。
日本語活用	日本語上達法1	大学での学びに必要な文章力の基礎を身につけることを主目的とします。そのために、長文の読解、小論文や自己PR文、レポートの書き方を扱っていきます。
	日本語上達法2	この授業は、受講生が大学に必要な(アカデミックな)レポートや卒業研究を、よりよく書けるようになることを目的とする。そのために必要な、アカデミックな日本語の「読む・書く」能力を向上する課題に取り組む。
	日本語活用法	大学に必要なレポートを書く力を身につけることを主目的とします。そのために、要約する読解力、文法的に整えて書く方法、主題の立て方、引用の仕方、文章構成の仕方、体裁の整え方を理解し実践できるようにすることを目指します。
地域プロジェクト活動	地域プロジェクト活動1	寝屋川市、四条畷市などの近隣に所在する地域の商・工業などの事業者、公共団体、NPO法人、その他の公共の各種団体と連携し、新しいビジネスモデルや地域活動の提案などを通じて地域の活性化に貢献することにより、社会人としての高い社会意識とマナーの向上を目指すとともに、プレゼンテーション、コミュニケーションなどの基本的な対人能力、組織的な協働により成果を生み出すためのノウハウを現場で体験的に身につけることを目的とする。将来のキャリア設計を具体化するためのアクティブ・ラーニング型の科目である。
	地域プロジェクト活動2	学内及び学外の近隣地域で実施されているプロジェクトやボランティア活動への参加、またはそのようなプロジェクトやボランティア活動を自らが主導的に企画・実施することによって、社会人としての高い社会意識とマナーの向上を目指すとともに、プレゼンテーション、コミュニケーションなどの基本的な対人能力、組織的な協働により成果を生み出すためのノウハウを現場で体験的に身につけることを目的とする。将来のキャリア設計を具体化するためのアクティブ・ラーニング型の科目である。
スキルアップ	グローバル研修	近年のグローバルな人材の育成のニーズに対応し、国際交流センターが認める留学プログラムに参加することで世界の多様性を認識する。交換留学やプログラムにおける各種活動を通して、視野を広げ、教養・見識を高めることを目的とする。
	グローバル研修(英語)	英語圏を主として一定期間滞在し、単に英語の技能を磨くのみならず、その国に暮らす人びとに接し、歴史や文化、社会への理解を深め、多様な視点を内面化していくことによって、グローバルな視座を獲得する。
社会を知る	インターンシップ	3年次前期までに学んできた建築学や基礎科目の知識を生かして、企業における建築計画、設計、施工、監理など、様々な部門での実習を行う。その体験を通じて、社会における建築学分野の位置づけや現状をより深く理解することにより、建築学への探求心を養うとともに、将来の一般企業への就職の足掛かりとする。

就職部 学科担当

学科担当制

就職対策委員

工学部	電気電子工学科
	電子機械工学科
	機械工学科
	基礎理工学科
	環境科学科
	建築学科
情報通信工学部	情報工学科
	通信工学科

〇〇〇〇
〇〇〇〇
〇〇〇〇
〇〇〇〇
〇〇〇〇
〇〇〇〇
〇〇〇〇
〇〇〇〇

□□□□
□□□□
□□□□
□□□□
□□□□
□□□□
□□□□
□□□□

・個々の学生の就活状況の把握・共有

・学科ごとの就活イベントの企画・実施

・求人情報の学科内展開

・来校企業への対応、求人企業の開拓

医療健康科学部	医療科学科
	理学療法学科
	健康スポーツ科学科
総合情報学部	デジタルゲーム学科
	ゲーム&メディア学科
	情報科学科

〇〇〇〇
〇〇〇〇
〇〇〇〇
〇〇〇〇
〇〇〇〇
〇〇〇〇

□□□□
□□□□
□□□□
□□□□
□□□□
□□□□
□□□□
□□□□

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	…	1
(1) 学生確保の見通し	…	1
(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況	…	5
2. 人材需要の動向等社会の要請	…	6
(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	…	6
(2) 上記（1）が社会的、地域的な人材需要の動向等を 踏まえたものであることの客観的な根拠	…	7

学生の確保の見通し等を記載した書類

Ⅰ. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(Ⅰ) 学生の確保の見通し

① 入学定員設定の考え方

この度設置する建築・デザイン学部建築・デザイン学科の入学定員を 150 名と設定するにあたり、既設学部学科の状況を踏まえて検討した。

既設の工学部建築学科の入学定員は 80 名である。当該学科は開設した平成 30 年以降の志願者数は、入学定員 80 人に対して、平成 30 年度 509 人、令和元年度 599 人、令和 2 年度 672 人、令和 3 年度 567 人、令和 4 年度 482 人と安定した志願者数の確保を維持しており、この 5 年間の平均志願者数は 566 人、入学定員に対する志願者の平均倍率は、7 倍を超えている。

また、情報及びデザインの分野を一部有し、入学定員が同規模のデジタルゲーム学科（入学定員 140 名）及びゲーム&メディア学科（入学定員 110 名）についても志願者数は、平成 30 年度 1,123 人及び 481 人、令和元年度 1,305 人及び 825 人、令和 2 年度 1,529 人及び 881 人、令和 3 年度 1,136 人及び 597 人、令和 4 年度 1,203 人及び 660 人と安定した志願者数の確保を維持しており、この 5 年間の平均志願者数は 1,260 人及び 689 人、入学定員に対する志願者の平均倍率は、9 倍及び 6 倍を超えている。

② 同系統学部等の動向

同系統学部の募集状況及び入学定員充足率を外部資料を基に検証した。

このたび設置する建築・デザイン学部の動向について、「令和 4 (2022) 年度私立大学・短期大学等入学志願動向」をみると、「地域別の動向」の本学所在地である「大阪」の入学定員充足率は、令和 3 年度 103.74%、令和 4 年度 102.98%と堅調に推移している。〔資料 1〕また、「私立大学 主な学部別の志願者・入学者動向」の「建築学部」の入学定員充足率は、令和 3 年度 105.37%、令和 4 年度 111.79%であり、「デザイン工学部」の入学定員充足率は、令和 3 年度 101.01%、令和 4 年度 102.66%と、こちらについても堅調に推移している。〔資料 2〕また、過去 5 年間の「私立大学 学部系統別・入学定員充足率の動向」の建築学部及びデザイン工学部が含まれる「理・工学系」の入学定員充足率は、100%以上を継続〔資料 3〕し堅調に推移しており、「大阪」における「理・工学系」の「建築学部」及び「デザイン工学部」の入学志願動向は堅調であるといえる。

〔資料 1：令和 4 (2022) 年度私立大学・短期大学等入学志願動向
2. 地域別の動向（大学・学校別）〕

[資料2：令和4(2022)年度私立大学・短期大学等入学志願動向
5. 主な学部別志願者・入学者動向(大学)]

[資料3：令和4(2022)年度私立大学・短期大学等入学志願動向
学部系統別の動向 過去5カ年の推移(大学)]

③ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

建築・デザイン学部建築・デザイン学科の設置にあたり、調査機関として株式会社進研アドに対し、現役高校生を対象に建築・デザイン学部建築デザイン学科設置に関するニーズ調査を依頼した。[資料4]調査は、令和4年11月24日から12月20日まで、高校2年生を調査の対象として実施し、5,412人から有効回答を得た。その中で建築・デザイン学部建築デザイン学科への入学意向は494人となり、予定している入学定員数(150人)を3倍以上上回る入学意向者がみられた。このことから見ても、入学定員150人は十分に確保できる見通しである。

調査の概要は次の通りである。

1) 調査目的

令和6年4月開設予定の「建築・デザイン学部建築・デザイン学科」の新設構想に関して、高校生からの進学ニーズを把握する。

2) 調査概要

調査対象は高校2年生とした。(予定通り学科開設が実現すれば、当該生徒たちは本学建築・デザイン学部建築・デザイン学科への進学も視野に入る。)

調査エリアは、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の高校81校について、各高校にて留置調査を実施した。

調査時期は、令和4年11月24日から12月20日で実施した。

調査の回収数は、56校の生徒5,412人であった。(有効回収率45.6%)

3) 調査項目

主な調査項目は、高校卒業後の希望進路、興味のある学問系統、本学建築・デザイン学部建築・デザイン学科の特色に対する魅力度、受験意向、本学建築・デザイン学部建築・デザイン学科各専攻への入学意向とした。

4) 調査結果(入学意向)

回答のあった5,412人のうち、建築・デザイン学部建築・デザイン学科を受験したいと回答のあったのは567人(10.5%)であった。そのうち、建築・デザイン学部建築・デ

ザイン学科に入学したいと回答があったのは 494 人 (87.1%) であり、入学定員 150 人の 3 倍以上の希望者があった。

さらに、行ったアンケートを基にして、入学意向者の条件を「Q1：私立学校に進学」と回答し、且つ、「Q2：工学、情報学・データサイエンス学、デザイン学のうち少なくとも一つに興味がある。」と精緻に設定したとき、これに該当する回答をした者は、1,441 人であった。また、入学意向を募集単位である、建築専攻（入学定員 60 名）及び空間デザイン専攻（入学定員 90 人）毎に、入学意向の人数を分析してみると、建築専攻への入学意向の人数は、1,441 人中 177 人であり、建築専攻の入学定員 60 名に対して 2 倍以上上回り、空間デザイン専攻への入学意向の人数は、1,441 人中 144 人で、空間デザイン専攻の入学定員 90 名を上回った。

〔資料 4：大阪電気通信大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」（仮称）設置に関するニーズ調査 結果報告書【高校生対象調査】〕

④ 学生納付金の設定の考え方

本学建築・デザイン学部建築・デザイン学科の学生納付金については、次のとおりである。

(単位：円)

建築・デザイン学部 建築・デザイン学科					
		入学金	学費	1 年間 納入金額 合計	4 年間 納入金額 合計
1 年次	入学時	200,000	641,000	1,582,000	6,028,000
	後期	---	741,000		
2～4 年次	前期	---	741,000	1,482,000	
	後期	---	741,000		

既設の工学部建築学科においては、1 年次納入金額の合計が 1,482,000 円で、4 年間の納入金額の合計が 5,928,000 円となっているが、この度の学部開設にあたって、1 年次前期の学費について 100,000 円の増額とした。工学部建築学科では入学定員 80 名収容定員 320 名の規模が、入学定員 150 名収容定員 600 名と、ほぼ倍の規模となるので、適切な教育研究環境を構築するために必要な額として設定した。

一方で、以下の大阪府近隣他大学の学生納付金と比較すると、本学の学生納付金は、中位よりやや低めの位置なることが明らかとなったことから、設定額の水準は妥当であると判断した

比較対象となる大阪府近隣他大学の学生納付金は、次のとおりである。

(単位：円)

	入学金	授業料	初年次納付金	納付金総額
関西大学 環境都市工学部 建築学科	260,000 (2年目以降)	1,493,000 1,624,000	1,753,000	6,625,000
近畿大学 建築学部 建築学科	250,000 (2年目以降)	1,442,000 30,000UP/年	1,692,000	6,198,000
大阪工業大学 工学部 建築学科	250,000 (2年目以降)	1,390,000 1,490,000	1,640,000	6,110,000
大阪工業大学 ロボティクス&デザイン工学部 空間デザイン学科	250,000 (2年目以降)	1,440,000 1,590,000	1,690,000	6,460,000
摂南大学 理工学部 建築学科	250,000 (2年目以降)	1,390,000 1,490,000	1,640,000	6,110,000
大阪産業大学 デザイン工学部 建築・環境デザイン学科	250,000 (2年目以降)	1,192,000 1,454,000	1,442,000	5,804,000
大和大学 理工学部 建築学専攻	200,000 (2年目以降)	1,430,000 1,560,000	1,630,000	6,310,000
京都橘大学 工学部 建築デザイン学科	200,000 (2年目以降)	1,325,000 1,525,000	1,525,000	6,100,000

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

高校生への直接的な広報と、保護者やビジネスパーソンへの間接的な広報を行い、幅広い認知に向けた広報活動を行う。詳細は以下の通り。

① オープンキャンパス

本学への入学を希望・検討している高校生やその保護者を対象として、施設見学や体験授業等を行い、本学への関心を深めることを目的として行う。6月から9月にかけて4回

実施し、在校生による学生対談、教員による学科紹介や施設見学、体験授業などを行う。個別相談会では教員が資格取得可能な免許や資格、カリキュラムなどを、入試課員が入学者選抜制度を高校生や保護者に丁寧な説明を行う。

② 高校・会場ガイダンス（進学相談会）

業者による高校での大学説明会や分野説明会、主要都市で開催される進学相談会へ参加する。高校での説明会では本学を希望・検討している高校生に対して、直接大学や学部学科等の説明を行う。分野説明会では、建築分野に興味のある高校生に対して、本学の特長や魅力などを直接説明する。進学相談会では高校生、保護者、教員に対して大学や学部学科、施設、カリキュラム、資格、入学者選抜制度などを直接説明し、幅広い情報を提供する。

③ 高校への出張授業

本学教員へ出張講義を依頼できるサイトを準備している。教員の専門分野の講義テーマを掲載しており、高校の教員が目的に合わせて申し込むことができる。本学だけでなく、建築分野への興味喚起を促す。ほかにも業者による模擬授業にも参加し、本学教員の模擬授業を体験することで入学後の大学生活へのイメージを膨らませる。

④ 高校教員向け説明会

年に 2 回、高校教員向け説明会を行っており、対面とオンラインのハイブリッド式を採用しており、後日オンデマンドでも閲覧できるようにしている。6 月は大学紹介と入学者選抜制度を中心に、12 月年内入学試験の結果と一般入試の説明を行う。時期に合わせた説明会を行うことで、タイムリーな入学試験の情報を提供する。

⑤ 進学情報誌、サイト

進学情報誌や進学情報サイトへの掲出を積極的に行う。発行部数や登録者数の多い進学情報誌や進学情報サイトを優先的に掲出し、認知拡大を目指す。紙面やサイトでは画像を多用し、新設学科を理解しやすい構成を心掛ける。

⑥ 高校生へのダイレクトメール

本学へ資料請求した高校生を中心に、定期的に DM を発送する。最新情報を掲載したリーフレットを作成し、認知拡大と理解の促進を図る。

⑦ 大学案内、新設学科パンフレット

大学案内では学部学科、教育内容、施設・設備、学生生活サポート、資格取得、就職活動

サポートなど紹介。新設学科は通常の学部学科紹介ページ以外にも特集ページを巻頭に掲載し、目につきやすくする。大学全体から新設学科まで多岐にわたる魅力を発信する。新設学科パンフレットでは、画像を多用して学科の特色を紹介する。

⑧ 大学 Web サイト、新設学科紹介特設サイト、SNS

大学 Web サイトに新設学科に関する特設サイトを掲載する。より目立たせることで、高校生やその保護者、高校の教員への認知拡大を目指す。特設サイトでは、動画や写真を多く取り入れ、新設学科や入学後のイメージがつきやすくし、最新情報を掲載する。また、特設サイトと連動して、SNS (Twitter、Instagram、Facebook) も活用する。近年の高校生は SNS から情報収集する傾向が強いため、大学に関する情報を積極的に掲載する。

⑨ マス媒体広報

新設学科のある寝屋川キャンパスの最寄り駅のサイネージに新設学科の動画を放映する。改札口の目の前にあるため、多くの人の目につくようにしている。乗降者数が多い京橋駅で、構内の看板だけでなく、サイネージに広告を掲出する。特に看板は改札近くに設置されており、エスカレータで下り際には目に入りやすくなっている。電車内ドア横ポスターも掲出する。京阪電車、JR、近鉄電車の電車内ドア横ポスターでは、新設学科とオープンキャンパスの案内を行い、幅広い認知と本学への興味喚起を行う。また、新聞広告や雑誌への掲出も積極的に行う。新聞広告では特設サイトと連動したデザインで新設学科のイメージづくりを図り、雑誌ではパンフレットや特設サイトにはない別の角度からの情報を紹介する。幅広い層への認知拡大と多角的な情報発信を行う。

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (概要)

建築・デザイン学部建築・デザイン学科における教育研究上の目的は、すべての人々が安全で快適に生活できる社会を支える都市と建築、インテリアにいたる幅広いスケールの実空間を対象とした空間の構築に関する教育研究を通じて、学生の人間的成長を支援し、広く社会および産業界で活躍でき、持続可能な社会の発展に貢献することができる専門的人材を育成することを目的としている。

そのために、人間を取り巻く空間の設計・造形と構築のためのデジタル技術の活用、安全な構造と施工に至る最先端の工学、法規制・倫理・手続を含む実践的な知識を修得するとともに、インターネット上に広がる仮想的な自由な表現を可能とするデジタル空間も対象として、実空間と情報空間の双方について幅広い視野で学問を探求する。

そして卒業生については、建築専攻の卒業生は、建築、構造、設備の設計や施工に携わる建築家及び建築技術者として、建築設計事務所、総合建設会社(ゼネコン)、建築設備会社、

住宅メーカーや住宅関連の設備会社への進路を目指し、空間デザイン専攻の卒業生は、土木・建設系コンサルタント業務、建築関連の電機メーカーや IT ソリューション会社、シンクタンク、データセンターや情報関連などへの進路を目指す。

(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

建築・デザイン学部建築・デザイン学科の設置にあたり、当該学部の卒業生が、就職の受け入れ先として社会から需要があるのかを見極めるため、株式会社進研アドに、企業対象のアンケート調査を依頼した。具体的には、大阪電気通信大学「建築・デザイン学部建築・デザイン学科」(仮称)設置に関するニーズ調査【企業対象調査】を行った。〔資料5〕
調査の概要は次の通りである。

① 調査目的

2024年4月開設予定の大阪電気通信大学「建築・デザイン学部建築・デザイン学科」新設構想に関して、企業のニーズを把握する。

② 調査概要

全国 825 社の企業を対象とし、アンケートを郵送し調査を行った。
調査時期は、令和4年11月24日から12月20日で実施した。調査の回収数は、307 社であった。(回収率 37.2%)

③ 調査項目

主な調査項目は、採用予定数、本学建築・デザイン学部建築・デザイン学科の特色に対する魅力度、本学建築・デザイン学部建築・デザイン学科建築専攻及び空間デザイン専攻の社会的必要性、本学建築・デザイン学部建築・デザイン学科各専攻の卒業生に対する採用意向、本学建築・デザイン学部建築・デザイン学科各専攻卒業生の毎年の採用想定人数とした。

④ 調査結果

特色に対する魅力度については、本学建築・デザイン学部建築・デザイン学科各専攻の特色の項目に魅力を感じている企業からの採用意向は、建築専攻で9割、空間デザイン専攻で8割となっており、それら企業の採用想定人数も建築専攻で 550 名以上、空間デザイン専攻で300 名以上と、予定している学科全体の入学定員数150 名を大きく上回っている。このことから、本学の建築・デザイン学部建築・デザイン学科の特色を多くの企業が魅力的と感じ、これからの社会にとって必要な学部と捉えていることが伺える。

本学建築・デザイン学部建築・デザイン学科卒業生の意向を募集単位である、建築専攻（入学定員 60 名）及び空間デザイン専攻（入学定員 90 人）ごとに採用意向の人数を分析してみる。建築専攻の卒業生を「採用したいと思う回答した企業は、94.1%（307 企業中、289 企業）で、さらにその企業に、毎年何名程度想定しているかを聞いたところ、採用想定人数が 639 名で建築専攻の入学定員 60 名を大きく上回っている。空間デザイン専攻においても同専攻の卒業生を「採用したいと思う回答した企業は、76.2%（307 企業中、234 企業）で、さらにその企業に、毎年何名程度想定しているかを聞いたところ、採用想定人数が 410 名で空間デザイン専攻の入学定員 90 名を 4 倍以上上回っている。このことから、本学建築・デザイン学部建築・デザイン学科に対して、安定した人材需要があることが伺える。本社所在地別の回答企業は、「東京都」が 57.3%で最も多く、次いで本学の所在地である「大阪府」が 29.0%であった。回答企業のうち、本学の所在地である「大阪府」に本社がある企業に限定して、本学建築・デザイン学部建築・デザイン学科卒業生の意向を募集単位の、建築専攻（入学定員 60 名）及び空間デザイン専攻（入学定員 90 人）ごとに採用意向の人数を分析してみる。建築専攻の卒業生を「採用したいと思う回答した企業は、94.4%（89 企業中、84 企業）で、さらにその企業に採用想定人数を聞いたところ、162 名で建築専攻の入学定員 60 名を 2 倍以上上回っている。空間デザイン専攻においても同専攻の卒業生を「採用したいと思う回答した企業は、77.5%（89 企業中、69 企業）で、さらにその企業に採用想定人数を聞いたところ 111 名で空間デザイン専攻の入学定員 90 名を上回っている。このことから、地域的な人材需要を踏まえた学科でもあることが裏付けられた。

〔資料 5：大阪電気通信大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」（仮称）設置に関するニーズ調査 結果報告書【企業対象調査】〕

また、本学に対する建設業界からの求人社数の推移は以下のとおりである。

工学部に建築学科を開設して以降、多くの企業から求人がきており、令和 4 年度は 2,391 社とあるように、この度開設する建築・デザイン学部建築・デザイン学科の定員 150 人の 16 倍となっていることから、十分な就職先が確保されていることが伺える。本

学への求人社数

	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
建設業	1,619	1,933	1,898	2,028	2,391

卷末資料 調查票



卷末資料 調查票



調査票

大阪電気通信大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」 (仮称、設置構想中) に関するアンケート

大阪電気通信大学では2024年(令和6年)4月より、「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」(仮称)を新設することを構想しています。
このアンケートは採用ご担当者の皆様からご意見をお伺いし、より充実した大学や学部・学科にするための参考資料とさせていただきます。
このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。
つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※このアンケートや同封した資料に記載されている「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」
(仮称、設置構想中)に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

はじめに、貴社・貴団体についてお伺いいたします。

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。

(あてはまる番号1つに○)

1. 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
2. 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている
3. 採用時には直接かかわらず、情報や意見を収集・提供する立場にある

Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

本社(本部)所在地

都・道・府・県 ←1つに○

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|------------------|-------------|--------------|
| 1. 建設業 | 6. 運輸業 | 11. 医療・福祉 |
| 2. 製造業 | 7. 卸売・小売業 | 12. 複合サービス事業 |
| 3. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 8. 金融・保険業 | 13. サービス業 |
| 4. 情報通信業 | 9. 不動産業 | 14. 公務 |
| 5. 農・林・漁・鉱業 | 10. 飲食店・宿泊業 | 15. その他 |

Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|----------------|--------------------|-------------|
| 1. 100名未満 | 3. 500名～1,000名未満 | 5. 5,000名以上 |
| 2. 100名～500名未満 | 4. 1,000名～5,000名未満 | |

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えてください。

(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|-------------|--------------|---------------|
| 1. 0名 | 4. 10名～20名未満 | 7. 50名～100名未満 |
| 2. 1名～5名未満 | 5. 20名～30名未満 | 8. 100名以上 |
| 3. 5名～10名未満 | 6. 30名～50名未満 | |

Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|----------|--------|
| 1. 増やす | 3. 減らす |
| 2. 昨年度並み | 4. 未定 |

裏面へ続く→

調査票

Q7. 貴社・貴団体では、今後、大学でどのような学問分野を学んだ人物を採用したいとお考えですか。

(あてはまる番号すべてに○)

- | | | |
|---|-------------------------------|-----------------------|
| 1. 工学
(建築、工業デザイン、機械、
電気・電子、通信、環境工学など) | 5. 総合科学
(食物・栄養学、被服学、児童学など) | 9. 社会科学(経済・経営・商・法学など) |
| 2. 情報学・データサイエンス学 | 6. 生活科学 | 10. 人文科学(文学、語学など) |
| 3. デザイン学
(インテリア・グラフィック・
デジタルデザインなど) | 7. 医・歯・薬学、看護・保健学 | 11. 教員養成・教育学 |
| 4. 芸術学(美術、音楽など) | 8. 理・農・水産学 | 12. その他 |
| | | 13. 学んだ学問分野にはこだわらない |

大阪電気通信大学では、2024年(令和6年)4月に、
新しく「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」(仮称)
を設置することを構想しています。

※この学科には、「建築専攻」と「空間デザイン専攻」の2つの専攻を設置予定です。

※ここからは、アンケートに同封している資料をご覧くださいの上でお答えください ※

Q8. 大阪電気通信大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」(仮称、設置構想中)には、「建築専攻」と「空間デザイン専攻」(いずれも仮称、設置構想中)の2つの専攻があり、それぞれ以下のような特色があります。

貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれの程度魅力に感じますか。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		とても 魅力を 感じる	ある程度 魅力を 感じる	あまり 魅力を 感じない	まったく 魅力を 感じない
例. ○○である。		→ 1	2	3	4
建築 専攻 の 特色	A. 一級建築士の受験資格に必要な専門知識を幅広く修得することができ、持続可能社会の構築と発展のために活躍する建築家・建築技術者を目指します	→ 1	2	3	4
	B. カリキュラム化されている大学が少ないBIM*や3DCADなどを使った最先端の設計・施工・維持管理の技術を修得することができます *BIM: デジタル空間に3次元で建物を再現し、設計から施工、維持管理までできるプラットフォーム	→ 1	2	3	4
	C. 芸術的創造性と最先端工学の技能と知識を学び、実践的な建築技術を修得することができます	→ 1	2	3	4
空間 デザイン 専攻 の 特色	D. 都市・建築・インテリアなどの現実空間、及びVRによる仮想空間のデザイン技術、これらと関連する情報によるデータ空間技術まで、データサイエンスを活用した空間デザインを学ぶことができます	→ 1	2	3	4
	E. 空間デザインに関わる最先端のデジタル技術を修得し、広い視野を備えてエンターテインメント、インダストリアルデザインなどの多様な分野で活躍するデザイナーを目指します	→ 1	2	3	4
	F. 建築専攻の建築士受験に必要な科目を履修すれば、一級建築士の受験資格を得ることも可能です	→ 1	2	3	4

調査票

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、大阪電気通信大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の各専攻(すべて仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思われませんか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

			1.必要だと思う	2.必要だと思わない
建築・デザイン学部 建築・デザイン学科	建築専攻	→	1	2
	空間デザイン専攻	→	1	2

Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、大阪電気通信大学「建築・デザイン学部 建築・デザイン学科」の各専攻(仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

			1.採用したいと思う	2.採用したいと思わない
建築・デザイン学部 建築・デザイン学科	建築専攻	→	1	2
	空間デザイン専攻	→	1	2

Q11. Q10でいずれかの専攻の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。

「1. 採用したいと思う」と回答された専攻を卒業した学生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

			1名	2名	3名	4名	5名 ～9名	10名 以上
建築・デザイン学部 建築・デザイン学科	建築専攻	→	1	2	3	4	5	6
	空間デザイン専攻	→	1	2	3	4	5	6

～質問は以上です。ご協力ありがとうございました。～